

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	JEGC1101 JNGC1101
2. 授業担当教員	高橋 みどり			
4. 授業形態	講義、演習、グループディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	2011 年度より小学校の外国語 (英語) 活動が必修化されたので、今後子どもにとって英語がますます身近なものになることは間違いない。子どもに英語を楽しく学ばせるためには、英語の歌やチャンツ、ゲーム、工作、絵本の読み聞かせなどのアクティビティを取り入れることはきわめて有効である。とりわけ歌やチャンツは、英語独特のイントネーション (抑揚)、ストレス (強弱)、リズムの習得に加え、コミュニケーション能力の素地を高めることにも役立つ。これらに加え、教室でよく使用する英語表現についても習熟しておく必要がある。この授業では、アメリカの子ども達に親しまれている絵本や歌を中心に扱いつつながら、子どもに英語を楽しく学ばせるための手法を考察し、実践する。			
8. 学習目標	1. アメリカの子どもに親しまれている英語の絵本や歌に習熟し、現場での指導に応用できるようになる。 2. 子どもに英語を楽しく学ばせるための様々な手法を知り、実践できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として「アメリカの絵本や歌を通して学んだことを、600字程度で述べなさい。」を課すので計画立てて実施すること。 3. 作品課題として「パスデイクカードの製作」を課すので、指示された材料や用具を忘れずに持参し、提出期限を必ず守ること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 カレイラ松崎順子『子どもに英語を教えるための教室英語』南雲堂。			
11. 成績評価の方法	期末考査 (試験)	25%		
	作品課題	25%		
	レポート課題	25%		
	授業中の態度	25%		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、子どもに楽しく英語を学ばせるための手法を習得することを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。</li> <li>2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。</li> <li>3. 授業中は欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。</li> <li>4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。</li> <li>5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。</li> </ol> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の目的、目標を明確にする。</li> <li>2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。</li> <li>3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。</li> <li>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する</li> </ol>			
13. オフィスアワー	授業中に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点 グループ編成	事前学習	英語の歌や読み聞かせの練習を行うので、英語の音声に慣れておくこと。	
		事後学習	パスデイクカードの構想を練っておく。	
第 2 回	歌 “Hello!” の練習 絵本読み聞かせ発表準備	事前学習	英語の歌や読み聞かせの練習に備え、英語の音声に慣れておくこと。	
		事後学習	授業で学んだ歌を、振り付けながら自然に歌えるようになるまで練習する。	
第 3 回	歌 “The ABC Song” の練習 絵本読み聞かせ発表準備	事前学習	英文法を応用しながら予習をして、絵本の英文の構文と意味内容を把握したうえで、音読練習を行う。	
		事後学習	授業で学んだ歌を、自然に歌えるようになるまで練習する。英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 4 回	歌 “Head, Shoulders, Knees and Toes” の練習 絵本読み聞かせ発表準備	事前学習	絵の見せ方やページのめくり方等にも配慮しながら、絵本の音読練習を行う。	
		事後学習	授業で学んだ歌を、振り付けながら自然に歌えるようになるまで練習する。	
第 5 回	歌 “Seven Steps” の練習 絵本読み聞かせ発表①	事前学習	聞き手からの質問に備えて、内容理解を深めながら、絵本の音読練習を行う。	
		事後学習	授業で学んだ歌を、自然に歌えるようになるまで練習する。	
第 6 回	歌 “Ten Fat Sausages” の練習	事前学習	絵本の音読練習を行う。	

	絵本読み聞かせ発表②	事後学習	授業で学んだ歌を、振りを付けながら自然に歌えるようになるまで練習する。
第 7 回	歌 “Bingo” の練習 絵本読み聞かせ発表③	事前学習	絵本の音読練習を行う。
		事後学習	授業で学んだ歌を、自然に歌えるようになるまで練習する。
第 8 回	歌 “Row, Row, Row Your Boat” の練習 絵本読み聞かせ発表④ パースデイカードデザイン下絵作成	事前学習	絵本の音読練習を行う。パースデイカードデザイン下絵作成の準備をしておく。
		事後学習	授業で学んだ歌を、振りを付けながら自然に歌えるようになるまで練習する。
第 9 回	歌 “Old MacDonald Had a Farm” の練習 絵本読み聞かせ発表⑤ パースデイカード製作開始	事前学習	絵本の音読練習を行う。パースデイカード製作に必要な材料や用具を準備する。
		事後学習	授業で学んだ歌を、自然に歌えるようになるまで練習する。
第 10 回	歌 “If You're Happy and You Know It” の練習 絵本読み聞かせ発表⑥ パースデイカード製作	事前学習	絵本の音読練習を行う。
		事後学習	授業で学んだ歌を、振りを付けながら自然に歌えるようになるまで練習する。
第 11 回	歌 “If You're Happy and You Know It” の練習 DVD 鑑賞 パースデイカード製作	事前学習	パースデイカードの提出期限に遅れることのないよう作業を進めておく。
		事後学習	授業で学んだ歌を自然に歌えるようになるまで練習する。DVD 鑑賞から学んだことを整理し、発表できるようにしておく。
第 12 回	歌 “Skidamarink” の練習 DVD 鑑賞 パースデイカード提出	事前学習	パースデイカードの提出期限に遅れることのないよう作業を進めておく。
		事後学習	授業で学んだ歌を自然に歌えるようになるまで練習する。DVD 鑑賞から学んだことを整理し、発表できるようにしておく。
第 13 回	歌 “Skidamarink” の練習 ディスカッション	事前学習	アメリカの絵本や歌を通して学んだことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業で学んだ歌を、振りを付けながら自然に歌えるようになるまで練習する。
第 14 回	アクティビティのデモンストレーション ディスカッション	事前学習	期末試験に備え、前回まで練習した歌の歌詞も書けるよう復習を行う。
		事後学習	ディスカッションで学んだことを整理し、発表できるようにしておく。
第 15 回	総括	事前学習	期末試験に備え、前回まで練習した歌の歌詞も書けるよう復習を行う。
		事後学習	子どもに英語を楽しく学ばせるために、どのような活動を行ったらよいか考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	JCEL2417
2. 授業担当教員	松本 岳志			
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	音楽 (初等・小) 及びⅡを終えていること。			
7. 講義概要	本講義では、「音楽 (初等・小) 及びⅡ」で学んだ基本的な内容を踏まえて、小学校音楽科の授業ができるようになることを目指す。実際には、小学校の授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について話し合ったり、音楽科で扱う教材研究を行ったりし、教育方法や教材開発について考える。その上で、音楽科学習指導案を作成して、グループによる模擬授業を行い、全員でディスカッションする。			
8. 学習目標	1. 小学校音楽科の目標と内容を理解し、説明することができる。 2. 授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について、根拠を示して意見を述べることができる。 3. 小学校音楽科学習指導案を作成して模擬授業ができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 学習指導案を作成し提出する。これを元にして、模擬授業も行う。 2. 音楽教育に関する試験を課す。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初等科音楽教育研究会編『最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用』音楽之友社。</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河口道朗 編著『音楽教育入門 ー 基本理念の構築』音楽之友社。</li> <li>・東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。</li> <li>・東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</li> </ul> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドフォン</li> <li>・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mm ジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</li> </ul>			
11. 成績評価の方法	学習指導案 20%、模擬授業 40%、期末試験 40%			
12. 受講生へのメッセージ	音楽科教育は、ただ単に子ども達と楽しく歌を歌っていれば済まされるような教科ではありません。その役割や意義、子どもの発達など教育の専門家として必要な知識を得よう努めて下さい。また、豊かな音楽経験を子ども達と共有しながら指導していくためには、音楽的知識や高い演奏技術も要求されます。これらに身に付けることは容易ではありませんが、日々地道な教材研究と練習を重ねていってください。そして、自らが音楽を愛好する心情を持って授業に臨むようにしましょう。			
13. オフィスアワー	後日通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	音楽科の目標 各学年の目標 歌唱教材①	事前学習	教科書 pp.10～13 まで読んでおくこと。	
		事後学習	音楽科の目標について理解する。1 年生歌唱共通教材を復習する。	
第 2 回	「歌唱」の意義と留意点 発声とその指導 歌唱教材②	事前学習	教科書 pp.14～17、pp.50～55 まで読んでおくこと。	
		事後学習	歌唱指導の技術および留意点についてまとめる。2 年生歌唱共通教材を復習する。	
第 3 回	児童期の音楽的発達について 歌唱教材③	事前学習	教科書 pp.46～49 まで読んでおくこと。	
		事後学習	音楽的発達について理解すること。3 年生歌唱共通教材を復習する。	
第 4 回	共通事項について 移動ドと固定ドについて 歌唱教材④	事前学習	教科書 pp.22～25 まで読んでおくこと。	
		事後学習	共通事項について理解すること。4 年生歌唱共通教材を復習する。	
第 5 回	「器楽」の意義と留意点 歌唱教材⑤	事前学習	教科書 pp.60～81 まで読んでおくこと。	
		事後学習	器楽指導の技術および留意点についてまとめる。5 年生歌唱共通教材を復習する。	
第 6 回	リコーダー① 歌唱教材⑥	事前学習	リコーダーの運指を確認しておく。	
		事後学習	リコーダーの奏法について復習する。6 年生歌唱共通教材を復習する。	
第 7 回	リコーダー② 「鑑賞」の意義と留意点	事前学習	教科書 pp.92～96 を読んでおく。	
		事後学習	鑑賞教育の知識と留意点について理解する。リコーダーの指導法についてまとめる。	
第 8 回	鑑賞教材① 音楽作り①	事前学習	教科書 pp.82～91 まで読んでおくこと。	
		事後学習	鑑賞曲の教材研究をする。音楽作りの意義と留意点についてまとめる。	
第 9 回	鑑賞教材② 音楽作り②	事前学習	第 8 回の内容を復習しておく。	
		事後学習	鑑賞曲の教材研究をする。	
第 10 回	学習指導計画 (年間指導計画・学習指導案) について	事前学習	教科書 pp.26～29 まで読んでおくこと。	
		事後学習	学習指導計画について理解する。	
第 11 回	学習指導案について 学習指導案作成①	事前学習	教科書 pp.30～35 まで読んでおくこと。	
		事後学習	学習指導案について理解すること。学習指導案の作成。	
第 12 回	音楽科の評価について 学習指導案作成②	事前学習	教科書 pp.36～45 まで読んでおくこと。	
		事後学習	音楽科の評価について理解すること。学習指導案を完成させること。	
第 13 回	模擬授業①	事前学習	模擬授業の準備、教材研究など。	
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次に活かせるようにする。	
第 14 回	模擬授業②	事前学習	模擬授業の準備、教材研究など。	
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次に活かせるようにする。	
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容を復習しておく。	
		事後学習	期末試験に向けた学習を行うこと。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	音楽基礎 I (2 単位)	3. 科目番号	JNNT1110
2. 授業担当教員	高木 麻衣子		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育および幼児教育に携わる者にとって必要とされる音楽の基礎的知識および演奏技術(具体的には、楽典、ピアノ演奏法、歌唱法)の習得を目指します。特に、ピアノ演奏と弾き歌いは採用試験や保育・教育現場の実践において極めて重要なため、重点的に学んでいきます。また、子どもの音楽的感性を如何に育んでいくのか、体験的学習を通して考える。		
8. 学習目標	1.音楽の基礎理論(楽典)を理解し、楽譜の読み書きが自由にできるようにする。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの基礎的技術を習得する。 3.歌唱法の基礎的技術を習得する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	①ピアノ実技: 毎回レベル毎に課題曲を提示するので、次週までに弾けるように練習をしてくること。 ②音楽理論: ほぼ毎回単元別の練習問題を提示するので、次週までに完成させ、疑問点や質問事項は次週に必ず聞くこと。 ③ピアノ実技の発表と弾き歌いの発表を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> ・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社。 ・『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。 (バイエル終了者は、オリエンテーション後に個別相談を行い、課題を決定) ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 <b>【参考書】</b> ・中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう』保育士・幼稚園教諭養成テキスト 全国大学音楽教育学会、音楽之友社。 ・小林美実監修『こどものうた 200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた 200』チャイルド本社。 <b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	実技 50% 楽典 30% 授業への取り組み姿勢 20%		
12. 受講生へのメッセージ	「ピアノが弾けるようになる」ことは技術の習得です。したがって、日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合しましょう。保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。熱心に取り組まれることを期待しています!		
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 楽典(音符)	事前学習	教科書「ピアノ実技と楽典」pp.13~37、50-53を読んでおくこと。
		事後学習	楽典の教科書 p.56 を復習し、第2回までに暗記しておくこと。課題曲の練習。
第2回	ピアノ演奏: 初級者: バイエル No.12、13 中・上級者: バイエル No.62 弾き歌い: 中・上級者: ぶんぶんぶん 楽典(休符)	事前学習	音符の名称・記号・拍を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典の教科書 p.56 を復習し、第3回までに暗記しておくこと。課題曲の練習。
第3回	ピアノ演奏: 初級者: バイエル No.15、16 中・上級者: バイエル No.66 弾き歌い: 中・上級者: 大きな栗の木の下で 楽典(拍子:○/4拍子)	事前学習	音符と休符の名称・記号・拍を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	2/4、3/4、4/4の拍子を理解すること(教科書 p.57)。課題曲の練習。
第4回	ピアノ演奏: 初級者: バイエル No.25、28 中・上級者: バイエル No.73 弾き歌い: 中・上級者: こいのぼり 楽典(拍子: ○/8拍子)	事前学習	2/4、3/4、4/4の拍子を理解してくこと(教科書 p.57)。課題曲の練習。
		事後学習	3/8、6/8の拍子を理解すること(教科書 p.57)。課題曲の練習。
第5回	ピアノ演奏: 初級者: バイエル No.31 中・上級者: バイエル No.73 弾き歌い: 初級者: ちょうちょう 中・上級者: かたつむり 楽典(音符と休符、拍子の復習) ボディーパーカッション(手拍子のカノン)	事前学習	音符と休符、拍子を完全に理解してくこと。課題曲の練習。
		事後学習	教科書 p.58 の復習。課題曲の練習。
第6回	ピアノ演奏: 初級者: バイエル No.38 中・上級者: バイエル No.75 弾き歌い: 初級者: ぶんぶんぶん	事前学習	教科書 pp.54~55 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音の幅について理解しておくこと。課題曲

	中・上級者：かたつむり 楽典（音の幅） ボディーパーカッション（手のひらを太陽に）		の練習。
第 7 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.40 中・上級者：バイエル No.78 弾き歌い：初級者：むすんでひらいて 中・上級者：朝のうた 楽典（反復記号） ボディーパーカッション（どんぶりパーティー）	事前学習	教科書 pp.70~71 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 8 回	ピアノ演奏：初級者 No.46 中・上級者：バイエル No.80 弾き歌い：初級者：とんとんとんとんひげじいさん 中・上級者：すてきなパパ 楽典（反復記号の復習） ボディーパーカッション（クラップ・ステップ・シアター）	事前学習	反復記号の復習をし、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 9 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.48 中・上級者：バイエル No.91 弾き歌い：初級者：あめふりくまのこ 中・上級者：とんぼのめがね 楽典（さまざまな記号：強弱、速度） 歌唱法（姿勢および腹式呼吸）	事前学習	教科書 p.68 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語を暗記すること。課題曲の練習。
第 10 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.49 中・上級者：バイエル No.93 弾き歌い：初級者および中・上級者：たなばたさま 楽典（さまざまな記号：奏法、曲想に関するもの） 歌唱法（発声について）	事前学習	教科書 p.69 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語について理解すること。課題曲の練習。
第 11 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.52 中・上級者：バイエル No.97 弾き歌い：初級者：みずあそび 中・上級者：あめふりくまのこ 楽典（音程：長短）	事前学習	教科書 pp.72-77 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音程について理解すること。課題曲の練習。
第 12 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.55 中・上級者：バイエル No.102 弾き歌い：初級者：とんぼのめがね 中・上級者：やまのおんがくか 楽典（音程：完全）	事前学習	教科書 pp.78-87 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音程で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 13 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.60 中・上級者：バイエル No.104 弾き歌い：初級者：せんせいとおともだち 中・上級者：せんろはつづくよどこまでも 楽典（これまでのまとめ）	事前学習	これまでの楽典をすべて復習し、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 14 回	ピアノ実技の発表（人前で演奏する経験を積む）	事前学習	バイエルの課題曲を発表できるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。
第 15 回	弾き歌い実技の発表（人前で弾き歌いの経験をする）	事前学習	弾き歌いの課題曲を発表出来るよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。

1. 科目名 (単位数)	音楽基礎 I (2 単位)	3. 科目番号	JNNT2111
2. 授業担当教員	田口 雅夫		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育および幼児教育に携わる者にとって必要とされる音楽の基礎的知識および演奏技術(具体的には、楽典、ピアノ演奏法、歌唱法)の習得を目指します。特に、ピアノ演奏と弾き歌いは採用試験や保育・教育現場の実践において極めて重要なため、重点的に学んでいきます。また、子どもの音楽的感性を如何に育てていくのか、体験的学習を通して考える。		
8. 学習目標	1.音楽の基礎理論(楽典)を理解し、楽譜の読み書きが自由にできるようにする。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの基礎的技術を習得する。 3.歌唱法の基礎的技術を習得する。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. 音楽力は個人差があるので、苦手な学生は出題された課題をよく練習しておく。 2. 子どもの歌のレパートリーを増やす。 3. 音楽力のある学生は、その程度に合わせた課題を提示しますので、意欲的に取り組む。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> ・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社。 ・『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。 (バイエル終了者は、オリエンテーション後に個別相談を行い、課題を決定) ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 <b>【参考書】</b> ・中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう』保育士・幼稚園教諭養成テキスト 全国大学音楽教育学会、音楽之友社。 ・小林美実監修『こどものうた 200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた 200』チャイルド本社。 <b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	実技 50% 楽典 30% 授業への取り組み姿勢 20%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 音楽はこつこつと練習を積み上げることが大切です。出来るか否かではなく努力することが必要です。 2. 音楽の技術的な事(ピアノ・歌)不安や心配のある学生は遠慮なく申し出ること。心配は要りません。 3. 授業中に以下の事については、厳しく注意します。 (I) 音楽教室使用規則を守ること。(飲食・楽器の扱い方等) (II) スマートフォン等を使用しない。 (III) 授業中の私語は、真面目に受講している者にとって迷惑です。		
13. オフィスアワー	授業前後の時間を活用して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 楽典(音符)	事前学習	教科書「ピアノ実技と楽典」pp.13~37、50-53を読んでおくこと。
		事後学習	楽典の教科書 p.56 を復習し、第2回までに暗記しておくこと。課題曲の練習。
第2回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.12、13 中・上級者：バイエル No.62 弾き歌い：中・上級者：ぶんぶんぶん 楽典(休符)	事前学習	音符の名称・記号・拍を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典の教科書 p.56 を復習し、第3回までに暗記しておくこと。課題曲の練習。
第3回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.15、16 中・上級者：バイエル No.66 弾き歌い：中・上級者：大きな栗の木の下で 楽典(拍子：○/4 拍子)	事前学習	音符と休符の名称・記号・拍を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	2/4、3/4、4/4の拍子を理解すること(教科書 p.57)。課題曲の練習。
第4回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.25、28 中・上級者：バイエル No.73 弾き歌い：中・上級者：こいのぼり 楽典(拍子：○/8 拍子)	事前学習	2/4、3/4、4/4の拍子を理解してくること(教科書 p.57)。課題曲の練習。
		事後学習	3/8、6/8の拍子を理解すること(教科書 p.57)。課題曲の練習。
第5回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.31 中・上級者：バイエル No.73 弾き歌い：初級者：ちょうちょう 中・上級者：かたつむり 楽典(音符と休符、拍子の復習) ボディーパーカッション(手拍子のカノン)	事前学習	音符と休符、拍子を完全に理解してくること。課題曲の練習。
		事後学習	教科書 p.58 の復習。課題曲の練習。
第6回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.38 中・上級者：バイエル No.75	事前学習	教科書 pp.54~55 を読んでおくこと。課題曲の練習。

	弾き歌い：初級者：ぶんぶんぶん 中・上級者：かたつむり 楽典（音の幅） ボディーパーカッション（手のひらを太陽に）	事後学習	音の幅について理解しておくこと。課題曲の練習。
第 7 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.40 中・上級者：バイエル No.78 弾き歌い：初級者：むすんでひらいて 中・上級者：朝のうた 楽典（反復記号） ボディーパーカッション（どんぶりパーティー）	事前学習	教科書 pp.70~71 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 8 回	ピアノ演奏：初級者 No.46 中・上級者：バイエル No.80 弾き歌い：初級者：とんとんとんとんひげじいさん 中・上級者：すてきなパパ 楽典（反復記号の復習） ボディーパーカッション（クラブ・ステップ・シアター）	事前学習	反復記号の復習をし、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 9 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.48 中・上級者：バイエル No.91 弾き歌い：初級者：あめふりくまのこ 中・上級者：とんぼのめがね 楽典（さまざまな記号：強弱、速度） 歌唱法（姿勢および腹式呼吸）	事前学習	教科書 p.68 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語を暗記すること。課題曲の練習。
第 10 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.49 中・上級者：バイエル No.93 弾き歌い：初級者および中・上級者：たなばたさま 楽典（さまざまな記号：奏法、曲想に関するもの） 歌唱法（発声について）	事前学習	教科書 p.69 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語について理解すること。課題曲の練習。
第 11 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.52 中・上級者：バイエル No.97 弾き歌い：初級者：みずあそび 中・上級者：あめふりくまのこ 楽典（音程：長短）	事前学習	教科書 pp.72-77 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音程について理解すること。課題曲の練習。
第 12 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.55 中・上級者：バイエル No.102 弾き歌い：初級者：とんぼのめがね 中・上級者：やまのおんがくか 楽典（音程：完全）	事前学習	教科書 pp.78-87 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音程で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 13 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.60 中・上級者：バイエル No.104 弾き歌い：初級者：せんせいとおともだち 中・上級者：せんろはつづくよどこまでも 楽典（これまでのまとめ）	事前学習	これまでの楽典をすべて復習し、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 14 回	ピアノ実技の発表（人前で演奏する経験を積む）	事前学習	バイエルの課題曲を発表できるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。
第 15 回	弾き歌い実技の発表（人前で弾き歌いの経験をする）	事前学習	弾き歌いの課題曲を発表出来るよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。

1. 科目名 (単位数)	音楽基礎 I (2 単位)	3. 科目番号	JENT1110
2. 授業担当教員	松本 岳志		
4. 授業形態	講義および実技	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	保育および幼児教育に携わる者にとって必要とされる音楽の基礎的知識および演奏技術 (具体的には、楽典、ピアノ演奏法、歌唱法) の習得を目指します。特に、ピアノ演奏と弾き歌いは採用試験や保育・教育現場の実践において極めて重要なため、重点的に学んでいきます。また、子どもの音楽的感性を如何に育てていくのか、体験的学習を通して考える。		
8. 学習目標	1.音楽の基礎理論 (楽典) を理解し、楽譜の読み書きが自由にできるようにする。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの基礎的技術を習得する。 3.歌唱法の基礎的技術を習得する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1.毎回楽典の練習問題とピアノの練習課題等を出します。 2.楽典の筆記試験 3.ピアノ演奏および弾き歌いの実技試験を実施します。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> ・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社。 ・『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。 (バイエル終了者は、オリエンテーション後に個別相談を行い、課題を決定) ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 <b>【参考書】</b> ・中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう』保育士・幼稚園教諭養成テキスト 全国大学音楽教育学会、音楽之友社。 ・小林美実監修『こどものうた 200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた 200』チャイルド本社。 <b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	実技 50% 楽典 30% 授業への取り組み姿勢 20%		
12. 受講生への メッセージ	ピアノ演奏や歌唱のような実技は、一夜漬けで習得できるようなものではなく毎日地道に練習を積み重ねていくことが重要です。必ず、短時間でも構わないので毎日ピアノに触れるよう心がけて下さい。短期間で基礎的技術を身に付けるためには、単調な指の訓練も必要となりますが、そうした練習は退屈なものに思われてしまいます。しかし、そうした練習も楽しんで弾くのが「音楽」であり、それを乗り越えた先に真に演奏することの楽しさがあると考えて下さい。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 楽典 (音符)	事前学習	教科書「ピアノ実技と楽典」pp.13~37、50-53 を読んでおくこと。
		事後学習	楽典の教科書 p.56 を復習し、第 2 回までに 暗記しておくこと。課題曲の練習。
第 2 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.12、13 中・上級者：バイエル No.62 弾き歌い：中・上級者：ぶんぶんぶん 楽典 (休符)	事前学習	音符の名称・記号・拍を暗記しておくこと。 課題曲の練習。
		事後学習	楽典の教科書 p.56 を復習し、第 3 回までに 暗記しておくこと。課題曲の練習。
第 3 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.15、16 中・上級者：バイエル No.66 弾き歌い：中・上級者：大きな栗の木の下で 楽典 (拍子:○/4 拍子)	事前学習	音符と休符の名称・記号・拍を暗記しておく こと。課題曲の練習。
		事後学習	2/4、3/4、4/4 の拍子を理解すること (教科書 p.57)。課題曲の練習。
第 4 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.25、28 中・上級者：バイエル No.73 弾き歌い：中・上級者：こいのぼり 楽典 (拍子：○/8 拍子)	事前学習	2/4、3/4、4/4 の拍子を理解してくること (教 科書 p.57)。課題曲の練習。
		事後学習	3/8、6/8 の拍子を理解すること (教科書 p.57)。課題曲の練習。
第 5 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.31 中・上級者：バイエル No.73 弾き歌い：初級者：ちょうちょう 中・上級者：かたつむり 楽典 (音符と休符、拍子の復習) ボディーパーカッション (手拍子のカノン)	事前学習	音符と休符、拍子を完全に理解してくること。 課題曲の練習。
		事後学習	教科書 p.58 の復習。課題曲の練習。
第 6 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.38 中・上級者：バイエル No.75 弾き歌い：初級者：ぶんぶんぶん	事前学習	教科書 pp.54~55 を読んでおくこと。課題曲 の練習。
		事後学習	音の幅について理解しておくこと。課題曲の

	中・上級者：かたつむり 楽典（音の幅） ボディーパーカッション（手のひらを太陽に）		練習。
第 7 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.40 中・上級者：バイエル No.78 弾き歌い：初級者：むすんでひらいて 中・上級者：朝のうた 楽典（反復記号） ボディーパーカッション（どんぶりパーティー）	事前学習	教科書 pp.70~71 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 8 回	ピアノ演奏：初級者 No.46 中・上級者：バイエル No.80 弾き歌い：初級者：とんとんとんとんひげじいさん 中・上級者：すてきなパパ 楽典（反復記号の復習） ボディーパーカッション（クラブ・ステップ・シアター）	事前学習	反復記号の復習をし、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 9 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.48 中・上級者：バイエル No.91 弾き歌い：初級者：あめふりくまのこ 中・上級者：とんぼのめがね 楽典（さまざまな記号：強弱、速度） 歌唱法（姿勢および腹式呼吸）	事前学習	教科書 p.68 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語を暗記すること。課題曲の練習。
第 10 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.49 中・上級者：バイエル No.93 弾き歌い：初級者および中・上級者：たなばたさま 楽典（さまざまな記号：奏法、曲想に関するもの） 歌唱法（発声について）	事前学習	教科書 p.69 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語について理解すること。課題曲の練習。
第 11 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.52 中・上級者：バイエル No.97 弾き歌い：初級者：みずあそび 中・上級者：あめふりくまのこ 楽典（音程：長短）	事前学習	教科書 pp.72-77 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音程について理解すること。課題曲の練習。
第 12 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.55 中・上級者：バイエル No.102 弾き歌い：初級者：とんぼのめがね 中・上級者：やまのおんがくか 楽典（音程：完全）	事前学習	教科書 pp.78-87 を読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音程で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 13 回	ピアノ演奏：初級者：バイエル No.60 中・上級者：バイエル No.104 弾き歌い：初級者：せんせいとおともだち 中・上級者：せんろはつづくよどこまでも 楽典（これまでのまとめ）	事前学習	これまでの楽典をすべて復習し、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 14 回	ピアノ実技の発表（人前で演奏する経験を積む）	事前学習	バイエルの課題曲を発表できるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。
第 15 回	弾き歌い実技の発表（人前で弾き歌いの経験をする）	事前学習	弾き歌いの課題曲を発表出来るよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。

1. 科目名 (単位数)	音楽基礎Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	JNNT1110
2. 授業担当教員	田口 雅夫		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	保育および幼児教育に携わる者にとって必要とされる音楽の基礎的知識および演奏技術について、音楽基礎Ⅰで学んだこと、身に付けた技術を更に深化させていきます。特に、ピアノ演奏と弾き歌いの技術は、常に継続して練習を行うことが重要です。少しでも高い技術を身に付けるとともに、演奏可能なレパートリーを増やしていきます。演奏技術の面では教育実習や採用試験に対応できるレベルまで上達することを最終目標とします。		
8. 学習目標	1.音楽の基礎理論(楽典)を理解し、楽譜の読み書きが自由にできるようにする。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの基礎的技術を習得する。 3.歌唱法の基礎的技術を習得する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 音楽力は個人差があるので、苦手な学生は出題された課題をよく練習しておく。 2. 子どもの歌のレパートリーを増やす。 3. 音楽力のある学生は、その程度に合わせた課題を提示しますので、意欲的に取り組む。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> ・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社。 ・『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。 (バイエル終了者は、オリエンテーション後に個別相談を行い、課題を決定) ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 <b>【参考書】</b> ・中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう』保育士・幼稚園教諭養成テキスト 全国大学音楽教育学会、音楽之友社。 ・小林美実監修『こどものうた 200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた 200』チャイルド本社。 <b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	実技 50% 楽典 30% 授業への取り組み姿勢 20%		
12. 受講生への メッセージ	1. 音楽はこつこつと練習を積み上げることが大切です。出来るか否かではなく努力することが必要です。 2. 音楽の技術的な事で(ピアノ・歌)不安や心配のある学生は遠慮なく申し出ること。心配はありません。 3. 授業中に以下の事については、厳しく注意します。 (Ⅰ) 音楽教室使用規則を守ること。(飲食・楽器の取り扱い等) (Ⅱ) スマートフォン等を使用しない。 (Ⅲ) 授業中の私語は、真面目に受講している者にとって迷惑です。		
13. オフィスアワー	授業前後の時間を活用して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.66	事前学習	教科書 p.52 を読んで理解しておく。
	弾き歌いレッスン：初級者：朝の歌 中・上級者：世界中のこどもたちが 楽典(音名：日本)	事後学習	課題曲の練習。日本の音名について理解し暗記すること。
第2回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.66	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。
	弾き歌い発表：初級者：朝の歌 中・上級者：世界中のこどもたちが 楽典(音名：英語)	事後学習	英語の音名について理解し暗記すること。
第3回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.73	事前学習	課題曲の練習をしておく。
	弾き歌いレッスン：初級者：やまのおんがくか 中・上級者：ふしぎなポケット 楽典(音名：幹音と派生音)	事後学習	音名について復習するとともに派生音の音名について暗記すること。
第4回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.73	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教科書 p.59 を読んでおく。
	弾き歌い発表：初級者：やまのおんがくか 中・上級者：ふしぎなポケット 楽典(長音階)	事後学習	長音階について復習しておくこと。
第5回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.78	事前学習	課題曲の練習をしておく。
	弾き歌いレッスン：初級者：おはようのうた 中・上級者：あわてんぼうのサンタクロース 楽典(短音階：自然短音階)	事後学習	自然短音階について復習しておくこと。
第6回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.78	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。
	弾き歌い発表：初級者：おはようのうた 中・上級者：あわてんぼうのサンタクロース	事後学習	和声および旋律短音階について復習しておくこと。

	楽典（短音階：和声および旋律短音階）		
第 7 回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.88 弾き歌いレッスン：初級者及び中・上級者：ジングルベル 楽典（調性：長調）	事前学習	課題曲の練習をしておく。教科書 pp.60-62 を読んでおく。
		事後学習	調性について復習しておくこと。
第 8 回	讃美歌およびクリスマスソングの合唱および合奏練習 楽典（調性：短調）	事前学習	クリスマス会の発表曲の楽譜を事前に読んでおく。
		事後学習	調性について復習しておくこと。
第 9 回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.88 弾き歌い発表：初級者及び中・上級者：ジングルベル 楽典（調性：調号）	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教科書 pp.63-65 を読んでおく。
		事後学習	調号について復習しておくこと。
第 10 回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.91 弾き歌いレッスン：初級者及び中・上級者：お正月 楽典（調性の復習）	事前学習	課題曲の練習をしておく。
		事後学習	調性および調号についてまとめておくこと。
第 11 回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.91 弾き歌い発表：初級者及び中・上級者：お正月 楽典（移調と転調）	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教科書 p.67（下）を読んでおく。
		事後学習	移調と転調について復習しておくこと。
第 12 回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.104 弾き歌いレッスン：中・上級者：思い出のアルバム 楽典（近親調）	事前学習	課題曲の練習をしておくこと。教科書 p.67（上）を読んでおく。
		事後学習	近親調について復習しておくこと。
第 13 回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.104 弾き歌い発表：中・上級者：思い出のアルバム 楽典（これまでの総復習）	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。
		事後学習	これまで楽典で学んだ範囲を復習しておくこと。
第 14 回	弾き歌いレッスン：初級者：さよならのうた 中・上級者：一年生になったら	事前学習	課題曲の練習をしておく。
		事後学習	課題曲の発表に向けた練習を重ねておく。
第 15 回	弾き歌いの発表：初級者：さよならのうた 中・上級者：一年生になったら	事前学習	課題曲の発表に向けた練習を重ねておく。
		事後学習	2 年次必修科目「こどもの音楽 I」の受講に向けて演奏技術の向上を図ること。

1. 科目名 (単位数)	音楽基礎Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	JNNT2111
2. 授業担当教員	二宮 紀子		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育および幼児教育に携わる者にとって必要とされる音楽の基礎的知識および演奏技術について、音楽基礎Ⅰで学んだこと、身に付けた技術を更に深化させていきます。特に、ピアノ演奏と弾き歌いの技術は、常に継続して練習を行うことが重要です。少しでも高い技術を身に付けるとともに、演奏可能なレパートリーを増やしていきます。演奏技術の面では教育実習や採用試験に対応できるレベルまで上達することを最終目標とします。		
8. 学習目標	1.音楽の基礎理論(楽典)を理解し、楽譜の読み書きが自由にできるようにする。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの基礎的技術を習得する。 3.歌唱法の基礎的技術を習得する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	①音楽理論：練習問題を次週までに仕上げることがある。 ②ピアノ実技：課題曲を次週までによく練習しておく。 ③子どもの歌：レパートリーを増やす。 ④ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施する。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> ・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社。 ・『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。 (バイエル終了者は、オリエンテーション後に個別相談を行い、課題を決定) ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 <b>【参考書】</b> ・中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう』保育士・幼稚園教諭養成テキスト 全国大学音楽教育学会、音楽之友社。 ・小林美実監修『こどものうた 200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた 200』チャイルド本社。 <b>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。</b> ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	実技 50% 楽典 30% 授業への取り組み姿勢 20%		
12. 受講生へのメッセージ	ピアノの演奏技能、歌唱技能を磨き、その演奏が子ども達の母音楽となるという責任をもった演奏ができるようになりましょう。一つの表現方法である音楽は、どんな初歩的なものであれ、様々な約束事にしたがって作られています。それらを知識として理解するだけでなく応用し、自らの創造力へとつなげましょう。読譜力や演奏技術の習得には毎日の練習が欠かせません。少しずつでも毎日練習するように心がけましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.66 弾き歌いレッスン：初級者：朝の歌 中・上級者：世界中のこどもたちが 楽典(音名：日本)	事前学習	教科書 p.52 を読んで理解しておく。
		事後学習	課題曲の練習。日本の音名について理解し暗記すること。
第2回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.66 弾き歌い発表：初級者：朝の歌 中・上級者：世界中のこどもたちが 楽典(音名：英語)	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。
		事後学習	英語の音名について理解し暗記すること。
第3回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.73 弾き歌いレッスン：初級者：やまのおんがくか 中・上級者：ふしぎなポケット 楽典(音名：幹音と派生音)	事前学習	課題曲の練習をしておく。
		事後学習	音名について復習するとともに派生音の音名について暗記すること。
第4回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.73 弾き歌い発表：初級者：やまのおんがくか 中・上級者：ふしぎなポケット 楽典(長音階)	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教科書 p.59 を読んでおく。
		事後学習	長音階について復習しておくこと。
第5回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.78 弾き歌いレッスン：初級者：おはようのうた 中・上級者：あわてんぼうのサンタクロース 楽典(短音階：自然短音階)	事前学習	課題曲の練習をしておく。
		事後学習	自然短音階について復習しておくこと。
第6回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.78 弾き歌い発表：初級者：おはようのうた 中・上級者：あわてんぼうのサンタクロース 楽典(短音階：和声および旋律短音階)	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。
		事後学習	和声および旋律短音階について復習しておくこと。

第 7 回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.88 弾き歌いレッスン：初級者及び中・上級者：ジングルベル 楽典（調性：長調）	事前学習	課題曲の練習をしておく。教科書 pp.60-62 を読んでおく。
		事後学習	調性について復習しておくこと。
第 8 回	讃美歌およびクリスマスソングの合唱および合奏練習 楽典（調性：短調）	事前学習	クリスマス会の発表曲の楽譜を事前に読んでおく。
		事後学習	調性について復習しておくこと。
第 9 回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.88 弾き歌い発表：初級者及び中・上級者：ジングルベル 楽典（調性：調号）	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教科書 pp.63-65 を読んでおく。
		事後学習	調号について復習しておくこと。
第 10 回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.91 弾き歌いレッスン：初級者及び中・上級者：お正月 楽典（調性の復習）	事前学習	課題曲の練習をしておく。
		事後学習	調性および調号についてまとめておくこと。
第 11 回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.91 弾き歌い発表：初級者及び中・上級者：お正月 楽典（移調と転調）	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教科書 p.67（下） を読んでおく。
		事後学習	移調と転調について復習しておくこと。
第 12 回	ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No.104 弾き歌いレッスン：中・上級者：思い出のアルバム 楽典（近親調）	事前学習	課題曲の練習をしておくこと。教科書 p.67 （上）を読んでおく。
		事後学習	近親調について復習しておくこと。
第 13 回	ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No.104 弾き歌い発表：中・上級者：思い出のアルバム 楽典（これまでの総復習）	事前学習	課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。
		事後学習	これまで楽典で学んだ範囲を復習しておく こと。
第 14 回	弾き歌いレッスン：初級者：さよならのうた 中・上級者：一年生になったら	事前学習	課題曲の練習をしておく。
		事後学習	課題曲の発表に向けた練習を重ねておく。
第 15 回	弾き歌いの発表：初級者：さよならのうた 中・上級者：一年生になったら	事前学習	課題曲の発表に向けた練習を重ねておく。
		事後学習	2 年次必修科目「こどもの音楽 I」の受講に 向けて演奏技術の向上を図ること。

1. 科目名 (単位数)	カウンセリングの基礎 (2 単位)		3. 科目番号	JCCC2506
2. 授業担当教員	富永 弥生			
4. 授業形態	講義・演習 (ロールプレイ、ディスカッション 等)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>カウンセリングとは個人が適応上の問題を理解し、解決することができるように他人がその援助につとめるというような関係のことを指している。このカウンセリングは、教育、福祉、産業と様々な場所で実施されているが、カウンセリングを行うための「聴く」力や「応答する」「相手を理解する」「自分を知る」力は、カウンセリング場面だけではなく、個人が他者とコミュニケーションをはかる上でも非常に重要な力であるといえる。本講義は、カウンセリングの基礎知識を理解するとともに、実際にカウンセリングについての重要な力を、保育や子育て支援にどのように活用できるかロールプレイやグループワーク等を通じて学ぶことを目的とする。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングにおける基礎知識を理解し、説明できる。</li> <li>・カウンセリングを行う上で重要な「聴く」力や「応答する」力をロールプレイなどによって学び、実践できる。</li> <li>・自分を理解し、相手を理解する意味を考えられる。</li> <li>・カウンセリングがどのように保育・教育および子育て支援に活用できるのか考察し、活用できるようになる。</li> </ul>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングについての理解を円滑にするため、配布資料の関連部分を読むことを第2回～第14回の授業の事前学習とする。</li> <li>・レポート課題については、授業内に課題を提示・解説する。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 授業内でプリントを配布する。</p> <p>【参考書】 水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房、2013 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題・演習課題 60%、受講態度 40%とする。</li> <li>・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。</li> <li>・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。</li> </ul>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、カウンセリングの理論と方法を理解し、保育や教育の現場で実践するための基本的な視点を学んでほしい。ロールプレイなど演習を多く行い、援助者と被援助者の思いや願いを感じられるように授業を進める。ディスカッションで受講者同士の考えを交流する機会を設定し、カウンセリングやコミュニケーションのほかり方について具体的に考えられるような授業を構成していきたい。そのために、受講生の主体的な受講態度を期待している。</p>			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション：カウンセリングとは何か	事前学習	シラバスを読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 2 回	カウンセリングの理論①	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 3 回	カウンセリングの理論②	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 4 回	カウンセリングのプロセス①	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 5 回	カウンセリングのプロセス②	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 6 回	カウンセリングのプロセス③	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 7 回	カウンセリングの技法① (聴く)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 8 回	カウンセリングの技法② (応答)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 9 回	カウンセリングの技法③ (相手を理解する)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 10 回	カウンセリングの技法④ (自分を理解する)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 11 回	カウンセラーとクライアントの関係	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 12 回	保護者へのカウンセリング	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 13 回	保育者、教育者のストレスとメンタルヘルス	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 14 回	事例検討(グループワーク)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で、教育相談について自分が理解した内容を整理しておく。	
		事後学習	授業全体をふり返り、講義内容の理解を確認する。	

1. 科目名 (単位数)	家庭 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3623	
2. 授業担当教員	富永 弥生			
4. 授業形態	講義、演習、実習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目標としている。そこで、この授業では、今日の家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割について理解するとともに学習内容に対する知識の習得を図る。さらに、授業展開に活かすことのできる題材構成や教材選びの視点、学習指導の要点や留意点を学習していく。また、家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活に関する基本事項について解説するとともに簡単な演習・実習を行い、小学校家庭科が生活を総合的に捉えていることや生活を主体的に創る態度を目指していることに理解を深めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「家庭生活と家族」、「日常の食事と調理の基礎」、「快適な衣服と住まい」、「身近な消費生活と環境」に関する知識と技能を身に付ける。</li> <li>生活をよりよくしようとする実践的な態度とはどのようなものかを理解し、説明できる。</li> <li>教育課程の特徴を理解したうえで小学校家庭科の特質と役割を理解し、説明できる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>小学校「家庭」についての理解を円滑にするために、教科書の関連部分を読むことを第 2 回～第 1 4 回の授業の事前学習とする。</p> <p>レポート課題については、授業内で告知・解説する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2008</li> <li>『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版、2015</li> </ul> <p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京学芸大学附属小金井小学校『あすの授業アイデア チョイ引き活用事典』学事出版、2006</li> <li>内野紀子『小学校学習指導要領の解説と展開 家庭編』教育出版、2008</li> <li>金子佳代子・藤原孝子『平成 20 年版小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり家庭』東洋館出版、2008</li> <li>田中孝一『新評価規準を生かす授業づくり小学校編第 4 巻家庭科・体育科・特別活動』ぎょうせい、2011</li> <li>日本家庭科教育学会『生きる力をそなえた子どもたち』学文社、2013</li> </ul>			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加	30%	期末試験 (知識・理解・論述・表現)	30%
	演習・実技作品	40%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>小学校で家庭科を学習する子どもはどのような実態なのか、子どもたちがどのような力を身に付けることが目標なのか、どのように題材を構成することで目標に迫ることができるのか、本科目で実感を伴って学んでほしいと考える。受講生の主体的な受講態度を期待している。</p>			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの説明(授業の進め方など) 家庭科の学習内容 学習目的、小学校において進められている教育理念の確認、 実習時に対する準備の連絡	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し、臨むこと。	
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見直しをもつ。	
第 2 回	家庭科の目標、家庭科の内容構成	事前学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.1-p.7 を読み、学習指導要領の改訂の概略について理解しておく。	
		事後学習	家庭科の目標について『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.8-p.13 を繰り返し読み、理解を確認する。	
第 3 回	家庭科の内容	事前学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.17-p.53 で四角囲みになっている箇所を読み、家庭科の内容の構成について理解しておく。	
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.17-p.53 を読み、家庭科の内容について理解を図る。	
第 4 回	指導計画の作成と内容の取扱い	事前学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.54-p.63 を読んでおく。	
		事後学習	学習指導要領で道徳教育について述べられている箇所を調べ、家庭科と道徳との関連についての理解を深める。	
第 5 回	A「家庭生活と家族」の学習展開 A「家庭生活と家族」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で A「家庭生活と家族」の内容を扱う題材を探しておく。	
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.17-p.24 を繰り返し読み、理解を確認する。	
第 6 回	B「日常の食事と調理の基礎」 の学習展開	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で B「日常の食事と調理の基礎」の内容を扱う題材を探しておく。	
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.25-p.36 を読み、理解を	

			確認する。
第 7 回	B「日常の食事と調理の基礎」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で B「日常の食事と調理の基礎」の内容を扱う題材の個所を読み、指導で留意すべき点を考える。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』p.25-p.36 を繰り返し読み、理解を確認する。
第 8 回	実習の指導・米飯とみそ汁の調理(調理実習)	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.46-49 を読み、小学校における米飯・みそ汁の調理の量・手順を確認する。実習身支度の準備をする。
		事後学習	実習を通して学んだことを基に米飯・みそ汁の調理の指導の要点をまとめ、提出する。
第 9 回	家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.110 の図「栄養素のはたらきによる食品の分類」を確認し、栄養素の分類を理解する。
		事後学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.110 の図「栄養素のはたらきによる食品の分類」を確認し、栄養素の分類を覚える。
第 10 回	C「快適な衣服と住まい」の学習展開	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で C「快適な衣服と住まい」の内容を扱う題材を探しておく。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.37-p.48 を読み、理解を確認する。
第 11 回	C「快適な衣服と住まい」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で C「快適な衣服と住まい」の内容を扱う題材の個所を読み、指導で留意すべき点を考える。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.37-p.48 を繰り返し読み、理解を確認する。
第 12 回	手縫いの技能（被服製作実習）	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.18-24 を読み、小学校における手縫いの技能を確認する。裁縫用具の準備をする。
		事後学習	実習を通して学んだことを基に手縫いの技能指導の要点をまとめ、作品と合わせて提出する。
第 13 回	D「身近な消費生活と環境」の学習展開	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で D「身近な消費生活と環境」の内容を扱う題材を探しておく。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.49-p.53 を読み、理解を確認する。
第 14 回	D「身近な消費生活と環境」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で D「身近な消費生活と環境」の内容を扱う題材の個所を読み、指導で留意すべき点を考える。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.37-p.48 を繰り返し読み、理解を確認する。
第 15 回	家族・家庭生活・地域とのかかわりを活かす工夫	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.104-106 を読み、小学校の家庭科で学ぶ内容・教科目標の復習をする。
		事後学習	授業全体をふり返し、小学校「家庭」の内容についての理解を確認する。

1. 科目名 (単位数)	家庭科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	JCEL3624
2. 授業担当教員	富永 弥生			
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーションなど		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	家庭科の教科としての意義や、小学校家庭科の目標、内容、指導方法などについて教授する。さらに実際の家庭科学習のありかたを具体的な学習指導計画や学習指導案などの作成を通して、実践的に検討し提案する。			
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の特質とその役割を知り、指導対象となる児童の生活実態や家庭科学習に関する背景的要因などを理解する。 2. 小学校家庭科の授業計画を構想し、具体的な学習指導計画や学習指導案、授業展開、評価などができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	小学校「家庭」についての理解を円滑にするために、教科書の関連部分を読むことを授業の事前学習とする。課題 (指導案作成、レポート) については、授業内で告知・解説する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2008 年。 『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版、2015 年。</p> <p>【参考書】 東京学芸大学附属小金井小学校『あすの授業アイデア チョイ引き活用事典』学事出版、2006 年。 内野紀子『小学校学習指導要領の解説と展開 家庭編』教育出版、2008 年。 金子佳代子・藤原孝子『平成 20 年版小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり家庭』東洋館出版、2008 年。 田中孝一『新評価規準を生かす授業づくり小学校編第 4 巻家庭科・体育科・特別活動』ぎょうせい、2011 年。 日本家庭科教育学会『生きる力をそなえた子どもたち』学文社、2013 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習課題 (指導案作成、模擬授業) 40%、レポート課題・レスポンスシート 30%、受講態度 30% とする。</li> <li>・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。</li> <li>・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。</li> </ul>			
12. 受講生へのメッセージ	小学校の家庭科で、どのように題材を構成すると目標に迫ることができるのか、本科目で行う学習指導案の作成や模擬授業の実施・参観をとおして学んでほしいと考える。教材・教具の工夫や開発など、受講生の主体的な受講態度を期待している。			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 子どもの発達をささえる家庭科	事前学習	シラバスを読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 2 回	指導計画の作成	事前学習	教科書の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 3 回	家庭科における題材構成の考え方 学習指導案の作成について	事前学習	教科書の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 4 回	学習指導案の作成 (演習)	事前学習	模擬授業で扱う題材に応じて教材研究を行った資料を準備する。	
		事後学習	作成中の学習指導案への加除修正案を考える。	
第 5 回	学習指導案の作成 (演習) 教材・教具の作成 (演習)	事前学習	作成中の学習指導案で活用する予定の教材・教具の作成に必要な文具等を準備する。	
		事後学習	模擬授業の学習指導案を完成させた後、教材・教具の作成を進める。	
第 6 回	授業の参観する視点について	事前学習	教科書の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 7 回	模擬授業の実施・参観と協議 (1)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。	
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 8 回授業開始時に提出)	
第 8 回	模擬授業の実施・参観と協議 (2)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。	
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 9 回授業開始時に提出)	
第 9 回	模擬授業の実施・参観と協議 (3)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。	
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 10 回授業開始時に提出)	

第 1 0 回	模擬授業の実施・参観と協議 (4)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 1 1 回授業開始時に提出)
第 1 1 回	模擬授業の実施・参観と協議 (5)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 1 2 回授業開始時に提出)
第 1 2 回	模擬授業の実施・参観と協議 (6)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 1 3 回授業開始時に提出)
第 1 3 回	模擬授業の実施・参観と協議 (7)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 1 4 回授業開始時に提出)
第 1 4 回	模擬授業の実施・参観と協議 (8)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 1 5 回授業開始時に提出)
第 1 5 回	授業のまとめ	事前学習	第 1 4 回までの授業で自分が理解した内容を整理しておく。
		事後学習	授業全体をふり返り、科目内容の理解を確認する。

1. 科目名 (単位数)	家庭支援論 (2 単位)		3. 科目番号	JCCC2403
2. 授業担当教員	堀 聡子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、保育士として家庭、地域などを視野に入れた子育て家庭に対する支援のあり方や支援体制等について理解をする。さらに保育相談支援の意義や内容、方法など子育てを行う保護者支援の基本を理解する。			
8. 学習目標	1.家庭支援に必要な考え方を理解し、実践で活かせるようにする。 2.子育て支援に必要な支援に関連する福祉制度に規定された支援機関・体制を理解する。 3.子育て支援に必要な支援方法、及び関連機関との連携を理解し、実践で活かせるようにする。 4.保育相談に係る考え方と具体的な方策を理解し、実践で活かせるようにする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	4回のミニレポートを課す予定である。ミニレポートでは、それまでの授業内容への理解を確認するとともに、家庭支援の具体例について、自分がどのような対応をすればよいかを考えてもらう。			
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 教科書は特に指定せず、授業の進行は配布資料を使用して行う。ただし、主な参考文献として以下のものを挙げておく。 橋本真紀・山縣文治編『よくわかる家庭支援論 [第2版]』ミネルヴァ書房、2015。 大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編『よくわかる子育て支援・家族援助論』ミネルヴァ書房、2009。			
11. 成績評価の方法	成績評価は、コメントカード：30%、ミニレポート：20%×2+15%×2の配分で行う。毎回、配布するコメントカードには授業内容に関して考えたことなどを書いてもらいますが、その内容をその都度評価して加点しています。なお、欠席および遅刻は減点の対象となりますので、注意してください。			
12. 受講生へのメッセージ	家庭支援の問題は、今後、保育者にとって大きなウェイトを占めることになると考えられます。実践の現場に身を置いてから困惑することがないように、自分が保育者、援助者になったらどうするかを考えながら受講してもらえればと思います。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス：授業の概要と進めかた	事前学習	シラバスの確認	
		事後学習	配布資料を用いて家庭支援論を学ぶ意味について振り返る	
第2回	家庭支援の対象と役割	事前学習	家庭支援の意味を調べる	
		事後学習	配布資料を用いて家庭支援の対象と役割についての学習内容を振り返る	
第3回	現代社会における家族と子ども①:家族の多様性	事前学習	現代の家族問題について調べる	
		事後学習	配布資料を用いて家族の多様性についての学習内容を振り返る	
第4回	現代社会における家族と子ども②:家族の形態と機能の変化	事前学習	家族の形態と機能について調べる	
		事後学習	配布資料を用いて家族の形態と機能についての学習内容を振り返る	
第5回	現代社会における家族と子ども③:子育てに悩む母親の気持ちとは	事前学習	子育ての悩みについて調べる	
		事後学習	配布資料を用いて子育ての悩みについての学習内容を振り返る	
第6回	【中間まとめ】	事前学習	これまでの配布資料を読み直して学習内容を振り返る	
		事後学習	ミニレポートの作成	
第7回	離婚家庭の事例を通して家庭支援を考える①	事前学習	離婚について調べる	
		事後学習	配布資料を用いて離婚事例についての学習内容を振り返る	
第8回	離婚家庭の事例を通して家庭支援を考える②	事前学習	離婚家庭の子育てについて調べる	
		事後学習	ミニレポートの作成	
第9回	保育所・幼稚園における家庭支援	事前学習	園児の家庭支援の方法について調べる	
		事後学習	配布資料を用いて園児の家庭支援についての学習内容を振り返る	
第10回	在宅子育て家庭への支援	事前学習	地域の子育て家庭への支援について調べる	
		事後学習	配布資料を用いて地域の子育て家庭への支援についての学習内容を振り返る	
第11回	要保護児童とその家族への支援	事前学習	要保護児童の現状について調べる	
		事後学習	配布資料を用いて要保護児童とその家族の支援についての学習内容を振り返る	
第12回	ネグレクトを経験した子どもの事例を通して家庭支援を考える①	事前学習	ネグレクトについて調べる	
		事後学習	配布資料を用いてネグレクト事例の意味について考える	
第13回	ネグレクトを経験した子どもの事例を通して家庭支援を考える②	事前学習	ネグレクトの援助方法について調べる	
		事後学習	ミニレポートの作成	
第14回	家庭支援の実践例の検討	事前学習	家庭支援の多様性について調べる	
		事後学習	配布資料を用いて家庭支援の実践例についての学習内容を振り返る	
第15回	【最終まとめ】	事前学習	これまでの配布資料を読み直して学習内容を振り返る	
		事後学習	授業全体の振り返り	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	カリキュラム論 (2 単位)	3. 科目番号	JCNT3418
2. 授業担当教員	鈴木 美子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	子どもの心と育ちを支援するための保育・教育とはどのようにあればよいのでしょうか。日々の教育・保育計画の作成、実施の在り方、記録および省察や評価の方法を学び、子ども一人ひとりに即しつつ、上級学校につなげるための教育・保育の実践能力を培っていきます。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育・保育課程の基本的な理解を図る。</li> <li>2 教育・保育課程と指導計画との関係を理解する。</li> <li>3 長期、短期の指導計画の立て方が分かり、作成することができるようになる。</li> <li>4 計画と実践、反省評価の関係が分かる。</li> <li>5 指導要録と就学期の連携について理解する。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	短期指導計画の週案の作成、日案の作成を行います。 実践事例から、次の計画を作成する流れを演習します。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小田豊・神長美津子監修『保育課程・教育課程論』光生館、2014 年。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 50% レポート、提出物 50%		
12. 受講生への メッセージ	子ども一人ひとりとは違って個性があり、保育は保育者の捉え方ひとつで大きく変わります。一人ひとりをとにかくよく見てその子に添った保育が実現できるように、工夫しそれが本当に適切であったかを確認しながら進められる力をつけましょう。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス カリキュラムとは何か	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	カリキュラムについてまとめる
第 2 回	保育における計画 教育課程・保育課程の意義	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	保育における計画 教育課程・保育課程の意義についてまとめる
第 3 回	保育における計画の変遷	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	保育における計画の変遷についてまとめる
第 4 回	教育課程・保育課程の編成の原則と手順	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」該当箇所を読む
第 5 回	教育課程・保育課程の実施と指導計画の作成	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」該当箇所を読む
第 6 回	教育課程・保育課程と長期、短期の計画	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	年・期・月・週の計画それぞれの違いをまとめる
第 7 回	月の指導計画立案 計画事例から学ぶ	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	期の指導計画と月の指導計画との違いを整理する
第 8 回	週の指導計画立案 計画事例から学ぶ	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	週日の指導計画について資料を読んでくる
第 9 回	週の指導計画立案 演習	事前学習	週の指導計画用紙に記入する
		事後学習	週の指導計画についてまとめる
第 10 回	日の指導計画立案 計画事例から学ぶ	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」該当箇所を読む
第 11 回	ねらい・内容と子どもの活動	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」該当箇所を読む
第 12 回	日の指導計画立案 演習	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
第 13 回	保育における評価	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	保育所・幼稚園の保育・教育課程の計画・運営・反省評価を理解する
第 14 回	小学校における計画との関係	事前学習	教科書の該当ページを読みプリントに記入
		事後学習	小学校との関連を理解する
第 15 回	まとめ	事前学習	指導計画を作成
		事後学習	指導計画の提出と自己課題
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	JEGC1305 JNGC1305
2. 授業担当教員	尹 文九			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	2002 年ワールドカップ日韓共催以後、K-POP を始め、韓国ドラマやハングルに対する関心が急速に高まっている。こうしたことを踏まえて、本学でも韓国の大学と協定を結び、また、韓国短期研修も実施している。そのため、本講義ではハングルや韓国に関心がある初心者の学生を対象に基本的なハングルの学びながら、韓国の文化や社会についても学習することを目的にする。講義内容は難しい文法よりは、分かりやすい日常会話、すなわち実用会話を中心に学習する。また、韓国の文化や社会などについても学習し、韓国社会の理解を高めることにする。			
8. 学習目標	学生には下記の目標を達成することが期待される。 1. 韓国社会や文化に対して基本的なことを理解する。 2. ハングルの文字を覚え、韓国語の読み、書きができる。 3. 簡単な日常会話ができる。 4. 韓国語で簡単な自己紹介ができる。 5. 韓国旅行のとき必要な基本的な言葉を覚える。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題 1 : 5回の授業までにハングルの文字を覚える。 課題 2 : 最終授業の時韓国語で簡単な自己紹介をする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】李昌圭『韓国語を学ぼう(初級)』朝日出版社、2006。 【参考書】海外文化広報院『韓国のすべて』海外文化広報院、2011。 金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。 金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。 斎藤明美『言葉と文化の日韓比較』世界思想社、2005。			
11. 成績評価の方法	ミニテスト : 40% 授業態度 : 30% 課題及び学習ノート : 30% なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。 まだ、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。			
12. 受講生への メッセージ	始まらないと結果もなし。とりあえず、やってみましょう。 本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加することや発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときにはきちんと傾聴すること			
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業概要についてシラバスを中心に説明する	事前学習	シラバス確認および学習用ノートを準備し講義へ臨むこと	
		事後学習	韓国社会について理解したことをまとめる	
第 2 回	韓国文化の理解－ハングルの特徴と構成－	事前学習	pp.2～9 を熟読し、ハングルの特徴と構成を理解する	
		事後学習	授業で理解した内容をノートにまとめる。	
第 3 回	基本母音と子音(文字と発音)	事前学習	pp.10～17 の基本母音と子音を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	基本母音と子音の理解を確認	
第 4 回	合成母音と子音(文字と発音)	事前学習	pp.18～27 の合成母音と終声子音字を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	合成母音と終声子音の理解を確認	
第 5 回	韓国文化の理解：ビデオ	事前学習	韓国文化の特徴についてノートにまとめる	
		事後学習	韓国文化について理解した内容をまとめる。	
第 6 回	私は○○○です(名前と職業)	事前学習	母音と子音を覚えて授業に臨む。	
		事後学習	母音と子音の覚えを確認	
第 7 回	これは何ですか(指示代名詞、場所)	事前学習	p.40、p.48 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる。	
第 8 回	この人は誰ですか(三人称代名詞)	事前学習	p.56 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	p.40、p.48、p.56 の単語確認	
第 9 回	家族文化と家族の呼び方	事前学習	p.61 を参考し、自分の家族関係についてノートに記入	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる	
第 10 回	N+ガ/はどこにありますか(位置関係の言葉)	事前学習	p.64 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	p.71 の活用練習をまとめる	
第 11 回	N+をしますか	事前学習	p.72 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	pp.79～80 の活用練習をまとめる	
第 12 回	N+に/へ行きますか(時間関係の言葉)	事前学習	p.82 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	p.84 の時間と曜日関係の言葉の覚えを確認	
第 13 回	漢数詞と電話番号	事前学習	p.100 の新出単語と p.102 の漢数詞を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	漢数詞の覚えを確認	
第 14 回	これはいくらですか(買い物)	事前学習	p.116 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	買い物に関する単語の覚えを確認	
第 15 回	全体まとめ	事前学習	ハングルで自己紹介をノートに書いて授業に臨むこと	
		事後学習	自己紹介を自分で話す練習をする。	

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	JEGC1306 JNGC1306
2. 授業担当教員	尹 文九		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	韓国の文化と言語Ⅰでは言語を中心に講義を行なったが、Ⅱでは言語と文化両方を学習する。言語については基本的な挨拶から日常会話をはじめ、漢数詞、固有数詞などを応用し、会話を深める。文化については一般的な理論講義と共にビデオや現地見学(コリアタウン、高麗神社)などを併行して講義を行ない、より深い韓国文化の理解を高めることも目的とする。したがって、本授業は基本的なハングル文字を理解し、韓国の文化に興味を持っている学生が授業の対象として望ましい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハングルの文字と単語を覚える</li> <li>2. 基本的な日常会話ができるように学習する</li> <li>3. 現代の韓国社会の政治・経済・社会・文化などについて理解する。</li> <li>4. 韓国の伝統文化・名節について理解する。</li> <li>5. 韓国の歴史や世界遺産などについて理解する。</li> <li>6. 韓国の文化を直接的に体験し、より深い文化を理解する。</li> </ol>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人レポート：韓国の文化の中、一つを選び、日本と相違点や類似点についてまとめる</li> <li>2. グループレポート：グループで発表した内容をまとめる</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】李昌圭『韓国語を学ぼう(初級)』朝日出版社、2006。                  【参考書】齊藤明美『言葉と文化の日韓比較』世界思想社、2005。                  海外文化広報院『韓国のすべて』海外文化広報院、2011。                  金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。                  金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。</p>			
11. 成績評価の方法	レポート及びミニテスト：40% 発表および授業態度：40% 予習ノート：20% なお、本学規定により、単位取得のためには3/4以上の出席を必要とする。 まだ、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。			
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加することや発音などの練習のときは大きな声を出すこと。</li> <li>2) 席は前から男女混合で座ること。</li> <li>3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。</li> <li>4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。</li> <li>5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。</li> <li>6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときにはきちんと傾聴すること。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバス説明と現代韓国社会の理解	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと	
		事後学習	現代韓国社会について理解したことをノートにまとめる	
第2回	ハングル文字(母音と子音)について	事前学習	テキスト p.3 の文字を10回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えたハングル文字を確認する	
第3回	挨拶の言葉	事前学習	pp.34~35 のハングルを10回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えた挨拶の言葉を確認する	
第4回	教室の言葉	事前学習	pp.36~38 のハングルを10回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えた教室の言葉を確認する	
第5回	韓国の伝統文化について(ビデオ)	事前学習	韓国の伝統文化についてノートにまとめる	
		事後学習	ビデオを見て伝統文化について理解したことをノートにまとめる	
第6回	韓国の歴史について	事前学習	韓国の歴史について時期を区分し、ノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解されたことをノートにまとめる	
第7回	韓国の大衆文化について	事前学習	韓国の大衆文化について調べてまとめる	
		事後学習	授業で理解されたことをまとめる	
第8回	儒教と韓国について	事前学習	韓国の儒教の特徴についてノートにまとめる	
		事後学習	儒教が韓国社会に及ぼした影響についてノートにまとめる	
第9回	家族制度の日韓比較について	事前学習	韓国の家族制度の特徴についてまとめる	
		事後学習	韓国と日本の家族制度の違いや類似点についてまとめる	
第10回	食文化の日韓比較	事前学習	韓国の食文化の特徴についてノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解したことについてノートにまとめる	
第11回	韓国の徴兵制度について	事前学習	韓国の徴兵制度についてまとめる	
		事後学習	俯仰で理解した内容をノートにまとめる	
第12回	位置関係の言葉について	事前学習	p.69 のハングルを10回ずつノートに書く	
		事後学習	位置関係の言葉を理解し、確認する	
第13回	韓国の社会(名節)について(ビデオ)	事前学習	韓国の社会(名節)についてノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる	
第14回	韓国の世界遺産について	事前学習	韓国の世界遺産にはどのようなものがあるのかについてノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解した内容をノートにまとめる	
第15回	韓国の伝統遊び<<ユンノリ>>体験	事前学習	ユンノリについて調べ、遊び方のルールをまとめる。	
		事後学習	感想をまとめる	

1. 科目名 (単位数)	基礎演習 I (2 単位)		3. 科目番号	JECD1101 JNCD1101
2. 授業担当教員	松本 岳志			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。			
7. 講義概要	本講義では、将来保育者や教育者といった子どもに関わる専門家になるための基礎的な知識を身につける。また、受講者が自分の将来像について練り上げていくための機会となることをねらいとし、将来子どもの専門家としての職責を担うための土台をつくることを目指す。			
8. 学習目標	1 「社会人」として必要な態度を習得する。 2 「子どもに関わる専門家」として必要な基礎的知識・考え方を習得する。 3 自己を知り、自己表現を養う。 4 自己の職業観を育み、自分の将来像を練り上げる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回授業内に課題を提示する。一週間かけてその課題に取り組み、次の授業でそれを提出できるようにすること。また、その課題に関連した小テストを授業内で実施する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業内でプリント等を配布する。プリントを保管するファイルを各自持参すること。			
11. 成績評価の方法	課題の取り組み状況 40%、授業内小テスト 30%、授業への取り組み姿勢 30%			
12. 受講生へのメッセージ	短期大学部での3年間で何を身につけるのかという短期的な目標と将来どのような子どもの専門家を目指すのかという長期的な目標をしっかりと持ち、それを常に念頭に置いて学生生活を送っていただきたい。学生生活を送る上での基本的な生活習慣と専門知識を身につけようとする姿勢を崩すことなく、学業に直向きに励むこと。保育者・教育者として保育・教育現場で通用する人材になるために、多くのことを吸収しようとする姿勢を持って授業に臨むこと。			
13. オフィスアワー	初回授業のオリエンテーションにおいて通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 保育者に必要な知識や教養について①	事前学習	シラバスを熟読しておくこと。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第2回	保育者に必要な知識や教養について②	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第3回	保育者に必要な知識や教養について③	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第4回	保育者に必要な知識や教養について④	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第5回	保育者に必要な知識や教養について⑤	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第6回	教育者に必要な知識や教養について①	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第7回	教育者に必要な知識や教養について②	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第8回	教育者に必要な知識や教養について③	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第9回	教育者に必要な知識や教養について④	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第10回	教育者に必要な知識や教養について⑤	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第11回	社会人になるために必要なこと①	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第12回	社会人になるために必要なこと②	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第13回	社会人になるために必要なこと③	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第14回	社会人になるために必要なこと④	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	授業内で学んだことを復習すること。また、提示された課題に取り組むこと。	
第15回	社会人になるために必要なこと⑤	事前学習	前回授業で出された課題を提出できるようにすること。	
		事後学習	この半年間に学んだことをまとめること。	

1. 科目名 (単位数)	基礎演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	JECD1102 JNCD1102
2. 授業担当教員	國府田 祐子・富永 弥生		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	基礎演習Ⅰのあとに学ぶ科目である。		
7. 講義概要	この授業では、これからの社会を担う人材、特に子どもに関わる専門家に求められる基本的な態度や知識について学習する。いわゆる、一般教養的な知識からより個別的な内容を含めて、さまざまな事柄について学ぶ中で、受講者が自分の将来像について練り上げていくための機会となることをねらいとしている。		
8. 学習目標	1. 「社会人」としての必要な基礎的知識や態度を習得する。 2. 「子どもに関わる専門家」としての必要な基礎的知識・考え方を習得する。 3. 自己を知り、自己表現力を養う。 4. 自己の職業観をはぐくみ、自分の将来像を練り上げる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	第2回～第8回 授業内容の理解を円滑にするために、前時に配布する資料を読むことを第2回～第8回授業の事前学習とする。レポート課題については、授業内に告知・解説する。 第9回～第15回 第9回の授業で、レポート課題を提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	第2回～第8回 【教科書】授業内にプリントを配布する。 【参考書】授業内に適時通知する。 第9回～第15回 【教科書】川島隆太・川島英子『頭のいい子は音読と計算で育つ』二見レインボー文庫、2016年1月。 【参考書】授業内で適時通知する。		
11. 成績評価の方法	第2回～第8回 授業への積極的参加 30% 小テスト (知識・理解・論述・表現) 30% 演習・実技 40% 第9回～第15回 受講態度 50% 提出物 50%		
12. 受講生へのメッセージ	授業の中でも社会で生きていくために大切なさまざまなことについて伝えるように努めるが、ぜひ日頃から書籍や新聞、雑誌を読む習慣をつけてください。また、この授業は、社会に出たときに必須となる基礎的な教養、子どもに関わる専門家としての考え方などを身につける科目です。社会で活動する自分の姿を想像し、緊張感、熱意、前向きな姿勢をもって授業に臨んでください。授業中は私語をしないことはもちろんのこと、携帯電話を鳴らさないなどの基本的なマナーを守ってください。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) にて指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバスの説明(授業の進め方、演習時の準備について) 現在の自分・将来の自分	事前学習	シラバスをよく読み、子どもに関わる専門家としての自分の長所をまとめておく。
		事後学習	シラバスをよく読み、子どもに関わる専門家としての自分の改善点をまとめる。
第2回	自立とワークライフバランス	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第3回	日々の生活で意識するマナーシーン 食事の席でのマナーの基本	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第4回	相手を思いやる“お付き合い”(冠婚葬祭)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解を深める。
第5回	第2～4回授業内容の小テスト) 生活者としての力を高める“調理”の基本	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、生活の中で実践して技能を高める。
第6回	生活者としての力を高める“調理”の実践	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、生活の中で実践して技能を高める。
第7回	生活者としての力を高める“掃除”“洗濯”の基本	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、生活の中で実践して技能を高める。
第8回	生活者としての力を高める“裁縫”の基本・実践	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、生活の中で実践して技能を高める。
第9回	社会人になるために必要なこと① あいさつや礼儀を鍛える	事前学習	アルバイト先など、自分が事前に調べた内容をまとめる。
		事後学習	自分の課題と学習内容を振り返り、次時の課題について調べる。
第10回	社会人になるために必要なこと② 敬語を鍛える	事前学習	電目上の人に対する言葉遣いを、丁寧語、尊敬語、謙譲語の意味とともに調べ、内容等をノート等にまとめる。
		事後学習	学習内容を振り返り、次時の課題について調べる。
第11回	社会人になるために必要なこと③ 話す力を鍛える	事前学習	電話の応対についての自分の経験を想起し、まとめる。
		事後学習	音声言語の重要性について、学習内容を振り返り、次時の課題について調べる。
第12回	社会人になるために必要なこと④ 書く力を鍛える・その1	事前学習	日記を書いた経験を思い出し、異聞の経験をノート等にまとめておく。
		事後学習	学習内容を振り返り、次時の課題について調べる。
第13回	社会人になるために必要なこと⑤ 書く力を鍛える・その2	事前学習	レポートの書き方について、事前に調べた内容等をノート等にまとめる。
		事後学習	学習内容を振り返り、次時の課題について調べる。
第14回	社会人になるために必要なこと⑥ 書く力を鍛える・その3	事前学習	事実と意見はどのように違うのか、事前に調べ、内容をノート等にまとめる。
		事後学習	学習内容を振り返り、次時の課題について調べる。
第15回	社会人になるために必要なこと⑦ 対話力を鍛える、総括	事前学習	初対面の人と話をした経験を思い出したり、コミュニケーション能力について調べた内容等をノート等にまとめる。
		事後学習	学習内容を振り返り、次時の課題について調べる。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD2309
2. 授業担当教員	成田 成		JECD2039
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、キャリアアップにつながる「教養」を身に付けるための一環として、効果的な考え方や勉強法を学習参考例や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、考え方や解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取り上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導などを行い、社会現場で役立つ実践的な能力を身に付けていく。		
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤上記の①～④を兼ね備えた、総合的な教養と実践力を身に付けられる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には「就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】教科書は使用せずに、分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。 【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものがお薦めである。		
11. 成績評価の方法	レポート課題：60点、授業態度 (宿題、質問、発表などを含む)：40点、総合点：100点 4分の3以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本授業を通じて、自分の希望する就職先や資格などについて真剣に考え、それらの目標を達成させるために、自主的に教養を高めてキャリアアップを図れるようになってほしい。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4号館1階120研究室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	将来、自分がやりたい職業について考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第2回	就職活動に関する基本的な流れ	事前学習	就職活動を行うために何をすべきかを考えてくる。
		事後学習	希望する就職先について調査してみる。
第3回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第4回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第5回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第6回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第7回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第8回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第9回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第10回	施設・会社等の訪問の仕方 (アポイントの取り方、マナーなど)	事前学習	施設・会社等の訪問の仕方について調べてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第11回	長期休暇期間におけるキャリアアップ法 (効果的な勉強法、有効な過ごし方など)	事前学習	夏休み期間中の有効な過ごし方について考えてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことを参考にして夏休みの計画に役立てる。
第12回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第13回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第14回	小論文の書き方	事前学習	小論文の書き方について調べてくる。
		事後学習	小論文の書き方について復習してくる。
第15回	レポート (就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD2307 JECD2307 JNCD2307
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2年次までの教職課程科目並びにキャリア基礎演習 I/キャリア基礎演習 II をすでに単位取得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教員には、校種別の専門的知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身に付けることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習 I (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習 I A (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア開発演習 I A においては、「教職教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力を身につけることを目標とする。各回の演習においては、「教職教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。		
8. 学習目標	1. 教育に関する基礎的な教養を身に付け、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得することができる。 2. 教職教養の各領域の出題傾向を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 教職教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 教職教養の各領域の過去問演習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集等に取り組み、自己学習できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 各回の確認テスト 2. 習熟度確認テストおよびレポート課題		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】東京教友会編著『教職教養ランナー 2016 年度版』一ツ橋書店。 【参考書】協同教育研究会編『教職教養の精選実施問題』協同出版。 協同教育研究会編『過去問シリーズ：〇〇県 (自治体別に出版) の教職教養』協同出版。 資格試験研究会編『教職教養らくらくマスター』実務教育出版。 【配布資料】各回の演習で資料を配布する。 その他、自らが学習しやすい参考書を参照すること。		
11. 成績評価の方法	出席状況及び授業態度 30% 各回の確認テスト 50% 習熟度確認問題演習およびレポート課題 20%		
12. 受講生へのメッセージ	本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 ① 授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ② 「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ③ 遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④ わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑤ 本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 *なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワー (時間割掲載のオフィスアワー欄を参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の目標と進め方。	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくること
		事後学習	テキストの「まえがき」の部分を熟読しておくこと
第 2 回	教育法規① (教科書 pp.7-35) *確認テストを実施	事前学習	第 1 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 3 回	教育法規② (教科書 pp.7-35) *確認テストを実施	事前学習	第 2 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 4 回	教育法規③ (教科書 pp.35-56) *確認テストを実施	事前学習	第 3 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 5 回	教育法規④ (教科書 pp.35-56) *確認テストを実施	事前学習	第 4 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 6 回	生徒指導・安全指導① (教科書 pp.151-188) *確認テストを実施	事前学習	第 5 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 7 回	生徒指導・安全指導② (教科書 pp.151-188) *確認テストを実施	事前学習	第 6 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 8 回	生徒指導・安全指導③ (教科書 pp.151-188) *確認テストを実施	事前学習	第 7 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 9 回	生徒指導・安全指導④ (教科書 pp.151-188)	事前学習	第 8 回時に指定された範囲の予習しておくこと

	* 確認テストを実施	事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 10 回	教育心理① (教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 9 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 11 回	教育心理② (教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 10 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 12 回	教育心理③ (教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 11 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 13 回	教育心理④ (教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 12 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 14 回	現代の教育① (教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 13 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 15 回	最新過去問テスト (教職教養分野)	事前学習	春期に学習した各分野の内容を復習しテストに備えること
		事後学習	過去問テストの結果を振り返り改善点を明らかにすること
第 16 回	現代の教育② (教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 15 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 17 回	現代の教育③ (教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 16 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 18 回	西洋教育史① (教科書 pp.241-264) * 確認テストを実施	事前学習	第 17 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 19 回	西洋教育史② (教科書 pp.241-264) * 確認テストを実施	事前学習	第 18 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 20 回	日本教育史① (教科書 pp.265-292) * 確認テストを実施	事前学習	第 19 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 21 回	日本教育史② (教科書 pp.265-292) * 確認テストを実施	事前学習	第 20 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 22 回	人権尊重の教育① (教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 21 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 23 回	人権尊重の教育② (教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 22 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 24 回	人権尊重の教育③ (教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 23 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 25 回	教育課程と教授・学習① (教科書 pp.327-334) * 確認テストを実施	事前学習	第 24 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 26 回	教育課程と教授・学習② (教科書 pp.327-334) * 確認テストを実施	事前学習	第 25 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 27 回	学習指導要領① (教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 26 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 28 回	学習指導要領② (教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 27 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 29 回	学習指導要領③ (教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 28 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 30 回	習熟度確認問題演習/秋期のまとめ/ 授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること
		事後学習	習熟度確認問題演習及びレポート課題を通じて自己の成果と課題を確認すること

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (保育士 A コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD2305 JECD2305 JNCD1305
2. 授業担当教員	チームティーチング	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	本科目では、学生が保育の専門職の中で自分に適した職種を発見し、それに必要な知識及び技術を主体的に深めていくことを目的とする。現場で働く先輩や外部講師の講義、あるいは今まで学んだ知識を総合して、子どもを取り巻く現代社会の様々な問題を理解し、保育者としての多様な活動の場について広く深く理解する。そこから自分の適性と自分自身の課題を見極め、保育の基礎知識を再確認し、実践との結び付ける力を獲得できるようにする。		
8. 学習目標	1. 保育の専門職の中で自分の職業適性を知ることができる。 2. 自分にとって必要な課題を発見することができる。 3. 自分のキャリア形成に必要な課題を解決する力を習得する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	・3 年次春学期 (短期大学部は 2 年次春期) までの学習を振り返り、4 年次/3 年次の就職に向けて自己課題は何かを明確にし、レポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『保育士・幼稚園教諭 論作文・面接対策ブック 2016 年度版』実務教育出版。		
11. 成績評価の方法	・授業態度 30% ・授業中に行われる小テスト、レポート課題など 70%		
12. 受講生へのメッセージ	保育士になるためには、幅広い知識や技術、そして豊かな人間性や教養が求められる。この授業では、専門科目に関する知識の習得を中心に行うが、それらの力を確実に身につけていくためには、授業での復習を兼ねて自主学習の時間を設定し、根気よく学習を積み重ねていくことが必要である。要点を繰り返し暗記することによる学習の継続が皆さんの力になるよう頑張ってもらいたい。		
13. オフィスアワー	チームティーチングであるため、各担当科目の教員のオフィスアワーを参照のこと。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業の内容、望ましい学習態度について 保育士、幼稚園教諭の就職について 「教育原理」	事前学習	自身の進路について考えをまとめる。
		事後学習	教育の基本となる法律について、知識を習得する。
第 2 回	現場の求める保育者について (外部講師)	事前学習	現場の求める保育者について自身の考えをまとめる。
		事後学習	現場の求める保育者像を鑑み、自身の学習課題を見いだす。
第 3 回	「音楽」	事前学習	今まで学習した「音楽」の授業内容から、重要な点をまとめる。
		事後学習	就職試験のなかで、筆記試験として出題される音楽の内容を復習する。
第 4 回	「幼児体育」	事前学習	今まで学習した「幼児体育」の授業内容から、重要な点をまとめる。
		事後学習	就職試験に向けて、幼児体育の領域のなかで苦手な分野の練習を積み重ねていくための計画をする。
第 5 回	「図画工作」	事前学習	今まで学習した「図画工作」の授業内容から、重要な点をまとめる。
		事後学習	就職試験に向けて、図画工作の領域のなかで苦手な分野の練習を積み重ねていくための計画をする。
第 6 回	「保育内容」、「保育実習」	事前学習	5 領域について、これまでの授業内容を復習する。
		事後学習	自分の苦手な領域や技術を明らかにし、補強するための計画をたてる。
第 7 回	「発達心理」、「教育心理」	事前学習	3 年次春学期までに学習した心理学関係の授業のノートを見直す。
		事後学習	「発達心理」「教育心理」それぞれの重要な点をまとめる。
第 8 回	目指す保育者像：ディスカッション	事前学習	自らの目指す保育者像をイメージする。
		事後学習	自らの進路や将来像を想像し、必要な力は何かを考える。
第 9 回	「社会福祉」、「児童福祉」	事前学習	福祉の定義を復習する。
		事後学習	「社会福祉」と「児童福祉」の科目内容から重要な点をまとめる。本日の授業を振り返り、保育技術面での必要な能力を磨くための今後の具体的計画を立てる。
第 10 回	「子どもの保健」 「子どもの食と栄養」	事前学習	大学で今まで学習した「子どもの保健」と「子どもの食と栄養」の教科書のなかで、重要な箇所をピックアップして読み、理解する。
		事後学習	本日の授業を復習し、実習現場を思い出して理論と実践の統合をはかる。
第 11 回	「保育原理」	事前学習	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」の第 1 章を読み、復習する。
		事後学習	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」のなかで重視している点をまとめる。
第 12 回	保育における論述・面接応答	事前学習	自分の関心のある保育テーマを考える。
		事後学習	自分の保育テーマを拓げ、自分の言葉で説明できるようにする。
第 13 回	群馬県保育協議会 保育士採用統一試験 過去問題の演習	事前学習	第 1 回目から行った授業内容を復習する。「保育所保育指針」の各章のなかで学習不足な箇所を読み、理解する。
		事後学習	本で行った群馬県統一試験の過去問を再度解答し、復習する。
第 14 回	群馬県私立幼稚園協会 採用統一試験 過去問題の演習	事前学習	「幼稚園教育要領」の各章のなかで学習不足な箇所を読み、理解する。
		事後学習	本で行った群馬県統一試験の過去問を再度解答し、復習する。
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書 (問題集) を見直し、苦手な分野を明確にし、今後の学習計画を立てる。
		事後学習	4 年次の就職試験に向けて自身の学習計画を立てる。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (保育士 B コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD2305 JECD2305 JNCD1305
2. 授業担当教員	チームティーチング		5. 開講学期
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、これまでの専門科目の学習成果の統合を図り、社会的、制度的に公的役割を担う施設における保育専門職(保育士、保育教諭、幼稚園教諭を含む)の使命、規律、態度等を習得する。保育者として必要な専門知識を復習するとともに、幅広い内容の教養知識を確認し、専門職としての自覚をもつ。この授業で様々な知識を総合的に学び、適性を自覚し、保育全体を俯瞰した後、「キャリア開発演習Ⅱ」において、応用力、文章表現力、具体的問題への対応力、行動力の向上を目指す。		
8. 学習目標	1. 保育者として必要とされる基礎知識、専門知識を整理し、採用試験に役立てることができる。 2. 応用問題に対応する力を身につけることができる。 3. 自分自身のキャリア形成に必要な課題を発見することができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 授業時の予習復習 2. 自分が受験したいと考える自治体の保育士採用試験についてレポートを作成し発表する。 例) 自治体名、その自治体の特色、なぜその自治体を受験したいか、採用試験の内容、倍率、その他 3. 授業中に行われる過去問題試験の結果から自己課題を分析し、レポートにまとめる(2回)。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2017 年度版』実務教育出版。 【参考書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭論文・面接対策ブック 2017 年度版』実務教育出版。 保育士採用試験情報研究会『スイスイわかる保育士採用試験』一ツ橋書店。		
11. 成績評価の方法	1. 日常の授業態度(参加、実践、態度) 40% 2. レポート課題 3回 60%		
12. 受講生へのメッセージ	保育者は人生で最も成長が著しい乳幼児期の子ども達を支えるやりがいのある仕事である。日々の学習を着実に積み重ねて自分の理想とする保育者になってほしい。そして自分の希望する職場への就職に結びつくように、目標を持って励んでほしい。そのためには毎日の予習復習等の自主学習が欠かせないことも理解すること。		
13. オフィスアワー	チームティーチングのため、各担当科目の教員のオフィスアワーを参照のこと。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、公務員保育士について 公務員保育士模擬試験過去問題演習① (教養試験)	事前学習	自身の進路について考えをまとめてくる。
		事後学習	本日行った模擬試験過去問題について復習し、公務員保育士採用試験について自己課題を考える。
第 2 回	現場の求める保育者について(外部講師)	事前学習	現場の求める保育者について自身の考えをまとめてくる。
		事後学習	現場の求める保育者像を鑑み、自身の学習課題を見出す。
第 3 回	「適性検査」	事前学習	公務員採用試験で行われる適性検査について調べる。
		事後学習	「適性検査」の問題を復習する。
第 4 回	公務員保育士採用試験について(学生発表)	事前学習	公務員保育士採用試験についての発表の準備をする。
		事後学習	学生発表を聞き自身が受験する自治体について考える。
第 5 回	教養科目「数的推理・判断推理・資料解釈」	事前学習	教科書 pp.144~194 を学習してくる。
		事後学習	教養試験で出題される問題を含めて「数的推理・判断推理・資料解釈」の内容を復習する。
第 6 回	教養科目「社会・人文・芸術・文章理解」	事前学習	教科書 pp.18~74 を学習してくる。
		事後学習	教養試験で出題される問題を含めて「社会・人文系」の内容を復習する。
第 7 回	教養科目「自然科学系」	事前学習	教科書 pp.75~109 を学習してくる。
		事後学習	教養試験で出題される問題を含めて「自然科学系」の内容を復習する。
第 8 回	公務員保育士模擬試験過去問題演習② (教養試験)	事前学習	今までの教養科目の授業内容を復習し学習不足な箇所を再度学習する。
		事後学習	模擬試験過去問題を復習し、自己課題をレポートにまとめる。
第 9 回	専門科目「社会福祉・児童家庭福祉」	事前学習	教科書 pp.198~234 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「社会福祉・児童家庭福祉」の内容を復習する。
第 10 回	専門科目「保育の心理学」	事前学習	教科書 pp.248~275 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「保育の心理学」の内容を復習する。
第 11 回	専門科目「保育原理」「保育内容」	事前学習	教科書 pp.278~326 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「保育原理・保育内容」の内容を復習する。
第 12 回	専門科目「子どもの保健」	事前学習	教科書 pp.328~374 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「子どもの保健」の内容を復習する。
第 13 回	公務員保育士模擬試験過去問題演習③ (専門試験)	事前学習	今までの専門科目の学習内容を復習し学習不足な箇所を再度学習する。
		事後学習	模擬試験過去問題を復習し自己課題をレポートにまとめる。
第 14 回	群馬県私立幼稚園協会 採用統一試験 過去問題演習	事前学習	「幼稚園教育要領」の各章の中で学習不足な箇所を読み、理解する。
		事後学習	本日行った群馬県私立幼稚園協会採用統一試験過去問題を復習する。
第 15 回	先輩からの話とディスカッション、まとめ	事前学習	教科書を見直し、苦手な分野を明確にして今後の学習計画を立てる。
		事後学習	公務員試験に合格した先輩の話から、自身の学習計画を再検討する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD3310
2. 授業担当教員	成田 成		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、就職試験や資格試験のためだけでなく、有能な社会人として必要な「教養」を身に付けるための一環として、効果的な勉強法を資料や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導なども行い、現場で役立つ実践的な能力を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤上記の①～④を兼ね備えた、有能な社会人として活躍できる総合的な教養力や実践力を身に付けられる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：最終日の授業時間には、「有能な社会人となるためにはどうすべきか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】教科書は使用しないが、市販の本よりも分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。</p> <p>【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものをお薦めである。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題：60 点、授業態度 (提出課題、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業を通じて、有能な社会人として活躍できる教養力を養っていただきたい。また、現場で起こり得る問題点については、それを発見して解決できる能力を身に付けてほしい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 号室</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	有能な社会人とは、どんな人のことを言うのかについて考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第 2 回	適性問題、就職活動をするための事前の準備	事前学習	どこに就職したいのかを考えておく。
		事後学習	就職先に応じた事前の準備を行う。
第 3 回	適性問題、小論文問題、自己 PR の仕方	事前学習	小論文や自己 PR の原案を考えてくる。
		事後学習	ワークシートに記載した内容を再確認して練り直す。
第 4 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 5 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 6 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 7 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 8 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 9 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 10 回	適性問題、面接の受け方	事前学習	面接の受け方について練習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 11 回	模擬面接、合格点がもらえる小論文	事前学習	小論文の書き方について予習してくる。
		事後学習	合格点がもらえる小論文のポイントについて復習する。
第 12 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 13 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 14 回	模擬面接、時事問題	事前学習	時事問題として取り上げられそうなテーマを考えてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 15 回	レポート (有能な社会人となるためにはどうすべきか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD3308 JECD3308								
2. 授業担当教員	チームティーチング										
4. 授業形態	講義・課題演習 (論作文作成・模擬面接など)	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ、Ⅱ」および「キャリア開発演習Ⅰ」を履修していることが望ましい。										
7. 講義概要	<p>本講義では、1 年次の「キャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)」、2 年次の「キャリア基礎演習Ⅱ (専門演習)」および 3 年次の「キャリア開発演習Ⅰ (教職教養)」で培われてきた各分野・領域における基礎学力を基盤とし、教員採用試験対策における最終的な総まとめとしての段階と位置づけ、より実践的かつ実務的な講義・演習を中心とした講座を展開する。</p> <p>各回の授業においては、各自治体ごとの小論文および面接試験の傾向を踏まえながら、過去に出題された課題をもとにした個人および集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導などを行う。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自治体による二次試験の出題傾向を自ら調べ対策をたてることができる。</li> <li>2. 個人および集団面接・集団討論形式の試験において、過去に出題されたテーマに対して積極的に自らの意見を述べることができ、教員になるための資質の向上を目指す。</li> <li>3. 模擬授業において、これまで各教科の指導法で学んできたことをもとに全体を見通した授業の一部を展開することができる。</li> </ol>										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論作文などの課題提出</li> <li>2. 各回における積極的な発言、態度を評価</li> </ol>										
10. 教科書・参考書・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業の際に適宜配布</li> <li>・「教職教養」「全科」「一般教職」の各教科書やその他、自らが学習しやすい参考書を用意</li> </ul>										
11. 成績評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">・・・40%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td style="text-align: right;">・・・40%</td> </tr> <tr> <td>まとめのレポート</td> <td style="text-align: right;">・・・20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">100%</td> </tr> </table>			各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出	・・・40%	授業態度	・・・40%	まとめのレポート	・・・20%		100%
各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出	・・・40%										
授業態度	・・・40%										
まとめのレポート	・・・20%										
	100%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業においては、教員採用試験合格を目指して、二次試験合格に向けての実践力を身につけることを目的としている。目的の達成のためには、受講生は以下の事項について守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。</li> <li>2. 個人および集団面接の際、予想される質問に対して端的に答えられるように十分な準備をして臨むこと。</li> <li>3. 集団面接および討論の際、積極的・意欲的に議論に参加すること。</li> <li>4. 授業中における私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁。</li> <li>5. 本授業の経験を契機として、教員採用試験合格を目指す友人と協力して集団面接、討論および模擬授業に対する個々のさらなるレベルアップを図ること。面接試験対策においては、対応力が問われるため本番の面接を想定した練習を重ねることが重要である。</li> </ol>										
13. オフィスアワー	・各担当教員のオフィスアワーを参照										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションおよび論文の書き方について (講義)</li> <li>*各自治体の採用試験の傾向および 1~3 年生までのキャリア教育・教員対策講座の振り返りをし、現時点で自分が補わなければならない部分を再確認することができる。(教職課程支援室にも依頼)</li> </ul>	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。改めて自分が受験する自治体の動向を確認する。								
		事後学習	本講義の基本的な流れを理解し、受験する各自治体の願書・資料の入手・収集に努める。								
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文指導と実際 (講義・演習)</li> <li>*前時で課題として出した論文の執筆。課題 1 (教職課程支援室にも依頼)</li> </ul>	事前学習	論文を書く際に必要となる注意事項を知り、次時の課題を確認しアウトラインを練る。								
		事後学習	書いた論文について自己評価を行う								
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教師や臨時教員に求められる必要な教育法規 (講義)</li> <li>*今年度着任者、臨時教員を希望する者および来年度教員を目指す者全てにおいて重要かつ必要な教育法規の見直しをし、再認識を行うとともにしかるべき将来に備える。</li> </ul>	事前学習	教育現場で求められる教師像を簡潔にまとめておく。								
		事後学習	今年度着任希望者、臨時教員を希望する者および来年度教員を目指す者全てにおいて重要かつ必要な教育法規を再確認する。								
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接練習オリエンテーション (講義)</li> <li>*各受験自治体別にグループ分け (教職課程支援室にも依頼)</li> </ul>	事前学習	自分が受験する自治体の面接内容における最新の動向を調べる。								
		事後学習	各自でピックアップした設問を個々に練習する。								
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人 (集団) 面接練習① (演習)</li> <li>*最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともにその振り返りをする。</li> </ul>	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。								
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理する。								
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人 (集団) 面接練習② (演習)</li> <li>*最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと</li> </ul>	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。								
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ								

	もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。		ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 7 回	・個人（集団）面接練習③（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	具体的な場面指導を想定し、実演ができるよう構想 を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 8 回	・集団討論練習①（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	具体的な場面指導を想定し、実演ができるよう構想 を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 9 回	・集団討論練習②（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	教育現場で自分はどのように貢献できるか具体的に 述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 10 回	・場面指導①（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	教育現場で自分はどのように貢献できるか具体的に 述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 11 回	・模擬テスト① 一般教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬 テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼）	事前学習	事前に一般教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 12 回	・模擬テスト② 教職教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬 テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼）	事前学習	事前に教職教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 13 回	・直前対策 模擬テスト③ 専門教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬 テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼）	事前学習	事前に専門教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 14 回	・直前対策 模擬テスト④ 総合編 （教職課程支援室にも依頼）	事前学習	事前に教職教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 15 回	・評価とまとめ（講義およびまとめのレポート） *本講座における目的や目標が達成できたか総 合的評価を行う。	事前学習	これまでの授業の流れを振り返り、意義のあった部 分および問題点を整理しておく。
		事後学習	本授業における意義を再確認し、今後に向けての自 分の進むべき方向性を改めて明確にし、決意を新た にする。
*本講義は第 14 回までの授業を 7 月中旬までに集中講義等を実施し終了する。			

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (保育士 A コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD3306
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	演習、ディスカッション、実技	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座では、キャリア開発演習Ⅰ(保育士コース)で学習した内容を踏まえて、保育の専門職としての基礎知識の定着を図り、保育現場で活用できる力を養成する。主として文章表現・レポート作成、面談、実技を中心に進める。また、外部講師により現場に求められる保育者像や現場で当面する課題に関する留意点等をご講話いただく。さらに、多くの保育関連諸施設での課題についての理解も深めるため、現場の具体的問題事例の解決の仕方など、これまでの知識を整理するとともに、課題を見出し解決する方法を考える。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育職として働く意義ややりがい等を確認し、それを他者に明瞭に表現することができる。</li> <li>2. 保育職としての自らの教育理念・保育理念を形成し、社会的ニーズに対応できる。</li> <li>3. 保育従事者としての心得と常識とを備えることができる。</li> <li>4. 現代の社会状況と保育を取り巻く環境を理解した上で、将来の展望を描ける。</li> </ol>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業時の予習・復習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 業者の保育士就職模擬試験を行うので、「保育士試験問題集」「群馬県保育士適性検査」「群馬県私立幼稚園適性検査」などを事前に復習しておくこと。</li> <li>2) 実施した模擬試験問題を中心に授業を進めるので、できなかったところを見直しておくこと。</li> </ol> </li> <li>2. レポート <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育実践の場と大学での学びを総合してこれからの保育者に求められることを考察する(800字程度)。</li> </ol> </li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭 論作文・面接対策ブック 2017 年度版』実務教育出版。</p> <p>【参考書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭 採用試験問題集 2017 年度版』実務教育出版。</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。</p> <p>その他、授業で紹介する</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常の授業時の評価(参加、実践、態度)を総合して 80%</li> <li>2. まとめのレポート 20%</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>広い視野で命について考えてください。一人ひとりの命の大切さ。生きることの意味。現代社会の子どものとりまくさまざまな問題。そのような環境の中で、子どもの育ちに何が重要なのか、保育者は何ができるのか、どう向き合っていけばよいのか。「人間の尊厳」を支える専門家養成としての本学の建学の精神を念頭に置いて、学生と教員と一緒に学び、成長していきたいと思っています。</p> <p>なお実務教育出版による『保育士就職模擬試験(教養・専門)』1,500 円、『保育士就職模擬試験(作文)』1,200 円を実施します。全国での順位や希望地域での合格可能性がわかります。</p>		
13. オフィスアワー	各教員のオフィスアワーは、別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、採用試験について、就職支援室からのアドバイス、履歴書の書き方、質疑応答	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』のガイダンス編を読んでくる。
		事後学習	自分の就職先について考える。
第 2 回	実技試験対策「パペットセラピー」①外部講師	事前学習	自分の就職先について考える。
		事後学習	学習したことを振り返る。
第 3 回	実技試験対策「パペットセラピー」②外部講師	事前学習	自分の就職先について考える。
		事後学習	学習したことを振り返る。
第 4 回	採用試験の準備、適性検査の練習	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』を学習してくる。
		事後学習	できなかった問題をやり直す。
第 5 回	作文の書き方 (作文の練習→回収→各教員による添削)	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』作文対策編を読んでくる。
		事後学習	書けなかったところを見直す
第 6 回	保育士試験模擬試験(実務教育出版) (作文 800 字 60 分)	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』作文対策編を復習しておく。
		事後学習	書けなかったところを見直す。
第 7 回	作文(第 5 回に書いたもの)の返却、講評	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』作文対策編を復習しておく。
		事後学習	書けなかったところを見直す。
第 8 回	専門試験対策①「保育原理・保育内容」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』を復習しておく。
		事後学習	出来なかった問題をやり直す。
第 9 回	専門試験対策②「児童福祉」「社会福祉」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』を復習しておく。
		事後学習	出来なかった問題をやり直す。
第 10 回	専門試験対策③「発達心理」「保健衛生」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』を復習しておく。
		事後学習	出来なかった問題をやり直す。
第 11 回	実技試験対策①「音楽」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』実技試験編を読んでくる。
		事後学習	学習したことを振り返る。
第 12 回	実技試験対策②「読み聞かせ」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』実技試験編を読んでくる。
		事後学習	学習したことを振り返る。
第 13 回	面接試験対策(心構え)	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』面接対策編を読んでくる。
		事後学習	学習したことを振り返る。
第 14 回	模擬面接	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』面接対策編を復習しておく。
		事後学習	学習したことを振り返る。
第 15 回	まとめ	事前学習	この科目で学習したことを振り返る。
		事後学習	就職試験合格に向かう。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (保育士 B コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD3306
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、3 年次に「キャリア開発演習Ⅰ (保育 B コース)」での学習の連続として、専門的知識、技能の実践への応用力を図り、学生個々が自ら学び続ける保育者を目指して主体的に専門的実力を深化する方法を考える。また、外部講師により、現場に求められる保育者像や、現在当面している保育の課題や留意点などを話しいただく。現状を踏まえて各自が自己分析をし、これまでの知識を整理するとともに、課題を見出し解決の方法を考える。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育職を志す意義ややりがいを確認し、それを他者に明確に表現することができる。</li> <li>2. 保育者としての教育理念・保育理念を形成し、社会的ニーズに対応できる。</li> <li>3. 保育者としての心得と常識を備えることができる。</li> <li>4. 現代社会の状況と保育を取り巻く環境を理解した上で、将来の展望が描ける。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業時の予習復習</li> <li>2. 最近の保育問題に関する新聞記事を読みレポートにまとめる。</li> <li>3. この科目で学習したことを振り返って、どのような保育者になりたいかをまとめる。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭論文作文・面接対策ブック 2017 年度版』実務教育出版。 <b>【参考書】</b> 保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2017 年度版』実務教育出版。 保育士採用試験情報研究会『すいすいわかる保育士採用試験』一ツ橋書店。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常の授業態度 (参加、実践、態度) 50%</li> <li>2. 授業後の提出物、レポート課題など 50%</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	自分の希望する職場への就職に結び付けられるように、目標を持って日々の学習に励んでほしい。実務教育出版による「保育士就職模擬試験 (教養・専門)」1,500 円、「保育士就職模擬試験 (作文)」1,200 円を実施する。この模擬試験によって全国での順位や希望地域での合格の可能性がわかる程度わかる。		
13. オフィスアワー	チームティーチングのため、各担当科目の教員のオフィスアワーを参照のこと。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、就職支援室からのアドバイス	事前学習	「保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2015 年度版」pp.414～572 を読んで、公務員保育士採用試験の実施状況と合格するための勉強方法について確認する。
		事後学習	公務員採用試験の学習計画を立てる。保育問題に関する新聞記事を探してくる。
第 2 回	実技試験対策「パペットセラピー」① (外部講師)	事前学習	実技試験で求められることを考える。
		事後学習	本日学習した実技を復習し、宿題を行う。
第 3 回	実技試験対策「パペットセラピー」② (外部講師)	事前学習	前回学習したことを振り返り、発表の準備をする。
		事後学習	本日学習した実技を復習する。
第 4 回	論文の書き方 (自分で探してきた新聞記事をもとに論文を作成する)	事前学習	教科書 pp.28～102 を読んでくる。
		事後学習	論文の書き方を復習し、もう一度書いてみる。
第 5 回	保育士就職模擬試験 (教養)	事前学習	保育士就職試験で出題される教養試験の問題について総復習する。
		事後学習	本日の模擬試験で出来なかったところをやり直す。
第 6 回	保育士就職模擬試験 (専門)	事前学習	保育士就職試験で出題される専門試験の問題について総復習する。
		事後学習	本日の模擬試験で出来なかったところをやり直す。
第 7 回	保育士就職模擬試験 (作文)	事前学習	論文の書き方について復習してくる。
		事後学習	うまく書けなかったところをもう一度書き直してみる。
第 8 回	教養科目のまとめ 「数的推理・判断推理・資料解釈」	事前学習	「数的推理・判断推理・資料解釈」で自分が苦手と思われる問題を確認する。
		事後学習	「数的推理・判断推理・資料解釈」で自分が苦手と思われる問題を再度復習する。
第 9 回	教養科目のまとめ 「社会科学・人文科学」	事前学習	「社会科学・人文科学」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「社会科学・人文科学」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 10 回	専門科目のまとめ 「保育の心理学」「子どもの保健」	事前学習	「保育の心理学」「子どもの保健」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「保育の心理学」「子どもの保健」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 11 回	専門科目のまとめ 「社会福祉・児童家庭福祉」	事前学習	「社会福祉・児童家庭福祉」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「社会福祉・児童家庭福祉」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 12 回	専門科目のまとめ 「保育原理・保育内容・教育原理」	事前学習	「保育原理・保育内容・教育原理」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「保育原理・保育内容・教育原理」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 13 回	実技試験対策「読み書かせ等」	事前学習	実技試験対策で求められることを確認する。
		事後学習	本日の実技で学習したことを振り返って、もう一度自分で試してみる。
第 14 回	面接試験対策 (外部講師)	事前学習	教科書 pp.104～130 を読み、面接試験で何が求められるかを調べてくる。
		事後学習	本日学習したことを振り返り、面接試験に備える。
第 15 回	面接試験対策、まとめ	事前学習	教科書 pp.124～168 を読み、面接や論文で問われる重要事項を確認する。
		事後学習	この科目で学習したことを振り返り、採用試験に備える。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習Ⅰ (2 単位)	3. 科目番号	JCCD1303 JECD1303
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	キャリア基礎演習Ⅱ、キャリア開発演習Ⅰへとつながるキャリア関連学習の基礎となる科目である		
7. 講義概要	<p>教員になるためには「一般教養」をはじめ、校種・教科別の「専門教養」、あるいは教職に関する基礎的な教養としての「教職教養」等の知識を確実に身につけることが求められる。本学の教員採用試験対策は、1 年次 (秋期) のキャリア基礎演習Ⅰ (「一般教養」対策)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (「専門教養」対策)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (「教職教養」対策) という一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習Ⅰでは、教員になるための第一歩としての幅広い一般教養を身につけるために、各分野の担当教員が指定の教科書 (=テキスト) を使用して高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容を再確認しながら、教員採用試験における「一般教養」の各分野 (人文科学・自然科学・社会科学) の重要ポイントをわかりやすく解説した上で、各回、授業内で問題演習を行うことにより、学習内容の理解のみならず、知識の確実な定着を図ることを目標とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本演習をとおして、高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容に関する自らの未習得部分を確認することができる。</li> <li>2. よりよい教員になるために必要な知識を学ぶ上での基本的な「学習の仕方」「学習計画の立て方」を習得する。</li> <li>3. 自らの未習得あるいは苦手部分を克服するために、本講義で学んだ「学習の仕方」にしたがって基本を見据えた自己学習に取り組むことができる。</li> <li>4. 各系統・各分野の重要ポイントを理解し、問題演習時の応用問題に対しても柔軟に対応できる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各回の問題演習 (=「確認テスト」)</li> <li>2. 次時の学習範囲の予習</li> <li>3. 前時の学習範囲の復習</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】資格試験研究会編『教員採用試験一般教養らくらくマスター 2017 年度版』実務教育出版。 *大学の書籍販売等を通じて、必ず授業開始までに入手しておくこと。</p> <p>【参考書】各回、担当教員が適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>以下の3つの観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況及び授業態度・・・30%</li> <li>・各回の「確認テスト」・・・50%</li> <li>・習熟度確認問題演習・・・20%</li> </ul> <p>*期末試験は実施しない</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教員採用試験合格に向けての第一歩では、基本的な知識習得のための暗記・反復学習が重要となる。本演習においては、その基礎力を身につけることが目標であるため、受講生は以下のことを遵守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①指定の教科書 (=テキスト) を必ず毎回持参すること。</li> <li>②授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。</li> <li>③「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。</li> <li>④遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。</li> <li>⑤わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。</li> <li>⑥学習の際には、その内容を理解するにとどまらず、中学生や高校生にわかりやすく教えるための方法を考え、独自のノートづくりにも取り組むなど、各自が積極的に自己学習を進めること。</li> </ol> <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション *本演習の進め方および予習・復習の仕方、テキスト内容の確認	事前学習	シラバスを熟読し、授業内容を確認しておくこと
		事後学習	テキストの「本書の特長と活用法」「出題傾向と対策」の部分を熟読しておくこと
第2回	人文科学① (国語分野 pp.14-41) *確認テストを実施	事前学習	第1回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第3回	人文科学② (日本史・世界史・地理分野 pp.42-107) *確認テストを実施	事前学習	第2回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第4回	人文科学③ (日本史・世界史・地理分野 pp.42-107) *確認テストを実施	事前学習	第3回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第5回	人文科学④ (日本史・世界史・地理分野 pp.42-107) *確認テストを実施	事前学習	第4回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第6回	自然科学① (数学分野 pp.196-211) *確認テストを実施	事前学習	第5回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわか

			らなかった点などを復習しておくこと
第 7 回	自然科学② (数学分野 pp.196-211) *確認テストを実施	事前学習	第 6 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 8 回	自然科学③ (物理・化学・生物・地学分野 pp.212-260) *確認テストを実施	事前学習	第 7 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 9 回	自然科学④ (物理・化学・生物・地学分野 pp.212-260) *確認テストを実施	事前学習	第 8 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 10 回	自然科学⑤ (物理・化学・生物・地学分野 pp.212-260) *確認テストを実施	事前学習	第 9 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 11 回	社会科学① (政治・経済・社会・労働分野 pp.150-189) *確認テストを実施	事前学習	第 10 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 12 回	社会科学② (政治・経済・社会・労働分野 pp.150-189) *確認テストを実施	事前学習	第 11 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 13 回	人文科学⑤ (倫理・芸術分野 pp.108-129) *確認テストを実施	事前学習	第 12 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 14 回	人文科学⑥ (英語分野 pp.130-140) *確認テストを実施	事前学習	第 13 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 15 回	習熟度確認問題演習／授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること
		事後学習	習熟度確認問題演習の結果を通じて自己の成果と課題を確認すること

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習Ⅱ (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	JCCD2304 JECD2304								
2. 授業担当教員	チームティーチング		5. 開講学期	通年							
4. 授業形態	講義・問題演習	6. 履修条件・他科目との関係									
「キャリア基礎演習Ⅰ (教員コース)」を履修していることが望ましい											
7. 講義概要	<p>教員には、校種別の専門知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身につけることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。</p> <p>本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習ⅡA においては、「専門教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力をつけることを目標とする。</p> <p>各回の演習においては、「専門教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育に関する基礎的な教養を身につけ、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得する。</li> <li>2. 専門教養の各領域の出題を理解したうえで、各自自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。</li> <li>3. 専門教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。</li> <li>4. 専門教養の各領域の過去問練習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集などに取り組み、自己学習できる。</li> </ol>										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各回の確認テスト</li> <li>2. 次時の学習範囲の予習</li> </ol> <p>*事前学習は基本的な予習内容を記載したもので、実際の内容に関しては該当教官からの指示もあるので注意すること。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】小学校各学習指導要領解説書 (各教科・道徳・特別活動・外国語活動) 資格試験研究会編『小学校全科らくらくマスター』実務教育出版、2017 年度版</p> <p>【参考書】各回の演習で担当教員から適宜資料を配布する。</p>										
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>各回の小テスト</td> <td>・・・40%</td> </tr> <tr> <td>授業への積極性</td> <td>・・・40%</td> </tr> <tr> <td>まとめのレポート</td> <td>・・・20%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">100%</td> </tr> </table>			各回の小テスト	・・・40%	授業への積極性	・・・40%	まとめのレポート	・・・20%	100%	
各回の小テスト	・・・40%										
授業への積極性	・・・40%										
まとめのレポート	・・・20%										
100%											
12. 受講生へのメッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の決まりを守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。</li> <li>②自己学習の際には、静粛に取り組むこと。</li> <li>③私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。</li> <li>④本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。</li> </ol> <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合がある。その際にはコーディネーターが事前に告知する。</p>										
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	・オリエンテーション *本演習における特性と今後の展望。教科書の確認。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。								
		事後学習	小学校全科における学習内容を大まかに理解する (各教科等における年間時数表等を参照し把握)。								
第 2 回	国語科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 3 回	国語科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 4 回	国語科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「漢字Ⅰ・Ⅱ」の内容を把握する。								
		事後学習	「漢字Ⅰ・Ⅱ」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 5 回	国語科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「漢字Ⅲ～日本文学史」の内容を把握する。								
		事後学習	「漢字Ⅲ～日本文学史」について、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 6 回	社会科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 7 回	社会科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 8 回	社会科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「地理・歴史」の内容を把握する。								
		事後学習	「地理・歴史」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 9 回	社会科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「公民 (政治・経済等)」の内容を把握する。								
		事後学習	「公民 (政治・経済等)」において、指摘された部分および確認								

			テストの結果等の振り返りをする。
第 10 回	理科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領の前半」の内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 11 回	理科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領の後半」の内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 12 回	理科学習指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「生命・地球分野」の内容を把握する。
		事後学習	「生命・地球分野」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 13 回	理科学習指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「物質・エネルギー分野」の内容を把握する。
		事後学習	「物質・エネルギー分野」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 14 回	音楽科学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 15 回	最新過去問（全科分野）	事前学習	春期に学習した各分野の内容を復習しテストに備える。
		事後学習	過去問テストの結果を振り返り改善点を明らかにする。
第 16 回	図工科指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	「絵画・立体・デザイン・工具・鑑賞等」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 17 回	図工科学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「共通教材および鑑賞教材」の内容を把握する。
		事後学習	「共通教材および鑑賞教材」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 18 回	家庭科学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般および『衣類・食事・住まいの生活』」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般および衣類・食事・住まいの生活」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 19 回	算数科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領前半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 20 回	算数科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領後半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 21 回	算数科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「数量・グラフ領域」の内容を把握する。
		事後学習	「数量・グラフ領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 22 回	算数科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「図形・確率領域」の内容を把握する。
		事後学習	「図形・確率領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 23 回	総合的な学習の時間の学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 24 回	外国語活動の学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領前半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 25 回	外国語活動指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領後半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 26 回	体育科学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 27 回	体育科指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「運動全般・保健領域」の内容を把握する。
		事後学習	「運動全般・保健領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 28 回	道徳学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	学習指導要領における道徳の指導内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領における道徳の指導内容において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 29 回	特別活動学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	学習指導要領における特別活動の指導内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領における特別活動の指導内容において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 30 回	これまで学習した各教科における学習内容や構成に関する習熟度確認問題演習	事前学習	これまで学習した各教科における学習内容や構成を総合的に把握し簡潔にまとめられるようにする。
		事後学習	3 年次に向けて 一キャリア開発演習 I における学習内容（教職教養）一の内容把握と準備

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3407
2. 授業担当教員	荻原 邦昭	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校において編成する教育課程 (カリキュラム) とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である (『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省)。</p> <p>本講義ではまず、学校の教育活動の特色を経験から考え、学校は何をやるべきかを明らかにする。学校は決められた授業時間の中で意図的・計画的に教育活動を展開し、人格の形成と社会に有用な人材育成を行っていることを理解するとともに、機会均等、教育の質の維持のために学習指導要領に定められた内容を各学校の創意に基づいて教育計画を編成・実施・評価していることを学ぶ。</p> <p>教育課程に関する基本的知識を身につけたうえで、現代日本の教育課程について、学習指導要領を通じて学ぶ。学習指導要領の性質、現行版の特徴、改訂の歴史について学習する。</p> <p>最後に、教育評価について学び、学校においてどのように教育課程を編成するかを簡単に考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。</li> <li>2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。</li> <li>3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。</li> <li>4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。</li> <li>5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中間レポート課題：望ましい教育課程の編成・実施・評価について</li> <li>2 期末レポート課題：教育課程をめぐる課題について</li> </ol> <p>※ いずれも A4 版横書き (約 1,000 字～1,200 字程度) レポート形式で記述。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社、平成 20 年 8 月。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成 20 年 10 月。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 文部科学省『中学校学習指導要領解説総則編』ぎょうせい、平成 20 年 9 月。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中間・期末レポート：総合点の 60%</li> <li>2 振り返りシート：総合点の 20%</li> <li>3 発表、討議：総合点の 10%</li> <li>4 日常の授業への出席、参加態度：総合点の 10% <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、早退それぞれ 3 回で欠席 1 回とする。</li> <li>・レポートは期日厳守で提出する。</li> </ul> </li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>学校教育が知・徳・体の調和のとれた子どもたちを育成し、地域社会・家庭から信頼を得るためには、適切で特色ある教育課程の編成が求められている。このため本科目では、教育課程の根拠となる幼稚園教育要領、小学校学習指導要領や教育課程の編成、実施、評価について学び、教育課程の望ましいあり方について考察する。このため、受講生は次の事柄を順守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 緊張感と集中力をもって受講する。</li> <li>2 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。</li> <li>3 欠席、遅刻、早退はしない。</li> <li>4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作は慎む。</li> </ol> <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。</li> <li>2 声の大きさや話し方など受講生の立場に立って講義する。</li> <li>3 討議など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。</li> <li>4 受講者の質問には誠実に対応する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 教育課程とは何か、 今日の教育課題について グループ作り	事前学習	教育課程の意味を考える。
		事後学習	今日の教育課題と教育課程との関連をまとめることができる。
第 2 回	近現代の教育課程の歩み 1 明治期、大正期、昭和前期の教育課程	事前学習	日本の教育課程の歩みを概観する。
		事後学習	明治期、大正期、昭和前期 (国民学校) までの教育課程の歩みについて年表を通して概観し、理解することができる。
第 3 回	近現代の教育課程の歩み 2 経験主義と児童中心主義 新教育運動 コアカリキュラム	事前学習	戦後の教育課程の特色を考える。
		事後学習	戦後まもなく生まれた二つの学習指導要領の特色とその意義を理解し、まとめることができる。
第 4 回	近現代の教育課程の歩み 3 系統性の重視	事前学習	系統性カリキュラムの特色を考える。
		事後学習	経験主義から系統性重視になぜ転換したのかについて理解し、まとめることができる。

第 5 回	近現代の教育課程の歩み 4 教育の現代化 人間性重視への転換	事前学習	現代化、人間性重視転換の背景について考える。
		事後学習	教育の現代化から人間性重視へなぜ転換したのかについて理解し、まとめることができる。
第 6 回	近現代の教育課程の歩み 5 新しい学力観 生きる力と確かな学力	事前学習	現行の学習指導要領の特色について考える。
		事後学習	新学力観や生きる力など現行の学習指導要領の意義と内容について理解し、まとめることができる。
第 7 回	小学校学習指導要領の内容理解 1 総説 教育課程の基準 教育課程の編成及び実施（一般方針）	事前学習	小学校学習指導要領の該当箇所を通読する。
		事後学習	総説から教育課程の編成及び実施までの要点をまとめることができる。
第 8 回	小学校学習指導要領の内容理解 2 教育課程の編成及び実施（授業時数・指導計画の作成） 教育課程実施上の配慮事項 教育課程編成の手順と評価	事前学習	小学校学習指導要領の該当箇所を通読する。
		事後学習	教育課程の編成及び実施、実施上の配慮事項、手順と評価について、その要点をまとめることができる。 中間レポートを提出する。
第 9 回	教育課程をめぐる問題 1 学力をめぐる問題とその向上策	事前学習	学力の低下問題について調べる。
		事後学習	学力低下問題が起こった経緯とこれに対する対応について様々な角度から考えることができる。
第 10 回	教育課程をめぐる問題 2 言語活動の充実とその指導法	事前学習	言語活動の意義について考える。
		事後学習	言語活動充実の基本的考えから発達段階に応じた指導について考えることができる。
第 11 回	現代における教育課程の課題 1 道徳、特別活動 総合的な学習の時間	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑を行い、理解を深めることができる。
第 12 回	現代における教育課程の課題 2 外国語活動 国際理解教育 環境教育	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 13 回	現代における教育課程の課題 3 キャリア教育 特別支援教育 生活科	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 14 回	現代における教育課程の課題 4 メディアリテラシー 食育 人権教育	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 15 回	幼稚園における教育課程 教育課程の編成 編成の基本 編成の実際 教育課程の評価 講義のまとめ	事前学習	幼稚園教育要領を通読する。
		事後学習	幼稚園教育要領の総説、ねらい及び内容、留意事項などを踏まえ、教育課程の編成についての基本的要点を理解し、まとめることができる。 教育課程で学んだことを整理することができる。 期末レポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育原理 (2 単位)		3. 科目番号	JECS1101 JNCS1101
2. 授業担当教員	篠 大輔			
4. 授業形態	講義・演習 (グループ学習)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義は、保育所や幼稚園、学校で教育に関わる職に就くことを希望している人を対象に、「教育」という営みにおけるさまざまな理論・方法を学び、理解する。グループワーク等の演習を通して主体的に「子ども」「教育」について考える。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する基本的な理論・方法について理解する。</li> <li>・教育の専門知識を理解し、自分の「子ども観」、「教育観」を具体的に考えられるようになる。</li> </ul>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート・レスポンスシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。)</li> <li>・期末レポート</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 広岡義之『新しい教育原理 第2版』ミネルヴァ書房、2014。 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省『幼稚園教育要領』</p> <p>【参考書】 林 竹二『教えるということ』国土社。 必要に応じて授業内でプリントを配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題・演習課題 40%、レスポンスシート 30%、受講態度 30%とする。</li> <li>・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。</li> <li>・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。</li> </ul>			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。</li> <li>2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。</li> <li>3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。</li> <li>4. レポートや課題の提出期限を守ってください。</li> <li>5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、人間形成と教育	事前学習	シラバスを読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 2 回	授業の本質と可能性	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 3 回	教えるということ、学ぶということ	事前学習	前授業で配布されたプリントを読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 4 回	さまざまな教育実践における教師の意味と役割① (VTR 視聴、レポート作成)	事前学習	前授業で配布されたプリントを読む。	
		事後学習	レポートが未完成の場合には、完成させる。	
第 5 回	さまざまな教育実践における教師の意味と役割② (レポート内容をもとにしたグループ協議)	事前学習	前授業の演習で自分が書いたレポートを読む。	
		事後学習	グループ協議によって自分の「子ども観」、「教育観」がどのように変容したか考える。	
第 6 回	西洋の教育の制度と思想の歴史	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	グループ協議や他のグループの発表から学んだことを整理する。	
第 7 回	日本の教育と制度と思想の歴史	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 8 回	学習指導要領 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 9 回	教育課程編成の原理	事前学習	前授業で配布されたプリントを読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 10 回	子どもの発達と教育課程	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 11 回	教育課程と教育環境	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 12 回	現代教育の課題	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 13 回	諸外国の教育制度	事前学習	前授業で配布されたプリントを読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 14 回	家庭教育 生涯教育	事前学習	教科書を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で、教育原理について自分が身に付けた力が何かを考えておく。	
		事後学習	授業全体をふり返り、自分の「教育観」を具体的に考える。	

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3405
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	教育相談とは、小学校や中学校・高等学校など教育現場において、児童・生徒のこころの問題を扱うだけでなく、児童・生徒をとりまく保護者やさまざまな環境なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本講義では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う学校での教育相談活動について、児童・生徒理解のために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて、知識を深め考察することを目的とする。		
8. 学習目標	①教育現場の実際の問題を知り教育相談の意義を理解し、説明できる。 ②教育相談の基礎となるカウンセリングについて理解し、対処できるようになる。 ③教育相談 (カウンセリング) を実践するための基本的に視点を身につけ実践できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のワークシートに記述する。 ・レポート課題 教育相談 (カウンセリングを含む) の講義を通して、自分の関心のある課題 (テーマ) を設定し、自分の考えも述べながらレポートを作成する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ・授業内でプリントを配布する。 【参考書】 ・春日井敏之・伊藤美奈子『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011 年。 ・諸富祥彦・富田久枝『保育現場で使えるカウンセリング・テクニック (全 2 巻)』ぎょうせい、2015 年。		
11. 成績評価の方法	成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。 1. 授業態度 (教科書ワークシートの準備・確認テスト・私語・発表) 総合点の 80% 2. レポート 総合点の 20%		
12. 受講生への メッセージ	教育現場では、いじめ、不登校、非行、発達障がい、その他様々な教育上の課題がある。本科目では、教育相談の理論と方法を理解し、教育相談を実践するための基本的な視点を学んでほしい。ロールプレイなど演習を多く行い、援助者と被援助者の思いや願いを感じられるように授業を進める。ディスカッションで受講者同士の考えを交流する機会を設定し、教育相談的援助の対応策を具体的に考えられるような授業を構成していきたい。そのために、受講生の主体的な受講態度を期待している。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 保育・教育における教育相談	事前学習	シラバスを読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 2 回	カウンセリングマインド、受容と指導	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 3 回	子どもの発達と教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 4 回	教育現場における教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 5 回	特別支援教育と教育相談 (3 次的援助サービス)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 6 回	特別支援教育と教育相談 (1 次的援助サービス)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 7 回	特別支援教育と教育相談 (2 次的援助サービス)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 8 回	予防・開発的取り組みと教育相談①	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 9 回	予防・開発的取り組みと教育相談②	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。

		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 10 回	保育者・教師への支援と教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 11 回	保護者への支援と教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 12 回	組織内の相談システムと教育相談（チーム援助）	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 13 回	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 14 回	専門機関との支援ネットワークと教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で、教育相談について自分が理解した内容を整理しておく。
		事後学習	授業全体をふり返り、講義内容の理解を確認し、レポート課題を提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3404
2. 授業担当教員	山本 豊		
4. 授業形態	講義 (質疑応答を含む) を主とするが、事例問題ではグループ討議、全体発表、検討等を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本来は、法学や教育課程論などを履修していることが望ましい。したがって、それらの内容で教育法規に関する個所については、講義中に適宜説明する。		
7. 講義概要	本科目では、まず教育法規を学習する際に必要となる基礎知識を習得する。その上で、学校教育や幼児・児童・生徒、教職員に関する法律上の諸課題について、教育関係法令等に基づきながら授業を行う。また、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関しての具体的な運用を学び、解釈能力を養う。		
8. 学習目標	教員にとって必要な教育法規に関する基礎知識を理解し、法的な知識を用いて学校現場におけるさまざまな問題に対応できることを目標とする。そこに至るために次の3つの到達目標を設定する。 1) 幼稚園教諭・小学校教諭等を目指す学生にとって最低限必要な教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 2) 日本の教育法規の主な特徴および課題について説明することができる。 3) 教育現場におけるさまざまな問題を法的な観点から説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになる。</li> <li>・ シラバスに対応して、「受験に役立つ 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。</li> <li>・ 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。</li> </ul>		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規』学校図書、2015 年。(シラバスでは教科書と表示する) 山本豊著『書いて理解する 教育法規』オフィス・サウス、2014 年。(シラバスではサブノートと表示する) ＊必要に応じて教材・資料等を配布する。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の発表 (事前学習の発表も含む)。態度 総合点の 30%</li> <li>・ 学習カードの記入内容、事前学習の内容 総合点の 30%</li> <li>・ 理解度テスト・事後学習の内容 総合点の 40%</li> </ul> ◎ なお、本学規定により、3/4 以上の出席がない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。 1. 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 2. 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなど予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 3. 自ら進んで発表したり、質問したりし、講義内容の理解に努めること。 4. 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 5. 授業中の着帽、私語、飲食 (ガムを含む) 等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。その他、学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。  教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方対話型の学習環境を目指す。 4. 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 5. 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに来室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので (次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、国の主な法令、地方の主な法規、法令間の矛盾抵触を解決するための諸原理などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで教育法規に興味や関心をもつ。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 2 回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平等、信教の自由、学問の自由などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 3 回	教育基本法—① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、学校教育、教員などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 4 回	教育基本法—② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、教育行政などについて理解する	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点につ

			いて次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第 5 回	学校教育一① 学校教育法 1 条校、学校の設置と管理、組織編制、学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第 6 回	学校教育一② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 7 回	学校教育一③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第 8 回	児童・生徒一① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その 1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 9 回	児童・生徒一② 懲戒・体罰（その 2）、出席停止について理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第 10 回	学校保健・安全・給食一① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。 理解度テスト ③	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 11 回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。  教職員一① 教員、教育公務員の定義	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 12 回	教職員一② 学校に配置される教職員、配置職員と職務教職員の資格などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 13 回	教職員一③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 14 回	教職員一④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。  教育行財政一 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 15 回	その他の教育関連法規一 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ④	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3406 JEEL1406
2. 授業担当教員	池田 芳和		
4. 授業形態	講義、グループ討議を用いる。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	学校の教員を目指す学生にとっては、学校教育の目標・内容・方法を一体的に身に付けておくことが必要である。これまで習得した教育学概論、教育課程論等を基礎に本科目が設定されている。 教育の方法・技術が、人間を離れて存在することは有り得ない。学校における教育活動の中核は授業であり、児童・生徒が主体的に学び、学習内容を確かに身につける授業の実現を目指す。ここでは、授業を中心としての教育方法・技術の特質、教授・学習理論の変遷、児童・生徒の立場に立った授業の構想と学習の考え方、コンピュータの利用、授業と教師等について学習する。		
8. 学習目標	学ぶことの意味を捉え直し、現代の教育の現実的問題に焦点をあてながら、「何をどのように教え・学ばせるのか」という観点から、カリキュラムの構成、教材教具の開発・発展、学習の形態等に注目し、教育方法の意義と技術の理解を深めることができる。 ○教科書の各章の要点整理及び講義内容の整理 ○課題『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』岩崎夏海、ダイヤモンド社。を読んで1000字程度の感想を書く。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・十前・事後学習を確実にを行うよう取り組むこと。 ・「あなたはどのような要素を特に大事にして授業を行うか」について、授業の構成要素のうち三点を選んで、1000字程度でまとめなさい。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。 文部科学省『生徒指導提要』教育図書。		
11. 成績評価の方法	平常点 (ミニレポートの評価を含む) と課題レポート 評価基準: 日常の授業態度 (質問、ミニレポート) 70%、課題レポート30%		
12. 受講生へのメッセージ	これまでの自己の学びを振り返りながら、学びの意味を再認識し、子どもの認識に応じた教育方法を新しい学習指導要領に即して考え、効果的な教育の仕方を身に付けてほしい。		
13. オフィスアワー	授業日の授業以外の時間、随時 (開講時に、詳細は伝達		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	教育方法とは 教育方法の意義と学びとの関係を考え、自己の教育に対する考えを整理する。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	シラバスを読んで、学修の概要を知る。
		事後学習	「学び」について考えを整理する。
第2回	学ぶとはどういうことかを考えるとともに、学びの発達を考える。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	「学びの構造」を読み、感想をまとめる。
		事後学習	ピアジェの「問いと学び」を読み、その関係を考える。
第3回	問いと学びを読んで、学ぶとはどういうことかを考えるとともに、学びの発達を考える。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	「学び」とはどういうものかレポートを書く。
		事後学習	教育課題の種類とその原因を整理する。
第4回	子どもの現状や現代学校教育の課題について知るとともに、改善の方向を考え、国の動向について理解する。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	教育課題解決の方策を考える。
		事後学習	中教審について調べ、理解をする。
第5回	子どもたちの実態から考えられる教育課題解決のために、どうすればよいのか考えるとともに、国はどのような考えで教育を進めようとしているのか学ぶ。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	中教審答申「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」を読み、課題をとらえる
		事後学習	三つの自立についてまとめる
第6回	教育課題解決策について、国ではどのように考えてきていたのか調べる。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	高等学校までの課題を抽出する
		事後学習	中教審答申「学習指導要領の改訂」を整理する
第7回	教育課程基準と教育方法 学校では、多くの課題をもちつつ、どのように教育を進めようとしているのかについて考えを進めましょう。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。
		事後学習	教育内容に関する学校の課題を整理しておく。
第8回	教育課程編成と教育方法…教育課程の編成に当たり、重視しなければならないことを整理し、調べ教育課程の概要を知る。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	1年生で学んだ教育課程を思い出す。
		事後学習	教育課程に関する法規を整理しておく。
第9回	教育課程実施上の配慮事項 (1～6) を読んで、必要なことをまとめる。少人数グループで配慮事項を分担しまとめ、グループ内で発表するとともに、少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。
		事後学習	グループで討議したことを整理しておく。
第10回	教育課程実施上の配慮事項 (7～12) を読んで、必要なことをまとめる。少人数グループで配慮事項を分担しまとめ、グループ内で発表するとともに、少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。特に、新しい教育を推進するための情報教育について、ネット社会の功罪について学ばせ、話し合いを深める。	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。
		事後学習	グループで討議したことを整理しておく。

第 1 1 回	指導計画作成の配慮事項を整理するとともに、よい授業を行うために、研修の重要性を知る。教員研修センター作成の DVD を視聴し、少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。
		事後学習	DVD の内容を整理し、レポートにまとめる。
第 1 2 回	よい授業を行うために、授業の構成要素について考える。グループで構成要素を考えさせ、学生の意見が、文部省作成の「教育方法の基礎」の一部と共通することで自信を持たせ、資料を元に探究させる。	事前学習	レポートを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業の構成要素の整理を行う。
第 1 3 回	授業の構成要素、それぞれの授業に果たす効果について調べ、話し合う。特に情報機器の活用、コンピュータ、電子黒板、デジタル教科書等の活用上の配慮事項について機器を操作しつつ、授業の効率を話し合う。	事前学習	授業の P D C A について調べておく。また、情報機器の使い方について調べる。
		事後学習	啫琢同時などの用語を整理しておく。
第 1 4 回	私の授業構成論 『あなたはどのような要素を大事にして教育を行うか』について話し合う。	事前学習	授業を構成する要素で大事にしたいことを選択しておく。
		事後学習	グループで話し合ったことを整理しておく。
第 1 5 回	私の授業論 授業の構成要素について、自分なりの考えをまとめ、レポートしたことを書画カメラを使って発表する。	事前学習	要素を三つ選択してレポートにまとめる。
		事後学習	教育方法論で得た学びを整理する。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (小学校) (2 単位)		3. 科目番号	JCEL3410
2. 授業担当教員	國府田 祐子			
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを期待して実施される科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>① 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>② 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>③ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。</p> <p>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たった指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>授業の理解度、実践力を確認するために、以下を提出する。</p> <p>1 授業内容に沿った、実践に結びつくレポート作成・提出</p> <p>2 事例・資料の読み取りと感想、意見の提出</p> <p>3 児童理解、実態に基づいた指導案の作成・提出</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】特に指定しない。 「教育実習日誌」「教職履修カルテ」を持参する。</p> <p>【参考書】授業の中で適宜提示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>1 受講態度、参加姿勢 50%</p> <p>2 レポート作成、資料等の読み取り 30%</p> <p>3 児童理解に基づいた実技の提示・授業展開力・計画案との整合性 20%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>指導案作成、教材研究、児童理解を行い、その中で、実践に結びつく支援の工夫、予想する大切さを学びます。感動、探究、追及する心を持ち、子どものために共に感性・技量を磨くことが大切です。</p> <p>以下のことに気をつけて受講して下さい。</p> <p>1 体調を整え、心身ともに集中して受講してください。毎時間、すべての内容が大切です。遅刻・早退2回は欠席1とします。</p> <p>2 疑問点をはっきりさせ、自分なりの感動、感想、注意事項を記録、蓄積し、実践に活かしてください。</p> <p>3 演習が多くあります。指示をメモし、必要なものを持参してください。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション より望ましい教師像	事前学習	教師の良さを考える	
		事後学習	望ましい教師像についてまとめておく	
第2回	授業づくり、学級づくりのステップ	事前学習	学級の良さを考え文にする	
		事後学習	発表準備	
第3回	わかる授業を成立させる条件 実習のふり返り	事前学習	授業の良さを考え文にする	
		事後学習	よい授業とそうでない授業についてまとめておく	
第4回	授業を成立させる条件	事前学習	指導案の良さを考え理由をつける	
		事後学習	発表準備	
第5回	学級を成立させる条件	事前学習	発表に向けて準備を行う	
		事後学習	学級と授業の関係を文にする	
第6回	授業のルール	事前学習	グループ内発表準備	
		事後学習	レポートにまとめる	
第7回	学級のルール	事前学習	まとめと発表準備 全体	
		事後学習	担任と教師集団の関係を文にする	
第8回	指導案と授業	事前学習	ルール作りについて自分の案を立てておく。	
		事後学習	児童理解の必要を文にする	
第9回	模擬授業とその検討 気になる子への対応	事前学習	気になる子への配慮を文にする	
		事後学習	レポートにまとめる	
第10回	模擬授業とその検討 学級経営と学校経営	事前学習	改善策を入れた指導案をつくる	
		事後学習	グループ内発表準備	
第11回	模擬授業とその検討	事前学習	発表に向けて準備を行う。	
		事後学習	学校経営と授業の関係を文にする	
第12回	より良い教師像—ゲストティーチャーから学ぶ	事前学習	まとめとグループ発表準備	
		事後学習	教師の良さを改めて文にする	
第13回	模擬授業とその検討	事前学習	まとめと発表準備 全体	
		事後学習	自分の良さを文にする	
第14回	模擬授業とその検討	事前学習	自分の課題を文にする	
		事後学習	まとめと発表準備 全体	
第15回	総括	事前学習	望ましい実践を文にする	
		事後学習	実践に向け課題をさらにつかむ	

1. 科目名 (単位数)	教師論 (2 単位)	3. 科目番号	JEEL1401
2. 授業担当教員	池田 芳和		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題など変化の激しい今日の社会において、学校教育の場においても様々な課題が生じている。この課題を解決するためには、学校教育の主たる担い手である教員の役割や責任が今まで以上に大きくなっている。これからの教員は、教科に関する知識を単に教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもを育成することが求められている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務(勤務・研修・身分保障などを含む。)は、法律上、どのように規定されているのかなど教職を志す学生があらかじめ教職等について知っておく必要がある事項を考察する。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に関する基礎的な事柄について理解し、教員になる志をはぐくみ当事者意識を強く自覚できるようになる。</li> <li>・教職の意義や教員に求められる資質・能力を具体的に理解し、説明できるようになる。</li> <li>・教員の勤務や職務内容について、事例から理解し、説明できるようになる。</li> </ul>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題、「これからの教師に求められる資質は何か」について800～1000字でまとめなさい。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社、2008。 (文部科学省ホームページから PDF ファイルデータでダウンロード可能) <b>【参考書】</b> 必要に応じて授業内でプリントを配布する。 <b>【教材】</b> 必要に応じて授業内でプリントを配布する。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習課題60%、レスポンスシート20%、受講態度20%とする。</li> <li>・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。</li> <li>・本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。</li> </ul>		
12. 受講生への メッセージ	教師を目指す皆さんにとって、これからどのように生きていけばよいのか、に焦点を当て、グループディスカッションを通して人として・教師としてより良い生き方を探求してほしい。		
13. オフィスアワー	第1回の講義の時に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(シラバスの確認) 過去に接してきた教員の人となり、仕事ぶりを通じて教員はどうあるべきか考える。	事前学習	シラバスを読んで来る。
		事後学習	教員についてのイメージをまとめる。
第2回	様々な教師像 教員のあるべき姿について話し合い、自分たちの考えたことと国等で出されている教師像を比べることによって、求められている姿を確かなものにする。	事前学習	教師像について資料を読んでくる。
		事後学習	どのような資質が求められているのかまとめる。
第3回	教員に求められる資質 教員に求められる資質を知り、教師像に近づくには大学4年間でどうしたらよいか考える。	事前学習	教師の資質に関する答申文を読んでくる。
		事後学習	大学のカリキュラムを見直し、どのように取り組むか考えてくる。
第4回	教員の仕事 自分の知っている教員の仕事の他にどんな仕事があるのか調べ、教員の仕事について深く知ることができる	事前学習	先生の仕事とカリキュラムがどのように結びつか考える。
		事後学習	先生の仕事を分類する。
第5回	学習指導と教師の役割 学習指導について学習指導要領を調べ、教員がどのような努力をしているか把握する。	事前学習	学習指導について、経験した先生の教え方について想起しておく。
		事後学習	学習指導についてまとめる。
第6回	生徒指導と教師の役割 学習指導以外に、生徒指導や教育相談などの仕事を調べ、問題行動など児童に寄り添う指導をしていることを把握する。	事前学習	生徒指導について「生徒指導提要」に目を通してくる。
		事後学習	子供に寄り添うことの意味を考える。
第7回	道徳教育と教師の役割 特別の教科【道徳】について調べ、心の教育の重要性について把握する。	事前学習	道徳教育について総則を読んでくる
		事後学習	道徳教育の役割について、先生の立場から意義を考える。
第8回	学校経営と校務分掌 組織の一員としての教員の仕事について調べ、どのような役割があるのか理解する。	事前学習	学校にはどんな職員がいるのか振り返ってみる。
		事後学習	組織の一員として、どのような働きが大事かまとめる。
第9回	保護者・地域との連携 保護者や地域の人々は、教員に何を求めているのかを知り、信頼される教員について考える。	事前学習	信頼される先生について考えてくる。
		事後学習	子供を安心してあずけることができること

			についてまとめる。
第 10 回	公務員としての教員 公務員としての教員にはどのような法的な権利・義務等があるか調べ、どのように仕事に生かしていくか考える。	事前学習	公務員について憲法を調べてくる。
		事後学習	教員の地位と身分に関することについてまとめる。
第 11 回	教員の仕事と服務 公務員としての教員にはどのような法的な権利・義務等があるか調べ、どのように仕事に生かしていくか考える。	事前学習	地方公務員法を調べてくる。
		事後学習	服務に関してまとめる。
第 12 回	教員の研修 学び続ける教師になるために、どこでどのように学ぶことができるのかについて調べ、理解する。	事前学習	【教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について】の答申を読む。
		事後学習	教員の研修の意義についてまとめる。
第 13 回	教育課題と教員 学校の当面している課題と教員の役割を考える。	事前学習	新聞から教育記事を探してくる。
		事後学習	教育課題にどのように対応すればよいのかまとめる。
第 14 回	教員選考試験の実態 教員採用試験の実態と本学の実績について話し合う。	事前学習	教員免許法に目を通してくる。
		事後学習	採用試験の実態について知り、教員になるための意識を再確認する。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で学んだことをもとに、自分が目指す教師像を考えておく。
		事後学習	授業全体をふり返り、教育者にふさわしい資質能力を高めるために自分に必要なことが何かを考え、レポートをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	JNGL2103
2. 授業担当教員	山内 健次		
4. 授業形態	実技と講義、演習およびディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	本講義では、自らの身体について理解・分析を行い、運動を楽しむことはもちろん、自らの身体を「理解」しながら操作し、運動を「できる」ようにすることを目的としている。さらに、運動の実践だけではなく、自分たちの力で試合や練習を企画、運営する能力を身につけることも目指す。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの身体能力の客観的な分析を行うことができる。</li> <li>・各運動の基本的なルールを理解し、基礎的な運動を行うことができる。</li> <li>・自分たちで試合や練習を企画・運営できる。</li> </ul>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1. 体力テストを実施するにあたって、現在の大学生の体力について調べる (レポート課題) 課題 2. 健康であるために今後どのようなスポーツ、運動を実践していきたいか		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和本館。 <b>【参考書】</b> 上杉尹宏、他『生涯スポーツと運動の科学』市村出版。		
11. 成績評価の方法	課題 1            50% 課題 2            50% 計                    100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 運動できる服装で必ず参加して下さい。 2. 協調性のある態度で授業臨んで下さい。 3. 指輪、ピアス等の装飾品は授業前にとってください。		
13. オフィスアワー	授業内でお知らせいたします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (本講義の意義と授業の展開について) ○本講義の意義と授業の展開についての説明とグループわけの実施	事前学習	本講義内容をシラバスにて把握したうえで授業に臨む。
		事後学習	体育の意義についてまとめる。
第 2 回	体力テスト ○各項目の測定	事前学習	各測定項目について、自分の経験から振り返り、その実施方法について整理しておく。
		事後学習	数値化した項目の分析。
第 3 回	陸上運動系 走・跳の運動	事前学習	走り方・跳び方について、自分の経験から振り返り、良い走り方・跳び方を考えておく。
		事後学習	走り方・跳び方の復習をする。
第 4 回	陸上運動系 投の運動	事前学習	投げ方について、自分の経験から振り返り、良い投げ方を考えておく。
		事後学習	投げる方法の復習をする。
第 5 回	ゴール型球技 ポートボール	事前学習	ポートボールのルールについて予習する。
第 6 回	ゴール型球技 バスケットボール	事後学習	ポートボールの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	バスケットボールのルールについて予習する。
第 7 回	ゴール型球技 サッカー	事後学習	バスケットボールの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	サッカーのルールについて予習する。
第 8 回	ネット型球技 プレールボール	事後学習	サッカーの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	プレールボールのルールについて予習する。
第 9 回	ネット型球技 バレーボール	事後学習	プレールボールの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	バレーボールのルールについて予習する。
第 10 回	ネット型球技 バドミントン	事後学習	バレーボールの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	バドミントンのルールについて予習する。
第 11 回	様々なスポーツの体験 ユニホック	事後学習	バドミントンの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	ユニホックのルールについて予習する。
第 12 回	様々なスポーツの体験 フライングディスク	事後学習	ユニホックの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	フライングディスクのルールについて予習する。
第 13 回	様々なスポーツの体験 インディアカ	事後学習	フライングディスクの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	インディアカのルールについて予習する。
第 14 回	健康に関するトピックスと疑問点の改名 (生活習慣病、ダイエット、トレーニング、食事)	事後学習	インディアカの運動のポイントについて整理する。
		事前学習	健康に関する疑問点を挙げる。
第 15 回	健康に関するグループ発表と振り返り	事後学習	健康に関する疑問点を調べるとともに、発表の準備をする。
		事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	発表の振り返りと今後の課題を抽出する。

1. 科目名 (単位数)	健康科学 (2 単位)		3. 科目番号	JEGL2104 JNGL1104
2. 授業担当教員	栗原 久		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表。身体活動について簡単な実験を行う。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	WHO は健康について、身体的、心理的、社会的に健全であると定義している。この定義を踏まえて、成人病と健康、身体の構造やその機能、運動の生理や心理等についての基礎的な知識を、現代社会との関わりから考え、健康で豊かな生活を送る方法を理解する。さらに、人の健康を阻害する病原体やストレス刺激など各種外部要因を理解し、健康の維持・増進に向けた意識の向上を目標とする。			
8. 学習目標	以下の項目について学び、説明できるようになることを学習目標とします。 1. 人体の構造と生理機能について学ぶ。 2. 生活習慣 (食事、運動、睡眠) の重要性について学ぶ。 3. ストレス刺激とストレス病について学ぶ。 4. 免疫と感染症について学ぶ。 5. 嗜好品・サプリメントの功罪について学ぶ。 6. 生体機能を健康的に維持する方策について、正しい知識を持てるようにする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業開始前に配布するワークシートに授業で学んだ内容をまとめ、終了時に提出する。 2. レポート課題: 「健康を維持するための食事と栄養摂取の意義」について、1,000~1,200字 (A4版、横書き) でまとめる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業時間ごとに資料を配布する。 【参考書】栗原久 (著) 『No No Drugs! 一心と身体と薬物乱用』東京法令出版。 東京福祉大学 (編) 『保育児童福祉要説』中央法規。			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション 人体の生理機能と健康・病気の定義	事前学習	「健康科学」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。	
		事後学習	「健康とはどういうことなのか」ということをまとめる。	
第 2 回	身体活動と食事・栄養摂取	事前学習	事前配布資料をよく読んで、自分の日ごろの食生活について考えておく。	
		事後学習	健康維持・向上に求められる食事 (栄養摂取、食事時間) についてまとめる。	
第 3 回	運動の効能	事前学習	事前配布資料をよく読んで、運動の必要性、自分の運動量について把握しておく。	
		事後学習	運動の身体面・精神面に及ぼす効能についてまとめる。	
第 4 回	睡眠・日周リズムの意義	事前学習	事前配布資料をよく読んで、睡眠・覚醒、生活リズムについて把握しておく。	
		事後学習	睡眠の必要性、睡眠不足の影響をまとめる。	
第 5 回	ストレス刺激とストレス病	事前学習	事前配布資料をよく読んで、ストレスとはどういうことか把握しておく。	
		事後学習	身体面・精神面の活動に及ぼすストレス刺激の影響をまとめる。	
第 6 回	免疫と生体防御機構	事前学習	事前配布資料をよく読んで、病気、特に感染症に罹りやすい状況を考えておく。	
		事後学習	病原体や異物に対する防御機能の機序についてまとめる。	
第 7 回	感染症と対策	事前学習	事前配布資料をよく読んで、病原体 (細菌、ウイルス) について理解しておく。	
		事後学習	感染症発症の 3 要素 (感染源、感染ルート、個人の感受性) をもとに、感染症予防策を考察する。	
第 8 回	課題発表 (2 分間スピーチ)・ディスカッション	事前学習	健康をめぐる 2 分間スピーチの原稿を準備する。	
		事後学習	スピーチした内容を文章化し、期限までに提出する。	
第 9 回	快・不快と意欲	事前学習	事前配布資料をよく読んで、日常生活の中における喜怒哀楽	

			楽の状況を考えておく。
		事後学習	快・不快の発現機序、快適状態を増進するための方策をまとめる。
第 10 回	医薬品の正しい使用法	事前学習	事前配布資料をよく読んで、医薬品とはどういうときに使ったのか、その効果はどうだったのか、自分の経験を書き出しておく。
		事後学習	用量－効果相関から、医薬品の正しい使い方をまとめる。
第 11 回	薬物乱用と対策	事前学習	事前配布資料をよく読んで、薬物乱用とはどういうことか、なぜ乱用は禁止されるのかを考えておく。
		事後学習	人特有の欲求と薬物乱用・依存の発現機序をまとめ、防止策をまとめる。
第 12 回	嗜好品とその功罪	事前学習	事前配布資料をよく読んで、嗜好品としての酒、茶、タバコについて、有効成分を把握しておく。
		事後学習	飲酒、喫茶、喫煙の日常生活の中での功罪についてまとめる。
第 13 回	サプリメントと健康グッズの正しい認識	事前学習	事前配布資料をよく読んで、サプリメントにはどのようなものがあるか把握しておく。
		事後学習	代表的なサプリメントにつき、その効能の真偽についてまとめる。
第 14 回	課題発表・ディスカッションと総括	事前学習	事前に提示された健康をめぐる課題について調べておく。
		事後学習	提示課題について発表し、ディスカッションする。
第 15 回	まとめ	事前学習	「健康に関するレポート」を小冊子にまとめたものを読んでおく。
		事後学習	「健康に関するレポート」をまとめた小冊子の内容について総括する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (2 単位)		3. 科目番号	JCEL2411 JEEL1411
2. 授業担当教員	手計 茂・國府田 祐子			
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク、発表		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	国語科教育の指導目標である言語能力の向上について、幼児・児童の発達段階を踏まえ、学習指導要領や実際の教科書教材、絵本の分析から、実感的に把握する。どのような指導を行えば言語能力を向上させていくことができるのか、具体的な教材を用いることで言語能力を高める。			
8. 学習目標	(1) 国語科教育の歴史や意義を踏まえ、小学校学習指導要領国語科の目標及び内容について理解し、説明できるようになる。 (2) 言葉の機能や教科としての国語の特質を理解し、説明できるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	(1) アサインメント 適宜指示する。 書写用の筆、下敷き、墨汁、半紙を用意しておく。(小・中・高等学校で用いた筆でもよい。講義13回目以降で使用。使用前には連絡する) (2) レポート課題 各授業における「基礎カード」や、その他の課題を毎回提出する。 課題は期日を守って提出する。遅れは減点し、非常識な提出の仕方をした場合や、極端に遅れた場合は受け取らない。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> ① 『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社。 ② 市毛勝雄編『新国語科の重点指導第1巻 論理的思考力の育て方(重点指導項目20)』明治図書。 ③ 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 ④ 文部科学省『幼稚園教育要領』 <b>【参考書】</b> ① 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック 第6版』三省堂。			
11. 成績評価の方法	授業態度 50点 各授業における「評価カード」、提出物、取り組みの積極性など レポート 30点 期末試験 20点			
12. 受講生への メッセージ	保育士も教師も、毎日子どもたちに語りかけます。保育者・教育者の発する言語は、幼児や児童にとって手本そのものです。言語技術の低い保育者と出会った子どもたちは、恵まれない環境に置かれたと言わざるをえません。まず保育者・教育者自身がわかりやすく論理的な話し方ができるようになり、その上で児童や幼児の書く力や読む力、話す力、聞く力、そして情緒力を育てていくのです。 テキストを読むときは音読をし、演習や話し合いをたくさん行ってもらいます。座席は指定です。目の前にいる子どもたちにとって、かけがえのない保育者になるという覚悟をもって、積極的に授業に臨んでください。			
13. オフィスアワー	初回の授業で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 保育・教育の現場で求められる言語	事前学習	自分が受けてきた国語の授業について、経験をまとめておく。	
		事後学習	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と国語科教育の関連についてまとめておく。	
第2回	学習指導要領以前の国語科教育 「詩の言葉と論理の言葉」とは何か	事前学習	自分の意図しなかった伝わり方をした経験や誤解された経験を想起しまとめておく。	
		事後学習	告示以前の国語科教育の歴史について、内容をまとめておく。	
第3回	学習指導要領告示以降の国語科教育 「名づけ」とは何か	事前学習	国語辞典の使い方について、復習しておく。	
		事後学習	告示以降の国語科教育の歴史についてまとめておく。 「名づけ」について、具体例をまとめておく。	
第4回	現行の学習指導要領と国語科教育 「主語と述語」の4つの種類	事前学習	自分が教わってきた国語の授業について、説明文と文学に分けて整理しておく。	
		事後学習	主語と述語の組み合わせの4つを暗記し、例文が作れるようにしておく。	
第5回	帰納的推論とは何か	事前学習	決まった時刻に発車する乗り物に乗りたいとき、自分はどのような準備をするか、想起しておく。	
		事後学習	「小論文の書き方」を全文通読し、疑問点を明らかにしておく。	
第6回	演繹的推論とは何か	事前学習	ヨーロッパ大陸の国々の位置について、おおよその位置を把握しておく。	
		事後学習	2次清書に向けて、「小論文の書き方」の「なか」を詳しく書く技術」を熟読しておく。	
第7回	具体と抽象	事前学習	「詳しく書く」とは何を意味するのか、自分の考えをまとめておく。	
		事後学習	「粗い文章と詳しい文章」について理解を深めておく。	

第 8 回	キーワード・段落・文章構成	事前学習	小学校学習指導要領解説国語編の国語科の目標を読み覚えておく。
		事後学習	「書くこと」について学んだ内容をまとめておく。 リライト教材の効用についてまとめておく。
第 9 回	子どもたちに求められている読解力	事前学習	「PISA型読解力」について調べておく。
		事後学習	文部科学省「全国学力・学習状況調査」について、実施学年や問題の傾向を調べる。
第 10 回	論理的に話す技術・聞く技術 －話す力を伸ばす 5 つの指導項目－	事前学習	話す力を伸ばすための 5 項目について、具体的な場面を想起しておく。
		事後学習	グループワークを振り返り、よかった点・改善点についてまとめておく。
第 11 回	文学的文章を読む －あらすじ・場面とは何か－	事前学習	小学校学習指導要領解説国語編の「C読むこと」を読んでおく。
		事後学習	童話を 1 作品選び、あらすじと場面についてまとめておく。
第 12 回	文学的文章を読む －人物像が変化するとは何か－	事前学習	自らの「読み聞かせ」をした経験や、してもらった経験をまとめておく。
		事後学習	人物像の変容について、テキストを読んで理解を深めておく。
第 13 回	書写の役割と目的	事前学習	小・中学校時代の書写の授業における自らの経験を想起し、まとめておく。
		事後学習	低学年の硬筆の授業について、「国語の特質に関する指導」を読み、概観しておく。
第 14 回	物語と小説の違い	事前学習	自分の好きな小説 1 編を選び、ストーリーを想起できるようにしておく。中心人物と登場人物について調べておく。
		事後学習	物語を読み聞かせる上で、指導者が留意すべき点について資料をもとにまとめておく。
第 15 回	アンデルセン童話とグリム童話 総括	事前学習	アニメ映画やアニメ DVD について、子どもが好む場面を予想しておく。
		事後学習	すべての学習内容を振り返り、文学的文章と論理的文章のそれぞれの特質についてまとめておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国語科指導法 (書写を含む) (2 単位)		3. 科目番号	JCEL2412
2. 授業担当教員	國府田 祐子			
4. 授業形態	講義 演習 グループ討議 発表 実技		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>国語科は全教科の基礎基本であり、中心的教科である。それゆえに、人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として、必須の知識・理解と実践力の基礎を育てるのがねらいである。そのために、学習指導要領の示す「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の3領域と書写を含む「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項を中心に、それぞれの各学年に応じた目標、内容及び指導法について理解と実践力を育てるようにする。</p> <p>特に、指導法に関しては単なる理解でなく、発表や討論、模擬授業等を通して指導技術の習得を図る。また、教材や学習活動の開発創造を大切にする意欲的態度を育てる。</p>			
8. 学習目標	<p>1、日本の国語教育の全体像を理解し、その成果と課題について自分の考えをもつ。</p> <p>2、小学校学習指導要領国語について概観し、目標や内容について説明できるようになる。</p> <p>3、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導目標・内容について理解し、説明できるようになる。</p> <p>4、小学校の具体的な国語教材を取り上げ、教材研究、指導案の作成、模擬授業などを行い、小学校国語科の学習指導の実際を体験的に身につける。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>(1) アサインメント 適宜指示する。 書写用の筆、下敷き、墨汁、半紙を用意しておく。(小・中・高等学校で用いた筆でもよい。 講義 13 回目以降で使用する)</p> <p>(2) レポート課題 各授業における「基礎シート」を毎回提出する。 課題は締め切りを守って提出する。遅れは減点する。非常識な提出をした場合や極端に遅れた場合は受けつけず0点となる。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社。 『国語五 銀河』光村図書出版 (小学5年教科書) 『国語三下 あおぞら』光村図書出版 (小学3年教科書)</p> <p>【参考書】三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック 第6版』三省堂。</p> <p>その他は、授業中に適宜指示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業参加 50%</p> <p>各授業における「基礎シート」、提出物、態度、持ち物、遅刻・早退、私語など 模擬授業 (実技試験等) 15% 教材研究力、指導案の整合性、授業展開力など レポート (指導案、小論文、スピーチシート等) 20% 小テスト 15%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>指導者で教師が発信する言語は、児童・生徒にとって見本そのものです。まず教師自身が論理的な話し方ができるようにすることが大切です。その上で、児童・生徒の書く力や読む力、話す力、聞く力を育てていくのです。つまり、指導者が身につけた言語能力は、そのまま児童・生徒の言語環境になるということです。小学校で身に付けさせる国語の力を実践的に講義します。音読をたくさんします。模擬授業もたくさん受けてもらいます。その上で、児童に分かりやすい授業が展開できる力をつけてもらいます。座席は指定です。自分自身が手本として児童・生徒の前に立ち、一人前の指導者になるという自覚をもって、講義に臨んでください。</p>			
13. オフィスアワー	別途指示			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 国語を教える意義 論理的に「B書くこと」の授業の実際1	事前学習	自分が受けた国語科教育についてまとめておく。	
		事後学習	シラバスを読んで授業の概要をつかみ、見通しを持つ。 「書くこと」の1次原稿に向けて構想を練る。	
第2回	これまでの国語科教育 論理的に「B書くこと」の授業の実際2	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編の目次、第1・2章を読む。	
		事後学習	使用した資料・テキストを基に学習内容を整理する。 「書くこと」の2次清書に向けて考えをまとめておく。	
第3回	これからの国語科教育 論理的に「B書くこと」の授業の実際3	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「B書くこと」を読み、論理的に書くことと文学的文章を書くことと区別する。	
		事後学習	小学校学習指導要領解説 国語編 p132・p133 を読み、中学校との連携についてまとめておく。	
第4回	論理的に「書くこと」の授業の実際4 「A話すこと・聞くこと」の授業の実際1 小テスト	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「A話すこと・聞くこと」を読み、論理的に話す・聞くための重要な点についてまとめておく。	
		事後学習	小学校学習指導要領解説 国語編 p130・p131 を読み、「A話すこと・聞くこと」における中学校との連携についてまとめておく。	
第5回	「A話すこと・聞くこと」の授業の実際2	事前学習	実技試験「自己紹介スピーチ」の原稿を暗記し、人前で読	

	実技試験		めるよう繰り返し練習しておく。
		事後学習	実技試験の結果を踏まえ、自らのよかった点・改善点についてまとめる。
第 6 回	論理的文章を「C読むこと」の授業の実際 －キーワード・段落・文章構成－	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C読むこと」を概観しておく。
		事後学習	指定された教材文を繰り返し音読練習し、人前でもはっきりとした声で範読できるよう準備しておく。
第 7 回	論理的文章を「C読むこと」の授業の実際 1 －文章構成－ 模擬授業実践その 1	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C読むこと」の中から「説明的文章の系統」を学んでおく。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らのよかった点・改善点をまとめておく。
第 8 回	論理的文章を「C読むこと」の授業の実際 1 模擬授業実践その 2	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C読むこと」を読む。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 9 回	文学的文章を「C読むこと」の授業の実際 －あらすじ・場面・登場人物－	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C読むこと」の p134・p135 を読み、中学校との連携について、自らのよかった点・改善点をまとめておく。
		事後学習	指導者の示した模擬授業について、自らの指導実践に生かせるところをまとめておく。
第 10 回	文学的文章を「C読むこと」の授業の実際 －描写－ 模擬授業実践その 3	事前学習	学習指導案作成に向け、構想を考える。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 11 回	文学的文章を「C読むこと」の授業の実際 －人物像の変容・自由な感想－ 模擬授業実践その 4	事前学習	模擬授業の練習を行う。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 12 回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導」の実際	事前学習	他の授業における自らの言語技術の向上について、まとめておく。
		事後学習	自分が受けてきた国語科の授業との大きな違いについて振り返り、まとめる。
第 13 回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導」の実際・書写	事前学習	小・中学校時代の書写の授業における自らの経験を想起し、まとめておく。
		事後学習	低学年の硬筆の授業について、「国語の特質に関する指導」を読み、概観しておく。
第 14 回	第 5 学年国語科学習指導案作成 模擬授業実践その 5	事前学習	作成した指導案を指定枚数用意し、授業展開ができるよう準備する。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 15 回	第 5 学年国語科学習指導案作成 模擬授業実践その 6 指導者に求められる言語技術力 総括	事前学習	授業展開ができるよう準備する。 テキスト、学習ノート及び配付された資料を読み返す。
		事後学習	自己評価し、補充的な学習・発展的な学習に取り組む。 自らの言語技術の向上について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	子育て支援論 (2 単位)		3. 科目番号	JCCC3504
2. 授業担当教員	堀 聡子			
4. 授業形態	演習 (ディスカッション、グループワーク)、実習 (フィールドワーク)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>現在の日本社会は子育てと社会の関係をめぐって大きな変化を経験しつつあり、それを象徴するのが「子育て支援」という言葉である。つまり、子育てを家族だけが担うのではなく、社会全体でサポートしていかうとする動きが顕著になってきている。この授業では、まず、①子育て支援について論じた文献の購読を通じて、基本的な知識やスタンスの獲得を目指す。そのうえで、②子育て支援を受ける立場にある子育て中の親、あるいは、子育て支援に携わっている実践家を対象としたフィールドワークを行い、いま求められている子育て支援のありかたについての理解を深めていく。したがって、①は演習形式 (ゼミ形式)、②は実習形式となる。</p> <p>なお、授業の内容とスケジュールは受講者の反応や授業の展開などに応じて変更することもあるので、この点、あらかじめ了承しておいてください。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て支援の理念について理解し、説明できる。</li> <li>2. 子育て支援の実際と課題を把握し、説明できる。</li> <li>3. 保育者が子育て支援において果たすことを求められる役割を理解し、説明できる。</li> <li>4. 今後の日本社会における子育て支援のあり方について問題意識を持ち、考えることができる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	約3回の文献報告と実際に子育て広場で観察とインタビュー調査を行った成果の報告を課す。なお、後者についてはレポートのかたちでも提出してもらう。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 子育て支援者コンピテンシー研究会編『育つ・つながる子育て支援 一具体的な態度を身につける 32 のリスト』チャイルド本社、2009。</p> <p>【参考書】 大日向雅美『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせない』岩波書店、2005。 子育て支援プロジェクト研究会編『子育て支援の理論と実践』ミネルヴェ書房、2013。</p>			
11. 成績評価の方法	成績評価は、授業への貢献度 (発表や質問の内容など) : 50%、レポート : 50%の配分で行う。なお、欠席および遅刻は減点の対象となるので注意してもらいたい。			
12. 受講生へのメッセージ	受講者による発表を中心とした演習形式の授業では、発表者はもちろんのこと、発表を聴く側の姿勢がきわめて重要になる。具体的には、文献報告であれば、あらかじめ文献に目を通しておくこと、発表に対して積極的に質問をして議論の展開を促進することがそれぞれの受講者に求められる。これらが十分に実行されているかは成績評価の対象にもなる。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス：授業の概要と進めかた	事前学習	シラバスの確認	
		事後学習	配布資料を用いて授業の概要について確認する	
第2回	講義：子育て支援サービスの理念と現実 1 (子育て支援とは何か)	事前学習	子育て支援の意味を調べる	
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援の意味についての学習内容を振り返る	
第3回	講義：子育て支援サービスの理念と現実 2 (子育て支援の現状と問題点)	事前学習	子育て支援の課題を調べる	
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内容を振り返る	
第4回	受講者による文献発表：『育つ・つながる子育て支援』1	事前学習	教科書序章と第1章 (pp.8-34) を読んで子育て支援のスキルについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援のスキルについての学習内容を振り返る	
第5回	受講者による文献発表：『育つ・つながる子育て支援』2	事前学習	教科書第2章と第3章 (pp.36-64) を読んで子育て支援のスキルについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援のスキルについての学習内容を振り返る	
第6回	受講者による文献発表：『育つ・つながる子育て支援』3	事前学習	教科書第4章と第5章 (pp.66-92) を読んで子育て支援のスキルについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援のスキルについての学習内容を振り返る	
第7回	フィールドワークについてのディスカッション	事前学習	フィールドワークの対象候補を選定する	
		事後学習	配布資料を用いてフィールドワークのポイントについて振り返る	
第8回	受講者による文献発表：『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせない』1	事前学習	事前に配布した文献を読んで子育て支援の課題について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内容を振り返る	
第9回	受講者による文献発表：	事前学習	事前に配布した資料を読んで子育て支援の課題について	

	『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせ ない』2		て内容を確認しておく
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内 容を振り返る
第10回	受講者による文献発表： 『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせ ない』3	事前学習	事前に配布した使用を読んで子育て支援の課題につい て内容を確認しておく
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内 容を振り返る
第11回	受講者による文献発表： 『子育て支援の理論と実践』1	事前学習	事前に配布した資料を読んで子育て支援の実践につい て内容を確認しておく
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援の実践についての学習内 容を振り返る
第12回	受講者による文献発表： 『子育て支援の理論と実践』2	事前学習	事前に配布した資料を読んで子育て支援に実践につい て内容を確認しておく
		事後学習	配布資料を用いて子育て支援の実践についての学習内 容を振り返る
第13回	フィールドワークの成果報告1	事前学習	フィールドワークを実践する
		事後学習	フィールドワークの実践について振り返る
第14回	フィールドワークの成果報告2	事前学習	フィールドワークの成果をまとめる
		事後学習	成果報告を振り返る
第15回	授業のまとめ	事前学習	これまでの配布資料を読み直して学習内容を振り返る
		事後学習	授業全体の振り返り
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	こどもの音楽 I (2 単位)	3. 科目番号	JCNT2112
2. 授業担当教員	二宮 紀子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、実技		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	音楽基礎 I・音楽基礎 II で学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。特にコードネーム奏による伴奏技術を身につけ、保育に必要な様々な演奏に対応する力をつける。		
8. 学習目標	1.音楽理論を理解し、子どもの歌の音楽上の構造を理解する。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの技術を習得する。 3.保育の中の様々な音楽活動に対応できる演奏力をつける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①音楽理論：練習問題を次週までに仕上げておくことがある。 ②ピアノ実技：課題曲を次週までによく練習しておく。 ③子どもの歌：レパートリーを増やす。 ④子どもの歌の伴奏／弾き歌い (コードネームを含む)：練習を重ねて慣れる。 ⑤5回の実技発表と理論の理解をはかる筆記試験を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 平成 27 年度に受講した音楽基礎 I・音楽基礎 II で使用した教科書を継続使用する。 ・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社 ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲 こどものうた 100』チャイルド本社。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 <b>【参考書】</b> ・池田富造 著『幼児の楽器遊びと楽しい合奏—器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに ・木許隆・高橋一行・三縄公一・高倉秋子著『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社 <b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mm ステレオジャック (先端が 3.5mm ジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	弾き歌い発表の評価 50% 理論の理解 30% 授業への取り組み 20%		
12. 受講生へのメッセージ	ピアノの演奏技能、歌唱技能を磨き、その演奏が子ども達の母音楽となるという責任をもった演奏ができるようになりましょう。一つの表現方法である音楽は、どんな初歩的なものであれ、様々な約束事にしたがって作られています。それらを知識として理解するだけでなく応用し、自らの創造力へとつなげましょう。読譜力や演奏技術の習得には毎日の練習が欠かせません。少しずつでも毎日練習するように心がけましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	グレード別弾き歌い課題曲の提示 ドレミで歌い主要三和音での伴奏を考えて弾く	事前学習	教科書 pp. 80~88 まで読んでおくこと。課題曲の練習。
		事後学習	課題曲の練習。主要三和音での伴奏について復習。
第 2 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 和音の構造とコードネーム	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。和音の構造とコードネームの復習。
第 3 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) メジャーコードとマイナーコード	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。メジャーコードとマイナーコードの違いについて復習。
第 4 回	ピアノ弾き歌い発表第 1 回 セブンスコードの弾き方	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。セブンスコードの弾き方について復習。
第 5 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 音階音度上の和音とコードネーム	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。コードの転回形について復習。
第 6 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) コードネームを和音記号に置き換え弾く	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。和音記号とコードネームについて復習。
第 7 回	ピアノ弾き歌い発表第 2 回 I, IV, V, V7 (メジャーコード) を使ったカデンツによるコードネーム奏	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。I, IV, V, V7 (メジャーコード) を使ったカデンツによるコードネーム奏の復習。
第 8 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) II, III, VI (マイナーコード) を含むカデンツによるコードネーム奏	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。II, III, VI (マイナーコード) を含むカデンツによるコードネーム奏の復習。
第 9 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 伴奏形の工夫	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。伴奏形の工夫について復習。
第 10 回	ピアノ弾き歌い発表第 3 回 様々な奏法 (リズム遊び等に使う音楽の弾き方)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。様々な奏法について復習。
第 11 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 借用和音について	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。借用和音について復習。
第 12 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 音階音度上にない様々なコード	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。音階音度上にない様々なコードについて復習。
第 13 回	ピアノ弾き歌い発表第 4 回 転調する曲のコード分析	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。転調する曲のコードについて復習。
第 14 回	コードネーム奏のまとめ (コード譜を片手伴奏譜として完成させる。伴奏形も工夫する)	事前学習	教科書、学んだ事項の振り返り。
		事後学習	伴奏譜を完成させ書き歌い。
第 15 回	ピアノ弾き歌い発表第 5 回 (コード譜から自分が完成させた伴奏譜で弾き歌いする。)	事前学習	伴奏譜を完成させ弾き歌いできるようにする。
		事後学習	コード奏について復習。

1. 科目名 (単位数)	こどもの音楽 I (2 単位)		3. 科目番号	JCNT2112
2. 授業担当教員	松本 岳志		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、実技			
6. 履修条件・他科目との関係	音楽基礎 I および II を終えていること。			
7. 講義概要	音楽基礎 I・音楽基礎 II で学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。特にコードネーム奏による伴奏技術を身につけ、保育に必要な様々な演奏に対応する力をつける。			
8. 学習目標	1.音楽理論を理解し、子どもの歌の音楽上の構造を理解する。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの技術を習得する。 3.保育の中の様々な音楽活動に対応できる演奏力をつける。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1.毎回楽典の練習問題とピアノの練習課題等を出します。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施します。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽基礎 I・音楽基礎 II で使用した教科書を継続使用する (詳細は、音楽基礎 I のページを参照のこと)。</li> <li>・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池田富造 著『幼児の楽器遊びと楽しい合奏 - 器楽/合奏/鼓隊の指導』 ひかりのくに。</li> <li>・木許隆・高橋一行・三縄公一・高倉秋子 著『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』 音楽之友社。</li> </ul> <p>【教材】 ※各自で必ず購入しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドフォン</li> <li>・6.3mmジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</li> </ul>			
11. 成績評価の方法	実技 70%、楽典 30%			
12. 受講生へのメッセージ	子ども達に音楽の楽しさや美しさを伝えるには、ピアノ演奏や歌唱の技術を習得することが確かに重要ではあるが、何よりも保育者自らがそうした心情を持っていなければならない。必修科目として「やらされる」のではなく、自らが積極的に音楽美を探究していく姿勢が大切です。また、実技だけでなく、なぜ子どもに音楽教育が必要なのか、そうした音楽教育の原理もしっかりと理解し実践の場に臨んでいただきたい。			
13. オフィスアワー	後日通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ピアノ演奏および課題説明 コードネーム① (メジャーコード)	事前学習	音楽基礎 I 及び II で学んだことを復習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。メジャーコードについて復習しておくこと。	
第 2 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン① コードネーム② (マイナーコード)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。マイナーコードについて復習しておくこと。	
第 3 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン② コードネーム③ (dim 及び aug)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム (dim および aug) の復習をしておくこと。	
第 4 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン③ コードネーム④ (6 及び 7th コード、sus4)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム (6 および 7th コード、sus4) の復習をしておくこと。	
第 5 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン④ コードネーム⑤ (コードの転回形)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム (コードの転回形) の復習をしておくこと。	
第 6 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑤ コードネームを用いた簡易伴奏① (年少の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。	
第 7 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑥ コードネームを用いた簡易伴奏② (年中の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。	
第 8 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑦ コードネームを用いた簡易伴奏③ (年長の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。	
第 9 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑧ 発声の基礎① (姿勢や呼吸法を中心に)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声練習をしておくこと。	
第 10 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑨ 発声の基礎② (ブレス、高音域、音痴などについて)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声練習をしておくこと。	
第 11 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑩ 発声法および発声指導について	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声の指導法について復習しておくこと。	
第 12 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑪ 簡易楽器による合奏①	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。簡易楽器について復習しておくこと。	
第 13 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑫ 簡易楽器による合奏②	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。簡易楽器について復習しておくこと。	
第 14 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑬ 簡易楽器合奏の指導法および指揮法	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。	
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。簡易楽器の指導法および指揮法について復習しておくこと。	
第 15 回	ピアノ演奏および弾き歌い発表	事前学習	ピアノ曲及び弾き歌いの発表準備をしておくこと。	
		事後学習	課題曲の総復習。	

1. 科目名 (単位数)	こどもの音楽 I (2 単位)	3. 科目番号	JENT1112
2. 授業担当教員	本野 洋子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	演習(個人、全員、グループ)		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	音楽基礎 I・音楽基礎 II で学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。特にコードネーム奏による伴奏技術を身につけ、保育に必要な様々な演奏に対応する力をつける。		
8. 学習目標	1.音楽理論を理解し、子どもの歌の音楽上の構造を理解する。 2.ピアノ演奏および弾き歌いの技術を習得する。 3.保育の中の様々な音楽活動に対応できる演奏力をつける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	① ピアノ実技：「弾き歌い」の課題曲を次週までによく練習しておく。 ② 第4、7、10、13、15回に「弾き歌い」の発表を行います。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。 ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 <b>【参考書】</b> ・村田博之著『コードのしくみがわかる本』ヤマハミュージックメディア <b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	弾き歌い発表の評価 50% 理論の理解 30% 授業への取り組み 20%		
12. 受講生へのメッセージ	基礎的な音楽理論の理解を深め、幼稚園、保育園で歌われる子どもの歌をしっかりとピアノで演奏し、弾き歌いできる演奏技能を身に付けられるよう学びましょう。演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。		
13. オフィスアワー	授業時に通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	グレード別弾き歌い課題曲の提示 ドレミで歌い主要三和音での伴奏を考えて弾く	事前学習	教科書プレッスン 1, 2 及びレッスン 2, 3, 4, 8, 9 を読み復習
		事後学習	課題曲の練習。主要三和音での伴奏について復習
第 2 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 和音の構造とコードネーム	事前学習	課題曲の練習。教科書レッスン 17 の予習
		事後学習	レッスンの復習。和音の構造とコードネームの復習
第 3 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) メジャーコードとマイナーコード	事前学習	課題曲の練習。教科書レッスン 17 の予習
		事後学習	レッスンの復習。メジャーコードとマイナーコードの違いについて復習
第 4 回	ピアノ弾き歌い発表第 1 回 セブンスコードの弾き方	事前学習	課題発表曲の練習。教科書レッスン 17 の予習
		事後学習	課題発表曲の復習。セブンスコードの弾き方について復習
第 5 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 音階音度上の和音とコードネーム	事前学習	課題曲の練習。教科書レッスン 17 の予習
		事後学習	レッスンの復習。コードの転回形について復習
第 6 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) コードネームを和音記号に置き換え弾く	事前学習	課題曲の練習。教科書レッスン 18 の予習
		事後学習	レッスンの復習。和音記号とコードネームについて復習
第 7 回	ピアノ弾き歌い発表第 2 回 I, IV, V, V7 (メジャーコード) を使ったカデンツによるコードネーム奏	事前学習	課題発表曲の練習。教科書レッスン 19, 20 の予習
		事後学習	課題発表曲の復習。I, IV, V, V7 (メジャーコード) を使ったカデンツによるコードネーム奏の復習
第 8 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) II, III, VI (マイナーコード) を含むカデンツによるコードネーム奏	事前学習	課題曲の練習。教科書レッスン 21 の予習
		事後学習	レッスンの復習。II, III, VI (マイナーコード) を含むカデンツによるコードネーム奏の復習
第 9 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 伴奏形の工夫	事前学習	課題曲の練習。教科書伴奏形の工夫の項目を予習
		事後学習	レッスンの復習。伴奏形の工夫について復習
第 10 回	ピアノ弾き歌い発表第 3 回 様々な奏法 (リズム遊び等に使う音楽の弾き方)	事前学習	課題発表曲の練習
		事後学習	課題発表曲の復習。様々な奏法について復習
第 11 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 借用和音について	事前学習	課題曲の練習。教科書レッスン 22 の予習
		事後学習	レッスンの復習。借用和音について復習
第 12 回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 音階音度上にない様々なコード	事前学習	課題曲の練習。教科書レッスン 23 の予習
		事後学習	レッスンの復習。音階音度上にない様々なコードについて復習
第 13 回	ピアノ弾き歌い発表第 4 回 転調する曲のコード分析	事前学習	課題発表曲の練習。教科書レッスン 24 の予習
		事後学習	課題発表曲の復習。転調する曲のコードについて復習
第 14 回	コードネーム奏のまとめ (コード譜を片手伴奏譜として完成させる。伴奏形も工夫する)	事前学習	教科書レッスン 25, 26 の予習
		事後学習	伴奏譜を完成させ書く
第 15 回	ピアノ弾き歌い発表第 5 回 (コード譜から自分が完成させた伴奏譜で弾き歌いする。)	事前学習	完成させた伴奏譜で弾き歌いの練習
		事後学習	コード奏について復習

1. 科目名 (単位数)	こどもの音楽Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	JCNT2513
2. 授業担当教員	松本 岳志		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、実技			
6. 履修条件・他科目との関係	音楽基礎Ⅰ・Ⅱおよびこどもの音楽Ⅰを終えていること。			
7. 講義概要	音楽基礎Ⅰ・音楽基礎Ⅱ・こどもの音楽Ⅰで身に付けた演奏技術を更に向上させ、保育士および幼稚園教諭に必要とされるレベルまで到達させる。子どもの歌の特徴を熟知し、保育の音楽活動において適切に指導できる力をつける。			
8. 学習目標	1. ピアノ演奏および弾き歌いの技術を向上させる。 2. 歌からリズム遊び、楽器遊び、合奏に発展させる力をつける。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 弾き歌いの発表を実施します。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽基礎Ⅰ・音楽基礎Ⅱで使用した教科書を継続使用する (詳細は、音楽基礎Ⅰのページを参照のこと)。</li> <li>・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池田富造 著『幼児の楽器遊びと楽しい合奏 - 器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに。</li> <li>・木許隆・高橋一行・三縄公一・高倉秋子 著『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社。</li> </ul> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドフォン</li> <li>・6.3mmジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</li> </ul>			
11. 成績評価の方法	実技 (ピアノ弾き歌いの発表) 100%			
12. 受講生へのメッセージ	この講義を受講する頃には、すでに実習を経験しているはずですから、保育や幼児教育において音楽がどれほど重要なものか、ある程度実践の中で実感しているかと思います。本学における音楽学習の最終段階にある講義ですから、将来をしっかりと見据えて知識と技術の修得に励んでいただきたい。自らが接することになる子ども達に、音楽面において憧れをもってもらえる保育者・幼稚園教諭を目指して日々努力してください。			
13. オフィスアワー	後日通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	課題曲の説明 歌唱法	事前学習	課題曲の練習。	
		事後学習	課題曲の練習。	
第2回	ピアノ弾き歌いレッスン①	事前学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、両手で弾けること。	
		事後学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、弾き歌いができること。	
第3回	ピアノ弾き歌い発表①	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにすること。	
		事後学習	課題曲の復習。課題曲を弾き込んで、自分のレパートリーにする。	
第4回	ピアノ弾き歌いレッスン②	事前学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、両手で弾けること。	
		事後学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、弾き歌いができること。	
第5回	ピアノ弾き歌い発表②	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにすること。	
		事後学習	課題曲の復習。課題曲を弾き込んで、自分のレパートリーにする。	
第6回	ピアノ弾き歌いレッスン③	事前学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、両手で弾けること。	
		事後学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、弾き歌いができること。	
第7回	ピアノ弾き歌い発表③	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにすること。	
		事後学習	課題曲の復習。課題曲を弾き込んで、自分のレパートリーにする。	
第8回	ピアノ弾き歌いレッスン④	事前学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、両手で弾けること。	
		事後学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、弾き歌いができること。	
第9回	ピアノ弾き歌い発表④	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにすること。	
		事後学習	課題曲の復習。課題曲を弾き込んで、自分のレパートリーにする。	
第10回	ピアノ弾き歌いレッスン⑤	事前学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、両手で弾けること。	
		事後学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、弾き歌いができること。	
第11回	ピアノ弾き歌い発表⑤	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにすること。	
		事後学習	課題曲の復習。課題曲を弾き込んで、自分のレパートリーにする。	
第12回	ピアノ弾き歌いレッスン⑥	事前学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、両手で弾けること。	
		事後学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、弾き歌いができること。	
第13回	ピアノ弾き歌い発表⑥	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにすること。	
		事後学習	課題曲の復習。課題曲を弾き込んで、自分のレパートリーにする。	
第14回	ピアノ弾き歌いレッスン⑦	事前学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、弾き歌いができること。	
		事後学習	課題曲の練習。テンポは遅くとも、両手で弾けること。	
第15回	ピアノ弾き歌い発表⑦	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにすること。	
		事後学習	課題曲の復習。課題曲を弾き込んで、自分のレパートリーにする。	

1. 科目名 (単位数)	こどもの音楽Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	JCNT2513
2. 授業担当教員	本野 洋子		
4. 授業形態	講義、実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	音楽基礎Ⅰ・音楽基礎Ⅱ・こどもの音楽Ⅰで身に付けた演奏技術を更に向上させ、保育士および幼稚園教諭に必要とされるレベルまで到達させる。子どもの歌の特徴を熟知し、保育の音楽活動において適切に指導できる力をつける。		
8. 学習目標	1. ピアノ演奏および弾き歌いの技術を向上させる。 2. 歌からリズム遊び、楽器遊び、合奏に発展させる力をつける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ②こどもの歌：レパートリーを増やす。 ③こどもの歌の弾き歌い(コードネーム奏を含む)：練習を重ねて慣れる。 第4, 7, 10, 13回に「弾き歌い」、第15回にグループ発表を行います。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 <b>【参考書】</b> ・池田富造 著『幼児の楽器遊びと楽しい合奏 - 器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに。 ・木許 隆・高橋 一行・三縄 公一・高倉 秋子 著『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社。 ※各自、五線ノートを用意すること。 <b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	①弾き歌い発表の評価 40%、 ②授業への取り組み 30% ③提出物 20% ④グループ発表 10% ※①～④を総合的に判断する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です。		
12. 受講生へのメッセージ	「音楽基礎Ⅰ」「音楽基礎Ⅱ」「こどもの音楽Ⅰ」で学んだことを踏まえ、幼稚園、保育園の現場でしっかりピアノで演奏し、弾き歌いできるような演奏技能レベルの更なる向上を目指しましょう。ピアノ演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。またリズム遊び、楽器遊びなどを通じて幼稚園、保育園の現場で豊かな音楽活動が展開できるような力をつけていきましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に通知。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	グレード別弾き歌い課題曲の提示 子どもの歌のアレンジ (長調の曲を短調に)	事前学習	弾き語りできるようになった子どもの歌の練習。
		事後学習	課題曲の練習。メジャーコードとマイナーコードの復習
第2回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 短調の曲の弾き方	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。短調の復習。
第3回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) オノマトペのもつリズムに着目したアレンジ	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。オノマトペの復習。
第4回	ピアノ弾き歌い発表第1回 オノマトペのリズムを書く	事前学習	課題発表曲の練習。両手で弾き、歌うこと。
		事後学習	課題発表曲の練習。オノマトペのリズムを書く課題の復習。
第5回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) リズム楽器の扱い方。	事前学習	課題曲の練習。演奏が停止することなく、弾けるようにする
		事後学習	レッスンの復習。リズム楽器の扱いについて復習。
第6回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 楽器を使ってリズムを楽しむ。	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。楽器の楽しみ方の復習。
第7回	ピアノ弾き歌い発表第2回 リズム譜を書く	事前学習	課題発表曲の練習。両手で弾き、歌うこと
		事後学習	課題発表曲の復習。リズム譜の復習。
第8回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 子どもの歌を合奏にアレンジする(特徴的なリズムに着目して)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。アレンジの復習。
第9回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 子どもの歌を合奏にアレンジする(かけ合いのこトばを入れて)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。アレンジの復習。
第10回	ピアノ弾き歌い発表第3回 子どもの歌合奏アレンジ譜を書く	事前学習	課題発表曲の練習。両手で弾き、歌うこと。
		事後学習	課題発表曲の復習。アレンジ譜の完成。
第11回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 子どもの歌の物語性	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。子どもの歌の物語性について復習。
第12回	ピアノ弾き歌いレッスン (グループ別) 朗読と歌	事前学習	課題曲の練習。物語性の高いこどもの歌を探す。
		事後学習	レッスンの復習。朗読の復習。
第13回	ピアノ弾き歌い発表第4回 歌の世界から劇遊びへの発展	事前学習	課題発表曲の練習。両手で弾き、曲想を考えて演奏する。
		事後学習	課題発表曲の復習。劇遊びについて復習。
第14回	子どもの歌を身体表現し劇遊びへ(グループワーク)	事前学習	歌をつないで劇仕立てにする。脚本を完成させてくる。
		事後学習	発表に向けての仕上げをグループで行う。
第15回	子どもの歌身体表現の発表(グループ別) 保育活動におけるこどもの歌の展開についてのまとめ	事前学習	歌の劇発表の練習。
		事後学習	子どもの歌についてのまとめの復習。

1. 科目名 (単位数)	こどもの食と栄養 (2 単位)	3. 科目番号	JCCS2107 JNCS2107
2. 授業担当教員	植地 正文・坂本 めぐみ		
4. 授業形態	講義、演習 (課題作成および発表含む)、調理実習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小児期の栄養と食生活の重要性を理解し、一生涯の食生活の意義を理解する。また保育者として、小児の発育と発達の特徴を踏まえた栄養と食のあり方を理解し、保育所における望ましい食のあり方について理解を深める。さらに最近の食にまつわる様々な問題にふれながら、保護者と子どもの総合的な食育や保育所における食の実践について理解する。		
8. 学習目標	1) 栄養、食生活の基礎知識を身につける。 2) 小児期各期の栄養と食生活について学び、説明することができる。 ①妊娠期 (胎児期) ②新生児期 ③乳児期 ④幼児期 ⑤学童期・思春期 3) 保育士としての食の援助の役割について学び、説明することができる。 4) 疾患をもつ小児の栄養・食生活について学び、説明することができる。 5) 小児の食の問題について学び、説明することができる。 6) 子どもとその家族に対する栄養教育・食教育について学び、知識を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：幼児期および学童期の食事計画のレポートを提出する。グループで話し合い計画する。①献立と栄養素、②予想献立図 ③調乳・離乳食・幼児食の作成上の注意点と子どもの食事の際に配慮すること、を指定されたA4のレポート用紙に記載する (表紙不要)。献立作成の課題、提出期限は講義内で提示する。提出期限は厳守すること。 課題：保育所の園児とその保護者を想定し、掲示を行う「食育だより」を提出すること (A4版1枚)。用紙は講義内に配布するが、それ以外の紙を用いても良い。保育園に掲示することを目的とするので、折り紙、フェルトなどの使用は可能である。課題設定や提出期限は講義内で提示する。提出期限は厳守すること。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 新保育士養成講座編纂委員会/編『新 保育士養成講座第 8 巻 子どもの食と栄養』全国社会福祉協議会 2015 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第 4 版』中央法規、2013 <b>【参考書】</b> 師岡章他『食を育む 食育実践ガイドブック』フレーベル館 森野恵子『食育 保育者は何をしたらいいの?』フレーベル館 食育支援ガイドブック作成員『歯科からアプローチする食育支援ガイドブック』医歯薬出版 家庭科教育研究者連盟『子どもの生活とつながる食育 小学校編』日本標準		
11. 成績評価の方法	期末試験	50%	
	提出課題	20%	
	受講態度	30%	
12. 受講生へのメッセージ	保育所に通う子どもは 1 年間に約 200 回以上の食事を保育所のお友達や先生と一緒に食べる機会を持ちます。小児期の食の体験はその後の子どもの食生活と健康の基礎をなすものです。子どもの健康や成長・発達を考えると同時に、“楽しく・おいしい食の体験”を大切に出来る保育士としての実践力を養いましょう。 1) 講義中は私語、スマホや携帯電話の使用、講義とは関係ないことをしないことを守りましょう。 2) 正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退をしないようにしましょう。 3) 課題・レポートの提出期限は厳守しましょう。 4) 調理実習は調理家政実習室で行います。エプロン、三角巾で身支度を行います。マニキュア、ピアスははずし、長い髪の毛は必ず後ろにゴムでまとめて下さい。また、自分用の手拭を持参してください。		
13. オフィスアワー	講義前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	子どもの栄養の概要、グループわけ 子どもの発育・発達と栄養・食生活	事前学習	テキスト序章 (pp.2~6) を読む
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 2 回	健康な生活と食生活の意義、栄養・食生活の基礎知識、	事前学習	テキスト第 1 章(pp.8~23)を読み、考える
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習 テキスト第 2 章 1 節(pp.26~67)をまとめる
第 3 回	小児期各期の栄養—①胎児期、妊娠期、産褥期	事前学習	テキスト第 3 章(pp.70~85)を読み、考える
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 4 回	小児期各期の栄養の実際 小児期の栄養献立計画立案 (演習)	事前学習	テキスト第 2 章 2(pp.65~67)、参考図書を読み、考える
		事後学習	演習課題の完成
第 5 回	新生児期・乳児期の栄養と食生活 (1) 母乳栄養と母乳哺育の援助 (2) 人工栄養の栄養とその注意点	事前学習	テキスト第 3 章(pp.71~81)とワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 6 回	新生児期・乳児期の栄養と食生活	事前学習	テキストと第 3 章 (pp.86~99)、参考資料を事

	(3) 離乳期の栄養と養育者への援助		前に配布するので読む
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 7 回	新生児期・乳児期・幼児期の食生活の実際 (調理実習)	事前学習	調理の資料を事前配布。自宅で調理器具の使い方を練習する
		事後学習	家庭での復習 (同じものを作成)
第 8 回	新生児期・乳児期・幼児期の食生活の実際 (調理実習)	事前学習	調理の資料を事前配布。自宅で調理器具の使い方を練習する
		事後学習	家庭での復習 (同じものを作成)
第 9 回	幼児期の栄養と食生活	事前学習	テキスト第 3 章 4 節 (pp.102~116) と参考資料を読む、ワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 10 回	学童期・思春期の栄養と食生活 保育施設における食育	事前学習	テキスト第 3 章 5 節 (pp.116~132) と参考資料を読む、ワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 11 回	児童福祉施設における食育の展開 (演習)	事前学習	テキスト第 4 章 2 節 (pp.157~168) をよみ、インターネットなどを閲覧する
		事後学習	課題作成
第 12 回	児童福祉施設における食育の展開 (演習)	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.181~206) を読み、やインターネットを閲覧する
		事後学習	課題作成
第 13 回	児童福祉施設における栄養と食生活 特別な配慮を必要とする小児の栄養と食生活 (病気時の食の対応、食物アレルギーの配慮)	事前学習	テキスト (pp.208~236) を読む
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 14 回	児童福祉施設における食育の展開	事前学習	事前配布した資料を読みまとめる、ワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 15 回	「こどもの食と栄養」のまとめ	事前学習	テキストとワークブックをまとめる
		事後学習	将来、自分が保育士や養護教諭として子どもの食と栄養をどのように進めていくか、考える
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	こどもの保健 I a (2 単位)		3. 科目番号	JCCS2108
2. 授業担当教員	佐野 葉子		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義およびレポート課題提出と発表。講義ごとにその日の内容に関してワークシートの作成と提出			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	ヒトの一生の中で、小児期は身体的にも機能的にも最も激しく変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分が出来上がってくる。この授業では、子どもの健康の意味を理解し、子どもの健全育成とは何かを考えてみよう。さらに、子どもの疾病とその予防対策、事故と安全教育、ハンディーキャップを持った子どもの保育などの健康課題に関する知識の習得が必要になる。同時に、日常の保育活動の現場において、実践できる能力、問題解決能力を身につけることも求められている。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学び、説明することができる。</li> <li>2) 小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学び、説明することができる。</li> <li>3) 子どもの生活リズムについて学び、説明することができる。</li> <li>4) 子どもによくみられる疾病とその対処法について学び、説明することができる。</li> <li>5) 小児期の事故と安全教育、保育環境について学び、説明することができる。</li> <li>6) 母子保健の現状と課題について学び、説明することができる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教科書を読んでくる</li> <li>2) 人工栄養、母乳栄養に関するレポート</li> <li>3) 感染に関するレポート</li> </ol> *詳細は授業中に説明します。			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 榊原洋一監修 小林由紀著『子どもの保健演習ノート』改定第2版、診断と治療社、2013 <b>【参考書】</b> 巷野悟郎、岩田力、前澤眞理子編著『子どもの保健一理論と実際一』同文書院、2011年			
11. 成績評価の方法	期末試験 50% レポート・宿題 30% 授業参加態度、発表 20%			
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、子どもの健康と安全をまもるために必要な基礎的知識・技術を習得し、保育者にふさわしい態度を身につけることを目的としている。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講生 (大学生) としてふさわしい態度を示す。</li> <li>2. 技術演習にあたっては、以下のことを守ること           <ol style="list-style-type: none"> <li>①技術演習にふさわしい身支度を整える。</li> <li>②準備・実施・後片付けまで互いに協力し合い、積極的に取り組む。</li> <li>③他学生の手技にも注目し、良い点を学ぶ。</li> <li>④保育の現場と同様に緊張感をもち、言動に注意する。</li> <li>⑤使用する物品は大切に扱う。</li> </ol> </li> <li>3. 成績評価の対象となるレポートの提出期限は厳守する。            教員は以下のことを実施する。           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進行はシラバスに沿って行う。</li> <li>2. 授業開始時に授業の目的・目標を明確に示す。</li> <li>3. 聴き取りやすい大きさの声で話し、専門用語はわかりやすく説明する。</li> <li>4. 学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境をつくる。</li> <li>5. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の使用等の受講生としてふさわしくない態度には厳格に対処する。</li> </ol> </li> </ol>			
13. オフィスアワー	別途通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション	事前学習	教科書に目を通す	
		事後学習	胎児期の発達についてまとめる	
第2回	子どもの発育と発達①身体発育	事前学習	身体発育について調べる	
		事後学習	身体発育の特徴についてまとめる	
第3回	子どもの発育と発達②生理機能の発達	事前学習	呼吸器、循環器、消化器の発育について調べる	
		事後学習	呼吸器、循環器、消化器の発育の特徴についてまとめる	
第4回	子どもの発育と発達③神経、運動	事前学習	神経、運動の発達について調べる	
		事後学習	神経、運動の発達についてまとめる。特に観察をするべき点をまとめる	
第5回	保育現場での保健の実際 ①排泄、着衣、清潔)	事前学習	子どもの排泄、着衣、清潔について調べる	
		事後学習	子どもの排泄、着衣、清潔についてまとめる	
第6回	保育現場での保健の実際 ②子どもの健康状態の把握	事前学習	子どもの健康状態の把握には何が大切か調べる	
		事後学習	子どもの健康状態の把握をするための方法をまとめる	
第7回	保育現場での保健の実際 ③子どもの病気と対応	事前学習	子どもがかかりやすい病気の種類について調べる	
		事後学習	子どもがかかりやすい病気の特徴とそれに対する対応の方法についてまとめる	
第8回	保育現場での保健の実際 ④子どもの感染症	事前学習	子どもがかかりやすい感染症について調べる	

		事後学習	子どもがかかりやすい感染症の特徴についてまとめる
第 9 回	子どもの生活と保健 ①保育現場における衛生管理	事前学習	哺育現場で必要だと考えられる衛生管理について調べる
		事後学習	衛生管理を行う上で重要だと考えられることをまとめる
第 10 回	子どもの生活と保健 ②衛生教育（グループワーク）	事前学習	子どもたちに行う衛生教育の内容を考えてくる
		事後学習	衛生教育を行う上で重要だと考えられることをまとめる
第 11 回	子どもの栄養（食事、母乳栄養、人工栄養）	事前学習	母乳栄養、人工栄養について調べる
		事後学習	子どもにとって必要な栄養についてまとめる
第 12 回	保育所と家庭の連携（生活リズム、食事、睡眠）	事前学習	応急処置が費用な症状について調べる
		事後学習	応急処置についてまとめる
第 13 回	救急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止、ショック、けいれん	事前学習	発疹性疾患について調べる
		事後学習	グループワークのまとめ
第 14 回	救急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止、ショック、けいれん	事前学習	グループワークの準備
		事後学習	発表の準備
第 15 回	子どもにみられる発疹性疾患（発表）、まとめ	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表のまとめ、プリントの整理
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	こどもの保健 I b (2 単位)	3. 科目番号	JCCS2409
2. 授業担当教員	佐野 葉子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義およびレポート課題提出と発表。講義ごとにその日の内容に関してワークシートの作成と提出		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	ヒトの一生の中で、小児期は身体的にも機能的にも最も激しく変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分が出来上がってくる。この授業では、小児の健康の意味を理解し、小児の健全育成とは何かを考えてみよう。さらに、小児の疾病とその予防対策、事故と安全教育、ハンディーキャップを持った小児の保育などの健康課題に関する知識の習得が必要になる。同時に、日常の保育活動の現場において、実践できる能力、問題解決能力を身につけることも求められている。		
8. 学習目標	以下の項目について学び、保育活動の現場において実践できる能力を身につけることを学習目標とする。 1) 子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学ぶ。 2) 小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学ぶ。 3) 子どもの生活リズムについて学ぶ。 4) 子どもによくみられる疾病とその対処法について学ぶ。 5) 小児期の事故と安全教育、保育環境について学ぶ。 6) 母子保健の現状と課題について学ぶ。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント (宿題) 事故とその対応法について (A4版、横書き、レポート用紙 1 枚にまとめて下さい。) その他の課題については、授業中に提示します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】榊原洋一監修 小林由紀著『子どもの保健演習ノート』改定第 2 版、診断と治療社、2013 【参考書】		
11. 成績評価の方法	期末試験 50% レポート・宿題 30% 授業参加態度、発表 20%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、子どもの健康と安全をまもるために必要な基礎的知識・技術を習得し、保育者にふさわしい態度を身につけることを目的としている。 1. 受講生 (大学生) としてふさわしい態度を示す。 2. 技術演習にあたっては、以下のことを守ること ①技術演習にふさわしい身支度を整える。 ②準備・実施・後片付けまで互いに協力し合い、積極的に取り組む。 ③他学生の手技にも注目し、良い点を学ぶ。 ④保育の現場と同様に緊張感をもち、言動に注意する。 ⑤使用する物品は大切に扱う。 3. 成績評価の対象となるレポートの提出期限は厳守する。 教員は以下のことを実施する。 1. 授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 授業開始時に授業の目的・目標を明確に示す。 3. 聴き取りやすい大きさの声で話し、専門用語はわかりやすく説明する。 4. 学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境をつくる。 5. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の使用等の受講生としてふさわしくない態度には厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	教科書を読んでくる
		事後学習	小児保健についてまとめる
第 2 回	子どもの疾病と保育 ①おもな症状の見かたと対応	事前学習	子どもに発症する主な症状はどのようなものがあるか調べる
		事後学習	症状の特徴と対応についてまとめる
第 3 回	子どもの疾病と保育 ②先天異常	事前学習	先天異常にはどのようなものがあるか調べる
		事後学習	先天異常の特徴や症状についてまとめる
第 4 回	子どもの疾病と保育 ④アレルギー疾患	事前学習	アレルギー疾患にはどのようなものがあるか調べる
		事後学習	アレルギー疾患の特徴や症状についてまとめる
第 5 回	子どもの疾病と保育 ⑤予防接種)	事前学習	予防接種にはどのようなものがあるか調べる
		事後学習	予防接種の種類と接種時期についてまとめる
第 6 回	乳幼児健康診査と保健対策	事前学習	乳幼児健康診査の項目について調べる
		事後学習	乳幼児健康診査の目的内容についてまとめる
第 7 回	子どもの生活と保健 ③保育現場における事故防止、安全対策 (グループワーク)	事前学習	保育現場で起こりやすい事故について調べる
		事後学習	保育現場における事故防止、安全対策についてまとめる
第 8 回	子どもの生活と保健 ③保育現場における事故防止、安全対策 (グループワーク)	事前学習	保育現場における事故防止、安全対策について具体的な対策を考える
		事後学習	発表の準備
第 9 回	子どもの生活と保健 ③保育現場における事故防止、	事前学習	発表の準備

	安全対策（発表）	事後学習	発表の準備
第 10 回	子どもの生活と保健 ③保育現場における事故防止、安全対策（発表）	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表のまとめ
第 11 回	子どもにみられる発疹性疾患（グループワーク）	事前学習	子どもにみられる発疹性疾患にはどのようなものがあるか調べる
		事後学習	子どもにみられる発疹性疾患の特徴や症状についてまとめる
第 12 回	子どもにみられる発疹性疾患（グループワーク）	事前学習	子どもにみられる発疹性疾患にはどのようなものがあるか調べる
		事後学習	グループワークのまとめ
第 13 回	保育現場での保健の実際 ⑤障害のある子ども	事前学習	一次救命について調べる
		事後学習	一次救命についてまとめる
第 14 回	保育者としてどのようにかかわることが大切か	事前学習	保育者としてどのようにかかわることが大切か考えてくる
		事後学習	保育者としてどのようにかかわることが大切かまとめる
第 15 回	まとめ	事前学習	資料の整理
		事後学習	こどもの保健で学んだことを整理する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	こどもの保健Ⅱ (1 単位)	3. 科目番号	JCCS2410
2. 授業担当教員	橋本 由利子・佐野 葉子		
4. 授業形態	技術演習、講義、グループワーク、プレゼンテーション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な基礎的知識や実践力を身に付けることをねらいとしている。「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基礎とし、子どもが健康的に生活するうえで必要な生活環境要因について理解し、総合的な援助技術の習得を目指す。</p> <p>技術演習では、子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、一般的な症状に対する看護の方法、応急手当（一次救命処置を含む）など、保育現場で必要とされる技術をモデル人形を対象として実践する。</p> <p>グループワークでは、事故防止対策と安全教育、歯磨きや手洗いなどの健康教育について検討し、発表することで集団保育における事故防止や健康管理・健康教育の実践力を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。</li> <li>2. 子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。</li> <li>3. 子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。</li> <li>4. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>5. 子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>6. 応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができるようになる。</li> <li>7. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。</li> <li>8. 子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回の授業で学習した内容について教科書のワークを用いて復習する。</li> <li>2) 日赤幼児安全法について、学習した内容と感想を書く (1000字程度)。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】榊原洋一監修 小林美由紀著『子どもの保健演習ノート』改訂第2版、診断と治療社、2013</p> <p>【参考書】今井七重編『演習 子どもの保健Ⅱ』(株)みらい。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>毎週の授業開始時のミニテスト 50%、幼児安全法レポート 10%、授業態度 30%、身支度 10% (爪、髪の毛、服装等実習にふさわしい準備)</p> <p>※レポート提出の遅れは減点となる。</p> <p>本学規定により 3/4 以上 (24 回中 18 回以上) の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもの保健Ⅱは保育中の乳幼児の命と健康を守るための技術を学ぶ重要な科目です。保育者は乳幼児の普段の状態をよく把握し、普段と少しでも異なる症状があった場合にはそれをいち早く察知し、適切に対処しなくてはなりません。また、乳幼児の養護や看護を行う場合には愛情を持って温かく接する事が大切です。一つ一つの実習を誠心誠意、真剣に行ってください。受講生は以下のことを必ず守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業は、常に高い緊張感と集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。</li> <li>2) 理解できないことはそのまましておかないで、積極的に質問すること。</li> <li>3) 欠席・遅刻・早退をしないこと (やむを得ない場合は必ず文書で申し出ること)。</li> <li>4) 授業中の私語、携帯電話の作動は絶対にしないこと。守れない場合は退出してもらいます。</li> <li>5) 実技・演習は、事故のないように気を引き締めて行うこと。</li> <li>6) 実習機材の準備・後片付けを積極的に行うこと。</li> </ol> <p>講師は以下のことを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生が積極的に授業に参加 (発言、発表) できるように双方向対話型の学習環境を作る。</li> <li>2) 明らかに授業態度が悪いと判断された場合は厳格に対処する。(その場合、たとえすべて出席していても F 評価になることもあるので注意すること。)</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (子どもの保健Ⅱを学ぶにあたって)	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	自己紹介用紙を記載する。
第 2 回	胎児期の発育について (受精してから出生するまで)	事前学習	胎児期の発育について考えてくる。
		事後学習	自分の母子健康手帳を見て必要事項を自己紹介用紙に記載する。
第 3 回	第 1 章 子どもの発育を知ろう (身体発育の観察と評価)	事前学習	テキスト pp.2~17 を読んでおく。
		事後学習	第 1 章おさらいテスト問 1・問 2
第 4 回	第 1 章 子どもの発育を知ろう (身体発育の測定方法と評価)	事前学習	テキスト pp.4~7 を読んでおく。
		事後学習	第 1 章おさらいテスト問 3
第 5 回	第 2 章 子どもの発達を知ろう (運動機能の発達とその評価について)	事前学習	テキスト pp.26~36 を読んでおく。
		事後学習	第 2 章おさらいテスト問 1・問 2
第 6 回	第 3 章 子どもの健康状態を知ろう (子どもの生理機能の発達を理解する)	事前学習	テキスト pp.40~42 を読んでおく。
		事後学習	第 3 章おさらいテスト問 1①~⑦、問 2①~⑤、

			問 3
第 7 回	第 5 章 子どもの保育環境づくり (屋内の衛生管理など)	事前学習	テキスト pp.74～78 を読んでおく。
		事後学習	第 5 章おさらいテスト問①②⑩⑪⑫
第 8 回	第 4 章 日常における養護の方法 (抱き方・おんぶの仕方・寝かせ方・外気浴における留意点)	事前学習	テキスト pp.52～53, pp.62～64 を読んでおく。
		事後学習	第 4 章おさらいテスト問 1④、問 3⑪～⑮
第 9 回	第 4 章 日常における養護の方法 (母乳と人工栄養、離乳食の進め方)	事前学習	テキスト pp.53～55 を読んでおく。
		事後学習	第 4 章おさらいテスト問 1 ①②、問 2①～③
第 10 回	第 4 章 日常における養護の方法 (調乳の実際、手洗いの基本)	事前学習	テキスト pp.53～55、p61 を読んでおく。
		事後学習	調乳の方法と留意点について復習する。
第 11 回	第 4 章 日常における養護の方法 (衣服の着せ方、排泄のさせ方)	事前学習	テキスト pp.56～59 を読んでおく。
		事後学習	衣服の着せ方について復習する。
第 12 回	第 4 章 日常における養護の方法 (沐浴・入浴のさせ方)	事前学習	テキスト pp.59～61 を読んでおく。
		事後学習	入浴のさせ方について復習する。
第 13 回	第 4 章 日常における養護の方法 (口腔内の衛生)	事前学習	テキスト pp.56～57 を読んでおく。
		事後学習	第 4 章おさらいテスト問 2④⑤
第 14 回	第 4 章 日常における養護の方法 (口腔機能の発達)	事前学習	自分の歯がいつ頃生えてきたか考える
		事後学習	歯と口の健康の重要性について復習する。
第 15 回	第 8 章 いざというときの応急処置 (傷害時の応急処置、エピペンについて)	事前学習	テキスト pp.126～130 を読んでおく。
		事後学習	第 8 章おさらいテスト問 1、問 2
第 16 回	第 6 章 よくかかる病気について知ろう (冷却用具の種類と作り方、薬の与え方、エピペンについて)	事前学習	テキスト pp.82～86 を読んでおく。
		事後学習	第 6 章おさらいテスト問 1、問 2、問 3、問 4
第 17 回	赤十字幼児安全法講習会 (乳幼児の救急救命処置、AED を用いた心肺蘇生法も含む)	事前学習	テキスト pp.122～128 を読んでおく。
		事後学習	第 8 章おさらいテスト問 4
第 18 回	赤十字幼児安全法講習会 (乳幼児の救急救命処置、AED を用いた心肺蘇生法も含む)	事前学習	テキスト pp.122～128 を読んでおく。
		事後学習	アサイメント 2
第 19 回	第 7 章 よく起こる事故について知ろう (乳幼児に起こりやすい事故とその特徴)	事前学習	テキスト pp.106～109 を読んでおく。
		事後学習	第 7 章おさらいテスト問 1～問 3
第 20 回	第 7 章 よく起こる事故について知ろう (安全への配慮・安全管理・安全教育)	事前学習	テキスト pp.109～118 を読んでおく。
		事後学習	グループで製作する教材の準備をする。
第 21 回	安全衛生に関する教育と教材の作成 (グループワーク)	事前学習	グループで製作する教材の準備をする
		事後学習	時間内で教材ができあがるように準備する。
第 22 回	安全衛生に関する教育と教材の作成 (グループワーク)	事前学習	時間内で教材ができあがるように準備する。
		事後学習	来週の発表に向けて発表の準備をする。
第 23 回	安全衛生教育のプレゼンテーション	事前学習	発表ができるようにグループ内で打ち合わせをする。
		事後学習	グループワークと発表の振り返り。
第 24 回	まとめ	事前学習	授業で配付されたプリントを整理する。
		事後学習	この科目で学んだことを振り返る。

1. 科目名 (単位数)	ジェンダー論 (2 単位)		3. 科目番号	JEGC1205 JNGC1205
2. 授業担当教員	堀 聡子			
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をする事に向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20 世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、このような社会的・文化的に形成された性別を意味し、「女らしさ」「男らしさ」の社会的な側面に注目した概念である。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心をもち、分析・考察し、表現する力を身につけることを目指す。			
8. 学習目標	本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。 1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心をもち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。 3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	3回のレポートを課す予定である。レポートでは、授業内容の理解を問うとともに、具体的な事例について、ジェンダー論の観点からどのような考察が可能になるかを考えてもらう。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小平麻衣子・氷見直子『書いて考えるジェンダー・スタディーズ』新水社、2006。 【参考書】 高橋準『ジェンダー学への道案内』北樹出版、2009。 加藤秀一・石田仁・海老原暁子『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社、2005。			
11. 成績評価の方法	成績評価は、コメントカード：40%、レポート：20%×3 の配分で行う。毎回、配布するコメントカードには授業内容に関して考えたことなどを書いてもらいますが、その内容をその都度評価して加点しています。なお、欠席および遅刻は減点の対象となりますので、注意してください。			
12. 受講生への メッセージ	ジェンダーという概念は、人間の意識や行動だけではなく、社会・文化のあり方を理解する上でも、有効です。本講義をきっかけとして、自分の身近にあるジェンダーについて、理解する視点を獲得してもらえればと思います。なお、授業中の私語、居眠り、飲食、携帯電話の使用を禁じます。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション:ジェンダー論をどう学ぶか	事前学習	シラバスの確認	
		事後学習	配布資料を用いてジェンダー論とは何かについて振り返る	
第2回	男と女の違いを考える:社会・文化的性差としてのジェンダー	事前学習	教科書第1章 (pp.12-22) を読んでジェンダー概念について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いてジェンダー概念について振り返る	
第3回	人生の選択肢:結婚と性別役割分業	事前学習	教科書第2章 (pp.24-37) を読んで性別役割分業について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて性別役割分業について振り返る	
第4回	主婦という生き方	事前学習	教科書第4章 (pp.50-58) を読んで主婦という生き方について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて主婦という生き方について振り返る	
第5回	現代の結婚とジェンダー	事前学習	教科書第5章 (pp.60-71) を読んで結婚とジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて結婚とジェンダーについて振り返る	
第6回	男性学とジェンダー論:ジェンダー論は女性だけのものではない	事前学習	教科書第6章 (pp.74-83) を読んで男性学について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて男性学について振り返る	
第7回	マスメディアにおけるジェンダーと子どもの社会化	事前学習	教科書第8章 (pp.100-116) を読んでマスメディアにおけるジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	ミニレポートの作成	
第8回	メディア・リテラシーとジェンダー	事前学習	教科書第7章 (pp.85-98) を読んでファッション誌とジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いてメディア・リテラシーとジェンダーについて振り返る	
第9回	ファッション誌のジェンダー分析 I	事前学習	ファッション誌のジェンダー分析を行うにあたり、メディア・リテラシーについて復習しておく	
		事後学習	自分のグループの分析結果を振り返る	
第10回	ファッション誌のジェンダー分析 II	事前学習	分析結果の発表の準備を進める	
		事後学習	自分のグループ、他のグループの分析結果を振り返る	
第11回	現代社会における子育てとジェンダー	事前学習	教科書第9章 (pp.118-127) と第10章 (pp.130-140) を読んで子育てとジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて子育てとジェンダーについて復習する	
第12回	セクシュアリティと「性」の多様性	事前学習	教科書第12章 (pp.157-165) と第13章 (pp.168-177) を読んで性の多様性について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて性の多様性について復習する	
第13回	性的マイノリティーの事例からジェンダーを問直す I	事前学習	教科書第11章 (pp.142-156) を読んでセクシュアリティ概念について振り返る	
		事後学習	配布資料を用いて性的マイノリティーについて振り返る	
第14回	性的マイノリティーの事例からジェンダーを問直す II	事前学習	性的マイノリティーについて自分で調べる	
		事後学習	ミニレポートの作成	
第15回	授業のまとめ	事前学習	これまでの配布資料を読み直して学習内容を振り返る	
		事後学習	授業全体の振り返り	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	児童生徒指導論 (進路指導を含む) (2 単位)	3. 科目番号	JCEL2403 JEEL1403
2. 授業担当教員	池田 芳和	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	生徒指導は、「生き方」の教育に直接関わることである。学校における生徒指導の意義や生徒指導の基礎を理解し、事例をもとに学校で起こる諸問題への対応策や改善策を考える。また、生徒指導の観点から進路指導の意義や在り方について理解する。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の意義や役割について理解し、説明できるようになる。</li> <li>・児童・生徒理解の基本や生徒指導の方法について理解し、説明できるようになる。</li> <li>・進路指導の意義や方法について、キャリア教育の視点も加えて理解し、説明できるようになる。</li> <li>・生徒指導に基づいた学級経営の方法や配慮事項について理解し、説明できるようになる。</li> <li>・事例をもとに生徒指導上の諸問題への対応策や改善策を考えられるようになる。</li> </ul>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	自己指導能力を育成するために、どのように生徒指導を進めればよいか、自己の考え方について述べられるようにする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> ・文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2010。 (文部科学省ホームページから PDF ファイルデータでダウンロード可能) ・必要に応じて授業内でプリントを配布する。 <b>【参考書】</b> ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社、2008。 (文部科学省ホームページから PDF ファイルデータでダウンロード可能) ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社、2008。 (文部科学省ホームページから PDF ファイルデータでダウンロード可能)		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習課題 40%、レスポンスシート 30%、受講態度 30%とする。</li> <li>・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。</li> <li>・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。</li> </ul>		
12. 受講生への メッセージ	一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸張を図りながら、社会的資質や行動力を高めるために学校は、教師はどうあればよいのか考えて、実践できるようにしてほしい。		
13. オフィスアワー	1 時間目目知らせる		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・生徒指導の意義と課題 ・自己指導能力の育成	事前学習	シラバスを読む。
		事後学習	生徒指導の意義について復習する。
第 2 回	生徒指導と教育課程や教育経営 ・生きる力の育成と学習指導・生徒指導	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	教育課程における生徒指導の位置づけや役割について復習する。
第 3 回	学校内のシステム構成① (心理教育的援助サービス)	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	生徒指導における集団指導と個別指導について復習する。
第 4 回	学校内のシステム構成② (チーム援助の実践)	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	生徒指導の組織的な取り組みのあり方について復習する。
第 5 回	保護者・地域との連携	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	社会の形成者としての資質の涵養に向けてについて、授業内容を復習する。
第 6 回	児童生徒理解とアセスメント① (児童・生徒の理解)	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	生徒指導における児童生徒理解の重要性と児童期の発達の特徴について復習する。
第 7 回	児童生徒理解とアセスメント② (コーチングスキルを活用した児童・生徒の理解の方法)	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	生徒指導のための教員の研修とその意義について授業内容を復習する。
第 8 回	予防・開発的対応	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	生徒指導の課題解決に向けての取り組みの在り方について復習する。
第 9 回	教育相談への取組	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	教育相談の意義と生徒指導における役割について授業内容を復習する。
第 10 回	問題行動の指導と対応	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	様々な問題行動の現状と指導の在り方について復習する。
第 11 回	発達障がいへの支援	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	発達障害の定義と指導の在り方について授業内容を復習する。
第 12 回	キャリア教育の推進 (キャリア教育の意義と理論、進め方、方法と技術)	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	生き方教育についての考え方を理解すると共に実践の仕方について復習する。
第 13 回	キャリア教育推進に当たっての諸能力育成について 人間関係形成能力、情報活用能力意思決定能力、将来設計能力の育成と学校教育	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	国の答申等を把握すると共に諸能力を育成する方法について復習する。
第 14 回	キャリア教育の推進 (進路指導の進め方)	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	学校におけるキャリア教育の進め方について授業内容を復習する。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で、生徒指導について自分が理解した内容を整理しておく。
		事後学習	授業全体をふり返り、講義内容の理解を確認する。

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3419
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を織り交ぜる。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公的資質の基礎を養う。」である。学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が一層重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について学修する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する中で、習得型の知識と探究による知識活用について学び、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。さらに、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校社会科の意義、目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 社会生活の内容について、地理(自然・国土・産業)、歴史、公民の各分野の特徴を述べることが出来る。</li> <li>3. 小学校社会科の指導計画作成・学習方法や小学校社会科の評価規準について理解し、説明できる。</li> <li>4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。</li> </ol>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中間レポート課題：小学校社会科で身に付けたい力とは何か。 ※上記1について、A4版横書き 1,000字～1,200字程度 レポート形式で記述。</li> <li>2 期末レポート課題：小学校社会科における実践課題について(選択したキーワードのレポートとする) ※上記2について、指定の用紙にて作成</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008年。 教科書『新しい社会 3/4年上・下 5年上・下 6年上・下』東京書籍。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社、2008年。 地図帳『楽しく学ぶ小学生の地図帳』帝国書院。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中間・期末レポート(キーワード)：総合点の60%</li> <li>2 振り返りシート：総合点の20%</li> <li>3 日常の授業への出席、参加態度：総合点の20%</li> </ol> <p>・遅刻、早退それぞれ3回で欠席1回とする。 ・レポートは期日厳守で提出する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>小学校社会科の目標である「公的資質の基礎」を養うためには、地域社会や我が国の国土、産業、歴史などに対する理解と愛情を育て、社会的な見方や考え方を養うとともに、問題解決的な学習を一層充実させ、子どもたちが社会との望ましいかわり方や社会のなかでどう生きるのかを学ぶことが重要である。このため、本科目では小学校社会科の学習指導要領の内容を踏まえつつ、今日の社会科の課題や授業のあり方を学ぶこととする。</p> <p>そこで本科目では次のことを遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 緊張感と集中力をもって受講する。</li> <li>2 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。</li> <li>3 欠席、遅刻、早退をしない。</li> <li>4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などを慎む。</li> </ol> <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。</li> <li>2 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。</li> <li>3 討議や発表など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。</li> <li>4 受講者の質問には誠実に対応する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 小学校学習指導要領改訂の基本方針、要点 社会科改訂の趣旨、要点及び目標 グループ作り	事前学習	学習指導要領改訂の経緯を調べる。
		事後学習	学習指導要領改訂の基本方針、要点、社会科の改訂の趣旨、要点などについてまとめることができる。
第2回	第3/4学年の目標と内容 第3/4学年の目標と内容構成 (1)(2)(3)(4)(5)(6)	事前学習	第3/4学年の学習内容を調べる。
		事後学習	第3/4学年の目標(理解・態度・能力・技能)と6つの内容を理解し、その内容構成をまとめることができる。
第3回	第5学年の目標と内容 第5学年の目標と内容構成 (1)(2)(3)(4)	事前学習	第5学年の学習内容を調べる。
		事後学習	第5学年の目標(理解・態度・能力・技能)と4つの内容を理解し、その内容構成をまとめることができる。

第 4 回	第 6 学年の目標と内容 第 6 学年の目標と内容 (1) (2) (3)	事前学習	第 6 学年の学習内容を調べる。
		事後学習	第 6 学年の目標 (理解・態度・能力・技能) と 3 つの内容を理解し、その内容構成をまとめることができる。
第 5 回	DVD の視聴 1 第 5 学年の内容について 視聴後：教材化についての意見交換	事前学習	第 5 学年の内容構成を復習しておく。
		事後学習	DVD 視聴後、各学習内容をどのように教材化したらいいかまとめることができる。
第 6 回	DVD の視聴 2 第 6 学年の内容について 視聴後：教材化についての意見交換	事前学習	第 6 学年の内容構成を復習しておく。
		事後学習	DVD 視聴後、各学習内容をどのように教材化したらいいかまとめることができる。
第 7 回	指導計画の作成と内容の取扱い 観察・調査・見学 博学連携 地図・統計資料	事前学習	該当の頁を通読する。
		事後学習	社会科の指導計画の作成と内容の取扱いについての要点をまとめることができる。また、地図の効果的活用について考えることができる。中間レポートを提出する。
第 8 回	社会科授業改善のキーワード 1 キーワードに基づいた指導事例の選択と作成 キーワード①社会の形成に参画する資質や能力の育成 キーワード②思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実 キーワード③知識・技能の確実な習得と活用 キーワード④作業的、体験的学習の充実 キーワード⑤伝統や文化の継承と発展 キーワード⑥問題解決的学習の充実 キーワード⑦地域資源の保護と活用	事前学習	キーワードの意味を考えておく。
		事後学習	授業改善の観点から提示されたキーワードの意味をつかみ、興味あるキーワードを選択することができる。また、これをもとにグループを編成する。
第 9 回	社会科授業改善のキーワード 2 キーワードに基づいた指導事例の作成 1	事前学習	キーワードに基づいた指導事例を考えておく。
		事後学習	指導事例をグループで作成することができる。
第 10 回	社会科授業改善のキーワード 3 キーワードに基づいた指導事例の作成 2	事前学習	キーワードに基づいた指導事例に必要な資料を収集する。
		事後学習	指導事例をグループで作成することができる。
第 11 回	社会科授業改善のキーワード 4 キーワード①②③④の指導事例の発表と相互評価 1	事前学習	グループにて発表準備を行う。
		事後学習	グループにて発表を行い、評価表で評価を行うことができる。
第 12 回	社会科授業改善のキーワード 5 キーワード⑤⑥⑦の指導事例の発表と相互評価 2	事前学習	グループにて発表準備を行う。
		事後学習	グループにて発表を行い、評価表で評価を行うことができる。期末レポートを提出する。
第 13 回	社会科における評価 評価の機能と形態 評価の観点と方法	事前学習	評価とは何か考えておく。
		事後学習	評価の機能や社会科における評価の方法などをまとめることができる。
第 14 回	社会科の学習方法 ディベート、ロール・プレイング 問答・討議法 探求学習・発見学習	事前学習	社会科で行う学習方法のいくつかを考えておく。
		事後学習	さまざまな学習方法が実践されていることをまとめ、考えることができる。
第 15 回	社会科指導法のまとめ 新学習指導要領への展望 講義のまとめ	事前学習	中教審の動向を調べておく。
		事後学習	審議中の新学習指導要領の動向を知ることができる。講義で学んだことをまとめることができる。

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	JEEL1419						
2. 授業担当教員	福島 裕								
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議・発表学習	5. 開講学期	春期・秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	教育実習前に履修を終えていることが望ましい。								
7. 講義概要	学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について検討する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する。そして、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。また、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。								
8. 学習目標	<p>「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校社会科の目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 教科書を活用し、調査・体験・作業的な活動を導入した教材研究の在り方について理解を深める。</li> <li>3. 小学校社会科の評価規準について理解する。</li> <li>4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。</li> </ol>								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○全員が小学校学習指導要領社会及び教科書の該当箇所 (事前に計画表を配布) をよく読んでおくこと。</p> <p>○担当班は、事前にグループ提案用紙に担当内容についての要点や重要箇所、疑問点を話し合いまとめ、教員へ提出する。</p> <p>○各班は、調査・体験や作業的な活動に取り組む際には、役割分担や協力的な活動についての事前の話し合いを行い、教材の作成・まとめ・発表等を実施できるようにすること。</p> <p>○レポート課題「社会科の目標と内容の具現化を図るために具体的な単元を取り上げ、教材研究の在り方と効果的な指導方法 (学習活動) について述べなさい。」</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版、2008。</p> <p>○帝国書院編集部『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』帝国書院、2014。</p> <p>※授業で 5・6 年の教科書も使用するが、購入しなくてよい。</p> <p>【参考書】</p> <p>○東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>○受講態度、作成した教材・作品の充実度、班のディスカッションの様子、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 作成した教材・作品の充実度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 調査・体験、作業的な班活動の様子と発表の内容・態度</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3 レポート、提出物</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> </table> <p>なお、ア、履修要項「授業について」の「7 単位の認定」により、授業時数の 4 分の 3 以上 (15 回中 12 回以上) の出席を満たさない場合は単位を認定しない。</p> <p>イ、授業態度の悪い学生は減点します。また、指導後の改善が見られない場合は F 評価になることもある。</p>			1 作成した教材・作品の充実度	総合点の 40%	2 調査・体験、作業的な班活動の様子と発表の内容・態度	総合点の 30%	3 レポート、提出物	総合点の 30%
1 作成した教材・作品の充実度	総合点の 40%								
2 調査・体験、作業的な班活動の様子と発表の内容・態度	総合点の 30%								
3 レポート、提出物	総合点の 30%								
12. 受講生へのメッセージ	戦後、花形教科としてスタートした社会科の歴史を学び、社会科の目標や内容について理解するとともに、社会科学習の今日的な課題を明らかにします。さらに、指導計画、授業実践、評価等について検討し、学び方や調べ方を身に付ける学習、体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方について、児童の視点も交えながら理解を深めます。								
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション、社会科教育の目標からこれからの学習について理解する。	事前学習	社会科で学んだことを思い出ししておく。						
		事後学習	社会生活についてマインドマップを作る。						
第 2 回	社会科教育の意義・特質 社会の考え方を知り、どのような指導が望ましいのかを考える。	事前学習	教科書「社会科編」を読んでおく。						
		事後学習	社会科教育の意義・特質を整理する。						
第 3 回	社会科の目標の構造 社会科の目標を調べ、自分にわかりやすい目標の構造を作る。	事前学習	社会科の歴史を読んでくる。						
		事後学習	社会科教育の考え方をまとめる。						
第 4 回	社会科学習指導要領の目標の特徴 社会科学習の目標の特徴について話し合う。	事前学習	社会科の各学年目標を調べてくる。						
		事後学習	目標の構造を整理してくる。						
第 5 回	公民的資質の形成と社会科教育の方法 社会科教育の歴史と教育の内容の系統について調べ、公民的資質の基礎作りについて理解を深める。	事前学習	社会科の試案を読んで、理念を調べておく。						
		事後学習	現行の指導要領と比較してまとめる。						
第 6 回	地理的分野の目標と内容 学習指導要領から、地理的分野の学習を取り出すことができる。	事前学習	系統的にした内容を学年ごとにわかる。						
		事後学習	小学校における地理的な学習についてまとめる。						
第 7 回	地図の読み方 地図の学習の基礎基本を知り、活用できるようにする。	事前学習	2 万 5 千分の 1 の地図を読んで、まとめる。						
		事後学習	小学校における地図の読み方の要点をまとめる。						

第 8 回	地域学習での観察と観察の視点 小学校 3/4 年生の学習に合わせ、学区の観察、行政区 域の観察を行う。	事前学習	3 年生の学習内容を調べる。
		事後学習	地域観察したことで分かったことをまとめ る。
第 9 回	地域学習の観察結果のまとめ方 小学校 3/4 年生の学習に合わせ、学区の観察、行政区 域の観察を行い、その結果をレポートにまとめる。	事前学習	4 年生の学習について調べる。
		事後学習	健康で安全な暮らしについて、分かったこと をまとめる。
第 10 回	人物中心の歴史学習を進めるために I (人物の資料収集) 学習指導要領に示された人物について業績を調べ、時代 の特徴を知る。	事前学習	日本史年表を作成する。
		事後学習	人物と歴史的な事柄との関連をまとめる。
第 11 回	人物中心の歴史学習を進めるために II (人物の業績調査) 自分で選択した人物を中心に、業績を発表しあい、深く 業績を理解する。	事前学習	自分の選んだ人物を調べる。
		事後学習	人物と歴史事象との関連から、学びの中心概 念をまとめる。
第 12 回	公民的分野の目標と内容 学習指導要領から、公民的分野の学習を取り出すことが できる。	事前学習	日本国憲法について調べる
		事後学習	小学校で取り扱う内容をまとめる。
第 13 回	資料活用の在り方 教科書に示されている代表的な資料の分析と活用の仕 方を学ぶ。	事前学習	印象に残っている資料を探してくる。
		事後学習	資料と思考との関連についてまとめる。
第 14 回	社会科の評価 社会科の評価方法を学ぶ。	事前学習	評価の在り方についての答申を読んてくる。
		事後学習	新しい評価方法をまとめる。
第 15 回	社会科教育の構造をまとめる 義務教育における社会科教育の構造を学び、小学校社会 科の特徴をまとめる。	事前学習	社会科学習の構造を考える。
		事後学習	社会科教育の改定点についてレポートをま とめる。

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3420
2. 授業担当教員	荻原 邦昭	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「生きる力」の育成を主たるねらいとした学習指導要領の改訂に基づき、小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年(3年生以上)の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして1単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。</li> <li>2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。</li> <li>3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。</li> <li>4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。</li> <li>5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中間レポート課題：講義中に作成した「学習指導案」 ※ 指定の用紙にて作成</li> <li>2 期末レポート課題：講義中に作成した「単元計画」と「知識の構造図」 ※ 指定の用紙にて作成</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008年。 教科書『新しい社会 5年上・下』東京書籍。 教科書『新しい社会 6年上・下』東京書籍。 <b>【参考書】</b> 教科書『新しい社会 3/4年上・下』東京書籍。 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』帝国書院。 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 レポート、模擬授業、討論：総合点の60%</li> <li>2 振り返りシート：総合点の20%</li> <li>2 日常の授業への出席・参加態度：総合点の20% ・遅刻、早退それぞれ3回で欠席1回とする。 ・レポートは期日厳守で提出する。</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	小学校の社会科は、地域社会や我が国の国土、歴史などに対する学習を通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、社会との望ましいかかわり方、社会のなかでどう生きるのかを学ぶ教科である。しかし、いま子どもたちの「公意識」の欠如が指摘され、主体的な社会参画の必要性が大きな課題となっている。そこで教科の役割について改めて考え、社会科指導の充実を図ることができるよう本科目では、次の事柄を遵守することを望む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 緊張感と集中力をもって受講する。</li> <li>2 質問、発表は積極的に行い、主体的に取り組む。</li> <li>3 欠席、遅刻、早退はしない。</li> <li>4 勝手な退席、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などは慎む。 教員は次のことを実行する。  <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。</li> <li>2 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。</li> <li>3 模擬授業、発表など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。</li> <li>4 受講者の質問には誠実に対応する。</li> </ol> </li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 講義概要の説明 社会科で求められる力とは グループづくり	事前学習	『学習指導要領解説 社会科編』の総説、改訂の要点を 通読する。
		事後学習	社会科で求められる力をまとめることができる。
第2回	社会科の授業づくり1 単元の学習過程プランニング	事前学習	プランニングのための単元を考えてくる。
		事後学習	各自選択した第5学年と第6学年の単元についての学習 過程を問題解決的な授業づくりの観点で考えることができる。
第3回	社会科の授業づくり2 学習指導案のつくり方	事前学習	学習指導案について、実習等で入手したものを持参する。
		事後学習	社会科における一般的な学習指導案の形式を理解する ことができる。
第4回	社会科の授業づくり3 社会科における指導技術 社会科における言語活動	事前学習	授業における指導法をまとめておく。
		事後学習	社会科における指導法、指導技術及び言語活動について まとめることができる。

第 5 回	社会科の授業づくり 4 学習指導案づくり 1	事前学習	学習指導案の対象となる単元、項目を考える。
		事後学習	導入からまとめまでの学習過程、評価、資料などを子どもの視点に立ってまとめることができる。
第 6 回	模擬授業 1 第 5 学年上「我が国の国土」 第 5 学年上「我が国の農業と水産業」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。 中間レポートを提出する。
第 7 回	模擬授業 2 第 5 学年下「我が国の工業生産」 第 5 学年下「情報化した社会」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。
第 8 回	模擬授業 3 第 6 学年上「縄文のくらしから室町文化」 第 6 学年上「戦国の世から戦後の日本」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。
第 9 回	模擬授業 4 第 6 学年下「我が国の政治の働き」 第 6 学年下「世界の中の日本の役割」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。
第 10 回	模擬授業の相互評価 模擬授業から生まれた課題等についての 意見交換	事前学習	模擬授業の評価をまとめておく。
		事後学習	これまで実践してきた模擬授業を振り返り、批評会を行う。また学習指導案のあり方をまとめることができる。
第 11 回	知識の構造図 1 知識の構造図とは	事前学習	知識の構造図について調べておく。
		事後学習	知識の構造図作成のねらいをまとめることができる。
第 12 回	知識の構造図 2 知識の構造図作り	事前学習	どこの単元、項目で知識の構造図を作成するのか考えておく。
		事後学習	知識の構造図を教科書等参考として作成することができる。 期末レポートを提出する。
第 13 回	問題解決的学習 1 問題の設定 予想、学習計画	事前学習	問題解決的学習の意義について調べておく。
		事後学習	問題解決的学習の導入時のあり方について考えることができる。
第 14 回	問題解決的学習 2 予想と学習計画 調べ学習とまとめ	事前学習	問題解決的学習の学習過程を調べておく。
		事後学習	問題解決的学習の展開、まとめのあり方について考えることができる。
第 15 回	社会科指導のまとめ 新学習指導要領への展望 講義のまとめ	事前学習	中教審の動向を調べておく。
		事後学習	審議中の新学習指導要領の動向を知ることができる。 講義をまとめることができる。

1. 科目名 (単位数)	社会的養護 (2 単位)		3. 科目番号	JCNT2416 JNNT1416
2. 授業担当教員	中嶋 一郎			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、平成 24 年公布の関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。			
8. 学習目標	1.社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 2.児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 3.施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。 4.社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	15回の授業内で、社会福祉への問題意識を高め、主体的な学習が出来るように予習を兼ねたアサイメントと、問題へ及び考察を表現するためのレポート課題を行う。 第 1 回の授業開始までに「社会的養護の理念と概念」について調べてまとめたレポートを作成しておくことを強く望む。(字数は任意)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】なし			
11. 成績評価の方法	成績評価については、毎回主体的に学習しているか、積極的に質問をしているか、学習の成果が出るよう努力しているかとその結果を評価します。 日常の授業態度 (発表、質問は加点、欠席、私語等は減点) 45%、レポート 55%。			
12. 受講生へのメッセージ	携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) 授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 (以下、加点の対象) 他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷① 社会的養護の理念と概念	事前学習	社会的養護の理念と概念について調べてまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践を行う際の規範との関連を説明出来るようにする。	
第 2 回	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷② 社会的養護の歴史の変遷	事前学習	社会的養護の歴史上で起きた出来事の一つまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	社会的養護の歴史について理解し、説明出来るようにする。	
第 3 回	社会的養護と児童家庭福祉① 児童家庭福祉と社会的養護の関係性	事前学習	児童家庭福祉の支援における重要なポイントをまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	社会的養護における児童家庭福祉の在り方を理解し、説明出来るようにする。	
第 4 回	社会的養護と児童家庭福祉② 児童の権利擁護と社会的養護	事前学習	児童の有する権利についてまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	社会的養護における児童の権利の位置付けを理解し、説明出来るようにする。	
第 5 回	社会的養護の制度と実施体系① 社会的養護の制度と法体系	事前学習	社会的養護に関する法制度の一つ調べてまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	社会的養護を実施するための法体系と具体的な制度を理解し、説明出来るようにする。	
第 6 回	社会的養護の制度と実施体系② 社会的養護の仕組みと実施体制	事前学習	社会的養護に係る施設を一つ調べてまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	社会的養護の実施体制を理解し、実際の仕組みを説明出来るようにする。	
第 7 回	社会的養護の制度と実施体系③ 家庭養護と施設養護	事前学習	家庭養護と施設養護の特徴について調べてまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	家庭養護と施設養護の特徴を理解し、それぞれのメリット・デメリットを説明出来るようにする。	
第 8 回	社会的養護の制度と実施体系④ 社会的養護の専門職	事前学習	社会的養護に係る専門職を保育士以外で一つ調べてまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	社会的養護に係る専門職の特徴と業務内容を理解し、保育士との連携について説明出来るようにする。	

第 9 回	施設養護の実際① 施設養護の基本原理 施設養護の実際/養護系施設	事前学習	施設養護での基本原理をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	養護系施設で行われる業務内容と支援の実際を理解し、実践で活かせる知識を身に付ける。
第 10 回	施設養護の実際② 施設養護の実際/非行系施設・障害系施設	事前学習	障害系施設の種別を整理してまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	非行系施設、障害系施設で行われる業務内容と支援の実際を理解し、実践で活かせる知識を身に付ける。
第 11 回	施設養護の実際③ 施設養護とソーシャルワーク 施設等の運営管理 記録の作成の留意点と自己評価の視点	事前学習	ソーシャルワークという言葉の意味を調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	施設養護にかかる支援方法、及び記録の仕方等の具体的業務を理解する。
第 12 回	社会的養護の課題と展望① 生活単位の小規模化とケア体制	事前学習	社会的養護におけるケア体制の具体例を調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護の支援において子どもの権利を保障するために必要なケア体制を理解し、説明出来るようにする。
第 13 回	社会的養護の課題と展望② 社会的養護の担い手のケアの必要性	事前学習	社会的養護の施設に従事する職員が抱える問題についてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護に従事する職員の実態を理解し、そのような状態に自身が置かれた時の対処方法を考察する。
第 14 回	社会的養護の課題と展望③ 社会的養護の展望	事前学習	社会的養護に今後求められる課題を一つ調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護が今後抱える課題を整理し、その対応策を考察する。
第 15 回	まとめ 保育士として社会的養護にどのように関わりたいのか	事前学習	保育士として社会的養護に係る施設で働くとしたら自身はどのような施設で働いてみたいのか、具体的な施設の種別とその理由をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育士として働いてみたい施設に関する知識とその理由を説明出来るようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会的養護内容 (2 単位)	3. 科目番号	JCNT2417
2. 授業担当教員	中嶋 一郎	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	「社会的養護」を履修してから履修することが望ましい。		
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育士実践に必要な知識・技能を学習するものである。 具体的には、子どもと家族に対応する「専門的な支援者」である保育士として、社会的養護、施設が目指そうとしている方向性と施設における家族、子どもへの支援の在り方を「子どもの最善の利益」という視点から理解するため、保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用に関して具体的な事例を交えて学ぶ。これらを通じて実習に向けた準備等ができるようにする。		
8. 学習目標	1.児童福祉施設における養護の意義を理解し、専門的な支援者としての保育士に必要な認識を身につける。 2.子どもの成長・発達に果たす養護の意義について学習し、保育士としての役割感覚を身につける。 3.子どもの最善の利益を意識した支援の実践方法を身につける。 3.社会的養護に関わる施設の事例分析を行い、利用者理解と事例への洞察力、支援の視点を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	15回の授業内で、社会福祉への問題意識を高め、主体的な学習ができるように予習を兼ねたアサイメントと、問題へ及び考察を表現するためのレポート課題を行う。 第1回の授業開始までに「児童の有する権利」についてまとめたレポートを作成しておくことを強く望む。(字数は任意)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 吉田眞理(編著)『児童の福祉を支える 演習 社会的養護内容』萌文書林、2011。		
11. 成績評価の方法	成績評価については、毎回主体的に学習しているか、積極的に質問をしているか、学習の成果が出るよう努力しているかとその結果を評価します。 日常の授業態度 (発表、質問は加点、欠席、私語等は減点) 45%、レポート 55%。		
12. 受講生へのメッセージ	携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) 授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 (以下、加点の対象) 他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務① 児童の権利擁護(1)	事前学習	児童の有する権利についてまとめたレポートを作成しておく。テキスト p.11、p.20 の事例を熟読しておく。
		事後学習	子どもの最善の利益を踏まえた支援の具体例を考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第2回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務② 児童の権利擁護(2)	事前学習	テキスト p.23、p.32、p.37、p.44 の事例を熟読しておく。
		事後学習	子どもの最善の利益を踏まえた支援の具体例を考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第3回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務③ 保育士等の倫理及び責務	事前学習	テキスト p.56「全国児童養護施設協議会倫理綱領」をまとめたレポートを作成しておく。 テキスト p.47、p.57 の事例を熟読しておく。
		事後学習	保育士としての資質と倫理について理解し、バーンアウトを起ささないための職員間の支援について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第4回	施設養護の特性及び実際① 児童養護の体系と児童福祉施設の概要	事前学習	児童養護施設の体系と概要についてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	児童養護にかかるサービスの種類、及び連携、利用までの手続きを理解し、説明することが出来る。
第5回	施設養護の特性及び実際② 日常生活支援と諸施設の暮らし(1)	事前学習	テキスト p.67、p.72、p.75、p.81、p.84 の事例を熟読しておく。
		事後学習	児童養護施設、乳児院、母子支援施設での支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第6回	施設養護の特性及び実際③ 日常生活支援と諸施設の暮らし(2)	事前学習	テキスト p.87、p.94、p.97、p.100、p.107、p.110 の事例を熟読しておく。
		事後学習	医療型障害児入所施設、児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設での支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第7回	施設養護の特性及び実際④ 日常生活支援と諸施設の暮らし(3)	事前学習	テキスト p.113、p.120、p.128 の事例を熟読しておく。
		事後学習	福祉型障害児入所施設、里親制度に係る支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。

第 8 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向① 保育士の業務、虐待された子どもへの支援	事前学習	入所型社会的養護施設のうち、任意で選択した一つの施設についての業務内容をまとめたレポートを作成しておく。 テキスト p.141 の事例を熟読しておく。
		事後学習	虐待を受けてきた子どもの支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 9 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向② 虐待への対応、子どもと家族への支援	事前学習	テキスト p.151、p.154 の事例を熟読しておく。
		事後学習	施設内の体罰に係る支援、子どもと家庭への支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 10 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向③ 児童相談所の連携、虐待した家族への支援	事前学習	テキスト p.164、p.167 の事例を熟読しておく。
		事後学習	児童相談所との連携に係る支援、虐待した家族への支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 11 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向④ ソーシャルワークの技術活用、アドミッシェンケア	事前学習	テキスト p.167、p.175 の事例を熟読しておく。
		事後学習	入所から退所後に至る支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 12 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向⑤ リビングケア、アフターケア	事前学習	テキスト p.188、p.197 の事例を熟読しておく。
		事後学習	入所から退所後に至る支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 13 回	今後の課題と展望① 施設の小規模化と地域連携	事前学習	テキスト p.208 の事例を熟読しておく。
		事後学習	グループホームにおける個別ケアに関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 14 回	今後の課題と展望② 施設の小規模化と地域連携	事前学習	テキスト p.211、p.220 の事例を熟読しておく。
		事後学習	地域とのかかわり、地域と施設の関係に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 15 回	まとめ 社会的養護の施設で働くということ	事前学習	今までの授業で印象に残った事例の一つあげて、なぜ印象に残ったのかという理由をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育士として働いてみたい施設に関する知識とそこでの支援に関する留意点をまとめて説明出来る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	小学校教育実習指導 (1 単位)		3. 科目番号	JCEL2435						
2. 授業担当教員	福島 裕									
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	3年次に履修する。(こども学科は2年次に履修)									
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。</li> <li>2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。</li> <li>3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。</li> <li>4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。</li> </ol>									
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>○それぞれの教科の指導法で学習した成果を生かし、さらに工夫・改善した学習指導案(国語、算数)を作成し提出すること。</p> <p>○観察評価表や自己評価表を作成・提出する。</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○東京福祉大学編「教育実習の手引き」(2015年版)</p> <p>○文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編、国語編、算数編』東洋館出版社(平成20年発行)</p>									
11. 成績評価の方法	<p>○受講態度、学習指導案の作成、模擬授業、自己評価表を総合して評価する。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 国語、算数の指導案作成・提出</td> <td style="text-align: right;">総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 模擬授業の実施</td> <td style="text-align: right;">総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>3 観察評価表・自己評価表等の作成・提出</td> <td style="text-align: right;">総合点の 20%</td> </tr> </table> <p>なお、ア、履修要項「授業について」の「7単位の認定」により、授業時数の4分の3以上(15回中12回以上)の出席を満たさない場合は単位を認定しない。</p> <p>イ、授業態度の悪い学生は減点します。また、指導後の改善が見られない場合はF評価になることもある。</p>				1 国語、算数の指導案作成・提出	総合点の 40%	2 模擬授業の実施	総合点の 40%	3 観察評価表・自己評価表等の作成・提出	総合点の 20%
1 国語、算数の指導案作成・提出	総合点の 40%									
2 模擬授業の実施	総合点の 40%									
3 観察評価表・自己評価表等の作成・提出	総合点の 20%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>○充実した教育実習を行うために、児童の視点を大切にしながら多面的な教材研究と多様な学習過程を理解し、実践できるようにします。そのためにも、受講生の皆さんに以下のことを望みます。</p> <p>ア 事前学習を重視し、十分に準備して授業に臨む。</p> <p>イ 言葉を大切に、豊かな表情、明確な言葉遣いを身につける。</p> <p>ウ それぞれの教材が児童にとってどういう意味を持っているか、常に考える習慣を身につける。</p> <p>エ 教材作成、発問・板書等の指導方法や指導技術を生かし模擬授業に取り組むこと。</p> <p>オ 社会人としての教養や資質を高める努力をすること。</p> <p>例 豊かな知識と深い考え方ができるようにするとともに、教材研究を深め、児童の発達段階に即した教材づくりに心がける。</p>									
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション、教育実習の意義・目的、概要について	事前学習	教科書、ノート、資料整理用ファイル等の準備をしておく。							
		事後学習	「手引き」の実習の意義・目的、概要等の重要事項を整理しまとめる。							
第2回	小学校教育の概要について 小学校の教育課程の実際 学校の組織、小学校教師の1日	事前学習	小学習指導要領解説「総則編」P99～P111を読み、内容を把握する。							
		事後学習	小学校教育に関わる法規の内容を整理して要点をまとめる。							
第3回	模擬授業Ⅰ(国語) 学習指導案の作成① 一般的な指導案形式 指導案「国語」参考例の分析	事前学習	参考例の本時の部分をよく読み、一般的な指導案の内容を理解しておく。							
		事後学習	分析した内容について、重要点を確認しノートに整理しておく。							
第4回	模擬授業Ⅰ(国語) 学習指導案の作成③ 指導案「国語」展開案の作成	事前学習	展開案作成の要点を理解し、指導案に記載する必要項目をノートに整理しておく。							
		事後学習	作成した部分の展開案をグループ毎に話し合い、改善点を修正する。							
第5回	模擬授業Ⅰ(国語) 学習指導案の作成④ 指導案「国語」展開案の完成・提出	事前学習	展開案の未完了の部分について、一人一人の考えを整理しまとめておく。							
		事後学習	完成した展開案を、グループで最終チェックを行い、模擬授業に備える。							
第6回	模擬授業の実施① 観察、評価	事前学習	授業のシナリオをつくり、学習資料の準備、発問、板書計画等を整理をしておく。							
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や課題等をノートにまとめる。							
第7回	模擬授業の実施② 観察、評価	事前学習	先行実践の課題を生かしたシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。							
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等を							

			ノートにまとめる。
第 8 回	模擬授業の実施③ 観察、評価	事前学習	これまでの授業実践を生かしたシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。
第 9 回	模擬授業Ⅱ(算数) 学習指導案の作成① 指導案「算数」 展開案の作成	事前学習	算数科指導法で学習した指導案作成について、理解している事柄を再確認しておく
		事後学習	作成した部分の展開案について、グループで話し合ったことをもとに修正をしておく。
第 10 回	模擬授業Ⅱ(算数) 学習指導案の作成② 指導案「算数」 展開案の完成・提出	事前学習	展開案の未完成部分について、自分の考えや指導のアイデア等をノートにまとめる。
		事後学習	完成した展開案を、グループで最終チェックを行い模擬授業に備える。
第 11 回	模擬授業の実施① 観察、評価	事前学習	授業のシナリオをつくり、各種資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の改善点等をノートにまとめる。
第 12 回	模擬授業の実施② 観察、評価	事前学習	前回の実践上の課題を反映させた授業のシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。
第 13 回	模擬授業の実施③ 観察、評価	事前学習	これまで課題を解決するために講じた手立てを生かしたシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題解決に向けて取り組むことをノートにまとめる。
第 14 回	教育実習直前の準備① 実習日誌の書き方、実習録の書き方、 参考例をもとに作成する	事前学習	教科書『教育実習の手引き』の該当箇所の概要を把握し、不明なことや疑問点を整理しておく。
		事後学習	実習日誌を記述するうえでの重要なポイントを理解し、記録できるようにする。
第 15 回	教育実習直前の準備② 礼儀・マナー、服装・持ち物、 実習最終日のこと等 学習のまとめ	事前学習	教科書『教育実習の手引き』の該当箇所の概要を把握し、不明な点や質問事項を整理しておく。
		事後学習	教育実習の重要な点である「礼儀・マナー、服装・持ち物、実習最終日のこと」等についてその意味を理解し、確実に身に付けるようにする。

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2 単位)	3. 科目番号	JEGC1204 JNGC1204
2. 授業担当教員	高木 俊彦		
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>		
8. 学習目標	<p>1 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>3 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。</p> <p>4 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	非行事例に関するアセスメントや処遇方針の作成等を中心とするレポートの作成・提出。		
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b> 伊藤富士江編著『司法福祉入門』第2版増補 上智大学出版発行、(株)ぎょうせい製作・発売。 講師作成の資料</p> <p><b>【参考書】</b> 小林寿一編著『少年非行の行動科学』北大路書房。 松本勝編著『更生保護入門』成文堂。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・日常の授業態度(授業への積極的参加度、私語の有無、グループ討議への参加度)・・・40%</p> <p>・研究課題への回答・レポート・小テスト等(受講生が多い場合は授業期間終了後に期末試験を行う)・・・60%</p> <p>を評価配分の基準とするが、以上を総合して行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>1 常に新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどマスメディアに関心を寄せ、社会事象である少年非行の問題について考える習慣を身に付けること。</p> <p>2 全員が授業に集中すること。私語、携帯電話・スマホ等ON、ゲーム、飲食、中抜け、居眠りなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。</p>		
13. オフィスアワー	初回の授業開始時(初回授業)に担当教員からお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション及び少年非行・犯罪に対する基礎知識の確認(刑罰や犯罪・非行対策の歴史を含む)	事前学習	犯罪や非行に関する自分自身の知識を想起し、整理しておく。
		事後学習	オリエンテーション及び少年非行・犯罪に対する基礎知識について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第2回	少年非行の定義、非行少年に対する手続きの流れと少年非行の最近の動向	事前学習	テキスト pp.3~36 を精読のこと。
		事後学習	少年非行の定義、非行少年に対する手続きの流れと少年非行の最近の動向について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第3回	少年非行の原因と説明理論(非行原因論等)	事前学習	犯罪や非行の原因について文献等を調べるとともに、自分自身の考えを整理しておくこと。
		事後学習	非行原因論等について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第4回	少年非行の諸相① 凶悪・粗暴な非行	事前学習	凶悪・粗暴な非行の例を各自1例調べ、整理しておくこと。
		事後学習	凶悪・粗暴な非行について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第5回	少年非行の諸相② 暴走族など非行集団	事前学習	暴走族や地域不良集団などの非行集団の現状について調べ、整理しておくこと。
		事後学習	暴走族や地域不良集団などについて、学んだことを学習ノートにまとめる。
第6回	少年非行の諸相③ 女子非行、性非行、ネット犯罪	事前学習	女子非行、性非行、ネット犯罪についての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	女子非行、性非行、ネット犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる。

第 7 回	少年非行の諸相④ いじめ、学校内暴力、家庭内暴力（ストローク理論）	事前学習	いじめ、学校内暴力、家庭内暴力についての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	いじめ、学校内暴力、家庭内暴力、ストローク理論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 8 回	少年非行の諸相⑤ 万引き、薬物非行、交通非行	事前学習	万引き、薬物非行、交通非行についての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	万引き、薬物非行、交通非行について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 9 回	虐待や暴力にみる被害から加害への転化と暴力の連鎖 一事例研究	事前学習	虐待、DVについての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	虐待、DV、暴力の連鎖について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 10 回	非行を未然に防止する活動（地域の非行防止活動と警察における少年相談）	事前学習	テキスト pp.103～125 を精読のこと。
		事後学習	警察などにおける非行を未然に防止する活動について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 11 回	少年事件の法的手続き—家庭裁判所	事前学習	テキスト pp.3～99 を精読のこと。
		事後学習	家庭裁判所について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 12 回	非行少年の処遇① 児童相談所と少年鑑別所	事前学習	テキスト pp.128～155 を精読のこと
		事後学習	児童相談所と少年鑑別所について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 13 回	非行少年の処遇② 少年院	事前学習	テキスト pp.159～182 を精読のこと。
		事後学習	少年院について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 14 回	非行少年の処遇③ 保護観察所（少年に対する処遇施策、保護司との協働態勢等）—ビデオ視聴—	事前学習	テキスト pp.202～278 を精読のこと。
		事後学習	保護観察所（少年に対する処遇施策、保護司との協働態勢等）について学んだこと、及びビデオ視聴の感想を学習ノートにまとめる。
第 15 回	犯罪・非行の被害者支援	事前学習	テキスト pp.281～312 を精読のこと。
		事後学習	犯罪・非行の被害者支援について、学んだことを学習ノートにまとめる。
期末試験（受講生が多い場合は授業期間終了後に期末試験を行う）			

1. 科目名 (単位数)	情報機器の操作 I (2 単位)		3. 科目番号	JEGL1101 JNGL1101
2. 授業担当教員	森 正人			
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	現代社会において、情報機器操作の習得は必須である。この講義では、ワードプロセッサや表計算ソフトの利用法やインターネットでの情報収集、電子メールを習得する。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ワードプロセッサや表計算ソフトウェアを用いて、課題の作成をし、その提出を求める。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft Office 2010 を使った情報リテラシーの基礎』 近代科学社。			
11. 成績評価の方法	受講姿勢 40%、演習・課題提出 20%、期末試験 40%			
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の社会生活においてコンピュータを避けて通るのは難しいのが現状です。どうせ付き合わざるを得ないのであれば、むしろ便利に使いこなしてみましよう。</li> <li>・私が提供する話題以外でも、普段、皆さんがコンピュータに関して疑問に思っていることがあれば、どんどん質問してください。</li> </ul>			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義概要、コンピュータ操作習熟度アンケート、 基本的な用語等の確認	事前学習	教科書の第 1 章 (1.2 項以外) を読んでおく	
		事後学習	基本的な語句等を確認し、覚える	
第 2 回	解説 OS (Windows) の基本、操作法	事前学習	教科書の第 2 章を読んでおく	
		事後学習	基本的な語句等を確認し、基本操作を練習しておく	
第 3 回	コンピュータネットワークとインターネット	事前学習	配布資料をよんでおく	
		事後学習	基本的な語句と概念を確認しておく	
第 4 回	WWW と Web 検索	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	基本的な操作を練習しておく	
第 5 回	電子メールの使い方	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	基本的な操作を練習しておく	
第 6 回	ワードプロセッサ (1: 基本概念・操作)	事前学習	教科書 3.1 項を読んでおく	
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習	
第 7 回	ワードプロセッサ (2: 書式設定等)	事前学習	教科書 3.2 項を読んでおく	
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習	
第 8 回	ワードプロセッサ (3: 図などの取り扱い)	事前学習	教科書 3.5 項を読んでおく	
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習	
第 9 回	ワードプロセッサ (4: 総合演習)	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める	
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する	
第 10 回	表計算ソフト (1: 基本概念。操作)	事前学習	教科書 4.2~4.3 項を読んでおく	
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習	
第 11 回	表計算ソフト (2: 書式設定等)	事前学習	教科書 4.4~4.5 項を読んでおく	
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習	
第 12 回	表計算ソフト (3: 関数の取り扱い)	事前学習	教科書 4.6 項を読んでおく	
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習	
第 13 回	表計算ソフト (4: 総合演習)	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める	
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する	
第 14 回	著作権問題	事前学習	著作権の基本的な概念と語句を確認しておく	
		事後学習	配布資料を読んでおく	
第 15 回	個人情報の取り扱い	事前学習	個人情報の基本概念と身近な個人情報に関して検討を行う	
		事後学習	著作権の基本的な概念と語句を確認しておく	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	情報機器の操作Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	JCGL3302						
2. 授業担当教員	森 正人									
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	<p>保育士や教員は、様々な場面で、写真や画像、音声等を取り扱います。現在では、これらの多くをコンピュータ上で処理する機会が増えていますが、上手に取り扱えない人も少なくありません。</p> <p>本講義では、様々なマルチメディア素材の取り扱いに関する基礎知識と、技能を学習すると共に、他者の作成した素材を活用する上で、避けては通れない著作権に関する基礎事項を学ぶ。さらに、これらの学習成果を踏まえた上で、プレゼンテーションにおける活用に関する学習を行う。</p>									
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ上での、画像や音声の取り扱いに関する基礎知識・技能の習得</li> <li>・著作権に関する基礎知識の習得</li> <li>・プレゼンテーションの基礎事項の理解・習得</li> </ul>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像処理、音声処理の演習成果作品の提出を求める。</li> <li>・実際にプレゼンテーションを行い、これを提出物として取り扱う。</li> </ul>									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft Office 2010を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>受講姿勢</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>演習・課題提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>				受講姿勢	40%	演習・課題提出	20%	期末試験	40%
受講姿勢	40%									
演習・課題提出	20%									
期末試験	40%									
12. 受講生への メッセージ	<p>パソコンやインターネットの普及および高機能化により、一般の人々も、様々なマルチメディア素材を扱う機会が増えていますが、より上手く使うためには、基礎的な理論などの学習は不可欠です。少々、堅い話も出てきますが、若い内に身につけてしまいましょう。</p>									
13. オフィスアワー	別途通知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	講義概要、ガイダンス等	事前学習	高校の教科書や、ネット上の情報を参考に、自分の携帯電話やカメラの機能に関して調べてみる							
		事後学習	基本的な語句等を確認し、覚える							
第 2 回	画像処理 (1) 描画ソフトの活用	事前学習	配布資料を読んでおく							
		事後学習	演習ファイルの作成							
第 3 回	画像処理 (2) 画像処理ソフトの活用 (写真など)	事前学習	配布資料を読んでおく							
		事後学習	演習ファイルの作成							
第 4 回	画像処理 (3) 総合演習	事前学習	前時までの操作を復習しておく							
		事後学習	演習ファイルの作成							
第 5 回	デジタルカメラ等の周辺機器の取り扱い	事前学習	自分のカメラ等の説明書を準備							
		事後学習	操作を復習しておく							
第 6 回	音声データ処理 (1) 音声データとコンピュータのファイル	事前学習	配布資料を読んでおく							
		事後学習	演習ファイルの作成							
第 7 回	音声データ処理 (2) 音声データの加工	事前学習	配布資料を読んでおく							
		事後学習	演習ファイルの作成							
第 8 回	プレゼンテーションソフト (1) 基本操作	事前学習	教科書 5.1～5.4 項を読んでおく							
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく							
第 9 回	プレゼンテーションソフト (2) 画像・音声・アニメーションなどの貼り付け	事前学習	教科書 5.5 項を読んでおく							
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく							
第 10 回	プレゼンテーションソフト (3) 効果的なプレゼンテーションの基礎知識	事前学習	教科書 5.6～5.8 項を読んでおく							
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく							
第 11 回	総合演習 (1) 自己プレゼンテーションファイルの作成	事前学習	前時までの内容に習熟しておく							
		事後学習	演習ファイルを作成							
第 12 回	総合演習 (2) 自己プレゼンテーションファイルの作成	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める							
		事後学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める							
第 13 回	総合演習 (3) 自己プレゼンテーションファイルの作成	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める							
		事後学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める							
第 14 回	プレゼンテーション実践 (1)	事前学習	プレゼンテーションの準備をしておく							
		事後学習	指摘事項を参考にプレゼンテーションの改良を行う							
第 15 回	プレゼンテーション実践 (2)	事前学習	プレゼンテーションの準備をしておく							
		事後学習	指摘事項を参考にプレゼンテーションの改良を行う							
期末試験										

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (こどもの人権を含む) (2 単位)		3. 科目番号	JCGC3101
2. 授業担当教員	福島 裕		5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等			
6. 履修条件・他科目との関係	保育児童学科は1年次、こども教育保育専攻は3年次に履修する。			
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>○担当グループは、該当箇所(計画表に沿って事前に指示)の重要点や課題をまとめた提案用紙を事前に提出し検討してもらうこと。</p> <p>○毎時間、グループ討議後、「ディスカッションカード」を整理・まとめをしてリーダーが提出すること。</p> <p>○レポート課題「学習した人権課題のうち、自分が最も重要と考えた人権課題を一つ取り上げ、その課題の問題点と解決についての考えを述べなさい。」</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○中野光・小笠毅編著『ハンドブック 子どもの権利条約』岩波書店、2014年。</p> <p>○中野睦夫編著『早わかり人権教育小事典』明治図書、2003年。</p> <p>【参考書】</p> <p>○法務省・文部科学省編 平成27年版『人権教育・啓発白書』勝美印刷株式会社。</p>			
11. 成績評価の方法	1. グループ提案用紙の内容・発表態度	総点の 30%		
	2. グループ討議・発表の様子	総点の 20%		
	3. ディスカッションカードの内容	総点の 30%		
	4. 課題レポート等	総点の 20%		
	5 履修要項「授業について」の「7.単位の認定」により、授業時間数の4分の3以上(15回中12回以上)の出席を満たさない場合は単位を認定しない。			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目で目指す人間尊重の精神の涵養は、人間性育成の根幹に関わるものである。人間尊重の理念は国民の中で共有され、さらに基本的人権を尊重する社会の構築が望まれている。しかし、急速に進む情報化や国際化の中で、新たな人権問題も生起している。ここでは「女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々」等の人権問題を具体的に取り上げ、理解を深め課題を明らかにするとともに「互いを理解して尊重する社会」を築く能力を高めるようにする。</p>			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 「人権教育」のねらい・学習内容、学習予定表・授業形態の説明	事前学習	教科書、参考書を確認し、目次等に目を通し、これから学ぶ内容の全体像を把握しておく。	
		事後学習	オリエンテーションの内容を振り返り、人権教育のねらいや学習する内容、学習の仕方を理解する。	
第2回	「人権教育及び人権啓発に関する法律」及び「人権教育・啓発に関する基本計画」の理解	事前学習	内閣府がまとめた国の人権啓発の現状等を諸資料で調べておく。	
		事後学習	人権教育及び人権啓発に関する法律や基本計画の内容を理解する。	
第3回	グループ編成・グループ学習の方法、わが国の人権問題の現状と課題、導入ビデオの視聴	事前学習	特に、日本の人権問題の現状と課題について整理しておく。	
		事後学習	我が国の人権問題の課題及びグループ学習の仕方について理解しておく。	
第4回	主として女性に関する課題① (男女差別、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント)、	事前学習	女性の人権に関する課題について、関連する資料を調べておく。	
		事後学習	セクハラや男女差別の問題点や解決に向けての課題等を整理する。	
第5回	主として女性に関する課題② (ドメスティックバイオレンス等)	事前学習	DVに関する現状について教科書を読み、関連する資料を調べておく。	
		事後学習	DVの課題と解決の方向性について復習し、理解を深めてお	

			く。
第 6 回	主として子どもに関する課題① (児童の最善の利益と体罰、いじめ、暴力行為、不登校)	事前学習	体罰、いじめ、暴力行為、不登校について教科書や関連する資料を調べておく。
		事後学習	いじめ問題の本質と、その解決に向けての取り組みや、今後の課題について理解を深めておく。
第 7 回	主として子どもに関する課題② (児童の最善の利益と児童虐待、児童買春・児童ポルノ等について)	事前学習	児童虐待の問題について教科書や関連する資料を調べ実態を把握しておく。
		事後学習	児童虐待、児童買春・児童ポルノの問題点とその解決への取り組みについて理解を深めておく。
第 8 回	主として高齢者に関する課題 (家庭・施設における身体的・心理的虐待等)	事前学習	高齢者に関する課題について教科書や関連する資料を調べておく。
		事後学習	高齢者虐待の問題点とその解決に向けての取り組みや課題について理解を深めておく。
第 9 回	主として障害児・障害者に関する問題 (障害児保育・教育、障害者の人権)	事前学習	障害者に関する人権上の課題について教科書や関連資料から調べておく。
		事後学習	障害児・障害者の問題点と、解決に向けての課題について理解を深めておく。
第 10 回	主として同和問題に関する課題① (差別問題、差別発言等の実態等)	事前学習	同和問題の現状と課題について教科書及び関連資料をもとに把握しておく。
		事後学習	同和問題の現状と課題について理解を深めるとともに解消に向けての取り組みを知る。
第 11 回	主として同和問題に関する課題② (同和問題のまとめ等)	事前学習	同和問題を解消するための様々な取り組みについて関連資料を調べ把握しておく。
		事後学習	同和問題を解決するための取り組みについての成果と、これからの課題について考えをまとめ理解を深める。
第 12 回	主としてアイヌの人々、外国人に関する課題	事前学習	アイヌの人々や外国人に関する人権上の課題について、関連資料をもとに調べておく。
		事後学習	アイヌの人々、外国人に関する課題と解決に向けての問題点について理解を深める。
第 13 回	主として刑を終えて出所した人、犯罪被害者等、インターネットによる人権侵害、北朝鮮によって拉致された被害者等に関する課題	事前学習	刑を終えて出所した人、犯罪被害者、インターネットによる人権侵害、北朝鮮による拉致被害者等に関する人権上の課題について、教科書や関連する資料を調べ、整理しておく。
		事後学習	それぞれの人権問題の現状と課題を理解し、さらに解決に向けての取り組みと問題点について理解を深める。
第 14 回	学校における人権教育の実際 (同和問題、いじめ問題等への対応)	事前学習	小中高等学校で受けてきた人権教育の概要を想起し、整理しておく。
		事後学習	学校教育における人権教育の推進状況と課題について理解を深める。
第 15 回	他の人権課題に関する啓発ビデオの視聴、まとめとしてのレポート作成・提出	事前学習	教科書の内容や配布された資料、グループ討議の内容等から、人権課題について整理しておく。
		事後学習	自己の人権課題は何かを考え、今後人権上の課題にどのように向き合っていくかについて、読み手に伝わるようにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (2 単位)		3. 科目番号	JNNT1114
2. 授業担当教員	井上 昌樹			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作 I → 図画工作 II の履修が望ましい			
7. 講義概要	乳・幼児の造形の特徴および幼児教育における造形活動の役割を理解することを目的とする。また、具体的な素材体験や題材研究を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざす。併せて、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育成する。			
8. 学習目標	1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特色について理解できる。 2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考案することができる。 3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができる。 4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたらかせることができる。 5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できるようにする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 ポートフォリオの作成と提出 2 【レポート課題①】美術館鑑賞レポート：美術館で開催中の展覧会を鑑賞し、自身の鑑賞体験をレポートにまとめる。...1500 字程度。 【レポート課題②】課題②についてはセメスターの中間で説明する。 ※いずれの課題も授業の中で詳細を説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】横 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。 文部科学省『平成 20 年告示 幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 文部科学省『平成 26 年告示 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。 【参考書】「新 幼児と保育」編集部『子どもとアート』小学館。 谷田貝公昭監修、おかもとみわこほか編著『新・保育内容シリーズ 6 造形表現』一藝社。 【教材・道具など】各自で準備が必要なのは事前に通知する。			
11. 成績評価の方法	授業への取り組み (グループワークではグループと個人の両方)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。 授業への取り組み・態度 30%、ポートフォリオ 40%、レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	現代の情報化が進化した社会環境において子どもの実体験不足が叫ばれています。幼少期における多様な素材体験や造形体験が子どもの豊かな人間的成長を促してくれます。この授業では、様々な造形体験を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざすとともに、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育みます。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 幼児の造形を学ぶとは、保育者の役割とは	事前学習	・テキスト第 1 章を読む	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	
第 2 回	イントロダクション 「ゆびで会おう」－幼児の造形世界をのぞいてみる	事前学習	・テキスト第 2 章を読む	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	
第 3 回	点・線・面×いろいろ×イメージ－子どもの絵の世界 点・線・面×いろいろ×リズム－からだの動きを生かして	事前学習	・テキスト第 4 章を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 4 回	点・線・面×ことば－オノマトベという・かたち	事前学習	・テキスト pp.33-34 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 5 回	版であらわす表現の特徴の理解と演習 「プリント実験工房」	事前学習	・テキスト pp.42-44 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 6 回	版であらわす表現の演習とプレゼンテーション	事前学習	・身近な素材で版になりそうなものを 3 つ探して持参する	
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる	
第 7 回	手ざわりをたのしむ造形活動－粉から〇〇へ (演習)	事前学習	・手ざわりが異なる物を 5 つ探して持参する	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 8 回	粘土の造形遊びと表現活動 (演習)	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 9 回	新聞紙を「つなぐ」造形遊びの体験 (演習)	事前学習	・新聞紙でどのような遊びや加工ができそうか 3 つ考えてくる	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 10 回	身近な材料 (紙箱・紙コップ・プラスチック容器など) を「ならべる」「くみだてる」遊びの体験 (演習)	事前学習	・テキスト pp.55-56	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 11 回	アールブリュットの世界 I 子どもの絵をみる 対話型鑑賞による演習 (演習)	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 12 回	造形物とこどもの学び、保育空間の関係性について (講義)「遊び×学びを引き出す造形物」の企画・構想 (グループ学習)	事前学習	・事前調査 (※テーマは第 11 回で発表)	
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる	
第 13 回	画材及び素材の特徴の確認と試行、制作 (グループ学習)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと	
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる	
第 14 回	制作及びプレゼンテーションの準備 (グループ学習)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと	
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる	
第 15 回	プレゼンテーションと相互鑑賞、相互評価 授業のふりかえりとまとめ	事前学習	・発表の準備 ・全回のポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問点、理解が不十分な点を探してくる。	
		事後学習	【レポート課題】 ・ 9 で示したテーマに沿って 1500 字程度でまとめる。	

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (2 単位)		3. 科目番号	JENT1114
2. 授業担当教員	手塚 千尋			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	乳・幼児の造形の特徴および幼児教育における造形活動の役割を理解することを目的とする。また、具体的な素材体験や題材研究を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざす。併せて、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育成する。			
8. 学習目標	1.乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特徴について理解できる。 2.乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができる。 3.素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができる。 4.乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたらかせることができる。 5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できるようにする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1.ポートフォリオの作成 (毎時間) ※詳細は第1回オリエンテーションで説明する。 2. レポート課題「①講義を通して何を学んだのか、②幼児の造形活動でどのようなことを大切にしたいか」 1500字			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 横 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。 文部科学省『平成 20 年告示 幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 文部科学省『平成 26 年告示 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。 【参考書】「新 幼児と保育」編集部『子どもとアート』小学館。 谷田貝公昭監修、おかもとみわこほか編著『新・保育内容シリーズ 6 造形表現』一藝社。 【教材・道具など】 各自で準備が必要なものは事前に通知する。			
11. 成績評価の方法	授業への取り組み (グループワークではグループと個人の両方)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。 授業への取り組み・態度 30%, ポートフォリオ 40%, レポート 30%			
12. 受講生への メッセージ	幼児は目の前のモノやヒトに対し、からだ全体ではたらきかけることを通して自分が存在する「世界」について知覚し、認知していきます。つまり、幼児にとって造形活動は「探求」であり、学びの過程そのものを意味します。そのため保育者には、より創造的な想像力、学びを支援するための実践力が求められます。この授業では幼児の造形教育に関する基礎・基本について学びますが、造形表現活動に関する多くのヒントは日常生活に隠されています。自身の興味・関心の向上が造形教育や学習への大きな動機づけになることを理解して授業に臨むことを期待しています。また図画工作 I は、保育実践者として経験しておくべき最低限の内容で構成しています。併せて図画工作 II を選択することをお勧めします。 【注意事項】 ①必ず汚れてもよい服装で出席すること。 ②この授業では、ポートフォリオ＝自分の学習の過程の記録が評価の大半を占めます。制作過程や学習の記録 (記述、写真など) を忘れずにしましょう。 ③第 9 回で新聞紙を、第 10 回で空箱、プリンカップ、トイレトペーパーの芯を使うので普段の生活から収集しておいてください。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 幼児の造形を学ぶとは、保育者の役割とは	事前学習	・テキスト第 1 章を読む	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	
第 2 回	イントロダクション 「ゆびで会おう」ー幼児の造形世界をのぞいてみる	事前学習	・テキスト第 2 章を読む	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	
第 3 回	点・線・面×いろ×イメージー子どもの絵の世界 点・線・面×いろ×リズムーからだの動きを生かして	事前学習	・テキスト第 4 章を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 4 回	点・線・面×ことばーオノマトペという・かたち	事前学習	・テキスト pp.33-34 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 5 回	版であらわす表現の特徴の理解と演習 「プリント実験工房」	事前学習	・テキスト pp.42-44 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 6 回	版であらわす表現の演習とプレゼンテーション	事前学習	・身近な素材で版になりそうなものを 3 つ探して持参する	
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる	
第 7 回	手ざわりをたのしむ造形活動ー粉から〇〇へ (演習)	事前学習	・手ざわりが異なる物を 5 つ探して持参する	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 8 回	粘土の造形遊びと表現活動 (演習)	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 9 回	新聞紙を「つなぐ」造形遊びの体験 (演習)	事前学習	・新聞紙でどのような遊びや加工ができそうか 3 つ考えてくる	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	

第 10 回	身近な材料（紙箱・紙コップ・プラスチック容器など）を「ならべる」「くみたてる」遊びの体験（演習）	事前学習	・テキスト pp.55-56
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 11 回	アールブリュットの世界 I 子どもの絵をみる 対話型鑑賞による演習（演習）	事前学習	・事前配布資料を読む
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 12 回	造形物とこどもの学び、保育空間の関係性について （講義）「遊び≒学びを引き出す造形物」の企画・ 構想 （グループ学習）	事前学習	・事前調査 （※テーマは第 11 回で発表）
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 13 回	画材及び素材の特徴の確認と試行、制作 （グループ学習）	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 14 回	制作及びプレゼンテーションの準備 （グループ学習）	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 15 回	プレゼンテーションと相互鑑賞、相互評価 授業のふりかえりとまとめ	事前学習	・発表の準備 ・全回のポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問点、理解が不十分な点を探してくる。
		事後学習	【レポート課題】 ・9で示したテーマに沿って 1500 字程度でまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	JCNT2515
2. 授業担当教員	手塚 千尋		
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	図画工作Ⅰを踏まえ、より実践的な題材例に取り組むことを通して、幼児の造形の特徴および幼児教育における造形活動の役割を理解していくとともに、具体的な造形活動の展開について構想・実践することを通して、保育の実践力を高めていく。併せて、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育成する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特徴について理解できる。</li> <li>2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができる。</li> <li>3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができる。</li> <li>4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたらかせることができる。</li> <li>5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できるようにする。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポートフォリオの作成 (毎時間) ※詳細は第1回ガイダンスで説明する。</li> <li>2. 【レポート課題①】 「第 10 回～14 回の授業を通して気づいたこと、理解したことを具体的に示しながらまとめる (テーマは自由)」 1000 字 【レポート課題②】 「授業を通して何を学んだのか具体例を挙げながら感想を交えてまとめる」 1500 字</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 谷田貝公昭監修 おかもとみわこほか編著『新・保育内容シリーズ 6 造形表現』一藝社。 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。</p> <p>【参考書】 榎 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。 「新 幼児と保育」編集部『子どもとアート』小学館。 茂木一司・手塚千尋編集『色の学び辞典 全3巻』星の環会。</p> <p>【教材・道具など】 各自で準備が必要なものは事前に通知する</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への取り組み (課題物の提出、グループワークではグループと個人の両方)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。</p> <p>授業への取り組み (課題物の提出) 30%、ポートフォリオ 40%、レポート 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼児は目の前のモノやヒトに対し、からだ全体ではたらきかけることを通して自分が存在する「世界」について知覚し、認知していきます。つまり、幼児にとって造形活動は「探求」であり、学びの過程そのものを意味します。そのため保育者には、より創造的な想像力、学びを支援するための実践力が求められます。この授業では幼児の造形教育に関する基礎・基本について学びますが、造形表現活動に関する多くのヒントは日常生活に隠されています。自身の興味・関心の向上が造形教育や学習への大きな動機づけになることを理解して授業に臨むことを期待しています。</p> <p>【注意事項】 ①必ず汚れてもよい服装で出席すること。②この授業では、ポートフォリオ＝自分の学習の過程の記録が評価の大半を占めます。制作過程や学習の記録 (記述、写真など) を忘れずにしましょう。</p>		
13. オフィスアワー	その都度お知らせします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 幼児の造形表現の内容と表現活動を促す環境デザインについて	事前学習	・テキストを一通り確認しておく。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる
第 2 回	ひかり 1 自然光・人工光による造形遊び体験と遊びの構想① (実習)	事前学習	・「光」の特性についてまとめてくる
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 3 回	ひかり 2 自然光・人工光による造形遊び体験と遊びの構想② (実演+相互評価)	事前学習	・具体的な造形活動への展開を考えてくる
		事後学習	・相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる
第 4 回	かぜ 子どもの興味から出発する造形活動と遊びの構想	事前学習	・テキスト第 9 章を読む
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる
第 5 回	紙の可能性 1 「おしゃれな〇〇に大変身」—制作	事前学習	・「紙」の特性と行為性を 5 つ以上挙げてくる (キーワードで可)
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 6 回	紙の可能性 2 「おしゃれな〇〇に大変身」—制作・ファッションショー	事前学習	・課題を完成させる
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる
第 7 回	アール・ブリュットの世界 アート×福祉 (講義+ディスカッション)	事前学習	・事前配布資料を読んでまとめてくる
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる
第 8 回	幼児とアートプログラム 美術館、芸術士など幼児を取り巻くアート環境の最新動向について (講義+ディスカッション)	事前学習	・事前配布資料を読む
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる
第 9 回	「保育指導案」の作成	事前学習	・テキスト第 5 章を読む

		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる ・指導案を完成させる（後日提出）
第 10 回	お店屋さんごっこの学習環境デザイン 1 グループワークによる企画・実施に向けて の構想	事前学習	・テキスト第 11 章（特に pp.163~168）を読む
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 11 回	お店屋さんごっこの学習環境デザイン 2 グループワーク 準備（制作）	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 12 回	お店屋さんごっこの学習環境デザイン 3 グループワーク 準備（制作）	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 13 回	お店屋さんごっこの学習環境デザイン 4 グループワーク 準備（制作）	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 14 回	お店屋さんごっこプレゼンテーションと相 互評価	事前学習	発表（おみせやさんごっこ）とプレゼンの準備
		事後学習	・相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる 【レポート課題①】 「第 10 回～14 回の授業を通して気づいたこと、理解した ことを具体的に示しながらまとめる」1500 字
第 15 回	授業のまとめとふりかえり	事前学習	・全回のポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問 点、理解が不十分な点を探してくる。
		事後学習	【レポート課題②】 ・9 で示したテーマに沿って 1500 字程度でまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	JCEL2418
2. 授業担当教員	手塚 千尋		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。</li> <li>2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。</li> <li>3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。</li> <li>4. 図画工作科における評価の考え方と方法について学び、理解を深める。</li> <li>5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ポートフォリオの作成と提出 (詳細は授業中に説明する)</li> <li>2 【レポート課題①】造形遊びについての気づき、感想をポートフォリオにまとめる。1500字</li> <li>【レポート課題②】美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。500字～</li> <li>【レポート課題③】鑑賞活動についての気づき、感想をポートフォリオにまとめる。500字～</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】福田隆真 他編集『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。			
11. 成績評価の方法	授業への取り組み、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。 授業への取り組み40%、ポートフォリオ30%、レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	小学校に図画工作科専科の教員を配置している都道府県、市町村はごくわずかである。つまり、小学校教員のほとんどは図画工作科を指導することになる。図画工作 (美術) を苦手に行っている人も、そうでない人も、色やかたちによる表現と鑑賞による造形教育のよさを感じ、楽しみながら (子どもの気持ちになって!)、意味やコトを紡ぎだす教科特性を持つ図画工作科への理解を深めていきたい。併せて、実際に教育現場で指導することをイメージしながら受講することで実践者としての視点を獲得していきたい。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 授業の目的・概要及び評価について	事前学習	教科書を購入し、内容を一通り確認する。	
		事後学習	教科書と必要物品の購入をし、教科書を一通り確認する。	
第2回	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか① 【映像鑑賞+ディスカッション】	事前学習	「私の図画工作体験」をメモしてくること。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる	
第3回	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか② 【映像鑑賞+ディスカッション】	事前学習	学習指導要領解説 pp.6～8を読む	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第4回	図画工作科の内容概観 目標、教科内容、構成、教育的課題	事前学習	学習指導要領解説 pp.1～5、テキスト pp.2～5を読む	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる	
第5回	図画工作科の内容と教育的意義1 「造形遊び」について①—演習	事前学習	テキスト pp.58～65読む	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第6回	図画工作科の内容と教育的意義2 「造形遊び」について②—演習を基にした分析とディスカッション	事前学習	ワークシートで足りなかった箇所を充実させてくる。	
		事後学習	【レポート課題①】造形遊びについての気づき、感想をまとめる。1500字	
第7回	図画工作科の内容と教育的意義3 「絵や立体、工作で表す」について①—美術教育のマニュアル化を考える	事前学習	テキスト pp.179～180を読む。	
		事後学習	【レポート課題②】美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。500字	
第8回	図画工作科の内容と教育的意義4 「絵や立体、工作で表す」について②—演習を通じた授業展開の構想	事前学習	テキスト pp.59～70を読む	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる	
第9回	図画工作科の内容と教育的意義5 A 表現と B 鑑賞の関連性を考える—ワークシートとメディア機器を活用した鑑賞	事前学習	テキスト p.130を読む	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる	
第10回	図画工作科の内容と教育的意義6 「鑑賞」について—対話型鑑賞、アートカードによる鑑賞の体験	事前学習	テキスト pp.89～100を読む	
		事後学習	【レポート課題②】鑑賞活動についての気づき、感想をまとめる。500字～	
第11回	指導案作成①	事前学習	テキスト pp.171-174を読む。	
		事後学習	グループごとに作成を進める。	
第12回	指導案作成②	事前学習	作成に関して疑問点を挙げてくる。	
		事後学習	期日までに指導案を作成・提出し、模擬授業に備える。	
第13回	模擬授業と授業研究会① (前半グループ)	事前学習	模擬授業の準備 (参考作品、資料、ワークシートの作成など)	
		事後学習	模擬授業を実施しての気づきをポートフォリオにまとめる。	
第14回	模擬授業と授業研究会② (後半グループ)	事前学習	模擬授業の準備 (参考作品、資料、ワークシートの作成など)	
		事後学習	模擬授業を実施しての気づきをポートフォリオにまとめる。	
第15回	授業のまとめとふりかえり —図画工作科の目標をもう一度考える	事前学習	図画工作科の教科目標を確認し、イメージを膨らませてくる。	
		事後学習	ポートフォリオの提出に向けてまとめる 第15回で出される最終課題を完成させる	

1. 科目名 (単位数)	生活 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3625 JEEL1625
2. 授業担当教員	三井 寿哉		
4. 授業形態	グループワーク・ディスカッションを中心に講義・発表・ワークショップ・ポートフォリオなどで構成する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教科「生活」がなぜ新設・改訂されたのか、小学校学習指導要領の変遷を通して目標や内容、基本的方針など理解を深め、幼児期から児童期へのスムーズな移行を意図していることに気付き、「遊び」「基本的生活習慣」を基にその連関について考察する。そして、生活科学習内容項目について理解したうえで具体的な教育課程や指導案展開の活動事例を構想する。さらに、グループワークやディスカッションの学習や実践的体験活動を通して子どもの気づきを大切にされた教師側の声の掛け方や支援・地域環境や幼児・児童等の発達段階に応じた生活科教育のあり方を考え、それらの学習を基にして、教科「生活」を横断的・系統的視点から他教科等との関連・総合学習との関連・幼児教育との関連について学んでいく。		
8. 学習目標	<b>【幼児教育と生活科の学習の連関を考えた教科「生活」の理解を深める】</b> 1.生活科の目標を深く、学習内容について教材としての知識を獲得することができる。 2.具体的な体験学習を通した生活科学習のあり方について理解し、説明できる。 3.生活科の指導計画や活動展開について構想し、表現することができる。 4.生活科と幼児教育の連続や関連性について具体的に考えることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業後次回のテーマ (教科書該当部分) を確認し、それを熟読して次回の授業にそなえる。最終レポート課題は、フィールドワークとポスターセッションのポートフォリオづくり。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 文部科学省編『小学校指導要領解説 生活科編』日本文教出版。 国立教育政策研究所『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに。 検定教科書『あたらしいせいかつ 上』東京書籍。 <b>【参考書】</b> 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 嶋野道弘・寺尾慎一『生活科の授業方法』ぎょうせい。 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性 30% 期末試験 (知識・理解・論述・表現) 50% レポート (活動展開事例の構想) 20%		
12. 受講生へのメッセージ	小学校を入学した子どもたちが毎日未知と出会う中で体験を通して知を諸感覚で構築していく姿を受講生のみなさん自身が感じていくことが大切である。やがて理科や社会などの教科に繋がる学習であることを理解し、多くの経験や体験を子どもの立場になって考えられることを期待する		
13. オフィスアワー	授業時間の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション(シラバス説明・課題説明など) ・生活科新設 (H1 年改訂小学校学習指導要領) の背景生活科変遷について (H11 年・H23 年改訂小学校学習指導要領) の概略を理解する。	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。
第 2 回	生活科の教科目標及び学年目標を学習し、生活科教育のねらいを把握する。	事前学習	「学習指導要領解説」 pp.2~7 を読み、生活科の変遷についての概略を理解しておく。
		事後学習	生活科の教科としての意義をまとめておく。 ①
第 3 回	目標や学習内容の三層の内容構成から生活科の学習特性を理解する。	事前学習	「学習指導要領解説」教科目標 pp.9~23 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	教科目標要素を基に生活科教科目標の理解を図る。
第 4 回	生活科における学習の内容項目 1 (学校と生活) 内容項目 2 (家庭と生活) 内容項目 3 (地域と生活) の学習内容やどんな学習展開が考えられるか構想する。	事前学習	「学習指導要領解説」学習内容項目 pp.24~40 「幼児期から児童期への教育」 pp.40~60 を読み授業に臨む。
		事後学習	学習内容項目 1~3 についてのポイントや授業を通して構想した活動展開事例をまとめておく。
第 5 回	生活科における学習の内容項目 4 (公共物・公共施設) 内容項目 5 (四季の変化 春) ・直接体験から生まれる子どもの気づき 1 ・市民の森公園で生活科学習体験 1	事前学習	体験活動ができる服装や持ち物などの準備に配慮して授業に臨むこと。
		事後学習	体験授業を基にねらいを明確にした春の体験活動の活動指導計画案を作成し提出する。
第 6 回	生活科における学習の内容項目 7 (栽培・飼育) について ・飼育、栽培 (小動物・魚・虫・水生生物・花や野菜の栽培) 知識と指導支援方法の理解①	事前学習	検定教科書から内容項目 7 の内容に当たる活動のページを確認して授業に臨む。
		事後学習	資料を基に飼育・栽培活動の学習に対する知識を確認しておく。
第 7 回	生活科における学習の内容項目 7 (飼育) ・直接体験から生まれる子どもの気づき 2	事前学習	自然や生き物とかかわる体験活動ができる服装や持ち物などの準備に配慮して授業に臨むこと。

	ウサギ・ヤギの飼育学習体験	事後学習	飼育学習体験における学習活動について指導支援の留意点をまとめておく。
第 8 回	学校教育の基盤としての幼児期の生活経験 ・幼児教育における探検遊び、基本的な生活習慣の支援 ・生活科の評価の仕方	事前学習	「幼稚園教育要領解説」p88、p220、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「幼児期から児童期への教育」 pp.8～30 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	基本的な生活習慣を身につけることに視点をあて、幼児教育と生活科学習の関連性を自分の言葉で文章化しまとめておく。② 生活科学習の評価の方法についてポイントをつかんでおく。
第 9 回	生活科における学習の内容項目 6 について ・遊び (植物で遊ぶ・自然で遊ぶ・動くおもちゃ・昔の遊び)  知識と指導支援方法の理解②	事前学習	「幼稚園教育要領解説」 pp.30～48、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「幼児期から児童期への教育」 pp.32～47 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	資料を基に遊びの学習に対する知識を確認しておく。
第 10 回	生活科における学習の内容項目 6 について ・直接体験から生まれる子どもの気付き 2 (子どもの興味や意欲を育てる教師側の関わりや支援) ・遊び体験	事前学習	検定教科書から内容項目 6 の内容に当たる活動のページを確認し興味や意欲を持たせる工夫をした遊びの準備をして授業に臨むこと。
		事後学習	遊び体験における学習活動について指導支援の留意点をまとめておく。
第 11 回	生活科における学習の内容項目 8 (人との交流) 9 (自分の成長) ・情報(収集の方法・伝えあいの方法)  知識と指導支援方法の理解③	事前学習	「幼児期から児童期への教育」 pp.48～60 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容と資料を基に活動の発表や表現について整理しておく。
第 12 回	生活科における学習の内容項目 4 (公共物・公共施設) 内容項目 5 (四季の変化 秋) ・直接体験から生まれる子どもの気付き 3 ・市民の森公園で生活科学習体験 2	事前学習	体験活動ができる服装や持ち物などの準備に配慮して授業に臨むこと。
		事後学習	体験授業を基に季節感をもたせる体験活動の指導計画案を作成し提出する。
第 13 回	生活科、他教科との関わり、総合的な学習の時間とのつながり ・系統的視点(幼児保育→生活科→総合学習・社会・理科) ・横断的視点(国語・音楽・体育・道徳・図画工作⇔生活科)	事前学習	「小学校指導要領解説」 pp.43～46 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	他教科との系統性・横断的な関わりについて自分の言葉で文章化しまとめておく。③
第 14 回	幼児教育と生活科学習の連続性と教科「生活」の展望 1 ・幼児教育における基本的な生活習慣の確立が基盤となっていることについて動機づけの観点から考える。 ・幼児期の基本的な生活習慣についての必要性和方法を考え、生活科の中でどう生かしていくのか連続性を考察する。	事前学習	「幼児期から児童期への教育」 pp. 61～70「幼稚園教育要領解説」 pp.230～232、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	幼児教育と生活科学習の連続性について自分の言葉で文章化しまとめておく。④
第 15 回	幼児教育と生活科学習の連続性と教科「生活」の展望 2 ・幼児期の遊び体験が生活科の学びの基盤になっていることについて ・「遊び」を中心とした幼児期の学びを生活科学習の中でどう活かしていくのかその関連性を考察する。	事前学習	「幼児期から児童期への教育」 pp.98～102 pp.162～166 自分のまとめた文①～④を読み直して授業に臨むこと。
		事後学習	課題 1「幼児教育の保育内容と生活科学習内容との関連性」についてまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	生活科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3626 JEEL2626
2. 授業担当教員	三井 寿哉		
4. 授業形態	プレゼンテーション、ディスカッション、グループ学習、ロールプレイ、模擬授業 (実習) 講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにすることにある。本科目では、生活科の趣旨や目標・内容を理解した上で具体的な実践に即して指導法を学習する。その中で、子どもが知的好奇心・探求心をもって主体的に学ぶ学習が成立するための方策について具体的に追求する。また、2 年間に亘る指導計画の作成や地域マップの作成の試みを行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>身の周りの事象の不思議さや面白さを実感できるようなマップ作りができるようになる。</li> <li>人や社会、自然との関わりを重視した学習指導案を作成することができるようになる。</li> <li>教師と子どもの協働参加による模擬授業ができるようになる。</li> <li>模擬授業の批判的検討ができるようになる。</li> <li>授業記録を取ることができるようになる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	事前に活動内容や趣旨を熟読し理解する。 最終レポート課題は、フィールドワークとポスターセッションのポートフォリオづくり。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省編『小学校指導要領解説 生活科編』日本文教出版、2008 年。 加藤明他、『あたらしい生活 上・下』東京書籍、2013 年。		
11. 成績評価の方法	授業時の発言・出席率 (40%) 中間・期末レポート (40%) グループワークの活動への関心・意欲・態度 (20%)。		
12. 受講生へのメッセージ	毎回の授業は、グループワークとディスカッションを中心に進めていく。 具体的な授業は以下の手順に沿って進める。 ①教科書を基に子どもの発達段階や地域性を考慮して、どのような授業が考えられるかを研究していく。 ②教材の研究の成果を授業と関連づけながら発表し合う。 ③研究を振り返る		
13. オフィスアワー	授業時間前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方・シラバスの説明) 班づくり、生活科学習の概要	事前学習	授業への概要を理解し準備する
		事後学習	シラバスについて確認し学習への見通しをもつ
第 2 回	生活科の学習をどう展開するか】 ワークショップを活用して・通学路探検 (学校と生活)	事前学習	教科書を熟読し生活科の概要を把握する。
		事後学習	指導内容の分担箇所をグループで相談し、方向性を見いだす
第 3 回	「地域の探検マップをつくろう」 (・地域と生活・生活や出来事の交流) 「課題の設定と計画の作成」	事前学習	周辺の様子を事前にある程度知る
		事後学習	グループごとに「課題の設定と計画の作成」を具体的にまとめる。
第 4 回	・「地域の探検マップをつくろう」 「情報・資料収集」	事前学習	グループごとに「情報・資料収集」の準備を行う。(発表にむけての計画)
		事後学習	グループごとに「情報・資料収集」を具体的にまとめる。
第 5 回	いせさき市民の森公園で「秋を探そう」 (季節の変化と生活)	事前学習	フィールドワークの準備をする。(カメラ・収集袋等)
		事後学習	フィールドワークの資料整理をして、フィールドノートにまとめる。
第 6 回	「しぜんマップをつくろう」 「整理・分析」	事前学習	グループで「整理・分析」の発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに「整理・分析」を具体的にまとめる。
第 7 回	「しぜんマップをつくろう」 「まとめ・表現」	事前学習	グループで「まとめ・表現」の発表準備を行う。(発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに「まとめ・表現」を具体的にまとめる。
第 8 回	しぜんマップをつくろう」 ポスターセッション「発表・プレゼンテーション」	事前学習	グループごとにポスターセッションの準備をする。(テーマ・まとめ・表現方法・発表手順の確認)
		事後学習	グループごとにポスターセッションの反省・自己評価をする。
第 9 回	動物と遊ぼう (動植物の飼育・栽培)	事前学習	分担箇所をグループで相談し、ワークショップ形式で生活科の授業を構成する。
		事後学習	ワークショップ形式で構成した生活科の授業をまとめる。
第 10 回	遊びをつくり出す (家庭と生活・⑥自然や物を使った遊び)	事前学習	教科書の分担箇所をグループで相談し、ワークショップ形式で生活科の授業を構成する。
		事後学習	ワークショップ形式で構成した生活科の授業をまとめる。
第 11 回	音のおもちゃを作ろう (自然のものを使った遊び)	事前学習	おもちゃの計画を立て素材を集める
		事後学習	振り返りを基におもちゃを改造する
第 12 回	生活科学習で育つ子どもの資質・能力 (自分の成長)	事前学習	教科書の分担箇所をグループで相談し、ワークショップ形式で生活科の授業を構成する。
		事後学習	フィールドワークの資料整理をして、フィールドノートにまとめる。
第 13 回	いせさき市民の森公園で「冬を探そう」 (公共物・公共施設の利用)	事前学習	フィールドワークの準備をする。(カメラ・収集袋等)
		事後学習	資料を整理して、フィールドノートにまとめる。
第 14 回	単元指導計画の作成と学習指導	事前学習	教科書の分担箇所をグループで相談し、ワークショップ形式で生活科の授業を構成する。
		事後学習	教科書の分担箇所をグループで相談し、ワークショップ形式で構成した生活科の授業をまとめる。
第 15 回	まとめと評価 (自己評価)	事前学習	生活科指導ハンドブックをもとに秋期学習を振り返る。
		事後学習	ポートフォリオやハンドブック等の成果をもとに、秋期の

		自己評価をする。	
1. 科目名 (単位数)	専門演習 I (2 単位)	3. 科目番号	JCPR3101
2. 授業担当教員	手塚 千尋		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	出生、保育・養育環境、子育て支援、子どもの学び等などの現代社会における子どもの育ちと発達に関する課題について多様な資料(データ)を活用しながら自ら調べ、まとめることを通して「子どもの専門家」としての知識・理解を深めると共に、調査・分析、問題点の整理の基礎的な考え方や方法を学ぶ。また、専門演習Ⅱ(卒業レポート作成)に向けてそれぞれの「問い」を明らかにしていく。		
8. 学習目標	1. 現代社会における子どもをめぐる多様な問題について理解を深めることができる。 2. 複数のデータから課題を把握し、多角的な視点から課題を理解することができる。 3. 自ら問いを見出し、探求していこうとする態度を養う。 4. 調査・分析・問題点の整理・まとめ・発表の方法の基礎を理解し、実践できるようになる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	課題① グループ研究をまとめたパワーポイント(プレゼン資料) 課題② 個人研究をまとめたワークシート		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 戸田山 和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHK 出版。		
11. 成績評価の方法	出席、グループ研究(グループへの貢献度)50%,個人研究50% 上記を総合的に判断して評価する。 尚、欠席・遅刻・早退は減点の対象となるので注意してください。		
12. 受講生へのメッセージ	現代社会において、子どもを取り巻く環境は多様化、多元化しています。皆さんは「子どもの専門家」になるために、子どもの育ちと発達と諸問題に対しどれだけ興味・関心を持ち、理解する努力をすることができるでしょうか。専門演習Ⅰでは基礎研究として調査・分析・問題点の整理を通して「問い」を明らかにし、さらに専門演習Ⅱで「問い」をどのように解決できるのかについて研究を通して理解を深めていきます。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス：授業の概要と進め方、Ⅱとの関連について	事前学習	シラバスの確認をする。
		事後学習	授業の意義について振り返る。
第2回	講義：研究とは、研究発表のしかた、参考文献について	事前学習	研究の意味について調べる。
		事後学習	研究の意味についての学習内容を振り返る。
第3回	ワーク①実習と学習のふり返りと現代の子どもを取り巻く問題	事前学習	社会事象の情報(新聞など)を収集する。
		事後学習	学習ノートを見直し自己の関心を深める。
第4回	ワーク②グループごとの問題の設定	事前学習	グループ間の関心の調整。
		事後学習	グループごとに設定した問題を調査する。
第5回	グループ発表に向けて：資料収集の方法	事前学習	研究論文のガイドラインを調べる。
		事後学習	資料を読み込む。
第6回	グループ研究の推進①	事前学習	グループ研究の推進。
		事後学習	グループ研究の推進。
第7回	グループ研究の推進②	事前学習	グループ研究の推進。
		事後学習	グループ研究の推進。
第8回	グループ研究の発表①	事前学習	グループ発表の準備。
		事後学習	グループ発表の準備。
第9回	グループ研究の発表②	事前学習	グループ発表の準備。
		事後学習	グループ発表の振り返り。
第10回	講義：研究方法について	事前学習	研究方法の種類について調べる。
		事後学習	研究方法についての学習内容を振り返る。
第11回	講義：研究論文の書きについて	事前学習	研究論文の意味について調べる。
		事後学習	自分の関心事を再考する。
第12回	個人研究の推進①	事前学習	個人研究の推進。
		事後学習	個人研究の推進。
第13回	個人研究の推進②	事前学習	個人研究の推進。
		事後学習	個人研究報告の準備。
第14回	個人研究の報告	事前学習	個人研究報告の準備。
		事後学習	個人研究の振り返り。
第15回	授業のまとめと卒業レポートのテーマの抽出	事前学習	これまでの学習内容を振り返る。
		事後学習	授業全体の振り返り。

1. 科目名 (単位数)	相談援助演習 (2 単位)	3. 科目番号	JCCC2401
2. 授業担当教員	堀 聡子		
4. 授業形態	講義、演習 (ディスカッション・グループワーク)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目である。保育士として関わる社会福祉サービスと表裏一体の関係にあるのが相談援助活動の知識・技能であり、社会福祉サービスとの関係から、相談援助技術について体系的に学習する。</p> <p>具体的には、ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえて、自己理解、他者理解、コミュニケーション技術の理解、面接の理解、個別援助技術であるケースワークの基本原理解、グループワークの体験的理解、ロールプレイを通じた相談援助技術の習得等について学び、保育士としての相談援助活動術に関する基礎知識及び技術を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの技術を概観し、その価値・倫理を理解し、相談援助関係の意義と責務を身に付ける。</li> <li>2. 自己理解と他者理解の方法について理解し、対人サービスにおける相談援助関係の基礎を身に付ける。</li> <li>3. コミュニケーション技術について理解し、対人サービスにおける相談援助関係の基礎を身に付ける。</li> <li>4. 面接の基本について理解し、相談援助関係の意義と責務を体験的に身に付ける。</li> <li>5. ケースワークの原則について理解し、相談援助関係のあり方を身に付ける。</li> <li>6. グループワークの理論について理解し、相談援助関係のあり方を身に付ける。</li> <li>7. グループワークを体験し、グループワークと通じた相談援助関係のあり方を身に付ける。</li> <li>8. 相談援助の事例を基に、相談援助に関わる各役割を演じることにより体験的に理解し、相談援助関係のあり方を身に付ける。</li> <li>9. 学生が自ら相談事例を創作し、それを実際に演ずることにより、相談援助関係のあり方を身に付ける。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>15回の授業の中で、相談援助活動への問題意識を高め、主体的な学習ができるように予習を兼ねたアサイメントと、問題への考察力及び学習の成果を表現するものとしてのレポート課題を課す。 レポート課題は別途指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林郁子ほか『保育者のための相談援助』萌文書林、2015。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規、2013。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>成績評価については、毎回主体的に学習しているか、積極的に質問をしているか、学習の成果が出るよう努力しているかとその結果を評価します。</p> <p>授業参加・授業態度等 (発表、質問は加点、私語等は減点) 40%、レポート 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、わが大学の学生が守るべきマナーです。</p> <p>毎回、テーマに関する購読の際には、しっかりとポイントを掴むようにしましょう。</p> <p>自分の意見を持つことは、共に学ぶ学生への仲間入りの切符です。自分の意見はしっかりとワークシートにまとめましょう。</p> <p>(以下、加点の対象)</p> <p>他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めましょう。</p> <p>発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行いましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	相談援助のイメージを踏まえて、開設理由・学習目標・授業内容を案内する。相談援助活動の展開過程について学習し、保育士としての相談援助活動のイメージをつかむ。	事前学習	相談援助にどんなイメージを持ったか、まとめてくる。
		事後学習	相談援助の展開過程を再確認する。
第 2 回	ソーシャルワークの技術とその価値と倫理について学習し、相談援助関係における保育士の責務を身に付ける。	事前学習	相談援助の目的について調べ、発表する準備をしてくる。
		事後学習	技術と価値・倫理を再確認する。
第 3 回	コミュニケーションの基本として丁寧な分かり易いコミュニケーションへの理解を深め、保育士としての相談援助関係におけるコミュニケーションの感覚をつかむ。	事前学習	コミュニケーションについて質問を 1 つ考えてくる。
		事後学習	コミュニケーションの基本を再確認する。
第 4 回	自分を知ってもらう方法と自己理解を体験し、より客観的な自己への理解が必要であることを学習し、相談援助関係における保育士のあり方をつかむ。	事前学習	自分を知る方法を 1 つ紹介する。
		事後学習	客観的な自己理解と相談援助関係のポイントを再確認する。
第 5 回	自己開示と他者理解について体験的に学習し、保育士としての他者理解の方法を身に付ける。	事前学習	他者理解の方法を 1 つ紹介する。
		事後学習	自己開示と他者理解の関係を再確認する。
第 6 回	面接の基本について体験的に学習し、来談者と援助者、観察者それぞれの立場を理解し、保育士としての相談援助関係における面接の方法を身に付ける。	事前学習	面接の目的をまとめてくる。
		事後学習	多様な面接場面と、その基本を再確認する。
第 7 回	ケースワークの原則について事例を通して学習し、保育士としての個別援助における専門的な相談援助関係の原則を身に付ける。	事前学習	個別援助の原則をまとめてくる。
		事後学習	利用者のニーズに対応した原則であることを再確認する。

第 8 回	グループワークの理論と技術について学習し、グループワークのイメージを掴み、保育士としての集団援助関係における専門的な相談援助関係の理論と技術を身につける。	事前学習	グループワークの目的をまとめてくる。
		事後学習	グループワークの展開過程について再確認する。
第 9 回	グループワーク体験①。与えられたテーマについて、何をどのように表現し完成するか、計画を立てることにより、保育士としての集団援助における専門的な相談援助関係の技術を身につける。	事前学習	グループワークに取り組む心構えをしてくる。
		事後学習	課題への取り組み計画を再確認する。
第 10 回	グループワーク体験②。与えられたテーマ課題を制作し、グループで協力して完成させることにより、保育士としての集団援助における専門的な相談援助関係の技術を身につける。	事前学習	課題に取り組む準備をしてくる。
		事後学習	グループワーク体験を振り返る。
第 11 回	グループワーク体験の発表。グループワーク体験を発表することにより振り返りを行い、保育士としての集団援助における専門的な相談援助関係の技術を身につける。	事前学習	グループワーク体験をまとめてくる。
		事後学習	グループワーク体験発表から学んだことをまとめる。
第 12 回	相談援助のロールプレイ。事例を通して、保護者、援助者、観察者の役割を演じることにより、保育士としての専門的な相談援助関係の理論と技術を身につける。	事前学習	相談援助事例を読み、ロールプレイの準備をしてくる。
		事後学習	演じた体験、観察した感想をまとめる。
第 13 回	創作ロールプレイ①。グループで事例を作り、発表する準備をする。実践的な場面での分析や役割等を理解し、保育士としての専門的な相談援助の視点と対応の技術を身につける。	事前学習	ロールプレイのシナリオ書きの準備をしてくる。
		事後学習	創作した相談援助のシナリオを再確認しておく。
第 14 回	創作ロールプレイ②。グループで事例を作り、発表することにより、実践的な場面での分析や役割等を理解し、保育士としての専門的な相談援助の視点と対応の技術を身につける。	事前学習	ロールプレイの準備をしてくる。
		事後学習	創作した相談援助のシナリオを演じ、また他のグループの演じ方をみて、評価する。
第 15 回	創作ロールプレイ③。グループで事例を作り、発表することにより、実践的な場面での分析や役割等を理解し、保育士としての専門的な相談援助の視点と対応の技術を身につける。まとめ（これまでの学習の成果を確認する。）	事前学習	ロールプレイの準備をしてくる。
		事後学習	創作した相談援助のシナリオを演じ、また他のグループの演じ方をみて、評価する。発表からの学びをまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	体育 (2 単位)	3. 科目番号	JEEL1415
2. 授業担当教員	斉藤 雅記	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	実技と講義、演習およびディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義では小学校学習指導要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を習得することを目的としている。</p> <p>特に以下の内容を習得してほしい能力としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようになること。</li> <li>・正しく運動を指導するためのポイントを理解すること。</li> </ul>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領の内容を踏まえ、正しい運動を理解し、正しく運動ができるようになる。</li> <li>・小学校学習指導要領の内容を踏まえ、正しく運動を指導するためのポイントを理解し、見本を見せるとともに指導できるようになる。</li> <li>・体育を指導する上で、教師としてふさわしい行動や留意事項を身につけることができる。</li> </ul>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1 各運動領域の基礎的な運動の指導を実践する (実技試験)</p> <p>課題 2 各運動領域の指導のポイントと教材について解説する (レポート課題)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】上杉尹宏、他『生涯スポーツと運動の科学』市村出版。</p> <p>【参考書】『小学校学習指導要領解説 (体育編)』文部科学省。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 50%</p> <p>課題 2 50%</p> <p>計 100%</p> <p>なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教員をめざす学生としての心構えで受講してください。</p> <p>実技や演習の時間では適切な運動着、ジャージなど運動するためのふさわしい常識的な服装で参加してください。ジーンズやスウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズが必要です。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>オリエンテーション (本講義の意義と授業の展開について)</p> <p>○本講義の意義と授業の展開についての説明</p> <p>講義：小学校学習指導要領の体育領域</p> <p>○小学校学習指導要領に示された各領域について理解する</p>	事前学習	小学校学習指導要領に目を通して内容の把握をする。
		事後学習	小学校学習指導要領の各領域についてまとめる。
第 2 回	<p>体づくり運動</p> <p>○体ほぐしの運動・多様な動きを作る運動遊び</p>	事前学習	体づくり運動について予習しまとめる。
		事後学習	体づくり運動の指導のポイントをまとめる。
第 3 回	<p>集団行動・体操</p>	事前学習	集団行動・体操について予習しまとめる。
		事後学習	集団行動・体操の指導のポイントをまとめる。
第 4 回	<p>陸上運動系</p> <p>○走・跳の運動</p>	事前学習	陸上運動の走・跳の運動について予習しまとめる。
		事後学習	陸上運動の走・跳の運動の指導のポイントをまとめる。
第 5 回	<p>陸上運動系</p> <p>○投の運動</p>	事前学習	陸上運動の投の運動について予習しまとめる。
		事後学習	陸上運動の投の運動の指導のポイントをまとめる。
第 6 回	<p>陸上運動系</p> <p>○まとめ</p>	事前学習	今まで学習した陸上運動に関する指導のポイントをまとめる。
		事後学習	学習した指導のポイントをもとに指導のプログラムを作成する。
第 7 回	<p>器械運動系</p> <p>○マット運動</p>	事前学習	器械運動系のマット運動について予習しまとめる。
		事後学習	器械運動系のマット運動の指導のポイントをまとめる。
第 8 回	<p>器械運動系</p> <p>○跳び箱運動</p>	事前学習	器械運動系の跳び箱運動について予習しまとめる。
		事後学習	器械運動系の跳び箱運動の指導のポイントをまとめる。
第 9 回	<p>器械運動系</p> <p>○まとめ</p>	事前学習	今まで学習した器械運動系に関する指導のポイントをまとめる。
		事後学習	学習した指導のポイントをもとに指導のプログラムを作成する。
第 10 回	<p>ボール運動系</p> <p>○様々なボールゲーム</p>	事前学習	ボール運動系の様々なボールゲームについて予習しまとめる。
		事後学習	ボール運動系の様々なボールゲームの指導のポイントをまとめる。
第 11 回	<p>ボール運動系</p> <p>○ゴール型ゲーム</p>	事前学習	ボール運動系のゴール型ボールゲームについて予習しまとめる。
		事後学習	ボール運動系のゴール型ボールゲームの指導のポイントをまとめる。
第 12 回	<p>ボール運動系</p> <p>○ネット型ボールゲーム</p>	事前学習	ボール運動系のネット型ボールゲームについて予習しまとめる。
		事後学習	ボール運動系のネット型ボールゲームの指導のポイントをまとめる。
第 13 回	<p>表現運動系</p> <p>○表現リズム遊び、表現遊び</p>	事前学習	表現運動系について予習しまとめる。
		事後学習	表現運動系の指導のポイントをまとめる。
第 14 回	<p>講義：水泳運動系・野外活動系・保健領域</p>	事前学習	水泳運動・野外活動について予習しまとめる。
		事後学習	水泳運動・野外活動の指導のポイントをまとめる。
第 15 回	<p>講義：水泳運動系・野外活動系・保健領域</p> <p>まとめ</p>	事前学習	保健領域について予習しまとめる。
		事後学習	本講義で学習した各領域の指導のポイントについて振り返る。

1. 科目名 (単位数)	体育 / 体育 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	JCEL2415								
2. 授業担当教員	上村 孝司										
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義(実技で扱えない領域・保健領域)やディスカッション、グループでの発表を行う。	5. 開講学期	春期・秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>今の日本では生活習慣病の予防・改善や平均寿命の延伸などにより、運動やスポーツ、健康への関心が高まってきている。このことから、体育は生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために重要な科目となっている。また、子どもの体力は低下しており、幼児や児童の体力向上のために体育は重要な位置づけとなる科目である。</p> <p>この授業では、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を学習していく。学習指導要領に応じて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるようになるとともに、健康の保持増進、体力の向上を養うための技能や知識を身につけ、指導できるようになることを目的とする。また、幼稚園教育の現場で行われる運動を指導できるようにすることを目的とする。</p> <p>・幼稚園「健康」・小学校学習指導要領における「体育」の目標、内容の概要を捉え、「健康」および「体育」の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、健康・体育指導に必要となる最低限の技能を身につけることができるようにする。具体的には以下の①②に示す通りである。</p> <p>①正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようにする。                  ②ただし各種運動を指導できるためのポイントを押さえ理解する。</p> <p>・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。</p>										
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日までの幼・小の体育授業の位置づけについて理解することができる。</li> <li>2. 小学校体育指導に際しては、各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができる。</li> <li>3. 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようにする</li> <li>4. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。</li> </ol>										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1.各運動の指導のポイントと工夫について解説をする(口頭発表やディスカッション)</p> <p>課題2.各運動領域の基礎的な運動を実践する(実技)</p> <p>課題3.各運動領域での発表や課題レポートの作成および提出</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて資料を配布する</p> <p>【参考書】『小学校学習指導要領解説(体育編)』</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>実技</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>課題, 提出物</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			授業への参加態度	45%	実技	25%	課題, 提出物	30%	計	100%
授業への参加態度	45%										
実技	25%										
課題, 提出物	30%										
計	100%										
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員をめざす学生としての心構えで受講してください。</li> <li>2. 実技を行う授業のため、それにふさわしい服装(髪型, 靴, 爪なども含む)で参加してください。</li> <li>3. 欠席, 遅刻, 早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。</li> <li>4. わからないこと, 疑問に思うことは, 質問・意見をして解決していきましょう。</li> <li>5. 自主的に取り組み, 積極的な授業参加を望みます。</li> </ol>										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション 小学校学習指導要領の体育領域について 幼稚園教育要領の確認 グループ作成	事前学習	小学校学習指導要領について予習する。								
		事後学習	体育領域の復習をする。								
第2回	体づくり運動 体ほぐし運動 多様な動きをつくる運動遊び 集団行動・体操(ラジオ体操)	事前学習	体の動かし方について予習する。 集団行動の動きについて予習する。 ラジオ体操の動作を実践できるようにする。								
		事後学習	様々な動きを復習する。 集団行動と体操の仕方を復習する。								
第3回	体力テスト1	事前学習	各種測定項目の実施方法を把握する。 体力テストの実施方法を理解する。								
		事後学習	測定数値の記録および分析を行う。								
第4回	陸上運動系 走・跳の運動/体力テスト2	事前学習	走り方・跳び方について予習する。 各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	速く走る方法を復習する。 測定数値の記録および分析を行う。								
第5回	陸上運動系 投の運動/体力テスト3	事前学習	投げ方について予習する。 各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	投げる方法を復習する。 測定数値の記録および分析を行う。								
第6回	陸上運動系/体力テストのまとめと発表 陸上競技の能力向上についてグループで発表	事前学習	走る, 跳ぶ, 投げる方法について振り返る。 記録向上のための方法を検討する。								

	する 体力テストの結果と考察をグループで発表する		グループ発表の準備を行う。
		事後学習	陸上競技についてのレポートを作成する。
第 7 回	器械運動系 マット運動 跳び箱運動 鉄棒	事前学習	器械運動の種類について予習する。
		事後学習	どうすればうまくできるようになるかを他者の意見等を踏まえて考察する。 グループ発表の準備を行う。
第 8 回	器械運動系 器械運動の問題点抽出と解決 器械運動の技能向上についてグループで発表する	事前学習	器械運動の上達方法について考察したものを実践できるようにする。 グループ発表の準備を行う。
		事後学習	どうすればうまくできるようになるかを他者の意見等を踏まえて考察する。
第 9 回	ボール運動系 様々なボール遊び	事前学習	ボール遊びの種類について予習する。 幼稚園、小学校でどのようなボール遊びが行われているかを調べる。
		事後学習	様々なボール遊びの方法を復習する。
第 10 回	ボール運動系 ゴール型ゲーム「バスケットボール」	事前学習	バスケットボールのルールを予習する。
		事後学習	バスケットボールの指導について復習する。
第 11 回	ボール運動系 まとめ 発表 ボールゲームの運営の実践および発表	事前学習	ボールゲームの運営を予習する。
		事後学習	ボールゲームの指導について復習する。
第 12 回	表現運動系 創作表現の考案およびリズム体操の発表	事前学習	身体を使った表現の方法についてどのようなものがあるか調べる。
		事後学習	表現の指導について復習する。
第 13 回	指導案作成とその実践 1 指導計画の考案と指導案作成	事前学習	指導案のあり方や作成方法について学習する。
		事後学習	指導案の作成について復習する。
第 14 回	指導案作成とその実践 2 グループでの模擬授業とその評価	事前学習	指導計画および指導内容について学習する。
		事後学習	指導方法や計画の建て方など、参考となる部分を記録しておくとともに、各自の指導案に反映させる。
第 15 回	水泳運動系 保健領域 まとめ	事前学習	水泳の種類について予習する。 保健領域について調べる。 体育の指導法について改めて考える。
		事後学習	体育指導について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	体育科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL2416
2. 授業担当教員	齊藤 雅記		
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習 (指導案の作成と模擬授業による確かめ) 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。		
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1) 小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2) 学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3) 模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4) 現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 模擬授業の実施と実施する際の指導案の作成 課題 2 模擬授業実施後に反省をふまえて修正した指導案の作成		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『小学校学習指導要領解説 (体育編)』文部科学省。 【参考書】 必要に応じて適宜資料を配布する		
11. 成績評価の方法	課題 1 50% 課題 2 50% 計 100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。		
12. 受講生へのメッセージ	魅力ある体育授業を行うことは、体育授業を実施する教師の責務といえます。魅力的な体育授業を行うためには、綿密な計画のもとで作成された指導案のもと、授業を行う必要があります。この授業ではその指導案の作り方と、指導案を用いた模擬授業を中心に展開し、教師力量をつけていきます。 適切な運動着、ジャージなどは体育教師の制服といえます。実技や演習では、運動するためのふさわしい常識的な服装で参加してください。ジーンズやスウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズが必要です。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (本講義の意義と授業の展開について) ○本講義の意義と授業の展開についての説明とグループわけの実施	事前学習	本講義内容をシラバスにて把握したうえで授業に臨む。
		事後学習	各グループで模擬授業の計画を立てる。
第 2 回	講義：小学校学習指導要領に示される体育の目標と内容 ○小学校体育で目指す目標と各領域の内容を把握する	事前学習	学習指導要領に目を通し内容を把握したうえで授業に臨む。
		事後学習	学習指導要領における体育の目標と各領域について復習しポイントを理解する。
第 3 回	講義：指導案の作成方法 ○体育授業を適切に行うための指導案の作成方法と指導上の留意点を知る	事前学習	指導案について調べ、まとめる。
		事後学習	指導案について学んだことを踏まえて、自分なりの指導案を作成してみる。
第 4 回	グループワーク①「体育科指導案作成」 ○各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案を作成する。	事前学習	どのような体育授業をしてみたいかイメージし、授業の流れを考えておく。
		事後学習	授業内で指摘を受けた部分やお互いの議論を参考に指導案を修正する。
第 5 回	グループワーク②「体育科指導案作成」 ○各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案を作成する。 ○次時から行う模擬授業の行い方の諸連絡の実施。	事前学習	前回の授業の議論を踏まえて、指導案を修正しておく。
		事後学習	模擬授業を行うことができるよう指導案を修正する。
第 6 回	模擬授業① (グループワーク・授業体験・授業分析) ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議

	②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等		論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 7 回	模擬授業②（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 8 回	模擬授業③（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 9 回	模擬授業④（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 10 回	模擬授業⑤（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	前回の授業の議論を踏まえて、指導案を修正しておく。
		事後学習	模擬授業を行うことができるよう指導案を修正する。
第 11 回	模擬授業⑥（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 12 回	模擬授業⑦（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	前回の授業の議論を踏まえて、指導案を修正しておく。
		事後学習	模擬授業を行うことができるよう指導案を修正する。
第 13 回	模擬授業⑧（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 14 回	模擬授業⑨（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 15 回	模擬授業⑩（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等 ○まとめと評価	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。 これまでの一連の指導案と模擬授業を振り返り、実際の現場で適切な授業を行うために必要な技術を確認する。

1. 科目名 (単位数)	多文化保育・子育て演習 (2 単位)	3. 科目番号	JCCC3508
2. 授業担当教員	駒井 美智子		
4. 授業形態	演習、ディスカッション、グループ学習、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容総論で保育形態を学習しておくことが望ましい。		
7. 講義概要	国籍、宗教、人種、性別、障害、経済的事情などの背景を交じり合って形成されるのが「文化」であるとの理解のもとに、それらの違いを子育ての場面で専門家としてどのように扱って親たちを平等に支えていくかをテーマに演習形式で学習する。また現場実習を通して外国籍のこどもや保護者への対応をまなんでいく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践の基礎となる「保育観」「児童観」を確認し、説明できる。</li> <li>2. 多様な子育て支援ニーズの実際について理解し、説明できる。</li> <li>3. 児童福祉行政についての問題点や課題を提示し理解を深める。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各自で身近な地域の多文化保育・子育て支援の実態を調査して考察し、PCで発表をすること。 (文献研究・雑誌・新聞記事・等)		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 咲間まり子編著『多文化保育・教育論』みらい社。 <b>【参考書】</b> 『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』。		
11. 成績評価の方法	多文化保育・子育て支援等についてのプレゼン 80% レポート提出 20%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「多文化理解と子育て支援」の授業だけの対応にせず、日常的な生活の中で多文化保育・子育て支援について興味・関心をもつこと。例えば、自分が住んでいる町の人口から多文化者の割合を確認したり、多文化保育が記載されている新聞記事やジャーナルを切り抜いたり、県庁の国際課に行き担当者から多文化保育の現状を聞いてきたりなど。各自、常に意識を持って日常生活をおくってほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体調を整え、心身共に集中して受講すること。</li> <li>2. 疑問点は明確にさせ、解決する努力をすること。</li> <li>3. 資料配布するのでファイルがあると整理し易い。</li> </ol> <p>◎主体的・意欲的・行動的・積極的に授業に参加しよう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの確認・受講生へのメッセージと授業展開及び期末課題の確認第 1 章多文化保育・教育とは何か。 ・ 1 節多文化共生社会の必要性	事前学習	授業のシラバスを事前に読み講義内容を確認する。
		事後学習	授業 PDCA サイクルの作成 (15 回の授業計画をしてこれからの授業に意欲をもつためのノート制作に取り組む)。
第 2 回	第 1 章多文化保育・教育とは何か。 ・ 2 節多文化保育・教育の必要性と意義 第 2 章在日外国人等の動向と福祉ニーズ ・ 1 節在日外国人等の人口的動向 ・ 2 節多文化共生の視点と外国人等の福祉ニーズ	事前学習	現在の社会における子育てを取り巻く環境における問題点を新聞等で事前にリサーチして関心をもっておく。(予習)
		事後学習	現在の社会における子育ての問題点から、授業のポイントを確認する。ノート整理。(復習)
第 3 回	第 3 章外国につながる子どもへの保育・教育と保護者への支援・1 節・母語を生かした保育・保護者との関わりについて 2 節食事に関する事例・保育活動	事前学習	現在社会の保育施設や保育の諸問題に新聞やジャーナル等を活用して興味関心をもつ。
		事後学習	社会の変化と保育の授業をうけての確認・ノート整理をする。
第 4 回	第 3 章外国につながる子どもへの保育・教育と保護者への支援・3 節保護者の支援の事例・支援 4 節入学に関する事例・小学校	事前学習	保育の質とはいったい何なのか。自己で考えてみる。(予習)
		事後学習	授業での保育の質についてノートにまとめ・整理して確認しておく。
第 5 回	第 3 章外国につながる子どもへの保育・教育と保護者への支援・5 節授業・学力に関する事例・小学校 6 節保護者への支援の事例・小学校	事前学習	社会が求める保育者の専門性を考えておく。(予習)
		事後学習	保育者の専門性・授業のまとめ(復習)をノートに整理しておく。
第 6 回	第 4 章多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割・1 節多文化保育・教育のめざすもの	事前学習	参考文献を基に保育形態を調べる。(予習)
		事後学習	多様な保育形態と社会の保育ニーズについてノートに整理・まとめをする。
第 7 回	第 4 章多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割・2 節多様性に応じた保育・教育に必要な知識第 4 章多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割・3 節保育者・教師の専門性としての省察力と多様性の応答的対応	事前学習	保育形態と子育ての多様なニーズとは何か調べる。(予習)
		事後学習	第 7 回目授業のまとめ・確認ノートに整理する。
第 8 回	4 章多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と	事前学習	多文化保育活動における保育の支援と保育援

	役割 4 節保育者・教師の姿が子どもを育てる		助とは何か調べる。(予習)
		事後学習	多文化保育における保育の支援と援助について授業の整理・まとめをノートにする。
第 9 回	第 5 章行政の多文化共生への取り組み・1 節 1 戸町の国際交流 2 節多文化共生への取り組み 3 節今後の課題	事前学習	保育園と家庭の連携と何故必要か・自分なりに考えてみる。(予習)
		事後学習	保育者と多文化保護者の連携について整理・まとめをしっかりとノートにしておく。(復習)
第 10 回	第 6 章海外の子育て①ノルウェーの子育て支援の現状 ②フィンランドの子育て支援の現状	事前学習	組織活性化とは何か調べる(予習)。
		事後学習	保育の質と組織活性化の復習。
第 11 回	第 6 章海外の子育て③アメリカの子育て支援の現状④ 中国の子育て支援の現状⑤韓国の子育て支援の現状	事前学習	児童福祉行政とは何か調べる(予習)。
		事後学習	授業の確認・整理(復習)。
第 12 回	第 7 章今後の多文化保育・教育の課題	事前学習	多文化保育の問題点の予習。
		事後学習	授業の確認・整理(復習)。
第 13 回	第 7 章今後の多文化保育・教育の展望	事前学習	多文化の問題点の予習。
		事後学習	授業の確認・整理(復習)。
第 14 回	まとめ①(発表会) PC・・他学生の発表を聞く	事前学習	新聞記事・実習等の収集・まとめ準備。
		事後学習	新聞記事・実習等からみる問題点を抽出。
第 15 回	まとめ②(発表会) PC・・他学生の発表を聞く	事前学習	1 回～14 回の振り返り。
		事後学習	授業を通しての自己点検。 反省と課題・各自。

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語 I (2 単位)	3. 科目番号	JEGC1303 JNGC1303						
2. 授業担当教員	秋谷 幸治								
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>初心者を対象に、中国語の基礎訓練を行う。やさしく、正確に、しかも気軽に話せるように、まず簡単な会話の訓練から始める。同時に、古来より日本にはかりしれない影響を与え続けてきた、「隣の国」中国の文化と歴史についても学習していく。国連公用語に指定されている、国際語としての中国語の言語的特徴(リズムカルな美しい音調等)を理解し、簡単な会話であれば、気軽に正確に使えるようになることを目指し、学習を進めていく。また、今、経済成長を遂げ、国際的にも発言力を増してきた中国について、言語と文化、そして人びとの暮らしを通して理解し、これからの交流の機会に役立てていく授業である。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語の発音と文法の概略を知り、自ら学習を進展させることができるようになるための基礎を身につける。</li> <li>2. ピンイン(ローマ字による中国語発音表記システム)の読み方と綴り方、常用の単語、日常の挨拶語、単文の基本文型などを学ぶことで、中国語の各音節が声調を伴って正確に発音でき、基本的な表現構造を理解できるようになる。</li> <li>3. 授業では簡単な受け答えや聞き取り・書き取りなどの練習を通して、簡単な会話が聞き取れ、話せるようになる。</li> </ol>								
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	<p>【宿題】 毎次、テキストの各課の例文を、5回以上音読して授業にのぞんでください。 【レポート課題】 第15回で、中国語作文(自己紹介)を作成し、発表をしてもらいます。</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 最新版 塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』白水社 2015。 ※中国の文化・風俗習慣については、プリントを配付して学習します。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、小テスト、レポートの総合点によって評価します。</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>小テスト(2回行います)</td> <td>総合点の 50%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題(中国語作文)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加	総合点の 20%	小テスト(2回行います)	総合点の 50%	レポート課題(中国語作文)	総合点の 30%
授業への積極的参加	総合点の 20%								
小テスト(2回行います)	総合点の 50%								
レポート課題(中国語作文)	総合点の 30%								
12. 受講生への メッセージ	<p>中国の文化や言語は、日本のそれと似ているようで、実は全く異なります。授業を通して、中国の文化や言語の魅力をじっくり味わいましょう。</p>								
13. オフィスアワー	<p>授業終了後、教員控え室に来て下さい。</p>								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	中国語とは何か? 中国語の特徴(簡体字と繁体字)、発音表記の仕方(ピンイン)などについて説明します。	事前学習	テキストを用意し、全体に目を通しておく。						
		事後学習	自分の名前を簡体字で書き、中国語で発音できるようにしておく。						
第2回	中国語の発音の仕方① 単母音、声調、子音、複母音について練習します。 【中国の文化①】中国に住む諸民族	事前学習	テキスト pp.6~7 をしっかり読んでおく。						
		事後学習	中国語音節表を 5 回以上音読する。						
第3回	中国語の発音の仕方② 鼻母音、軽声、声調の変化について練習します。	事前学習	テキスト pp.8~9 をしっかり読んでおく。						
		事後学習	中国語音節表を 5 回以上音読する。						
第4回	中国語の発音の仕方③ 中国語の発音の仕方を総復習します。短い挨拶文を読む練習をします。 【中国の文化②】中国の地理	事前学習	テキスト pp.10~11 に載っている短文を 5 回以上音読する。						
		事後学習	中国語音節表を 5 回以上音読する。						
第5回	自己紹介 人称代名詞、動詞“是”、助詞“呢”、副詞“也”、“請”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.12~13 頁に載っている例文を 5 回以上音読する。						
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。						
第6回	自己紹介 会話練習(グループ学習) 【中国の文化③】中国の歳時行事(春)	事前学習	テキスト p.14 頁の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。						
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。						
第7回	これは何ですか 指示代名詞、疑問をあらわす“吗”、否定をあらわす“不”、疑問詞“什么”、“的”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.16~17 に載っている例文を 5 回以上音読する。						
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。						
第8回	これは何ですか 会話練習(グループ学習) 小テスト。	事前学習	テキスト p.18 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。テキストの pp.6~17 を読み直す。						
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。						
第9回	中国映画を見よう。	事前学習	付属 CD を使ってリスニングの練習をしておく。						
		事後学習	聞き取れたスキットをまとめてみる。						
第10回	これはいかがですか	事前学習	テキスト pp.20~21 頁に載っている例文を 5 回以						

	指示代名詞、形容詞述語文、疑問詞“怎么样”数詞の使い方について練習します。		上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。
第 1 1 回	これはいかがですか 会話練習（グループ学習） 【中国の文化③】中国の歳時行事（夏）	事前学習	テキスト p.22 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 2 回	買い物 数詞、助詞“吧”、数量を表わす語について練習します。	事前学習	テキスト pp.24～25 に載っている例文を 5 回以上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 3 回	買い物 会話練習（グループ学習） 【中国の文化④】中国の歳時行事（秋・冬）	事前学習	テキスト p.26 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 4 回	どこにありますか 場所指示代名詞、動詞“在”、助動詞“想”について練習します。小テスト。	事前学習	テキスト pp.28～29 に載っている例文を 5 回以上音読する。テキストの pp.20～27 を読み直す。
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。
第 1 5 回	中国語作文発表会（グループ学習）	事前学習	中国語作文を完成させ、数回音読練習をしておく。
		事後学習	友達と中国語を使って会話をしてみよう。

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	JEGC1304 JNGC1304
2. 授業担当教員	秋谷 幸治			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	「中国の文化と言語Ⅰ」の学習を基礎に、中国の人びとの暮らし、伝統文化、風俗習慣を盛り込んだ教材を精読する。簡単な日常会話と文型を学び、生きた中国語会話の体験学習を必要に応じ適宜おこなう場合もある。例えば、ビデオを用いて、中国の大学生活や庶民の暮らしを紹介するなどはその一例である。これらを通して、日本に身を置くわたしたちの暮らしや考え方と比べてみる。			
8. 学習目標	1.中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができるようになる。 2.中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できる。 3.中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができる。 4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	【宿題】 毎次、テキストの各課の例文を、5回以上音読して授業にのぞんでください。 【レポート課題】 第15回で、中国語作文(私の夢)を作成し、発表をしてもらいます。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 最新版 塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』白水社 2015。 ※中国の文化・風俗習慣については、プリントを配付して学習します。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、小テスト、レポートの総合点によって評価します。 授業への積極的参加 総合点の 20% 小テスト (2回行います) 総合点の 50% レポート課題 (中国語作文) 総合点の 30%			
12. 受講生への メッセージ	中国の文化や言語は、日本のそれと似ているようで、実は全く異なります。授業を通して、中国の文化や言語の魅力をじっくり味わいましょう。			
13. オフィスアワー	授業終了後、教員控え室に来て下さい。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	中国語の基礎についての復習 中国語の特徴(簡体字と繁体字)、発音表記の仕方(ピンイン)、発音などについて復習します。	事前学習	シラバスをよく読んでおく。	
		事後学習	中国語音節表を5回以上音読する。	
第2回	何がありますか 動詞“有”、“什么”+名詞、助動詞の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.32~33 に載っている例文を5回以上音読する。	
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。新出単語(生詞)を使った例文を作ってみる。	
第3回	何がありますか 会話練習(グループ学習) 【中国の文化①】中国の歴史	事前学習	テキスト p.34 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。	
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。新出単語(生詞)を使った例文を作ってみる。	
第4回	ホテルにチェックイン 完了を表す“了”、選択疑問文“～還是～”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.36~37 に載っている例文を5回以上音読する。	
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。新出単語(生詞)を使った例文を作ってみる。	
第5回	ホテルにチェックイン 会話練習(グループ学習) 【中国の文化②】中国の詩歌	事前学習	テキスト p.38 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。	
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。新出単語(生詞)を使った例文を作ってみる。	
第6回	何時に行きますか 経験を表わす“過”、時を表わす語(時間詞)の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.40~41 に載っている例文を5回以上音読する。	
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。新出単語(生詞)を使った例文を作ってみる。	
第7回	何時に行きますか 会話練習(グループ学習) 小テスト。	事前学習	テキスト p.42 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。テキストの pp.32~43 を読み直す。	
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。	
第8回	中国映画を見よう。	事前学習	付属 CD を使ってリスニングの練習をしておく。	
		事後学習	聞き取れたスキットをまとめてみる。	
第9回	タクシーに乗る 前置詞“從”、“到”、時間の長さを表わす語、2つの目的語をもつ動詞“給”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト p.44~45 に載っている例文を5回以上音読する。	
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。新出単語(生詞)を使った例文を作ってみる。	
第10回	タクシーに乗る	事前学習	テキスト p.46 の「トレーニング」の書き換え問題	

	会話練習（グループ学習） 【中国の文化③】中国の書・画		を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 1 回	試着と支払い 助動詞“可以”、“能”、“会”、前置詞“在”、動詞の重ね用法について練習します。	事前学習	テキスト pp.48～49 に載っている例文を 5 回以上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 2 回	試着と支払い 会話練習（グループ学習） 【中国の文化④】中国の演劇	事前学習	テキスト p.50 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 3 回	苦情を訴える 前置詞の“給”、“是”の省略、“去”、“来”+動詞の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.52～53 に載っている例文を 5 回以上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 4 回	苦情を訴える 会話練習（グループ学習）小テスト。	事前学習	テキスト p.54 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。テキストの pp.44～53 を読み直す。
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。
第 1 5 回	中国語作文発表会（グループ学習）	事前学習	中国語作文を完成させ、数回音読練習をしておく。
		事後学習	友達と中国語を使って会話をしてみよう。

1. 科目名 (単位数)	道徳教育の研究 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3409
2. 授業担当教員	富岡 栄		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>道徳というのは大人がしたり顔でする説教でも教科書に羅列されている題目でもなく、私たちの身近にあるものである。たとえば、「あれかこれか」という二つ以上の選択肢にぶつかったときに、私たちはどの道を選ぶのがよいのかという価値判断に迫られる。このような、よさ・悪さ、××すべき、といった当為・価値判断に関わる問題はすべて道徳的、倫理的問題だと言える。この意味では、私たちは道徳とともに毎日の生活を送っている。</p> <p>自分の価値判断が、自分の考えや行動、自分の生き方の内部だけで完結するのであれば、それほどたくさん問題は出てこないのかもしれない。しかし自分の価値判断はほとんどの場合、他人を巻き込む。つまり、道徳の問題は個人的であると同時に社会性をもつものである。異なる道徳規範をもった人が二人以上集まる時(私たちの実際の生活のほとんどあらゆる場がそれに該当する)、そこは衝突と妥協と調整の場となる。</p> <p>このような価値判断のぶつかり合いの連続である現実をどのように生き抜いていけるのか、またそれを次の世代の子どもたちにどのように伝えていっていかを考えるために、本講義では縦軸(日本の歴史の中で道徳規範がどのように変化してきたか)と横軸(他の社会や文化圏ではどのような道徳規範が機能しているか)の両方に目を配り、今の自分もっている道徳観念や価値基準を見つめなおしていく。さらに人類の発展とともに新たに生じてきた道徳的、倫理的課題(科学技術と自然環境との関係、医療技術と生命の意味との関係など)をも取り上げ、今後ますます変化していく社会の中で生きていく受講生が、自分の頭で価値を判断していく力をつけられるようにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまなかたちの道徳規範や価値基準と自分たちのそれとの間の共通点と相違点に着目することで、自分が(無意識に)拠って立っている基盤を再考できるようになること。</li> <li>2. 自分がどのように生きていくかという課題は、ほとんど必然的に他者を巻き込むという点ですぐれて社会的なテーマでもある。「自分を含みこむ社会の一員としての自分」という角度から自分を見つめなおして、そして自分が関わっていると感じられる社会の外延を広げられるようになること。</li> <li>3. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質であるのみならず、これこそがまさに、非常に大切な「道徳的資質」と言える)。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメントは毎週課す。基本的には、次回の講義内容にかかわるテキストを精読し概要を把握すること。そして、授業内容について自分の考えや意見をまとめること。加えて、4回のレポートを課す。学級における道徳の指導計画(1回)と道徳科学習指導案(3回)を完成すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	『道徳科で育む 21 世紀型道徳力』 田沼茂紀 北樹出版		
11. 成績評価の方法	小テスト 3 回 60% 学校における道徳教育の意義や目標、その指導内容や方法について理解できている。 小レポート 20% 道徳教育に関する基本的事項を理解し、学習指導案を作成することができる。 授業参画度 20% 授業に毎回出席し、発言等も積極的にを行い、意欲的に取り組んでいる。 尚、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	教職として必須な科目であり、道徳教育の実際について具体的に踏み込んでいく授業となる。道徳教育は全教育活動を通じて行うものであり、教科教育を基底で支える教育活動でもあるので、積極的な授業参加を心がけてほしいと期待している。また、平成 30 年度から道徳が特別の教科(小学校 中学校 31 年度より)となり、ますます注目を集めている。教育の目的が「人格の完成」ならば、まさに、道徳は教育の中心的な存在である。本講座は道徳教育について学ぶとともに、自分の生き方についても、しっかりと考える時間にして欲しい。		
13. オフィスアワー	初回講義の際に連絡先・連絡方法を伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	道徳の本質：倫理と道徳、法と道徳、教育としての道徳の在り方に関する概要理解について(本講義での学びを深めるためのオリエンテーションも含む)。	事前学習	道徳とは何か、何故学校において道徳教育を行うのかのイメージを持つ。
		事後学習	アサイメント+道徳は何かを理解し、学校教育における道徳教育の意義や目的を理解する。
第 2 回	わが国の道徳教育 I：道徳教育の目標、学校における道徳教育の目標と方法、道徳の時間の位置付けについて。	事前学習	テキストの第 4 章 1 pp.106~123 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+道徳教育の目標と方法、教育課程での道徳科の位置づけについて整理する。
第 3 回	わが国の道徳教育 II：学習指導要領と道徳教育、道徳教育における系統性・発展性、学習指導要領に示された道徳教育の意義とその内容構成について。	事前学習	テキストの第 1 章 pp.10~28 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+道徳科の特質についてまとめる。
第 4 回	わが国の道徳教育史 I：戦前における修身科の軌跡(学制頒布、教学聖旨、学校令、教育勅語、国定教科書、大	事前学習	テキストの第 4 章 2 pp.123~132 を読み、概要を把握しておく。

	正デモクラシー、ファンズム、国民学校令等) について。	事後学習	アサイメント+戦前の道徳教育史の流れを確認、把握する。
第 5 回	わが国の道徳教育史Ⅱ：戦後道徳教育の軌跡(修身科停止、公民科構想、全面主義道徳教育、道徳教育振興に関する答申、道徳の時間特設等) について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 4 章 2 pp.132~140 と第 2 章 4 pp.44~49 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+戦後の道徳教育史の実態を確認、把握する。
第 6 回	道徳性発達の理論：道徳性と社会性、道徳性の発達理解(S.フロイト、J.ピアジェ、L.コールバーグ、N.J.ブル等の道徳性発達理論) について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.141~152 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+各研究者の論についてまとめをする。
第 7 回	道徳教育の方法理論Ⅰ：インカレケーションの道徳教育(価値の内面化による道徳授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.152~155 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+インカレケーションの方法論による授業のイメージを掴む。
第 8 回	道徳教育の方法理論Ⅱ：自己発見の道徳教育(価値の明確化による道徳授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.155~159 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+価値の明確化の方法論による授業のイメージを掴む。
第 9 回	道徳教育の方法理論Ⅲ：判断力を高める道徳教育(コールバーグ理論による道徳授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.160~163 を読み、概要を把握しておくこととテキスト p150 の道徳教材ハインツのジレンマを精読しておくこと。
		事後学習	アサイメント+モラルジレンマを理解し、授業展開のイメージを掴む。
第 10 回	学校における道徳教育の実際Ⅰ：学校における道徳教育の構造、道徳科の特質、道徳科と各教科等の連携、全体計画、学級における指導計画、校長・教頭・養護教諭等との連携方法、家庭および地域等との連携方法等について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 2 章 pp.33~44 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+学級における道徳の指導計画を完成する。
第 11 回	小学校における道徳授業の実際Ⅰ：小学校における道徳教育や道徳授業の進め方の実際(年間指導計画、道徳学習指導案を通して)について。	事前学習	テキストの第 3 章 pp.54~70 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+年間指導計画の作成手順や学習指導案の項目の理解をする。加えて、学習指導案のイメージを掴む。
第 12 回	小学校における道徳授業の実際Ⅱ：小学校における道徳授業の進め方の実際(道徳学習指導案の構成項目やその作成手順等)について。	事前学習	低学年用道徳教材「はしのうえのおおかみ」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.87~103 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「はしのうえのおおかみ」の指導案を完成する。
第 13 回	小学校における道徳授業の実際Ⅲ：小学校における道徳授業の進め方の実際(教材分析の方法と学習指導案作成)について。	事前学習	中学年用道徳教材「ヒキガエルとロバ」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.71~80 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「ヒキガエルとロバ」の指導案を完成する。
第 14 回	小学校における道徳授業の実際Ⅳ：小学校における道徳授業の進め方の実際(道徳教育評価、学習指導案作成、模擬授業)について。	事前学習	高学年用道徳教材「手品師」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.113~121 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「手品師」の指導案を完成する。
第 15 回	本講義のまとめと評価：道徳教育を取り巻く現代課題(児童生徒の問題行動と道徳教育、価値相対主義や文化的相対主義の克服等、道徳教育と生命倫理・環境倫理等)について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 6 章 1pp.174~179 と第 6 章 1pp.186~191 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	全 15 回の授業を通じて、学んだこと、学びきれなかったことを振り返り今後の勉学に生かす。

1. 科目名 (単位数)	道徳の指導法 (2 単位)	3. 科目番号	JEEL1409
2. 授業担当教員	富岡 栄	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	学校は、子ども達の豊かな人格形成をしていく場である。その中核を担う道徳教育では、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基礎となる資質や能力である、豊かな道徳性の育成を図ることを目標とする。本科目では、学校教育における道徳教育改訂の経緯を踏まえながら、道徳教育の目標や内容について理解を深める。また、道徳教育の内容、子どもの道徳性の発達特性に即した指導計画及び授業実践について検討する。あらたに、特別の教科【道徳】についてその意味を考える。		
8. 学習目標	1. 教育課程の全体構成と、道徳教育の要点や特性を理解し、説明することができる。 2. 子どもの道徳性の発達について理解し、説明することができる。 3. 道徳教育の目標や内容について理解し、説明することができる。 4. 道徳の指導計画の作成力や指導の実践力を身に付ける。 5. 家庭や地域社会との連携による道徳教育の日常化について考察を深め、自分の考えを述べることができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントは毎週課す。基本的には、次回の講義内容にかかわるテキストを精読し概要を把握すること。そして、授業内容について自分の考えや意見をまとめること。加えて、4回のレポートを課す。1回目は道徳教育や道徳の時間の目的や意義に関すること。2回目、3回目は道徳科学学習指導案を完成すること。4回目は道徳の時間と各教科・他領域との関連の図り方、そして地域や家庭との連携の図り方について。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 I 文部科学省『学校学習指導要領解説(道徳編)』東洋館出版社。 II 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	レポート	総合点の70%	
	授業への参加態度、積極性	総合点の30%	
	総合点	100%	
12. 受講生への メッセージ	教職として必要な科目であり、道徳教育の実践について具体的に踏み込んでいく授業となる。道徳教育は全教育活動を通じて行うものであり、教科教育を基底で支える教育活動でもあるので、積極的な授業参加を心がけてほしいと期待している。また、平成 30 年度から小学校では道徳が特別の教科(中学校 31 年度より)となり、ますます注目を集めている。教育の目的が「人格の完成」ならば、まさに、道徳は教育の中心的な存在である。本講座は道徳教育について学ぶとともに、自分の生き方についても、しっかりと考える時間にして欲しい。		
13. オフィスアワー	初回講義の際に連絡先・連絡方法を伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業計画概要、教育課程の全体構成と道徳教育	事前学習	道徳教育についての自分のイメージをまとめておく。
		事後学習	教育課程全体における道徳教育の位置を整理する。
第 2 回	道徳教育の改訂の経緯とその要点	事前学習	教科書 pp. 7~14 を熟読し改訂の要点をまとめておく。
		事後学習	わが国の道徳教育の歩みを整理する。
第 3 回	道徳性の発達と道徳教育	事前学習	教科書 pp. 15~22 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳の意義と道徳性の発達について整理する。
第 4 回	道徳教育の目標	事前学習	教科書 pp. 23~33 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	アサインメント+道徳的絶対主義と相対主義の違いとそれぞれの利点・問題点を整理する。
第 5 回	道徳の内容と内容構成の考え方	事前学習	教科書 pp. 34~38 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	内容項目の指導の四観点について整理する。
第 6 回	低学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 pp. 39~48 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	低学年の四観点 1 8 項目について整理する。
第 7 回	中学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 pp. 48~53 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	中学年の四観点 2 0 項目について整理する。
第 8 回	高学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 pp. 53~62 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	高学年の四観点 22 項目について整理する。
第 9 回	道徳の時間の指導計画と指導の展開	事前学習	教科書 pp. 65~78 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画について整理する。
第 1 0 回	道徳の時間の指導案の作り方	事前学習	教科書 pp. 79~98 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳の時間の特質とその指導について整理する。
第 1 1 回	道徳の時間の指導(手品師)の教材を生かした授業	事前学習	手品師を読み、指導のポイントを考える。
		事後学習	授業の反省を行う。道徳教育の必要性和教科等との関連について整理する。
第 1 2 回	総合的な学習の時間における道徳教育	事前学習	教科書 pp. 107~111 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	他領域における道徳教育について整理する。
第 1 3 回	道徳に時間における児童理解と評価	事前学習	教科 pp. 124~128 を熟読しその要点をまとめる
		事後学習	道徳教育における評価について整理する。
第 1 4 回	道徳教育における家庭、地域社会との連携	事前学習	教科書 pp. 116~123 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	家庭や地域との連携の重要性について理解を深める。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	道徳教育推進上の課題について考える。
		事後学習	特別の教科道徳や道徳性の育成とその実践化への課題についてレポートを書く。

1. 科目名 (単位数)	特別活動の指導法 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3408
2. 授業担当教員	井田 延夫		
4. 授業形態	◇講義、演習、模擬実習、グループワーク、ディスカッションなど 例：導入：講義によって課題の把握→展開 (演習)：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議→まとめ：協議内容を含め講義のまとめ	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	◇ 特別活動は、児童の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防的な役割を果たすなど、児童の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につけさせる。 ◇ 特別活動に関する主要な概念を講義等で受け入れて増やす学び (概念受容型の学び) と演習や協議等を通じて自力で概念を形成する「概念形成型の学習」を行うようにする。特に、特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、学級活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。 ◇ 演習内容は、小学校における「学級活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからである。また、教科書もなく学級担任としての力量が学級担任になると即刻問われるからである。		
8. 学習目標	◇ 特別活動に関する理論と実践について理解し、理論と実践の交流や応用が図れるようになる。 ◇ 特別活動が重視する「よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成」を具体的な活動例『よりよい人間関係づくりを目指した体験活動、生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動』などを通して理解し、自ら考えた新企画を発表できるようにする。 ◇ 小学校における特別活動の中核となる「学級活動」について、計画委員会が主体となって授業を展開する指導案 (展開案) を作成し、班内及び全員の前で発表できるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	◇ アサイメントは、毎時間課します。 ◇ レポート課題は、「特別活動の特質」「小学校特別活動の歴史と挑戦したい学級活動」「私が挑戦する学級活動展開案」などとする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ◇『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版、平成 20 年 8 月。 ◇高橋哲夫、原口盛次、井田延夫編『特別活動研究 第三版』教育出版。 【教材】 ◇ プリント教材は、毎時の授業時に配布します。		
11. 成績評価の方法	◇ 日常の授業の取組・・・・・・・・総合点の 30% ※ 授業は全部出席すること。 (15 回中、4 回以上の欠席は単位不認定となります。なお、遅刻は 1 回につき 2 点、欠席は 1 回につき 5 点の減点とします。) ◇ アサイメント、レポート・指導案の作成度など・・・・・・・・総合点の 50% ◇ 復習度・資料整理活用度点検・・・・・・・・総合点の 20%		
12. 受講生へのメッセージ	1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です) 5 予習をするとともに、教育や特別活動に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。 6 教員を目指す大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (学習目標等) 特別活動の特質と方法原理 特別活動の構成と基本的な用語の理解	事前学習	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』を概観してくる
		事後学習	教科書 pp.1~2 で、特別活動の構成と基本的な用語等を整理する
第 2 回	特別活動の目標 特別活動の歴史からみた特質 教育内容としての特別活動の特質 レポート課題 1 の理解とその構想開始 <課題 1 「特別活動の特質について、このように考えます!」>  <第 4 回の授業時に提出>	事前学習	解説書 pp.8~13 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.3~35 で復習し、レポート課題 1 「特別活動の特質」についての考えを整理し始める
第 3 回	特別活動の教育的意義、 特別活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連 他の教育内容・方法との関連 1 (各教科の学習、外国語活動、道徳教育)	事前学習	解説書 pp.15~27 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.36~42 で、特別活動の教育的意義について、復習する
第 4 回	他の教育内容・方法との関連 2 (総合的な学習の時間、生徒指導) レポート課題 2 の理解とその構想開始 <課題 2 「小学校特別活動の歴史と私が挑戦したい学級活動 (2) の共通事項とその理由をこのように考え	事前学習	解説書 pp.2~7、pp.27~31 を熟読してくる レポート 1 を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.42~45 で復習する レポート課題 2 の構想を練る

	ています!」> <第6回の授業時に提出>		
第5回	学級活動の指導(目標、学年ごとの内容、共通事項の理解、展開の基盤となる考え方、指導実践例)	事前学習	解説書 pp.32~40 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.56~64 で復習をする
第6回	学級活動の指導計画(学校としての年間指導計画、学級ごとの年間指導計画、一単位時間の指導計画) レポート課題3の理解とその構想開始 <課題3 「私が挑戦する学級活動(2)の展開案」> <第8回の授業時に提出>	事前学習	解説書 pp.40~49 を熟読してくる レポート2を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.90~91, pp.124~125, pp.136~146 で復習し、レポート課題3の構想を練る
第7回	学級活動の活動形態(話し合い活動、係活動、集会活動) 計画委員会の在り方とその指導、係活動と当番活動の違い、集会活動の指導	事前学習	解説書 pp.48~56 を熟読してくる
		事後学習	「私がつくるベンチャー企業」の構想を練る
第8回	「私が挑戦する学級活動(2)の展開案」の班内発表、班代表の選出	事前学習	解説書 pp.32~47 を改めて熟読してくる レポート3「私が挑戦する学級活動の展開案」を作成してくる
		事後学習	レポート課題3の修正・完成作業をする
第9回	「私たちがつくるベンチャー企業」設立会議、会社説明会 学級生活を豊かにする係活動の運営(実践例から学ぶ)	事前学習	解説書 p.55 の「発達の段階に即した指導の目安」を熟読してくる 「私を作るベンチャー企業」を考えてくる
		事後学習	係活動の在り方を再確認し、当番活動との違いを整理する
第10回	「私が挑戦する学級活動(2)の展開案」の班代表発表会 自己決定したものが「画餅」とならないための指導 目標達成への意欲を高める事後指導	事前学習	教科書 pp.124~140 で予習してくる
		事後学習	学級活動に関する学びの整理とまとめをする
第11回	児童会活動の指導(目標、内容、形態、指導計画・活動計画など)、 児童会活動担当として、子どもへ「仕掛けたい企画」発表 児童会本部が行う「いじめ防止活動」の実践例 七夕集会における短冊作成に関する指導(生き方教育)	事前学習	解説書 pp.64~75 を熟読してくる 「児童会担当として仕掛けたい企画」を考えてくる 七夕飾りの短冊を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.64~69, pp.105~111 で復習をする
第12回	クラブ活動の指導(目標、内容、組織、指導計画・活動計画など)、 クラブ活動の指導時数、 「料理クラブ」担当教師としての指導上の留意事項	事前学習	解説書 pp.76~87 を熟読してくる 「料理クラブ顧問へのアドバイス」を考えて来る
		事後学習	教科書 pp.69~71 で復習をする
第13回	学校行事の指導(目標、内容など)、学校行事の事前指導、 学校行事の授業計画 「こんな学校行事を提案します」の発表	事前学習	解説書 pp.88~103 を熟読してくる 「こんな学校行事提案します」を考えて来る
		事後学習	教科書 pp.71~78 で復習をする
第14回	特別活動の授業時数 特別活動の指導計画(全体計画、年間指導計画) まとめ(復習度、資料整理活用度点検)	事前学習	教科書 pp.50~55 の熟読と、それまでの学習を復習し資料を整理してくる
		事後学習	解説書 pp.104~109 で復習をする
第15回	特別活動の評価、全体の振り返り、卒業式に関わる主な指導内容、模擬卒業式の実践	事前学習	解説書 pp.122~123 を熟読してくる
		事後学習	解説書 p.121 で復習をする 特別活動を重視する教師となるべく決意と覚悟をする

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語 / 日本の文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	JEGC1707 JNGC1707
2. 授業担当教員	内田 力		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション		6. 履修条件・他科目との関係	
7. 講義概要	この授業は、本学で学ぼうとする留学生の日本語運用能力のレベルアップと日本文化についての理解をより一層深めることを目的としています。特に中・上級学習者の知的好奇心に答えるため、女性、子ども、若者、働く人々の実態に関する資料と読み物を教材として用い、日本経済の変遷、教育制度、ファッション、「携帯」文化、就業実態といった現代日本社会の多様な側面について学んでいきます。毎回の授業は、これらのトピックについての資料の読解、ディスカッション、作文、そして語彙・語法に関する小テストで構成されます。また学期中を通して、各自で興味のあるテーマについての研究を進め、その成果を口頭で発表し、最終レポートにまとめます。			
8. 学習目標	1. 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・社会に関する理解を深める。 2. 日本語で書かれた説明文や資料を正確に理解し、自分の言葉で要約できるようになる。 3. 議論を進めるために適切な質問ができるようになる。 4. 日本語での口頭発表を行う能力を養う。 5. 自分とは異なる文化背景を持つ人々と協働して作業が出来るようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①日本語能力向上のために、テキストの語彙・表現について小テストを毎回実施する。 ②教科書の担当部分の読解資料を読んで、授業中に内容の要旨や自分の意見を発表する。 ③授業中に配布するワークシートを用いて、事前学習・事後学習を行なう。 ④テキストで学んだテーマのなかから興味をもった事柄について、資料を調べたうえで、口頭発表を行い、レポートにまとめる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京大学 A I KOM 日本語プログラム、近藤安月子・丸山千歌編『中・上級日本語教科書 日本への招待』(第 2 版) 東京大学出版会。 同『中・上級日本語教科書 日本への招待【予習シート・語彙・文型】』(第 2 版) 東京大学出版会。 *その他授業中にプリント資料を配布します。 【参考書】 西口光一『新装版 基礎日本語文法教本』(英語版・中国語版・ポルトガル語版)、アルク。			
11. 成績評価の方法	毎回の小テスト 30% 毎回の議論での発言・受講態度 20% レポート 30% 口頭発表会での発表 20% *本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。			
12. 受講生へのメッセージ	日本語を身につけるためには日々の努力が必要です。事前学習と事後学習は欠かせず取り組んで、毎回の授業、とくにディスカッションには積極的に参加してください。そうすれば、かならず日本語の能力は向上して、大学での授業がもっと楽しいものになります。 また、本授業では意見を発言する機会が多くありますが、意見の内容だけでなく、日本語で考えて伝えようとする態度や、他人の意見を真剣に理解しようとする姿勢を重視します。ぜひ楽しんでディスカッションに参加してください。 *授業中の携帯電話(メールなど)や私語(とくに日本語以外での会話)、飲食はしないように。			
13. オフィスアワー	授業時間内に説明します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1・2 回	イントロダクション・自己紹介 日本語能力の確認	事前学習	現在の日本語能力についての自己分析。	
		事後学習	日本語能力の得意・不得意を特定し、半年間の学習目標を立てる。	
第 3・4 回	はじめに イメージの日本・日本人—ステレオタイプへの挑戦	事前学習	日本文化・社会、日本人のイメージを表現していると思う写真や絵、イラストを用意する(自作しても可)。	
		事後学習	日本社会や日本人に関する疑問点と今後理解を深めたい側面をリストアップする。	
第 5・6 回	女性の生き方① (資料 1・2)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	日本の働く女性について自国と比較して分析する。	
第 7・8 回	女性の生き方② (資料 3・4・5、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	女性の生き方・働き方と社会との関係について自国と比較しながら分析する(ミニレポート①: 800 字程度)。 ⇒ミニレポート①or②を提出	
第 9・10 回	子どもと教育① (資料 1・2)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	生徒指導や不登校について日本と自国とを比較して分析する。	
第 11・12 回	子どもと教育② (資料 5・6、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	生徒指導や不登校など、教育現場の課題について、自国と比較しながら分析する(ミニレポート②: 800 字程度)。 ⇒ミニレポート①or②を提出	
第 13・14 回	若者の感性①	事前学習	予習シート。	

	(資料 1・2・3)	事後学習	現代の若者の言動やマナーについて自国と比較して分析する。
第 15・16 回	若者の感性② (資料 4・5、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。
		事後学習	現代の若者について自国と比較して分析する(ミニレポート③: 800 字程度)。 ⇒ミニレポート③or④を提出
第 17・18 回	仕事への意識① (資料 1・2・3)	事前学習	予習シート。
		事後学習	就業・企業活動の実態について自国と比較して分析する。
第 19・20 回	仕事への意識② (資料 4・5・6、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。
		事後学習	職業の考え方や企業文化について自国と比較しながら分析する(ミニレポート④: 800 字程度)。 ⇒ミニレポート③or④を提出
第 21・22 回	レポートの書き方、 研究プロジェクトの進め方	事前学習	レポートのテーマを考える。
		事後学習	レポートのドラフトを作成する。
第 23・24 回	レポートの内容発表、 質疑応答、コメント、内容修正	事前学習	レポートの内容について紹介できるように準備する。追加の課題と疑問点をまとめておく。
		事後学習	授業中のディスカッションとコメントをもとにして、口頭発表会にむけて準備を進める。
第 25・26 回	口頭発表会にむけた方向づけ、役割分担	事前学習	これまでに取り扱ったテーマから興味をもったものを選んで、さらに調査したい項目をまとめる。
		事後学習	口頭発表にむけて、資料を調べてスライドを作成する。
第 27・28 回	口頭発表会、質疑応答、コメント	事前学習	口頭発表の準備・リハーサルをする。
		事後学習	口頭発表へのコメントをもとに、プレゼンテーションの改善点をあきらかにする。
第 29・30 回	レポートの提出、 これまでの内容の振り返り	事前学習	これまで学習した教科書の内容を復習する。最終レポートを作成する。
		事後学習	まとめのテストでできなかったところを復習し、日本語能力の向上のために今後できることを把握する。

1. 科目名 (単位数)	乳児保育 I (2 単位)		3. 科目番号	JCNT2107
2. 授業担当教員	浅野 菜津子		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義および演習等			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を身につける。			
8. 学習目標	1. 乳児保育がたどってきた歴史を学び、その意義を考え自らの言葉で表現できる。 2. 0歳児から2歳児の心身の発達について知るとともに、保育者の役割について説明できる。 3. 乳児の健康と安全について学び、望ましい保育環境について考えることができる。 4. 乳児の遊びの意義を知るとともに、遊びを体験する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・授業内容に関する振り返りの課題を出すので、期限を守って提出すること。 ・乳児保育担当者に求められることについて、自分の考えをレポートにまとめる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『新訂 見る・考える・創り出す 乳児保育』萌文書林。 【参考書】厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館。 その他、授業の中で適宜紹介する。(自分が生まれた時の母子健康手帳があれば持参してください)。			
11. 成績評価の方法	授業態度 (発言等) 20%、提出物(課題等)30%、期末試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	女性の社会進出が進むとともに、乳児保育の需要が高まってきました。そして当然保育内容への関心も高まってきました。保育者の責任も重大です。一人ひとりの子どもの心と体の発達を支えつつ、保護者との連携、同僚との協調等学ぶことが多々あります。周囲の乳児や母親へ優しい視線で関心を持ってください。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 乳児保育とは	事前学習	テキスト pp19~46 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第2回	乳児保育の制度と課題	事前学習	自分の母子健康手帳を見ておく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第3回	赤ちゃんの成長の不思議な道のり	事前学習	身近な赤ちゃんに接したり、乳児研究に関する記事を調べる。	
		事後学習	振り返りの課題	
第4回	新生児～乳児期の発達の方向性	事前学習	テキスト pp47~90 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第5回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育① (おおむね6ヶ月未満)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね6か月未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第6回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育② (おおむね6か月から1歳3か月未満)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね6か月から1歳3か月未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第7回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育③ (おおむね1歳3か月から2歳未満)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね1歳3ヶ月～2歳未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第8回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育④ (おおむね2歳)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね1歳3ヶ月～2歳未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第9回	援助の実際① 人との関わり	事前学習	テキスト pp133~141 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第10回	援助の実際② 健康・安全	事前学習	テキスト pp149~157 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第11回	援助の実際③ 食事・排泄・睡眠	事前学習	テキスト pp175~186 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第12回	援助の実際④ 環境・清潔	事前学習	テキスト pp175~186 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第13回	乳児の遊びと保育者の役割① (0～1歳児)	事前学習	0～1歳児が喜ぶ遊び、発達にとって意義のある遊びを考えてみる。また、すでにある遊びや創作した遊びを体験してみる	
		事後学習	振り返りの課題	
第14回	乳児の遊びと保育者の役割② (2歳児)	事前学習	2歳児が喜ぶ遊び、発達にとって意義のある遊びを考えてみる。また、すでにある遊びや創作した遊びを体験してみる	
		事後学習	振り返りの課題	
第15回	乳児保育の展望と課題 まとめ	事前学習	今までの学習から学んだこと、疑問点などをまとめておく。	
		事後学習	乳児保育担当者に求められることについて、自分の考えをレポートにまとめる	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	乳児保育 I (2 単位)		3. 科目番号	JNNT1107
2. 授業担当教員	駒井 美智子			
4. 授業形態	講義および演習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育原理・保育内容総論→保育の基礎を学び乳児保育を学ぶと理解し易い			
7. 講義概要	わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を身につける。			
8. 学習目標	1. 乳児保育がたどってきた歴史を学び、その意義を考え自らの言葉で表現できる。 2. 0歳児から2歳児の心身の発達について知るとともに、保育者の役割について説明できる。 3. 乳児の健康と安全について学び、望ましい保育環境について考えることができる。 4. 乳児の遊びの意義を知るとともに、遊びを体験する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中でランダムに乳幼児に関する課題を出します。A41 枚提出 日常的に乳児を取り巻く環境を新聞・雑誌等で意識しておくこと			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 近藤幹生『乳児保育を学ぶ』大学図書出版、2015。			
11. 成績評価の方法	筆記試験 70%ミニレポート・出席率 30%			
12. 受講生へのメッセージ	授業には主体的・積極的・行動的・意欲的に参加すること 現代社会における乳児を取り巻く環境を意識すること			
13. オフィスアワー	金曜日の昼休み・金曜授業5限終了後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	乳児保育とは何か・ガイダンス・	事前学習	乳児保育について学習してくる	
		事後学習	乳児保育授業計画を作成・授業ノート作成	
第2回	第1章乳児保育とは	事前学習	第1章を読んでまとめる	
		事後学習	第1章ノートに整理してキーワードを出す	
第3回	第2章乳児の身体機能の発達と保育	事前学習	第2章を読んでまとめる	
		事後学習	第2ノートに整理してまとめる	
第4回	第3章乳児の育ちと保育・DVD	事前学習	第3章を読んでまとめる	
		事後学習	第3章ノートに整理してまとめる	
第5回	第4章乳児に見られる疾病・事故①	事前学習	第4章を読んでまとめる	
		事後学習	第4章乳児の疾病・事故を調べる	
第6回	第4章乳幼児に見られる疾病・事故②各グループで調べてみよう・発表に繋げる	事前学習	第4章乳児の疾病・事故をノートに整理	
		事後学習	第4章乳児の疾病・事故をグループで整理	
第7回	第4章乳児にみられる疾病についての発表・事故(グループ) PC	事前学習	第4章乳児の疾病・事故を PC 作成	
		事後学習	第4章乳児の疾病・事故について整理	
第8回	第5章乳児保育の現状と課題	事前学習	第5章乳児保育の現状と課題を読む	
		事後学習	第5章乳児保育の現状と課題のノート整理	
第9回	第6章乳児保育の実践	事前学習	第6章乳児保育の実践を読む	
		事後学習	第6章乳児保育の実践を整理まとめる	
第10回	第7章乳児保育政策について	事前学習	第7章乳児保育の政策について読む	
		事後学習	第7章乳児保育の政策を整理まとめる	
第11回	第7章乳児保育の新たな課題①	事前学習	第7章乳児保育の課題について読む	
		事後学習	第7章乳児保育の課題を整理まとめる	
第12回	第7章乳児保育の新たな課題②各グループ発表	事前学習	第8章乳児保育の課題リサーチ	
		事後学習	第8章乳児保育の課題発表会・資料	
第13回	第8章乳児の育ちを育むふれあいあそび	事前学習	第8章乳児のふれあいあそびを読む	
		事後学習	第8章乳児のふれあいあそび制作①	
第14回	第8章乳児の育ちを育むふれあいあそびの理論と実践	事前学習	第8章乳児のふれあいあそび制作②	
		事後学習	第8章乳児のふれあいあそび制作発表	
第15回	乳児保育のまとめ	事前学習	第8章乳児保育のまとめ	
		事後学習	第8章乳児保育のまとめ	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	乳児保育Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	JCNT2508
2. 授業担当教員	浅野 菜津子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	「乳児保育」で学習したことを基礎とし、保育所及び児童福祉施設等における、乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について実践的な視点から具体的・総合的に理解する。		
8. 学習目標	1. 乳児の発達過程および乳児保育の実際を事例の考察・演習・諸記録等により理解し、実践的な能力を身に付ける。 2. 乳児が、健康で楽しく、安心して生活できる環境について保育施設および家庭のあり方について考察することができる。 3. 育児相談への対応の仕方について学びあう。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・授業内容に関する振り返りの課題を出すので、期限を守って提出すること。 ・乳児期に多い育児相談の内容について調べ、その相談にどう応じたらよいかをまとめる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】乳児保育研究会編著『乳児の保育新時代 (資料でわかる)』ひとなる書房。 【参考書】厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 その他、授業の中で適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	授業態度 (発言等) 20% 提出物 (課題等) 20% 発表 20% 期末試験 40%		
12. 受講生への メッセージ	乳児保育Ⅱでは乳児保育で学習したことを基礎に、より実践的な内容について学びます。 近年、乳児保育への需要が増加し、保育の質も問われています。子どもの幸福を第一に考えつつ、父母および子どもを取り巻く社会との連携は欠くことは出来ません。保育の知識、技術の研鑽はもちろんのこと、豊富な感性と人間性が求められます。他の教科とも関連性を持ちながら専門性を高めてください		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 「乳児保育」の振り返り	事前学習	「乳児保育」で学んだことの復習をしておく
		事後学習	振り返りの課題
第 2 回	乳児の発達と保育	事前学習	テキスト pp.10~30 を読んでおく
		事後学習	振り返りの課題
第 3 回	乳児保育の内容と方法 基本的な生活習慣を中心に	事前学習	テキスト pp.34~56 を読んでおく
		事後学習	振り返りの課題
第 4 回	乳児保育の内容と方法 遊びを中心に	事前学習	テキスト pp.58~77 を読んでおく
		事後学習	振り返りの課題
第 5 回	保育の記録と計画	事前学習	テキスト pp.80~94 を読んでおく
		事後学習	振り返りの課題
第 6 回	保育の事例を考える 子どもを理解する	事前学習	年齢別発達状況について調べる
		事後学習	振り返りの課題
第 7 回	保育の事例と考察	事前学習	保育所保育指針解説書第 2 章を読んでおく
		事後学習	振り返りの課題
第 8 回	あそびの援助と環境	事前学習	小麦粉粘土の材料等の準備をする
		事後学習	振り返りの課題
第 9 回	生活の援助と環境	事前学習	おむつ替え、着脱の方法について調べておく
		事後学習	振り返りの課題
第 10 回	乳児保育と子どもの発達・親としての発達	事前学習	テキスト pp.100~119 を読んでおく
		事後学習	振り返りの課題
第 11 回	保育現場での育児相談 連絡ノートの活用	事前学習	乳児期に多い育児相談の内容について調べる
		事後学習	振り返りの課題
第 12 回	保護者との連携 グループごとの(または個人による)課題発表	事前学習	発表に向けて準備をしておく
		事後学習	振り返りの課題
第 13 回	保護者との連携 グループごとの(または個人による)課題発表	事前学習	発表に向けて準備をしておく
		事後学習	振り返りの課題
第 14 回	保育者のあり方	事前学習	テキスト pp.120~131 を読んでおく
		事後学習	振り返りの課題
第 15 回	乳児保育の役割と課題	事前学習	テキスト pp.132~162 を読んでおく
		事後学習	今まで学習したことを復習する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	乳幼児の脳機能 (2 単位)		3. 科目番号	JCGL2205
2. 授業担当教員	栗原 久			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	胎児期は身体と脳の基本形成、乳幼児期は脳機能の発達、小児期は脳機能の完成にとって重要な時期であり、適切な刺激の提示と栄養の供給が欠かせない。「乳幼児の脳機能」の授業では、人体の大部分の機能をコントロールする脳について、その構造と機能分化について学習する。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を目指す学生にあっては、乳幼児・小児の成長に直接関わることになるので、脳の発達を考慮した保育・教育の大切さを認識できるようにする。			
8. 学習目標	以下の項目について学び、説明できるようになる。 1. 進化の過程の中で、ヒトはどのように脳を巨大化させたのかについて学ぶ。 2. ヒトの脳の構造と機能分化について学ぶ。 3. 胎児期、乳幼児期、小児期の脳の発達について学ぶ。 4. 脳機能の形成・発達に悪影響を及ぼす各種因子について学ぶ。 5. 脳の栄養について学ぶ。 6. 脳の大切さを認識し、乳幼児と関わる際の心構えを認識する。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：乳幼児の脳機能発達における外部刺激の影響について (1,000字以上、横書き) <ポイント>：脳の神経細胞は、出生時までにはほぼ全てが形成される。しかし、細胞間の情報伝達に関与するシナプスは出生後に刈り込みが行われて効率化が進み、複雑な神経回路網を形作って、脳機能は高まっていく。これには外部刺激の有無が強く関わっている。刺激に対する高感受性期について、また脳の発達に及ぼす刺激の有無、および過剰な刺激提示の影響について考察すること。 授業ごとに配布するワークシートに、学んだ内容をまとめて授業終了時に提出する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】なし (授業ごとに資料を配付) 【参考書】栗原久 (著) 『脳-創り・育て・守り・輝かせる』圭文社。 後藤和宏 (監修) 『よくわかる 最新「脳」の基本としくみ』。 その他、最新の脳関連の資料を授業ごとに配布する。			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、 授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生への メッセージ	1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. 脳に関する最新の情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション、脳の構造	事前学習	「乳幼児の脳機能」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。	
		事後学習	脳の基本的構造と機能の概略をまとめる。	
第 2 回	動物の進化と脳の進化、人体機能のコントロール	事前学習	事前配布資料をよく読んで、動物とヒトの脳の大きさ、機能の違いを把握する。	
		事後学習	ヒトの脳は動物と比べて、どこが発達しているのかまとめる。	
第 3 回	脳の機能分化・刺激に対する高感受性期	事前学習	事前配布資料をよく読んで、乳幼児の知的発達状況を理解する。	
		事後学習	知的・行動的発達と関係する脳部位をまとめる。	
第 4 回	脳の活動と栄養	事前学習	事前配布資料をよく読んで、ヒトの活動に必要な栄養素を理解する。	
		事後学習	脳の活動に必須の栄養素をまとめる。	
第 5 回	胎児期における脳の形成	事前学習	事前配布資料をよく読んで、受精から出生までの、胎児の成長を理解する。	
		事後学習	脳の発達を生物進化の過程と結びつけてまとめる。	
第 6 回	胎児期の脳に対する危険因子	事前学習	事前配布資料をよく読んで、胎児期の成長に必要な各種要素を理解する。	
		事後学習	胎児期の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。	
第 7 回	乳児の脳の発達	事前学習	事前配布資料をよく読んで、乳児期 (出生から約 1 年間) における機能発達を理解する。	

		事後学習	乳児期における機能発達と関連する脳部位をまとめる。
第 8 回	乳児期の脳に対する危険因子	事前学習	事前配布資料をよく読んで、乳児期の発達に必要な各種要素を理解する。
		事後学習	乳児脳の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。
第 9 回	幼児期における脳の形成	事前学習	事前配布資料をよく読んで、幼児期（1～5 歳）における機能発達と関連する脳部位を理解する。
		事後学習	幼児脳の発達に必要な各種要素をまとめる。
第 10 回	幼児期の脳に対する危険因子	事前学習	事前配布資料をよく読んで、幼児期の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策を理解する。
		事後学習	幼児期脳の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。
第 11 回	少年期の脳	事前学習	事前配布資料をよく読んで、少年期（5～12 歳）における機能発達と関連する脳部位を理解する。
		事後学習	少年期脳の発達に必要な各種要素をまとめる。
第 12 回	少年期の脳に対する危険因子	事前学習	事前配布資料をよく読んで、少年期の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策を理解する。
		事後学習	少年期の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。
第 13 回	乳・幼・小児の学習と記憶	事前学習	事前配布資料をよく読んで、学習と記憶とはどういうことか理解する。
		事後学習	学習・記憶のメカニズムと成長についてまとめる。
第 14 回	乳・幼・小児の感覚刺激と脳による処理	事前学習	事前配布資料をよく読んで、五感にはどういうものがあるか、またその感受と処理過程を理解する。
		事後学習	脳機能の障害と感覚異常についてまとめる。
第 15 回	まとめ・課題発表	事前学習	事前に提示した課題を、口頭発表用にまとめておく。
		事後学習	まとめを文章化して提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 I (2 単位)		3. 科目番号	JECS1102 JNCS1102
2. 授業担当教員	池田 琴恵			
4. 授業形態	講義, ディスカッション, グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	発達心理学とは、人間の加齢に伴う心身の発達的变化を多面的に学ぶものである。本講義は、心身の発達を知覚や知能、記憶、思考、対人関係などの諸側面から学ぶとともに、その発達が各発達段階(乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期)においてどのような意味を持つのかについて考察することを目的とする。			
8. 学習目標	①各発達段階における特徴を理解し、説明できるようになる。 ②人間の身体・認知・記憶等、様々な発達を知り、説明できるようになる。 ③人間のコミュニケーションを含む対人関係の発達を知り、説明できるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回に課題シートを準備しますので、事前学習として教科書を読んで穴埋め式の課題に取り組んでください。また、事後学習としてレポート課題(2回)をまとめられるよう、各回の授業の要点などを振り返るようにしてください。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 本郷一夫(編)『保育の心理学 I・II』建帛社。 【参考書】 山内光哉(編)『発達心理学 上』ナカニシヤ出版。山内光哉(編)『発達心理学 下』ナカニシヤ出版。			
11. 成績評価の方法	・授業態度 50% ・小レポートとまとめ 50%			
12. 受講生への メッセージ	発達心理学では、子どもたちの発達に関する学びを深めていきます。授業での子どもの発達をよりイメージしやすくするためにも、日常の中で子どもたちの姿を観察したり、関わりをもつ機会を増やしたりするよう心がけてください。			
13. オフィスアワー	初回の講義でアナウンスします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション(発達とは)	事前学習	シラバスを読んでおく。	
		事後学習	今後の授業内容について理解し、事前学習を計画する。	
第 2 回	発達の諸問題(遺伝と環境、発達段階)	事前学習	教科書 pp.1~9 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 3 回	周産期から乳幼児期の発達	事前学習	教科書 pp.20~41 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 4 回	乳児期から児童期の発達	事前学習	教科書 pp.42~50 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 5 回	思春期・青年期の発達	事前学習	教科書 pp.51~55 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 6 回	成人期・中年期・老年期の発達	事前学習	教科書 pp.55~60 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 7 回	復習とまとめ①	事前学習	1~6 回目まで授業内容を復習しておく。	
		事後学習	復習とまとめの内容を理解する。	
第 8 回	身体機能の発達	事前学習	教科書 pp.61~72 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 9 回	認知機能の発達	事前学習	教科書 pp.73~81 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 10 回	思考機能の発達	事前学習	教科書 pp.73~81 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 11 回	コミュニケーションと言語の発達	事前学習	教科書 pp.83~92 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 12 回	感情と意志の発達	事前学習	教科書 pp.93~102 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 13 回	気質・性格の発達	事前学習	教科書 pp.103~112 を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 14 回	親子関係と子どもの発達	事前学習	配布資料を読んでおく。	
		事後学習	レジュメを復習し、内容を理解する。	
第 15 回	復習とまとめ②	事前学習	8~14 回目まで授業内容を復習しておく。	
		事後学習	復習とまとめの内容を理解する。	

1. 科目名 (単位数)	発達心理学Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	JCCS2403
2. 授業担当教員	森 慶輔			
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	「発達心理学Ⅱ(保育の心理学Ⅱ)」では、「発達心理学Ⅰ(保育の心理学Ⅰ)」で学んだ知識をもとに、保育現場における子ども理解とそれに基づく支援の実際について、発達心理学的視点から学ぶことを目的とする。			
8. 学習目標	①現場における子どもの行動を、発達の視点で見ることができるようになる。 ②子どもの発達をふまえたクラス運営についてのイメージがもてる。 ③障害のある子どもや気になる子どもへの対応、虐待や登園しぶりへの対応についての基礎知識を身につける。 ④保護者を支える知識を身につける。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	事前に教科書を読み、必要に応じて「発達心理学Ⅰ (保育の心理学Ⅰ)」の復習を行う。授業後は、授業内容を整理し、キーワードが説明できるようにする。事例検討に関するレポート課題を課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】本郷一夫編著『保育の心理学ワークブック』建帛社、2014 年。 【参考書】講義内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	原則として、講義内レポートを 60%、期末試験を 40% で評価する。			
12. 受講生への メッセージ	①授業中の私語など授業の進行の妨げとなる行為や他の受講生の迷惑となる行為は厳禁です。 ②発達心理学Ⅱ(保育の心理学Ⅱ)は、皆さんが将来、教育領域、保育領域で働く際に、子どもや保護者を理解するために非常に重要な領域です。随時、キーワード等を見直し、理解を深めて下さい。			
13. オフィスアワー	第 1 回講義の歳に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを読んでおく。	
		事後学習	今後の授業内容について理解し、事前学習を計画する。	
第 2 回	子どもの身体感覚を育てる	事前学習	教科書の第 4 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 3 回	子どもの認識を育てる	事前学習	教科書の第 5 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 4 回	子どもの感情を育てる	事前学習	教科書の第 6 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 5 回	子どもの自己を育てる	事前学習	教科書の第 7 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 6 回	第 2 回から第 5 回までのまとめ	事前学習	第 2 回から第 5 回までの復習を行う。	
		事後学習	レポートを作成する。	
第 7 回	子どもと保育者の関係を育てる	事前学習	教科書の第 8 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 8 回	子ども同士の関係を育てる	事前学習	教科書の第 9 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 9 回	保育者間の協働を通して保育をつくる	事前学習	教科書の第 10 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 10 回	関係機関と連携して子どもを育てる—小学校への接続	事前学習	教科書の第 11 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 11 回	第 7 回から第 10 回までのまとめ	事前学習	第 7 回から第 10 回までの復習を行う。	
		事後学習	レポートを作成する。	
第 12 回	障害のある子どもの保育	事前学習	教科書の第 12 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 13 回	「気になる」子どもを理解する	事前学習	教科書の第 13 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 14 回	保護者と連携して保育を進める	事前学習	教科書の第 14 章を読んでおく。	
		事後学習	章末課題をやる。	
第 15 回	第 12 回から第 14 回までのまとめ	事前学習	第 12 回から第 14 回までの復習を行う。	
		事後学習	レポートを作成する。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	JNGL1108
2. 授業担当教員	新井 美也子		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。</li> <li>2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。</li> <li>3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。</li> <li>4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。</li> <li>5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1, レポート課題             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 説明授業型 (テキストをまとめる) レポート</li> <li>(2) 要約型 (文学作品の要約) レポート</li> <li>(3) 報告学習型 (地球の温暖化を防ぐことはできるか等) レポート</li> <li>(4) 口頭発表会の資料 (パワーポイント)</li> </ol> </li> </ol> <p>* それぞれのレポート作成に関する本や資料などの収集</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大島弥生共著『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 (第2版)』ひつじ書房</p> <p>【参考書】 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック第6版』三省堂</p> <p>*必要に応じてプリント資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業で課せられるレポート 50%</p> <p>レポートの口頭発表会 20%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>期末テストは実施しない。合格に達しないレポートの場合は再提出。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国語や作文は苦手と考える人も大丈夫。大学生として必要な、レポート作成を初めて体験する大学生を対象にした授業です。「レポートの書き方・発表の仕方」を習得してもらいます。</p> <p>学習方法は、仲間同士がお互いの文章をよりよくするために話し合い、そこで議論されたことを参考に、書き手が文章の構想を練り直し、推敲を重ねていくピア・レスポンス活動で進めます。こうした共同学習から、内容を深め、文章表現を洗練し、レポートの質を高めていきます。ピア・レスポンス活動の成否は、個々の努力にかかっています。協力し合い、クラス全体で、社会が必要としているコミュニケーション能力のレベルアップを図りましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	30秒スピーチ「自己紹介 (私の愛読書を入れて)」 科目のガイダンス (授業の進め方・グループ編成等)	事前学習	愛読書 (文学作品) に触れた自己紹介を30秒程度でスピーチできるように準備しておく。
		事後学習	自他の愛読書から第5回講義、「要約型レポート作成」で使用する文学作品を決定し、再読する。
第2回	レポート作成の基礎・基本 ・作文・レポート・小論文の違い ・レポートの種類 ・レポート作成のプロセス	事前学習	「要約型レポート作成」で使用する文学作品を再読し、主題に関連する文章を記録しておく。
		事後学習	レポートの種類・作成のプロセスについてまとめる。
第3回	レポート作成1 ・説明授業型 (テキストをまとめる) レポートの作成	事前学習	教科書P5からP22まで熟読しておく。
		事後学習	テキストをまとめるレポートを完成する。
第4回	レポート作成1 ・説明授業型レポートの完成 (話し合い・推敲・清書)	事前学習	「要約型レポート作成」で使用する文学作品を再読し、要約に必要な文章を決定しておく。
		事後学習	説明授業型レポートを完成し提出する。
第5回	レポート作成2 ・要約型 (文学作品) レポートの作成	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	文学作品を要約するレポートを完成する。
第6回	レポート作成2 ・要約型レポートの完成 (話し合い・推敲・清書)	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	要約型レポートを完成し提出する。

第 7 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 構想を練り、情報を調べる。 ② テーマを絞り込み目標を規定する。	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	テーマに関する本を補足する。
第 8 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 文章を組み立てる ② 組み立てを再検討する ③ 中心部を書く。	事前学習	テーマに関する本や資料を補足しておく。
		事後学習	レポートの組み立てを完成させる。 序論を完成させる。
第 9 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 本文を書きこんでいく。 ② 数値データと図表を根拠部分に使う。	事前学習	組み立てと序論の見直しをしておく。
		事後学習	本論を完成させる
第 10 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 引用しながら書く。	事前学習	本論の見直しをしておく。
		事後学習	結論と引用を完成させる。
第 11 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 文章・表現・形式を点検する。	事前学習	レポートを見直しておく。
		事後学習	話し合いを活かして加筆・削除など修正する。
第 12 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 口頭発表の準備 (発表資料作成)	事前学習	レポート全体を見直しておく。
		事後学習	パワーポイントなどで発表資料を完成する。
第 13 回	論証型レポートの概要 レポート発表会のリハーサル・最終確認	事前学習	パワーポイントなど発表資料を修正しておく。
		事後学習	口頭発表会の確認をする。
第 14 回	レポートの口頭発表会 1・評価・交流	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	相互評価を見直す。
第 15 回	レポートの口頭発表会 2・評価・交流 文章表現の成果と課題	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	これまでの学習を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	JEGL1108
2. 授業担当教員	國府田 祐子		
4. 授業形態	講義、討議、演習、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	この授業は、大学での学習や研究において必要な文章表現力を身に付けることが目標である。これからの世の中で必要な文章表現力とは、文学的表現ではなく、筋道の通った論理的な表現力である。論理的な表現力とは、自分の主張と多くの具体的事例とを整理と結び付けて、明快な日本語で説明できる能力のことである。この授業が終わった時には、社会で通用する文章表現力の基礎が身に付いていることが望ましい。		
8. 学習目標	(1) 記録・報告・説明・論説などの論理的な文章の特質を理解する。 (2) 文章構成や段落の役割、キーワードの概念を理解し、筋道の通った論理的文章が書けるようになる。 (3) 文章とは文種によって読み方が異なってくることを理解し、異なる読み方を習得して論理的思考力・表現力を高めることにつなげる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	(1) アサインメント 適宜指示する。 持ち物として、原稿用紙 横書き用 A4 判 400 字 1 冊 (2) レポート課題 各授業における「基礎シート」を毎回提出する。小論文 (6 回) を提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ① 講義中に指示する。 ② 志賀直哉『清兵衛と瓢箪 小僧の神様』集英社文庫。 ③ 夏目漱石『坊っちゃん』新潮文庫。 【参考書】 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック 第 6 版』三省堂。		
11. 成績評価の方法	授業参加 50% 各授業における「基礎シート」、提出物、態度、遅刻・早退、私語など 小論文 50%		
12. 受講生への メッセージ	社会人になったら、その日から、自分の考えを的確に表現する場に立たされます。どのような職業に就こうとも、まず論理的に考える力を身に付ける必要があります。論理的思考力は、論理的に書くことができ初めて身に付けることができます。 言語とは、自分の思った通りには操れない特性も有しています。文章表現の奥に隠された本当の意味を読み取る訓練を、小説の描写や新聞記事を読むことによって行います。 授業では音読をたくさんします。小論文もたくさん書きます。座席は指定です。自分自身が専門家になるという自覚をもって、授業に臨んでください。		
13. オフィスアワー	初回の授業にて通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・自己紹介・小論文とは	事前学習	自らの鉛筆の持ち方を見直し、正しく持てるようにしておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習する。
第 2 回	社会人の論理的思考力・表現力 小論文 —1 次清書—	事前学習	「坊っちゃん」を読み進めておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、情景描写について理解する。
第 3 回	会議等の記録の原則 小論文 —2 次清書—	事前学習	「坊っちゃん」の中盤を読み進めておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、「自然描」が現す効果について理解しておく。
第 4 回	電話の応対 小論文 —評価・返却—	事前学習	「坊っちゃん」の後半を読み進めておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、「会話」が現す効果についてまとめておく。
第 5 回	連絡・報告・相談 小論文第 2 課題 —1 次清書—	事前学習	新聞を読み、興味のある新聞記事の切り抜きを持参し、自らの考えをまとめておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読、連絡・報告・相談の具体例をまとめておく。
第 6 回	論理的思考とは何か 小論文第 2 課題 —2 次清書—	事前学習	選んだ切り抜きのコピーを取り、事実と意見に分け、自らの考えをまとめておく。
		事後学習	「坊っちゃん」の印象に残った描写を選び、自らの考えを発表できるようにまとめておく。
第 7 回	論理的思考に見られる 2 つの型 —帰納と演繹— 小論文第 2 課題 —評価・返却— 小論文第 3 課題	事前学習	「坊っちゃん」を最後まで読み通しておく。
		事後学習	「坊っちゃん」の描写を、原稿用紙に視写する。
第 8 回	演繹論理とは何かその 1 小論文第 3 課題 —2 次清書—	事前学習	「坊っちゃん」の描写を抜き出し、それに対する考察・感想を原稿用紙に書く。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、演繹論理について理解を深める。

第 9 回	演繹論理とは何かその 2 小論文第 3 課題 –評価・返却– 小論文第 4 課題	事前学習	小論文第 2 課題までの自らの到達度についてまとめておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読し、演繹論理の練習問題をもう一度自力で解く。
第 10 回	帰納論理とは何かその 1 小論文第 4 課題 –2 次清書–	事前学習	「清兵衛と瓢箪」を読む。
		事後学習	帰納論理の特徴について、小論文の文章構成を統合してまとめておく。
第 11 回	帰納論理とは何かその 2 小論文第 4 課題 –評価・返却– 小論文第 5 課題	事前学習	「清兵衛と瓢箪」を交流した結果を踏まえ、印象に残った描写を囲んでおき、口頭発表できるようにしておく。
		事後学習	「清兵衛と瓢箪」の描写を視写し、引用した描写に対する自らの考えを原稿用紙に記述する。
第 12 回	論理的文章の 4 つの種類 小論文第 5 課題 –2 次清書–	事前学習	(夏休み)『清兵衛と瓢箪 小僧の神様』全短編を読み進めておく。
		事後学習	論理的文章の 4 つの種類について、小論文第 4 課題までの「報告・論説」と照らし合わせまとめておく。
第 13 回	論理的思考の内容 –字数に対応する方法– 小論文第 5 課題 –評価・返却– 小論文最終課題	事前学習	『清兵衛と瓢箪 小僧の神様』の中から、印象に残った小説を読み直す。大学に入学してから他の講義において出されたレポート課題の文字数について調べ、まとめておく。
		事後学習	指定された小説の描写を引用して視写し、感想・考察を記述する。
第 14 回	論理的文章に必要な 3 つの条件 小論文最終課題 –2 次清書–	事前学習	小説と物語の違いについてまとめておく。
		事後学習	今まで学んできたテキストやノートを概観し、整理しておく。
第 15 回	実習時・卒業時に生かせる論理的文章の形式 小論文最終課題 –評価・返却– 総括	事前学習	自らの書く字について、第 1 回目の字と比較して考察する。
		事後学習	テキスト・ノートを通読し、まとめる。小論文 6 本をすべて読み、自分の変容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	保育原理 (2 単位)		3. 科目番号	JEGM1103
2. 授業担当教員	岡野 雅子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	乳幼児期における保育・教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うきわめて重要なものである。そのことを踏まえて本科目では、なぜ重要な意味をもつのかについて、様々な観点から理解できるようにする。保育の意義とその思想、保育の歴史の変遷、子どもの発達特性、保育理論と実践との関連などについて概説し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基本的資料として、保育の原理、目的、目標、内容、方法、計画、評価について理解する。さらに、現代的保育ニーズや子育て支援に関する基本を習得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の目的、目標、内容、方法を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 保育の歴史の変遷、その思想についての知識を身に付ける。</li> <li>3. 保育実践の土台となる子ども観、保育観、発達観について理解し、説明することができる。</li> <li>4. 子ども理解の重要性、個の特性に応じた望ましい援助について習得する。</li> <li>5. 環境を通して行う保育について理解し、具体的な実践方法を習得する。</li> <li>6. 保育の現状を知り、現代社会における保育ニーズや子育て支援について理解し、説明することができる。</li> </ol>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	学習状況に応じて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の内容に関する課題を課す。			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 関口はつ江編『保育原理』萌文書林、2012 年 <b>【参考書】</b> 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 30% レポート 20% 期末試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	人格形成の基礎となる乳幼児期の子どもに専門家としてかかわる保育者は、子どもに対して多大な影響を及ぼす存在であることをしっかりと自覚して下さい。自分の将来像と関わらせて、授業に真剣に臨んで下さい。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のルールは守る (欠席・遅刻をしない)。</li> <li>2. 私語はしない。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	保育とは何か、養護と教育の一体化	事前学習	「保育所」と「幼稚園」の社会的役割の違いについて調べておく。	
		事後学習	授業内容を復習し、「養護と教育の一体化」の意味を理解する。	
第 2 回	諸外国の保育の歴史の変遷	事前学習	ヨーロッパの保育の歴史について調べておく。	
		事後学習	コメニウスからフレーベルの思想について、要点をまとめる。	
第 3 回	日本の保育の歴史の変遷	事前学習	日本の保育の歴史について調べておく。	
		事後学習	倉橋総三の思想について、要点をまとめる。	
第 4 回	保育の目的・目標、ねらい	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」のそれぞれの第 1 章を読み、理解する。	
		事後学習	保育の目的・目標・ねらいの関係を復習する。	
第 5 回	保育の内容、方法	事前学習	「幼稚園教育要領」第 2 章、「保育所保育指針」第 3 章を読み、理解する。	
		事後学習	保育の内容と方法の密接な関係を復習する。	
第 6 回	子ども観、保育観	事前学習	子ども観、保育観の意味を調べておく。	
		事後学習	自分の子ども観や保育観について考えをまとめる。	
第 7 回	発達の捉え方	事前学習	「発達」の定義について調べておく。	
		事後学習	自分の発達観について考えをまとめる。	
第 8 回	5 領域の意味	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の 5 領域の箇所を読み、「ねらい」と「内容」の関連について考える。	
		事後学習	5 領域をふまえたうえで、総合的な指導・援助の意味を理解する。	
第 9 回	遊びの意味	事前学習	身近な幼児の遊びを観察し、気づいた点や特徴を文章化する。	
		事後学習	遊びと学びの関係を理解する。	
第 10 回	保育の環境	事前学習	保育の環境の諸側面について調べておく。	
		事後学習	「保育は環境を通して行うものである」について理解する。	
第 11 回	保育課程、教育課程	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の教育課程、保育課程についての記述を読み、その意味を理解する。	
		事後学習	保育に計画が必要な理由を理解する。	
第 12 回	指導計画	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「指導計画」についての記述を読み、その意味を理解する。	
		事後学習	指導計画の具体例を読み、発達段階による違いを理解する。	
第 13 回	現代の子どもをとりまく状況と保育の現状	事前学習	現代の子どもをとりまく状況について考え、気づいた点をまとめる。	
		事後学習	現代の子どもをとりまく状況について整理し、保育者としての課題について自分の考えをまとめる。	
第 14 回	現代的保育ニーズと子育て支援	事前学習	政府が発表している子育て支援策について調べておく。	
		事後学習	子育て支援策の移り変わりのポイントについて整理する。	
第 15 回	全体の振り返りとまとめ	事前学習	本授業における要点や課題を整理しておく。	
		事後学習	本授業を通して学んだことを振り返り、各課題に関するポイントを整理してノートを作成する。	

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育原理 (2 単位)	3. 科目番号	JNGM1103
2. 授業担当教員	吉川 晴美	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	乳幼児期における保育・教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うきわめて重要なものである。そのことを踏まえて本科目では、なぜ重要な意味をもつのかについて、様々な観点から理解できるようにする。保育の意義とその思想、保育の歴史の変遷、子どもの発達特性、保育理論と実践との関連などについて概説し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基本的資料として、保育の原理、目的、目標、内容、方法、計画、評価について理解する。さらに、現代的保育ニーズや子育て支援に関する基本を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の目的、目標、内容、方法を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 保育の歴史の変遷、その思想についての知識を身に付ける。</li> <li>3. 保育実践の土台となる子ども観、保育観、発達観について理解し、説明することができる。</li> <li>4. 子ども理解の重要性、個の特性に応じた望ましい援助について習得する。</li> <li>5. 環境を通して行う保育について理解し、具体的な実践方法を習得する。</li> <li>6. 保育の現状を知り、現代社会における保育ニーズや子育て支援について理解し、説明することができる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の通った園の保育について」のプリント</li> <li>2. 保育の現状と課題についてのレポート</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	武藤安子吉川晴美、松永あけみ『家庭支援の保育学』建帛社 2010、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館		
11. 成績評価の方法	テスト 70%、レポート 10%、学習態度 20% (平常の学習態度、出席状況) を総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	保育原理は難しくありません。実際の場面やロールプレイ、自分で調べたことなどから、保育において大切にしたい基本的な考え方について、学んでいきましょう。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	自分の通った園についてふりかえる	事前学習	自分の通った園の現状を調べる
		事後学習	園の方針、保育内容、特色をまとめる
第 2 回	保育と何か	事前学習	自分の受けた保育からその特色に気づく
		事後学習	保育の重要性について実感する。
第 3 回	保育の意義と目標	事前学習	教科書、配布資料を読む
		事後学習	具体的場面から保育の意義と目標を復習する
第 4 回	保育の現状と課題	事前学習	報道党から、今日の保育をとりまく現状、問題点に気づく
		事後学習	保育の現状と課題についてレポートする
第 5 回	保育の歴史と思想① (コメニウス、ルソー)	事前学習	教科書、配布資料の該当部分を読む
		事後学習	該当する人物について調べ内容を深める
第 6 回	保育の歴史と思想② (モンテッソーリ、フレーベル)	事前学習	教科書、配布資料の該当部分を読む教科書を読む
		事後学習	該当する人物について調べ内容を深める
第 7 回	保育の歴史と思想③ (シュタイナー、倉橋惣三)	事前学習	教科書、配布資料の該当部分を読む
		事後学習	該当する人物について調べ内容を深める
第 8 回	保育の原理	事前学習	歴史、現在に流れる保育の原理に気付く。
		事後学習	実際の保育場面から保育原理を導く
第 9 回	保育の場—幼稚園、保育所、認定子ども園	事前学習	幼稚園、保育所、認定子ども園を知る
		事後学習	幼稚園、保育所、認定子ども園を調べ深める
第 10 回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本的な考え方①	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む
		事後学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の特色に気付く
第 11 回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本的な考え方②	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本的な考え方を理解する
		事後学習	実際の園の保育と保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との関連性を理解し、深める
第 12 回	集団保育の意義	事前学習	具体的事例から、幼児の集団の意義を考える
		事後学習	ビデオ資料等の事例から集団保育の意義を理解し、まとめる。
第 13 回	集団保育の形態と方法	事前学習	教科書、配布資料の保育事例場面から形態と方法について考える
		事後学習	保育事例場面から集団保育の形態と方法を理解し、まとめる。
第 14 回	集団保育における子ども理解と保育者のかかわり方	事前学習	実際の保育場面におけるエピソードの抽出
		事後学習	エピソードから子どもと保育者のかかわりについて理解し、まとめる。
第 15 回	まとめ—集団保育の実践	事前学習	今までの授業をふりかえり、実際の集団保育の場面から重要な保育の原理をまとめる。
		事後学習	今までの学習内容を理解しまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育士・教師論 (2 単位)	3. 科目番号	JCGM2404 JNGM1404
2. 授業担当教員	安藤 哲也		
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育原理をベースにしてより深い学習を展開する。乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、今日ますます強調されている。その乳幼児期に関わる保育者としての人的環境での存在は非常に重要である。保育者として何が重要であるのか、また何を求められているのかを保育原理を基本にしてより深く学ぶ。また、現代社会が求めている幼保小連携や統合保育・障害児保育などの保育形態についても理解する。</p>		
8. 学習目標	<p>以下の項目について理解し、説明することができるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容と指導計画について</li> <li>2. 保育者・家庭・地域の関わりについて</li> <li>3. 現代社会における保育ニーズについて</li> <li>4. 保育者の専門性について</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>・レポート ①「私の理想とする保育者像」と②「①に近づくために理解しておかなければならないこと」について、講義の内容を踏まえ、A4用紙1枚(両面)以内にまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】高橋貴志編著『現代保育者入門－保育者をめざす人たちへー』大学図書出版、2013。 文部科学省『幼稚園教育要領』 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 【参考書】駒井美智子編著『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい社。 咲間まりこ編著『保育原理』大学図書出版。 『保育所保育指針』フレーベル館。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート 50% 授業への取り組み姿勢 20% 課題提出 30%		
12. 受講生への メッセージ	<p>この科目では、学生同士のグループ討議による学び合いを中心に授業を進めます。自分とは違う考えに出会うことで、一人一人がより思考を深めたり広げたりしていくことを期待しています。 事前学習を入念に行い、自分の考えをしっかりと持っていることで、楽しく有意義に授業に参加することができます。事前学習の内容、グループ討議での学び、事後学習の内容を各回の授業ごとにまとめ、課題として提出します。少し大変ですが、これらの学びの記録は、皆さんの財産になるはずです。 この授業を通して、幅広い知性と人間性をもった保育者を目指しましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの確認・受講生へのメッセージと授業展開及び期末課題の確認	事前学習	シラバスを読み授業の準備をする。
		事後学習	授業の流れを知り、確認をする。
第 2 回	幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 (学校教育法、幼稚園、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)	事前学習	幼稚園教諭の仕事について調べる。
		事後学習	幼稚園教諭に必要な能力や職務内容について整理する。
第 3 回	保育士に求められる能力と職務内容の概要 (保育所保育士、施設保育士、児童福祉法、保育所・園、児童福祉施設、保育所保育指針)	事前学習	保育士の仕事について調べる。
		事後学習	保育士に必要な能力や職務内容について整理する。
第 4 回	①子どもの主体性を保障するということ ②遊びを指導するということ (遊びを通した指導の重要性)	事前学習	「子どもの生活と遊び」について考える。
		事後学習	子どもにとっての「遊び」の意味をまとめる。
第 5 回	①環境を通して行う教育 ②保育内容と計画 (具体的な指導方法、保育者の意図を表す指導計画)	事前学習	「環境の構成・再構成」について調べる。
		事後学習	環境を構成することによる指導法と指導計画の立て方についてまとめる。
第 6 回	①教育に関する学び ②福祉に関する学び (教育と養護、障害のある子どもの保育、統合保育)	事前学習	教育と福祉の異同について考える。
		事後学習	第 3 章①②をまとめる。
第 7 回	①心理に関する学び ②子どもの保健に関する学び (乳幼児期の発達特性、発達過程)	事前学習	乳幼児期の発達について調べる。
		事後学習	第 3 章③④をまとめる。
第 8 回	①栄養に関する学び ②運動に関する学び (乳幼児期の発達を支える栄養学、身体の発達を促す運動的な遊び)	事前学習	乳幼児期に相応しい栄養や運動について調べる。
		事後学習	第 3 章⑤⑥をまとめる。
第 9 回	①音楽に関する学び ②児童文化教材に関する学び (保育現場での実際、手遊び、リズム遊び、絵本・紙芝居の読み聞かせ)	事前学習	乳幼児期に相応しい音楽や児童文化教材とは何か考える。
		事後学習	第 3 章⑦⑧をまとめる
第 10 回	①幼稚園教諭の専門性 ②保育士の専門性	事前学習	幼稚園教諭、保育士の専門性について考え

	(子どもを理解する力、子ども同士の関係をみる力、 保育を構想する力、環境を構成する力)		る。
		事後学習	幼稚園教諭、保育士の専門性についてまとめる。
第 1 1 回	施設保育士の専門性 (児童福祉、様々な児童福祉施設、障害に応じた支援)	事前学習	施設保育士の専門性について考える。
		事後学習	施設保育士の専門性についてまとめる。
第 1 2 回	専門性を高める保育研究 (保育の実践と省察、教材研究、評価)	事前学習	保育者の専門性を高める方法について考える。
		事後学習	保育研究の必要性とその方法について、整理しまとめる。
第 1 3 回	家庭・地域との連携 (多様化する保育ニーズ、子育て支援の在り方、地域の教育的資源の活用)	事前学習	家庭・地域との連携の具体的な方法について調べる。
		事後学習	家庭・地域との連携の必要性や可能性についてまとめる。
第 1 4 回	幼保小連携 (小1プロブレム、スタートカリキュラム、幼保小をつなぐ生活科)	事前学習	幼保小連携の具体的な方法について調べる。
		事後学習	幼児の発達を見通した連携の重要性をまとめる。
第 1 5 回	第 2 回から 14 回までのまとめ	事前学習	これまでの講義ノートを整理する。
		事後学習	質の高い保育者をめざすには何が大切かノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育士・教師論 (2 単位)	3. 科目番号	JEGM1404
2. 授業担当教員	松井 裕子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義と演習 (事前学習成果の報告や協議) を通して保育士・教師の職務内容について理解を深め、その専門性や豊かな人間性を培うことを重視する。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育原理をベースにしてより深い学習を展開する。乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、今日ますます強調されている。その乳幼児期に関わる保育者としての人的環境での存在は非常に重要である。保育者として何が重要であるのか、また何を求められているのかを保育原理を基本にしてより深く学ぶ。また、現代社会が求めている幼保小連携や統合保育・障害児保育などの保育形態についても理解する。		
8. 学習目標	以下の項目について理解し、説明することができるようになることを学習目標とする。 1. 保育内容と指導計画について 2. 保育者・家庭・地域の関わりについて 3. 現代社会における保育ニーズについて 4. 保育者の専門性について		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	自身の目指す保育士・教師像について保育原理や求められる専門性などの視点から検討を加える。本科目の学習を通して自身のよさとともに課題等を明確にし、より豊かな質の高い保育士・教師を目指すための方策を考える。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】高橋貴志編著『現代保育者入門－保育者をめざす人たちへー』大学図書出版、2013。 文部科学省『幼稚園教育要領』 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 【参考書】駒井美智子編著『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい社。 咲間まりこ編著『保育原理』大学図書出版。 『保育所保育指針』フレーベル館。		
11. 成績評価の方法	レポート 50% 授業への取り組み姿勢 20% 課題提出 30%		
12. 受講生へのメッセージ	乳幼児期の保育・教育にかかわる仕事の大切さや魅力を学ぶとともに、常に自身の目指す保育士像、教師像に立ち返って、それらに様々な視点から検討を加えることにより、より豊かなものに高めていきましょう。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの確認・受講生へのメッセージと授業展開及び期末課題の確認	事前学習	シラバスを読み授業の準備をする。
		事後学習	授業の流れを知り、確認をする。
第 2 回	幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 (学校教育法、幼稚園、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)	事前学習	幼稚園教諭の仕事について調べる。
		事後学習	幼稚園教諭に必要な能力や職務内容について整理する。
第 3 回	保育士に求められる能力と職務内容の概要 (保育所保育士、施設保育士、児童福祉法、保育所・園、児童福祉施設、保育所保育指針)	事前学習	保育士の仕事について調べる。
		事後学習	保育士に必要な能力や職務内容について整理する。
第 4 回	①子どもの主体性を保障するということ ②遊びを指導するということ (遊びを通した指導の重要性)	事前学習	「子どもの生活と遊び」について考える。
		事後学習	子どもにとっての「遊び」の意味をまとめる。
第 5 回	①環境を通して行う教育 ②保育内容と計画 (具体的な指導方法、保育者の意図を表す指導計画)	事前学習	「環境の構成・再構成」について調べる。
		事後学習	環境を構成することによる指導法と指導計画の立て方についてまとめる。
第 6 回	①教育に関する学び ②福祉に関する学び (教育と養護、障害のある子どもの保育、統合保育)	事前学習	教育と福祉の異同について考える。
		事後学習	第 3 章①②をまとめる。
第 7 回	①心理に関する学び ②子どもの保健に関する学び (乳幼児期の発達の特長、発達過程)	事前学習	乳幼児期の発達について調べる。
		事後学習	第 3 章③④をまとめる。
第 8 回	①栄養に関する学び ②運動に関する学び (乳幼児期の発達を支える栄養学、身体の発達を促す運動的な遊び)	事前学習	乳幼児期に相応しい栄養や運動について調べる。
		事後学習	第 3 章⑤⑥をまとめる。
第 9 回	①音楽に関する学び ②児童文化教材に関する学び (保育現場での実際、手遊び、リズム遊び、絵本・紙芝居の読み聞かせ)	事前学習	乳幼児期に相応しい音楽や児童文化教材とは何か考える。
		事後学習	第 3 章⑦⑧をまとめる
第 10 回	①幼稚園教諭の専門性 ②保育士の専門性 (子どもを理解する力、子ども同士の関係をみる力、保育を構想する力、環境を構成する力)	事前学習	幼稚園教諭、保育士の専門性について考える。
		事後学習	幼稚園教諭、保育士の専門性についてまとめる。

第 1 1 回	施設保育士の専門性 (児童福祉、様々な児童福祉施設、障害に応じた支援)	事前学習	施設保育士の専門性について考える。
		事後学習	施設保育士の専門性についてまとめる。
第 1 2 回	専門性を高める保育研究 (保育の実践と省察、教材研究、評価)	事前学習	保育者の専門性を高める方法について考える。
		事後学習	保育研究の必要性とその方法について、整理しまとめる。
第 1 3 回	家庭・地域との連携 (多様化する保育ニーズ、子育て支援の在り方、地域の教育的資源の活用)	事前学習	家庭・地域との連携の具体的な方法について調べる。
		事後学習	家庭・地域との連携の必要性や可能性についてまとめる。
第 1 4 回	幼保小連携 (小 1 プロブレム、スタートカリキュラム、幼保小をつなぐ生活科)	事前学習	幼保小連携の具体的な方法について調べる。
		事後学習	幼児の発達を見通した連携の重要性をまとめる。
第 1 5 回	第 2 回から 14 回までのまとめ	事前学習	これまでの講義ノートを整理する。
		事後学習	質の高い保育者をめざすには何が大切かノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導 I (施設) (1 単位)	3. 科目番号	JCPR2413 JNPR1413
2. 授業担当教員	斉藤 雅記・富永 弥生・金子 勇		
4. 授業形態	演習、ディスカッション、グループ学習、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	実習は計画的なカリキュラムとして単位取得を伴ったものであり、必修であることから誰にも不安要素は尽きない。事前の事務準備からはじまり、最低求められる専門的知識や技術、そして心構え、さらには実習で直面する予期せぬ現実的な問題や事後の課題にいたるまで何から手をつけて行くべきか、段取りよく進まないのが実態であるため、この段取りを十分に理解して充実した実習を行い、保育者としての質の向上に図るための授業展開とする。		
8. 学習目標	保育関連実習において必ずしなければならないこと、してはいけないこと等、実習の常識を具体的に学び、実習が行えるようになる。(施設実習を特にポイントとする)		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題：施設実習の目的、ねらい、心構えについて (レポート2枚 A4サイズ 表紙付け・PC)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】駒井美智子編著『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林、2014。 【参考書】「実習の手引き」。 関口はつ江編著『保育実習ハンドブック』大学図書出版、2012。		
11. 成績評価の方法	期末試験・レポート 30% 施設実習・部分実習発表 30% 授業態度 20% 授業まとめ発表 (グループ) 20%		
12. 受講生への メッセージ	◎自主的・主体的・行動的・積極的に授業参加すること。 ・授業においては正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退はしないこと。尚、欠席・遅刻・早退をした場合については、その理由を必ず書面をもって講師に報告すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	施設の概要と学習態度について ・保育実習授業の時期及び準備等 [実習の手引き]	事前学習	シラバスを確認しておく。
		事後学習	各自授業計画を立てる。
第 2 回	第 1 章 福祉施設実習とは ①実習の意義 ②実習の目的 ③実習の理解	事前学習	福祉施設実習について調べる (予習)。
		事後学習	実習の意義・目的・理解の整理。
第 3 回	第 1 章 福祉施設実習とは ④福祉施設の子どもたち ⑤福祉施設保育士の役割 ⑥専門職とは	事前学習	第 1 章を予習。
		事後学習	保育士の役割を整理・確認。
第 4 回	第 2 章 福祉施設実習への事前学習 ①子どもに対する態度・行動 ②施設の職員に対する態度・行動 ③プライバシーの厳守 ④電話の基本マナーと実際の流れ	事前学習	第 2 章を読解。
		事後学習	実習の心構えのまとめ (復習)。
第 5 回	第 2 章 福祉施設実習への事前学習 ⑤実習事前訪問⑥実習計画 ⑦基本的な生活習慣	事前学習	実習準備への心構え。
		事後学習	事前内容・計画の確認。
第 6 回	第 3 章 保育士と権利保障、ソーシャルワーク ①家庭の権利保障 ②ソーシャルワークとは	事前学習	第 3 章の予習。
		事後学習	権利保障の確認 (復習)。
第 7 回	第 4 章 施設別の実習内容 ③実習記録の意味 ④実習日誌の書き方	事前学習	実習記録を知る (予習)。
		事後学習	実習記録と書き方についての復習。
第 8 回	第 4 章 施設別の実習の内容 ①乳児院の実習 ②児童養護施設の実習 ③母子生活支援での実習 ④児童自立支援施設での実習	事前学習	施設別の予習。
		事後学習	児童養護・乳児院・母子生活支援・児童自立支援とは・定義を確認する。
第 9 回	第 4 章 施設別の実習の内容 ⑤児童相談所での実習 ⑥知的障がい施設での実習 ⑦視覚・聴覚施設での実習	事前学習	施設別の予習。
		事後学習	児童相談所・知的障がい・視覚・聴覚施設の復習。
第 10 回	第 4 章 施設別の実習の内容 ⑧肢体不自由児施設での実習 ⑨重症心身障がい施設での実習 ⑩情緒障がい施設での実習	事前学習	施設実習後のあり方を読解 (予習)。
		事後学習	肢体不自由・重症心身障がい・情緒障がい施設の復習。
第 11 回	第 5 章 児童福祉施設実習事後の振り返り	事前学習	第 5 章振り返りとは何かを考える。
		事後学習	第 5 章の再確認をする。
第 12 回	一部分実習・責任実習への対応— 保育力とは何か?教材作成を実践する。	事前学習	保育教材の制作準備について (案) 何を作成するか検討する。
		事後学習	保育教材制作計画～実践への準備にとりかかる。
第 13 回	—演習編— 発表会① (他の学生をみて学ぶ相乗効果と競争の原理)	事前学習	保育教材の発表準備にとりかかる。
		事後学習	保育教材発表の反省と課題をノートにまとめ・整理する。
第 14 回	—演習編— 発表会② (他の学生をみて学ぶ相乗効果と競争の原理)	事前学習	保育教材の発表準備をする。
		事後学習	保育教材の発表の反省と課題をノートに整理・まとめ確認をする。
第 15 回	まとめ (グループ活動) ・授業を通して学んだこと。発表	事前学習	各自の授業振り返り・福祉施設実習授業を通しての確認をする。
		事後学習	保育教材作成と発表についての整理・まとめをノートに記載する。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導 I (保育所) (1 単位)	3. 科目番号	JCPR2411 JNPR2411
2. 授業担当教員	幸喜 健		
4. 授業形態	演習、ディスカッション、グループ学習、発表	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。かつ、実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図るとともに、実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。		
8. 学習目標	1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できるようになる。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明できることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	・事前学習部分に示した事柄に取り組んだ上で授業に臨むこと。 ・実践に役立つ教材製作の課題を提示する。(授業中に指示する)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】『保育実習の手引き』 【参考書】小櫃智子他『幼稚園・保育所 パーフェクトガイド』わかば社、2013 年 駒井美智子編著『施設実習ガイド』萌文書林、2014 年 百瀬ユカリ『実習に役立つ保育技術』創成社、2009 年 ※その他、必要に応じてプリント教材を配布する。		
11. 成績評価の方法	授業態度 (個別学習・グループ学習における意欲的な取り組み) 60% 提出物とその内容 20% 授業のまとめレポート 20% ※本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	<p>保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。さらに実習終了後は、実習での学びを活かして今後履修する科目の学習の糧にして欲しいと願います。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとってひとりの大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもって向上していけるよう頑張ってください。日々の弛まぬ努力を期待しています。</p> <p>学習目標を達成するために受講生が下記の条件を厳守することを期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業では、常に緊張感と集中力を保って受講すること</li> <li>2. 積極的な態度で授業に参加すること</li> <li>3. 理解できないことをそのまま放置せず、授業中もしくはオフィスアワー等において必ず質問し、自らの疑問を解消すること</li> <li>4. アサイメントは期限までに必ずおこない、提出物やレポートの期日は厳守すること</li> <li>5. 授業は正当な理由のない限り欠席、遅刻、早退をしないこと (欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず書面をもって報告すること、理由の如何によっては減点対象とする)</li> <li>6. 授業中に私語は絶対にしない</li> <li>7. 授業中に居眠りをしない</li> <li>8. 携帯端末の授業中の作動は厳禁とする (電源を切るかマナーモードにして鞆にしまう)</li> </ol> <p>※理由なく遅刻、早退をした場合、明らかに授業中の私語、居眠り、携帯端末の使用が見られた場合、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には単位認定を行わない等厳格に対処します。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	保育実習 I・II・IIIそれぞれの目的と授業概要、実習の流れを理解する。施設実習の基礎知識を学習する。	事前学習	「保育実習指導 I」の学習ノートを準備して授業に臨む。実習の手引きの「保育実習の内容」部分を読む。
		事後学習	保育実習 I の実習目標を復習する。
第 2 回	実習におけるマナーと勤務の留意点を確認する。先輩の体験談から実習生としてのあるべき態度を理解する。	事前学習	『保育実習の手引き』の「実習に関する基本的ルール」及び「留意事項」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	ノートに記録した先輩からの体験談をまとめて、要点を整理する。
第 3 回	施設実習オリエンテーションへの準備を通して、実習施設別の目的と内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』の実習オリエンテーションへの準備、必要とする持ち物、の箇所を読み、必要なものを準備する。
		事後学習	保育実習における自己課題を明確にする。
第 4 回	施設実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	『保育実習の手引き』の「実習日誌の書き方」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	『保育実習の手引き』の「実習記録について」及び「実習記録の提出にあたって」を読み、復習する。
第 5 回	保育実習の基礎知識を学び、保育所の一日の流れを把握する。	事前学習	『保育所保育指針』のなかの年齢別発達の箇所を読み、理解する。

	乳幼児の発達の特徴と年齢別による保育の留意点を理解する。	事後学習	保育所のデイリープログラムのサンプルを読み、保育所生活の一日の流れを把握する。
第 6 回	実習に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。	事前学習	『保育実習の手引き』の守秘義務の箇所を読み、理解する。
		事後学習	実習ノートを見直し、記述もれの有無を最終チェックする。
第 7 回	保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、保育所実習の実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』のなかの保育所実習Ⅰの実習目標を読み、理解する。
		事後学習	保育所実習自己課題を明確にする。
第 8 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	保育実習に関する教科書の「実習日誌」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	授業で視聴したVTRのなかの「子どもの姿」について記録したエピソードを清書する。
第 9 回	部分・責任実習について理解し、指導計画の理解と立案方法を習得する。	事前学習	保育実習に関する教科書の「指導案」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	課題とする指導案を立案し、模擬保育に備えてグループ全員で検討する。
第 10 回	保育演習（1）指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 11 回	保育演習（2）指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 12 回	保育演習（3）指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 13 回	施設実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	施設実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	施設実習の反省をふまえて、保育実習Ⅲに向けて、自己課題を明確にする。
第 14 回	保育所実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	保育所実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	保育所実習の反省をふまえて、保育実習Ⅱに向けて、自己課題を明確にする。
第 15 回	授業のまとめをする。	事前学習	保育実習Ⅰを総合的に振り返り、保育士の専門性と自己課題について考察する。
		事後学習	保育士の専門性と自己課題について、レポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅱ (1 単位)		3. 科目番号	JCPR3515
2. 授業担当教員	幸喜 健		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	保育実習指導Ⅰで学んだ実習現場の知識及び保育実習への基本的姿勢・基礎知識を基盤に、「保育実習Ⅱ」に必要な専門的知識・保育技術及び関連知識を身につけることをねらいとする。現場での実習の充実を図るため、実習の目的や内容を明確にし、言語化、文章化ができるよう事前準備を行う。			
8. 学習目標	(1) 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 (2) 保育実習Ⅰや他教科の内容との関連性を理解する。 (3) 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 (4) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント (宿題) : 1) 事前学習部分に示された事柄に取り組んだ上で授業に臨む。 2) 授業内で配布するワークシートを仕上げ提出する。 レポート課題: 1) 「保育実習Ⅱに向けた自己の学習目標と課題」について 保育実習Ⅱの目標を挙げ、それを達成する上での自己課題と実習までの具体的な取り組みについてレポートを作成する。 (A4版、横書き、2枚に、10.5ポイント、明朝体で印字してください。) 2) 「保育士に求められる専門性と役割・自己の目指す保育士像」について 実習指導の授業内容と実習体験から学んだことを踏まえ、レポートを作成する。 (A4版、横書き、2枚に、10.5ポイント、明朝体で印字してください。) ※詳細は授業の際に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『保育実習の手引き』 【参考書】 久富陽子編著『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林、2009年。 百瀬ユカリ「実習に役立つ保育技術」創成社、2009年。 【教材】 保育実習Ⅰ (保育所) の実習記録 (毎回必ず持参すること)			
11. 成績評価の方法	授業態度 (個別学習・グループ学習における意欲的な取り組み) 50% 課題レポート 30% 提出物とその内容 20% 合計 100% ※本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	最終実習となる保育実習Ⅱは、受講生の皆さんがこれまでに学んできたことを実践する集大成の場であると同時に実習生として現場で学ばせていただく最後のチャンスでもあります。実習での学びを今後の糧として最大限生かせるようにするためにも実習には全力で取り組み、悔いの残らぬようにして欲しいと願っています。そのためには保育実習Ⅰの省察をもとに自己課題を明確にし、その上で日々着実に努力を積み重ねて常に向上していくのだという意思・意欲をもって物事に臨む姿勢が求められます。実習事前・事後の指導には真剣に、そして意欲的に学ぶ意思を持って取り組むよう心掛けてください。 学習目標を達成するために受講生が下記の条件を厳守することを期待します。 9. 授業では、常に緊張感と集中力を保って受講すること 10. 積極的な態度で授業に参加すること 11. 理解できないことをそのまま放置せず、授業中もしくはオフィスアワー等において必ず質問し、自らの疑問を解消すること 12. アサイメントは期限までに必ずおこない、提出物やレポートの期日は厳守すること 13. 授業は正当な理由のない限り欠席、遅刻、早退をしないこと (欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず書面をもって報告すること、理由の如何によっては減点対象とする) 14. 授業中に私語は絶対にしない 15. 授業中に居眠りをしない 16. 携帯端末の授業中の作動は厳禁とする (電源を切るかマナーモードにして鞆にしまう) ※理由なく遅刻、早退をした場合、明らかに授業中の私語、居眠り、携帯端末の使用が見られた場合、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には単位認定を行わない等厳格に対処します。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業概要と進め方、望ましい学習態度について)、学習グループの編成 保育実習Ⅰの省察 (実習記録をもとに、グループディスカッションし、実習での問題点を探り、考察をする)		事前学習	「保育実習指導Ⅱ」の学習ノートを準備して講義に臨むこと。自己の実習記録を読み直して問題点を学習ノートにまとめる。
			事後学習	反省から次の実習目標を立てる。
第2回	保育実習Ⅰの省察のグループ発表 (問題提起を含む)。質疑応答と考察により問題を共有化する。グループごと		事前学習	前回講義の際に行ったディスカッション内容を復習し、質疑に備える。

	に各自の必要とする学習課題と内容について討議を行い発表に向けて、自主学習し発表準備をする。	事後学習	自己の問題点に向き合い今後の学習課題を明確に整理する。
第 3 回	第 2 回講義に引き続き、各自の学習課題と内容についてグループ学習し発表に備える。(発表の形式を分りやすく工夫する。)	事前学習	分りやすい発表への工夫を考慮しておく。
		事後学習	明確になった学習課題に向き合い考察を深め次回の発表につなげる。
第 4 回	学習した内容をグループごとに発表し、質問に答えることにより学びあい、保育実習への理解を深める。	事前学習	発表内容を復習し、質疑に備える
		事後学習	他のグループからの学びも含め、この授業で得られた学びについて明らかにする。
第 5 回	部分・責任実習への構想と考察 保責任実習のための指導案作成練習を行う。(グループ学習)	事前学習	主活動や「朝の会」「帰りの会」について構想を立てておく。
		事後学習	指導案の役割や求められる内容について整理する。
第 6 回	責任実習指導案発表と考察	事前学習	発表内容を復習し、質疑に備える。
		事後学習	他のグループからの学びも含め、この授業で得られた学びについて明らかにする。
第 7 回	実習日誌の書き方を再検討する。最終実習にふさわしい実習記録の記述とは何か、グループ内で検討し合い、考察する。	事前学習	自己の実習記録を読み直し記録上の問題点を探しておく。
		事後学習	新たに配られた実習記録簿について、事前に記入すべき箇所を確認し、記入する。
第 8 回	保育実践上の事例研究① 保育事例をDVD視聴し、実習生として望まれる態度を理解する。	事前学習	保育所保育指針第 1 章総則を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	DVD視聴やグループ討議からこの授業で得られた学びについて明らかにする。
第 9 回	保育実践上の事例研究② 保育事例をDVD視聴し、実習生として望まれる態度を理解する。	事前学習	前回講義の際に学んだことを復習しておく。
		事後学習	DVD視聴やグループ討議からこの授業で得られた学びについて明らかにする。
第 10 回	模擬保育準備 「朝の会」「帰りの会」等、責任実習中の場面を想定し、模擬保育を行う準備を進める。	事前学習	第 6 回講義の際に作成した指導案を復習しておくこと。
		事後学習	発表に備え、授業中だけでなく、授業後もグループ内で、練習を繰り返しおこなうこと。
第 11 回	責任実習模擬保育の実践と考察	事前学習	役割分担の確認を行っておくこと。
		事後学習	実践と考察からの学びについて整理する。
第 12 回	保育実習Ⅱの省察① ・グループディスカッション。	事前学習	自己の保育実習Ⅱの体験振り返りを事前に行っておくこと。
		事後学習	グループ内での話し合いから学んだことを整理する。
第 13 回	保育実習Ⅱの省察② ・前回のグループディスカッションの続きと発表準備。	事前学習	前回のグループ記録に目を通し復習しておく。
		事後学習	自分たちのグループが伝えたいことを明確化し、整理する。
第 14 回	保育実習Ⅱの省察③ ・グループごとに話し合った内容の発表、質疑応答、考察による体験の共有化	事前学習	前回のグループ記録に目を通し復習しておく。
		事後学習	他のグループからの学びも含め、この授業で得られた学びについて明らかにする。
第 15 回	「保育実習指導Ⅱ」のまとめ 保育士に求められる専門性と役割について、さらに自己の目指す保育士像について考察し、授業のなかでレポートを作成する。	事前学習	1～14回の授業を通しての学びを踏まえ、保育実習全体を振りかえっておくこと。
		事後学習	保育士を目指す者としての心構えをもう一度明らかにする。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅲ (1 単位)		3. 科目番号	JCPR3517
2. 授業担当教員	斉藤 雅記・富永 弥生・金子 勇		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	実習は計画的なカリキュラムとして単位取得を伴ったものであり、必修であることから誰にも不安要素は尽きない。事前の事務準備からはじまり、最低求められる専門的知識や技術、そして心構え、さらには実習で直面する予期せぬ現実的な問題や事後の課題にいたるまで何から手をつけて行くべきか、段取りよく進まないのが実態であるため、この段取りを十分に理解して充実した実習を行い、保育者としての質の向上に図るための授業展開とする。さらに保育実習指導Ⅲなので、福祉施設の援助・支援を実際にも実践し、福祉施設の日常生活がどのように確保指導されているかを理解する。また、家庭や地域社会に対する理解を深め、連携の方法について理解力・判断力を養い保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。			
8. 学習目標	保育実習Ⅲ (施設) であるため、必ずしなければならないこと、してはいけないこと等、実習の常識を具体的に学び、実習が行えるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1・福祉施設が抱える問題点を調べ出し、PC発表をする。(各自が実習を体験する種別) 2・福祉施設実習の指導実習実践 (各自発表)。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 駒井美智子編著『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林社、2014年。。 【参考書】 岡本幹彦編著『福祉施設実習ハンドブック』みらい社、2005年。 関口はつ江編著『保育実習ハンドブック』大学図書出版、2012年。 「実習の手引き」「実習記録 (実習ノート)」。			
11. 成績評価の方法	授業態度 20% 課題発表 60% 幼児文化教材 (部分実習企画・発表) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	◎自主的・主体的・行動的・積極的に授業参加すること。 ・授業においては正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退はしないこと。尚、欠席・遅刻・早退をした場合については、その理由を必ず書面をもって講師に報告すること。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業の概要と学習態度について・保育実習の時期及び準備等 [実習の手引き]	事前学習	シラバスを確認して授業の準備をする。	
		事後学習	施設実習Ⅲ授業の目的の確認・整理をノートにする。	
第2回	保育所実習Ⅲの目的 福祉施設実習の意義・福祉施設実習の意義	事前学習	施設実習目的の確認を再度しておく。(予習)	
		事後学習	施設実習の目的・意義の確認・整理をノートにまとめておく。(予習)	
第3回	福祉施設実習の保育士の役割・福祉施設の専門職について	事前学習	福祉施設実習の専門職についてテキストを参考に読解しておく。(予習)	
		事後学習	福祉施設保育士の役割について確認整理しておく。(復習)	
第4回	福祉施設実習の実習生の立場と心構えについて	事前学習	福祉施設実習生の立場についてテキスト読解しておく。(予習)	
		事後学習	福祉施設実習の心構えをテキストで学んでおく。(復習)	
第5回	事前の施設訪問・施設見学について・実習計画	事前学習	福祉施設実習事前の確認を詳細に読解しておく。(予習)	
		事後学習	施設見学についての計画を立ててみる。	
第6回	実習期間中の流れ・観察実習の内容	事前学習	福祉施設実習の流れを確認・整理する。	
		事後学習	第1回～第6回までをまとめて確認してみる。	
第7回	参加実習の内容・指導実習の内容・記録の意味	事前学習	福祉施設実習の形態とは何かテキスト読解しておく。(予習)	
		事後学習	福祉施設実習日誌について確認・実際に書いてみる。(復習)	
第8回	実習日誌の書き方・実習施設での反省会	事前学習	福祉実習日誌の書き方について確認しておく。(予習)	
		事後学習	福祉施設実習日誌記録のポイントをノートにまとめておく。(復習)	
第9回	施設別の実習の内容と問題点と課題 (各自) ①	事前学習	福祉施設実習・各自実習場所の確認を実習室にしてみる。(予習)	
		事後学習	福祉実習施設の種類と特徴を文献研究で確認してみる。	
第10回	施設別の実習の内容と問題点と課題 (各自) ②	事前学習	福祉施設の現在の問題点についてテキスト・雑誌・新聞等で調べてみよう。(予習)	
		事後学習	福祉施設の現在の問題点・課題まとめて整理みる。(復習)	
第11回	施設別の実習の内容と問題点と課題 (各自) ③	事前学習	福祉施設の問題点・課題の発表資料作成準備。(PC等)	
		事後学習	福祉施設の問題点・課題について再度チェックしてみる。	
第12回	各福祉施設実習での指導実習企画・計画① (各自)	事前学習	福祉施設指導実習の企画案作成・テキストを参考文献にしなから実施する。①	
		事後学習	福祉施設指導実習の企画案作成・テキストを参考文献にしなから実施する。②	
第13回	各福祉施設実習での指導実習企画・計画① (各自)	事前学習	福祉施設指導実習の企画案作成・テキストを参考文献にしなから実施する。③	
		事後学習	福祉施設指導実習の企画案作成・テキストを参考文献にしなから実施する。④	
第14回	各福祉施設実習での指導実習企画・計画① (各自・発表)	事前学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表準備をする。(抄録・資料作成等)	
		事後学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表の反省と課題を聞く・まとめる。	
第15回	施設別の実習の内容と問題点と課題 (各自・発表 PC) まとめ	事前学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表準備をする。(抄録・資料作成等)	
		事後学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表準備をする。(抄録・資料作成等)	

1. 科目名 (単位数)	保育相談支援演習 (2 単位)	3. 科目番号	JCCC3402
2. 授業担当教員	駒井 美智子		
4. 授業形態	講義、演習、(グループ活動)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	保育原理・保育内容総論・保育内容 5 領域を終了していることが望ましい		
7. 講義概要	保育相談支援とは何か又、保護者に対する相談がなぜ必要か。保育士の専門性を生かした支援の在り方を考え、子どもの利益を十分に守り、保護者の総合問題解決を図る支援の実際を知る。子どもを通して保護者との信頼関係を結びながら、共に育てる関係作りや地域の関係者機関との連携の仕方などを学習して、児童福祉全般の保育相談への対応・展開ができるようにする。		
8. 学習目標	1. 保育相談支援とは何かを理解し、説明できるようになる。 2. 保護者支援のねらいについて理解し、説明できるようになる。 3. 子どもを取り巻く環境を通じた保育と保育相談について理解し、説明できるようになる。 4. 保育相談の具体的な流れについて理解し、説明できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	◎これからの保育士に求められる保育相談支援援助技術は何がポイントとなるか・A4 2枚 (表紙付き・参考文献を記入し提出する。第14回目授業始まる前)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】咲間まり子編著『事例で学ぶ「保育相談支援」』大学図書出版		
11. 成績評価の方法	レポート 50% 出席率 20% 課題提出 30%		
12. 受講生へのメッセージ	◎自主的・主体的・行動的・積極的に授業参加すること。 ・授業においては正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退はしないこと。尚、欠席・遅刻・早退をした場合については、その理由を必ず書面をもって講師に報告すること。		
13. オフィスアワー	後日通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの確認・受講生へのメッセージと授業展開及び期末課題の確認	事前学習	保育相談支援のテキストを用いてシラバスを確認してくる。
		事後学習	保育相談支援演習の 1 回～15 回の授業確認をする。
第 2 回	第 1 章保育相談支援の基本	事前学習	第 1 章を読解する。
		事後学習	保育相談支援の基本を復習。
第 3 回	第 2 章事例で学ぶ保育所入所児童の保護者への相談支援①	事前学習	第 2 章を熟読し、予習をする。
		事後学習	第 2 章の授業復習・ノート整理とまとめをする。
第 4 回	第 2 章事例で学ぶ保育所入所児童の保護者への相談支援②	事前学習	第 2 章の事例を通して予習しておく。
		事後学習	第 2 章授業全体の復習。
第 5 回	第 3 章事例学ぶ子育て支援センターにおける相談支援① 1) 子育て支援センターとは・2) 業務内容について	事前学習	第 3 章子育て支援センターとは何か。調べておく。
		事後学習	第 3 章①授業を整理しまとめる。
第 6 回	第 3 章事例学ぶ子育て支援センターにおける相談支援① 3) 子育て支援の必要性について	事前学習	子育て支援センターの必要性とは。(予習)
		事後学習	第 3 章のまとめと整理・確認を行う。
第 7 回	第 4 章事例で学ぶ児童福祉保育園における相談支援 1. 保護者からの「相談支援」	事前学習	保護者にとっての相談支援とは。予習。
		事後学習	「相談支援」授業を整理し確認する。
第 8 回	第 4 章事例で学ぶ児童福祉保育園における相談支援 2. 保育園側からの「相談支援」	事前学習	保育園と相談支援の予習を、テキストを用いてする。
		事後学習	第 4 章まとめ・整理
第 9 回	第 5 章事例で学ぶ特別な対応を要する家庭への相談支援	事前学習	第 5 章特別な対応について予習をする。
		事後学習	第 5 章のまとめ・確認をノートにする。
第 10 回	第 6 章事例で学ぶ様々な施設での相談支援 1. 情緒障害児短期治療施設の事例	事前学習	第 6 章 1) 情緒障害児短期治療施設とは何か予習しておく。
		事後学習	1) についてのまとめと整理。
第 11 回	第 6 章事例で学ぶ様々な施設での相談支援 2. 知的障害児入所施設の事例。3. 病院内保育での事例	事前学習	第 6 章 2) 知的障害児入所施設とは・病院内保育とは (予習)。
		事後学習	障害児の相談支援とは・まとめ。
第 12 回	第 7 章保育相談支援の計画 ・保育相談支援の特性・計画・評価・カンファレンス等	事前学習	第 7 章保育相談支援計画 (予習)。
		事後学習	第 7 章保育相談支援 (復習)。
第 13 回	第 8 章これからの保育士に求められる保育相談支援	事前学習	第 8 章保育士と相談支援を読解する
		事後学習	第 8 章保育士と相談支援を整理まとめる
第 14 回	まとめ① (保育相談支援のポイント・発表会)	事前学習	第 1 回～第 8 回ノート整理をする。
		事後学習	第 9 回～第 13 回までをノートに整理する。
第 15 回	まとめ② (保育相談支援のポイント・発表会)	事前学習	保育相談支援についてのまとめ・確認
		事後学習	保育相談支援の授業全体をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (環境) (2 単位)	3. 科目番号	JCNT1103
2. 授業担当教員	河合 光利	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育内容を構成する環境のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境及び環境設定について理解する。保育の全体構造における環境に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。また、演習形式で学ぶことにより、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。		
8. 学習目標	① 自然に触れ、その素晴らしさを理解し、説明できる。 ② 子どもを取り巻く環境について理解し、説明できる。 ③ 環境づくりの方法を学び、説明できる。 ④ 保育実践の中で領域「環境」についての深い理論や知識に基づく指導・援助が行なえるような、実践力を養えるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で小レポートの提出を求める。小レポートは課題を提示するので、参考文献5冊以上を基にレポートを作成し、時間厳守にて提出すること。また、授業では出席、発言、授業ノート等といった学習態度を重要視するので、しっかりとした学習意識をもって授業に参加すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 谷田貝公昭監修『保育内容シリーズ環境』一藝社。 【参考書】 松本敦監修『保育・教育シリーズ3 環境とあそび』(株)久美。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。 文部科学省『幼稚園教育要領』 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、授業で随時紹介し、資料として配布する。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (ディスカッション・小テスト等) (20%) レポート課題 (20%) グループ演習課題・発表 (30%) グループ演習個別まとめ (30%) *3/4以上の出席がない場合、単位の修得をみとめない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。		
12. 受講生へのメッセージ	業では、発言、発表を求めていくので、指名を受けた際にはきちんと発言、発表ができるように、予習、復習を忘れずに行うこと。また、授業の中でわからないことがあれば、すぐに質問をすること。レポートの締切りは厳守すること。授業への積極的な参加を期待する		
13. オフィスアワー	授業内にて通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	幼児教育・保育の基本と環境とのかかわり	事前学習	教科書第1章 (pp.9~22) を読み、確認する
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。
第2回	保育内容「環境」のねらいと内容の理解	事前学習	教科書第2章 (pp.23~38) を読み、確認する。
		事後学習	小テストに備え、環境のねらいと内容を理解する。
第3回	子どもを取り巻く身近な環境① (小テスト)	事前学習	教科書第4章 (pp.53~64) を読み、確認する。
		事後学習	幼児期の発達特性と環境の重要性についてまとめる。
第4回	子どもを取り巻く身近な環境② (園外・地域を知る)	事前学習	教科書第14章 (pp.195~210) を読み、確認する。
		事後学習	地域環境の重要性をまとめる。
第5回	自然環境と子ども①「原体験の遊び」	事前学習	教科書 (p.182) を読み、確認する。
		事後学習	体験の遊びのワークシートを修正する。
第6回	自然環境と子ども②「子どもに体験させたい遊びと発達援助」	事前学習	子どもの頃遊んだ遊びをリストアップする。
		事後学習	自然の遊びのワークシートを修正する。
第7回	自然環境と子ども③「自然とかがわる遊びのねらい」	事前学習	遊びのねらいとは何かを考える。
		事後学習	自然素材を用いた遊びをまとめる。
第8回	四季・季節の行事の理解：カレンダーづくり 指導案を作る (レポート課題提出)	事前学習	カレンダーの意味を考えまとめる。
		事後学習	グループで十分に打ち合わせを重ねる。
第9回	壁面構成① グループ演習：カレンダーづくり指導案の発表・ディスカッション	事前学習	製作に必要な物を用意する。
		事後学習	カレンダーづくりを各自進める。
第10回	指導案を作る	事前学習	指導案とは何か、関連する他科目の学習の振り返りをする。
		事後学習	指導案を修正し、改善する。
第11回	指導案の発表・ディスカッション	事前学習	発表者を選び、発表の準備をする。
		事後学習	ディスカッションで出された意見をもとに各自の指導案を修正する。
第12回	壁面構成② グループ演習：制作発表 (カレンダー提出)	事前学習	カレンダーを完成させ、発表用資料づくりと発表の練習をする。
		事後学習	カレンダー制作から学んだことをまとめる。
第13回	四季・季節の行事の理解 まとめ	事前学習	製作したカレンダーの振り返りをする。
		事後学習	季節の行事のポイントを整理する。
第14回	子どもの安全環境	事前学習	教科書第9章 (pp.123~138) を読み、確認する。
		事後学習	他者の意見を聞き、学んだことをまとめる。
第15回	「園生活における環境づくり」	事前学習	保育内容「環境」のねらいと内容を振り返る。
		事後学習	保育における環境づくりについてノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (健康) (2 単位)	3. 科目番号	JCNT2106 JENT2106 JNNT1106
2. 授業担当教員	中村 裕	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	配布資料による質疑応答形式およびディスカッションを主として授業を行う。		
6. 履修条件・他科目との関係	子どもの保健との関連性も理解が深まる。		
7. 講義概要	保育内容を構成する健康について理解し、乳幼児の健康な心身の発達に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活、積極的な身体活動への援助について理解する。保育の全体構造における「保育内容健康」に関して総合的に指導・援助が行えるよう、具体的な実践例を通して、健康の内容、他領域の内容の総合的な展開のしかたについて習得する。		
8. 学習目標	1. 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣を育て、健全な心身の基礎を培うことができるようになる。2. 幼児が健康の諸問題について自ら学び、自ら考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導を学び、実践できるようになる。3. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における健康領域の「ねらい」「内容」について理解し、習得して、「遊びによる総合的な」保育活動の中で実践できるようにする。4. 保育者として子どもの健康な心と体を育てることが出来るよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	子どもの健康に関する資料 (各テーマごと: 発達、外遊び、健康増進、安全指導等) を配布し、保育者としての立場から自分の考えについて述べる (発表およびレポート) 発表後、またはレポート提出後、「課題」とし、グループごとにディスカッションをする。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】『幼稚園教育要領・保育所保育指針 (原本)』チャイルド社。 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 (原本) チャイルド社。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。 【教材】テーマごとに資料配付		
11. 成績評価の方法	課題レポート……………30% テーマ発表……………20% スモールテスト (毎時間) ……20% 期末試験……………30% 計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	健康は生活、活動の基本である。幼児期に健康的な生活習慣を身につけることは、将来の幸福な生活に向けての基礎づくりともいえる。それにはまず、からだに対する興味や関心を持たせ、健康の意義を指導することが大切である。また、乳幼児期は自分のからだを管理することは不可能に近いので、保育者の指導・援助方法を学ぶことも不可欠である。本講義は子どもが健康な生活を送るために、必要なものは何か。何を身につけておくべきか。を学ぶことはもとより、保育者にとっての健康にも着目し、自らの生活習慣も振り返り、保育者自身も健康であってほしいと願っている。  本講義は主にディスカッション形式で進める為、意見や考えを積極的に述べる授業参加を期待する。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (領域健康のねらいと内容の解説)	事前学習	領域健康の学習ノートを準備し講義に臨むこと 領域健康のねらいと内容を確認する
		事後学習	領域健康のねらいと内容についてまとめる
第 2 回	幼児の健康 (健康の定義、健康状態の把握) と 発育発達の理解 (発育発達の概念・理解・影響 を与える要因)	事前学習	「幼児にとって健康とは何か」についてまとめる
		事後学習	幼児の健康と発育発達について復習する
第 3 回	形態面の発育 (乳幼児の形態面の発育) と生理 機能の発達 (乳幼児の体温・呼吸・脈拍など)	事前学習	参考書から発育発達生理機能についてまとめてみる
		事後学習	形態面の発育、生理機能の発達について復習する
第 4 回	運動機能の発達 (運動の発達、運動能力の発達) と幼児の体格・運動能力の測定法 (体格・運動能力 の測定)	事前学習	資料から乳幼児の形態面の発育についてまとめてみる
		事後学習	幼児の体格・運動能力の測定方法について実践してみ る
第 5 回	幼児の遊びの発達と健康、遊びの意義と遊びの 発達過程、人間関係・社会性の発達との関連	事前学習	乳幼児の遊びの重要性を、活動の総合性、自発性との 関連でまとめる。自分の遊び体験を記録する
		事後学習	乳幼児にとっての遊びの重要性についての考え方をま とめる
第 6 回	乳幼児に遊びの指導における「保育内容健康」 のねらいと指導上の留意点。運動遊びの種類と 主なねらい。	事前学習	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育 要領、保育指針の健康にかかわる内容を予習する
		事後学習	さまざまな運動遊びの方法とそこに含まれる多様なね らいをまとめる
第 7 回	運動遊び、戸外遊びの子どもの発達段階による 展開の違い、配慮の仕方 (教材研究)。 運動遊びを主活動とした指導案の作成	事前学習	発達段階別に運動遊び、戸外遊びの例を調べる
		事後学習	授業における例とは別の活動を例にした運動遊びの指 導案を作成する

第 8 回	集団遊び、園外保育の指導の子どもの発達段階による配慮の仕方(教材研究)。 集団遊びを主活動にした指導案の作成	事前学習	発達段階別に集団遊び、園外保育の方法の例を調べる
		事後学習	授業における例とは別の活動を例にした集団遊びの指導案を作成する
第 9 回	模擬保育 1 固定遊具を用いた活動 代表グループによる模擬保育(全体参加)	事前学習	事前に配られた固定遊具を用いた活動の指導案について、検討する
		事後学習	当日の反省と次への発展のしかたをまとめる
第 10 回	模擬保育 2 集団遊びを中心とした活動 代表グループによる模擬保育(全体参加)	事前学習	事前に配られた集団遊び活動の指導案について、検討する
		事後学習	当日の反省と次への発展のしかたをまとめる
第 11 回	幼児の生活習慣の指導(基本的生活習慣の形成と指導)	事前学習	資料から幼児期の基本的生活習慣についてまとめる
		事後学習	現在の幼児の生活リズムの問題点等について復習する
第 12 回	食事と健康(食生活の指導、食事の生活習慣指導)	事前学習	乳幼児にとっての食育の重要性を保育指針によって確認する
		事後学習	保育中の食事の指導、家庭との連携について復習する。
第 13 回	安全な生活(乳幼児に対する安全管理と安全教育、乳幼児の事故災害の予防)	事前学習	乳幼児の事故、災害の事例を調べる
		事後学習	事故、災害の防止方法について復習する
第 14 回	応急処置(乳幼児に多い怪我の応急処置、事故への対処、保育者としての配慮)、	事前学習	乳幼児に多い怪我を調べまとめる
		事後学習	緊急時の対処、乳幼児に多いけがの応急処置の方法、家庭連絡等についてまとめる
第 15 回	乳幼児の健康な育ちと社会環境(地域や家庭との連携、保育者の役割)	事前学習	子どもの健康な育ちに対する現代の環境問題を考える
		事後学習	子どもの健康な発達を守るための保育の専門家としての役割、責務をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2 単位)	3. 科目番号	JENT1102 JNNT1102
2. 授業担当教員	岡野 雅子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	保育内容を構成する言葉について理解し、こどもの言葉の発達と言語環境について学び、保育者として絵本・童話・紙芝居等の言語教材について理解し、保育の全体構造における言葉に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって言葉とは何かを理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 乳幼児期における言葉の発達と環境について考察し、説明できるようになる。</li> <li>3. 保育者の適正支援と援助 (言葉かけ) について学習し、説明できるようになる。</li> <li>4. 幼児文化教材の機能についての理論と実践を習得する。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート (授業の進み具合によって、伝承遊びや絵本等について) を課します。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> 駒井美智子編著『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい社。 <b>【参考書】</b> 『保育所保育指針』フレーベル館、 『幼稚園教育要領』、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』。		
11. 成績評価の方法	筆記試験 70%、レポート 30% (伝承あそび・絵本等)		
12. 受講生への メッセージ	自分の幼児期を振り返って、言葉遊びについての記憶を掘り起こして下さい。子どもの言葉の表出は、発達とともに変化していきます。子どもが発する言葉に対して注意深く耳を傾けて下さい。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のルールは守る (欠席・遅刻をしない)。</li> <li>2. 私語はしない。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの確認・受講生へのメッセージと授業展開及び期末課題の確認	事前学習	「言葉」についてシラバスを確認
		事後学習	「言葉」を整理・確認しておく。
第 2 回	第 1 章保育内容「言葉」の意義	事前学習	言葉の意義について予習しておく
		事後学習	第 1 章を整理・まとめておく。
第 3 回	第 2 章「言葉」のねらいと内容	事前学習	「ねらい」とは何か? テキストを読んでおこう。
		事後学習	「ねらい」と「内容」の関係を整理・まとめておく。
第 4 回	第 3 章子どもの言葉の発達	事前学習	子どもの発達をテキスト付録で調べておこう。
		事後学習	0 歳～6 歳の発達の違いを付録により確認しておく。(覚える)
第 5 回	第 4 章子どもの言葉と環境	事前学習	第 4 章「言葉」と「環境」を考えてみる。
		事後学習	環境～言葉へ。整理まとめておく。
第 6 回	第 5 章保育者の指導・支援 (援助)	事前学習	保育者の仕事について考える。
		事後学習	第 5 章保育者の指導・援助とは何かまとめる。
第 7 回	第 6 章言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導	事前学習	保育者の機能について予習する。
		事後学習	第 6 章管理・支援・援助の文言をまとめ整理する。
第 8 回	第 7 章保育者の言葉	事前学習	保育者と言葉について考えてみる。
		事後学習	第 7 章をまとめる
第 9 回	第 8 章言葉と児童文化教材	事前学習	第 8 章児童文化教材とは何か? 調べる
		事後学習	児童文化教材を実践してみよう。
第 10 回	第 9 章言葉あそび	事前学習	第 9 章伝承あそびを調べる。
		事後学習	言葉あそびを収集しておく。
第 11 回	第 10 章実技の方法 (児童文化教材)	事前学習	第 10 章言葉遊びの発表準備
		事後学習	発表の反省と課題
第 12 回	第 11 章「言葉」の指導計画	事前学習	第 11 章指導計画とは何か? を調べる
		事後学習	指導計画を確認する。
第 13 回	第 12 章発展事例一保育内容「言葉」のまとめ・ 第 13 章言葉と国語教育	事前学習	言葉のまとめ
		事後学習	ノートを整理する
第 14 回	まとめ①	事前学習	第 1 章～第 12 章の確認
		事後学習	これまでの学習内容をまとめ・整理する。
第 15 回	まとめ②	事前学習	期末試験への準備学習を行う
		事後学習	質疑・応答等の内容を振り返る
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論 (2 単位)		3. 科目番号	JCNT1101
2. 授業担当教員	河合 光利		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、ディスカッション			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	幼児教育・保育の意義とその思想や子どもの発達特性、保育の歴史等を概観し、幼児教育・保育の原理に基づいて保育内容の意味するところを理解する。さらに、保育内容の 5 領域のねらいと内容を概観し、幼児教育・保育活動の総合的実践、その計画、評価、反省等について理解する。			
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の生活や遊びの総合性を理解することができる。</li> <li>2. 保育内容を領域別に指導するのではなく、相互関連性等を踏まえた総合的指導であることを理解することができる。特に各領域が、発達をとらえる視点であることを具体的に説明することができる。</li> <li>3. 生活や遊びにおける総合的指導のあり方を知り、実践を理解することができる。</li> <li>4. 成長発達の変化にふさわしい保育内容を理解することができる。</li> <li>5. 保育内容と実践とのかかわりを理解することができる。</li> <li>6. 現代社会における様々な保育課題と保育内容を理解することができる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で、授業ノート及び小レポートの提出を求める。小レポートは課題を提示するので、参考文献5冊以上を基にレポートを作成し、時間厳守にて提出すること。また、授業では出席、発言、授業ノート等といった学習態度を重要視するので、しっかりと学習意識をもって授業に参加すること。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 関口はつ江編著『実践理解のための「保育内容総論」』大学図書出版。</p> <p>【参考書】 『保育所保育指針』。 『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>			
11. 成績評価の方法	筆記試験 80%、レポート 20%			
12. 受講生へのメッセージ	授業では、発言、発表を求めていくので、指名を受けた際にはきちんと発言、発表ができるように、予習、復習を忘れずに行うこと。また、授業の中でわからないことがあれば、すぐに質問をすること。レポートの締切りは厳守すること。授業への積極的な参加を期待する。			
13. オフィスアワー	授業内に通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	現代社会における保育制度、保育所・幼稚園における保育の社会的役割の確認。授業目的、授業計画の提示。	事前学習	シラバスを読み「保育内容総論」の授業準備をする。	
		事後学習	授業目的を確かめ、学習課題を考える。	
第 2 回	保育の基本と保育内容～環境を通しての保育における保育内容の考え方	事前学習	現代における保育理念を、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育指針によって確かめる。	
		事後学習	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育指針総則の復習する。	
第 3 回	保育内容の意味～保育のねらいとしての内容理解～	事前学習	教育要領第 2 章前文の予習をする。	
		事後学習	保育内容 5 領域について確認・整理をノートにまとめる。	
第 4 回	保育内容の変遷とその背景～社会の変化、保育観の変化と保育内容の変化	事前学習	保育史の歴史的な保育内容の変遷を教科書により予習する。	
		事後学習	幼稚園教育要領の領域の変化の理由を確認する。6 領域と 5 領域の質的違いをノートにまとめる。	
第 5 回	保育内容 5 領域相互の関連の理解	事前学習	保育活動と保育内容との関連について教科書で予習する。	
		事後学習	領域間の関連を具体的な活動例を出して整理する。	
第 6 回	子どもの育ちと保育内容～年齢差、個人差と保育内容の考え方～	事前学習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領と幼稚園教育要領と保育指針の比較をする。	
		事後学習	子どもの育ちの過程と保育内容の考え方を整理する。	
第 7 回	保育園で展開される生活と保育内容① 3 歳児未満児の生活と保育内容～養護と教育の関連～	事前学習	保育所の、1、2 歳児の生活を調べる	
		事後学習	子どもの体験と保育内容との関連を整理する。	
第 8 回	保育園、幼稚園で展開される生活と保育内容② 3 歳児の生活と保育内容～遊びによる保育～	事前学習	3 歳児の生活、遊び場面の例を調べる	
		事後学習	3 歳児の遊びを通しての学びを具体例で整理する。	
第 9 回	保育園、幼稚園で展開される生活と保育内容③ 4 歳児の生活と保育内容～遊びによる保育～	事前学習	4 歳児の生活、遊び場面の例を調べる	
		事後学習	4 歳児の遊びを通しての学びを具体例で整理する	
第 10 回	保育園、幼稚園で展開される生活と保育内容④ 5 歳児の生活と保育内容～遊びによる保育～	事前学習	5 歳児の生活、遊び場面の例を調べる	
		事後学習	5 歳児の遊びを通しての学びを具体例で整理する。	
第 11 回	保育内容と保育実践法～個の育ちと集団の育ち等～	事前学習	多様な保育形態について調べる	
		事後学習	保育のねらい、内容による保育形態の在り方を考察する。	
第 12 回	保育内容と園全体の活動～園行事等～	事前学習	園行事の例を調べる	
		事後学習	園行事の意義を 5 領域の観点からまとめる	
第 13 回	幼小関連と保育内容～共同的学びを例として～	事前学習	小学校と幼児教育のねらい、内容の違いを整理しておく。	
		事後学習	教育の連続性の重要性を確認する	
第 14 回	幼小接続期の保育内容と具体的実践例	事前学習	小学校教育への適応を踏まえた保育の在り方を考える。	
		事後学習	就学前教育としての保育内容を理解する	
第 15 回	乳幼児期の発達の特性と現代社会の保育ニーズとを踏まえた「保育内容」	事前学習	現在の保育ニーズを調べる	
		事後学習	保育現場で特に配慮すべき点を知りする。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論 (2 単位)	3. 科目番号	JNNT1101
2. 授業担当教員	幸喜 健		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	幼児教育・保育の意義とその思想や子どもの発達特性、保育の歴史等を概観し、幼児教育・保育の原理に基づいて保育内容の意味するところを理解する。さらに、保育内容の 5 領域のねらいと内容を概観し、幼児教育・保育活動の総合的実践、その計画、評価、反省等について理解する。		
8. 学習目標	学生には下記の目標を達成することが期待される。 1. 乳幼児の生活や遊びの総合性を理解することができる。 2. 保育内容を領域別に指導するのではなく、相互関連性等を踏まえた総合的指導であることを理解することができる。特に各領域が、発達をとらえる視点であることを具体的に説明することができる。 3. 生活や遊びにおける総合的指導のあり方を知り、実践を理解することができる。 4. 成長発達の変化にふさわしい保育内容を理解することができる。 5. 保育内容と実践とのかかわりを理解することができる。 6. 現代社会における様々な保育課題と保育内容を理解することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント (宿題) : 1) 事前学習で示された教科書部分を読み、学習ノートにまとめる。 2) 授業内で配布するワークシートを仕上げ提出する。 レポート課題: 1) 「遊びを通しての総合的な指導」について 活動の中に含まれる 5 領域の在り方、相互性などに着目しながら具体的な事例を挙げて説明する。 (A4版、横書き、2 枚に、10.5ポイント、明朝体で印字すること) ※詳細は授業の際に説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 関口はつ江編著『実践理解のための「保育内容総論」』大学図書出版。 【参考書】 『保育所保育指針』 『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
11. 成績評価の方法	筆記試験 80%、レポート 20%		
12. 受講生へのメッセージ	保育者は、日を追うごとにその「専門性」が問われる時代になってきています。そのため受講生の皆さんには学習目標を達成し、より高い専門性を身につけるために下記の条件を厳守することを期待します。 17. 授業では、常に緊張感と集中力を保って受講すること 18. 積極的な態度で授業に参加すること 19. 理解できないことをそのまま放置せず、授業中もしくはオフィスアワー等において必ず質問し、自らの疑問を解消すること 20. アサイメントは期限までに必ずおこない、提出物やレポートの期日は厳守すること 21. 授業は正当な理由のない限り欠席、遅刻、早退をしないこと (欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず書面をもって報告すること、理由の如何によっては減点対象とする) 22. 授業中に私語は絶対にしない 23. 授業中に居眠りをしない 24. 携帯端末の授業中の作動は厳禁とする (電源を切るかマナーモードにして鞆にしまう) ※理由なく遅刻、早退をした場合、明らかに授業中の私語、居眠り、携帯端末の使用が見られた場合、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には単位認定を行わない等厳格に対処します。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	現代社会における保育制度、保育所・幼稚園における保育の社会的役割の確認。授業目的、授業計画の提示。	事前学習	シラバスを読み「保育内容総論」の授業準備をする。
		事後学習	授業目的を確かめ、学習課題を考える。
第 2 回	保育の基本と保育内容～環境を通しての保育における保育内容の考え方	事前学習	現代における保育理念を、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育指針によって確かめる。
		事後学習	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育指針総則の復習する。
第 3 回	保育内容の意味～保育のねらいとしての内容理解～	事前学習	教育要領第 2 章前文の予習をする。
		事後学習	保育内容 5 領域について確認・整理をノートにまとめる。
第 4 回	保育内容の変遷とその背景～社会の変化、保育観の変化と保育内容の変化	事前学習	保育史の歴史的な保育内容の変遷を教科書により予習する。
		事後学習	幼稚園教育要領の領域の変化の理由を確認する。6 領域と 5 領域の質的違いをノートにまとめる。
第 5 回	保育内容 5 領域相互の関連の理解	事前学習	保育活動と保育内容との関連について教科書で

			予習する。
		事後学習	領域間の関連を具体的な活動例を出して整理する。
第 6 回	子どもの育ちと保育内容～年齢差、個人差と保育内容の考え方～	事前学習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領と幼稚園教育要領と保育指針の比較をする。
		事後学習	子どもの育ちの過程と保育内容の考え方を整理する。
第 7 回	保育園で展開される生活と保育内容① 3 歳児未満児の生活と保育内容～養護と教育の関連～	事前学習	保育所の、1、2 歳児の生活を調べる
		事後学習	子どもの体験と保育内容との関連を整理する。
第 8 回	保育園、幼稚園で展開される生活と保育内容② 3 歳児の生活と保育内容～遊びによる保育～	事前学習	3 歳児の生活、遊び場面の例を調べる
		事後学習	3 歳児の遊びを通しての学びを具体例で整理する。
第 9 回	保育園、幼稚園で展開される生活と保育内容③ 4 歳児の生活と保育内容～遊びによる保育～	事前学習	4 歳児の生活、遊び場面の例を調べる
		事後学習	4 歳児の遊びを通しての学びを具体例で整理する
第 10 回	保育園、幼稚園で展開される生活と保育内容④ 5 歳児の生活と保育内容～遊びによる保育～	事前学習	5 歳児の生活、遊び場面の例を調べる
		事後学習	5 歳児の遊びを通しての学びを具体例で整理する。
第 11 回	保育内容と保育実践法～個の育ちと集団の育ち等～	事前学習	多様な保育形態について調べる
		事後学習	保育のねらい、内容による保育形態の在り方を考察する。
第 12 回	保育内容と園全体の活動～園行事等～	事前学習	園行事の例を調べる
		事後学習	園行事の意義を 5 領域の観点からまとめる
第 13 回	幼小関連と保育内容～共同的学びを例として～	事前学習	小学校と幼児教育のねらい、内容の違いを整理しておく。
		事後学習	教育の連続性の重要性を確認する
第 14 回	幼小接続期の保育内容と具体的実践例	事前学習	小学校教育への適応を踏まえた保育の在り方を考える。
		事後学習	就学前教育としての保育内容を理解する
第 15 回	乳幼児期の発達の特性と現代社会の保育ニーズとを踏まえた「保育内容」	事前学習	現在の保育ニーズを調べる
		事後学習	保育現場で特に配慮すべき点を知りする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育表現技術演習 (2 単位)		3. 科目番号	JCNT3419
2. 授業担当教員	駒井 美智子			
4. 授業形態	演習・グループ活動等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容総論・保育内容 5 領域を学んでおくことが必要			
7. 講義概要	保育表現技術演習教科は保育における表現技術を学習し、保育に関する基礎理論、保育内容、保育技能等、学習した知識・技能をこの保育表現技術の中で活かし、それらの体験を通して、保育における表現技術をスキルアップし、総合的に深めていくことを目的としている。同時に保育者にもとめられる人間性の醸成をはかっていくものである。			
8. 学習目標	1. 保育者には総合的な表現力(身体表現・言語表現・音楽表現・造形表現)が要求される。 2. 子どもにとって「保育者は良いモデルになること」になるためにはどうすればよいかを習得する。 3. 保育者は受容が大切である。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	保育教材制作企画書・保育教材実施計画書提出(提出期日は授業で通知する)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 駒井美智子著『幼児文化教材「理論と実践」』大学図書出版。			
11. 成績評価の方法	保育教材制作・実施計画書 20% 保育教材実践プレゼンテーション 60%、授業態度 20%			
12. 受講生へのメッセージ	◎自主的・主体的・行動的・積極的に授業参加すること。 ・授業においては正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退はしないこと。尚、欠席・遅刻・早退をした場合については、その理由を必ず書面をもって講師に報告すること。			
13. オフィスアワー	後日通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの確認・受講生へのメッセージと授業展開及び期末課題の確認	事前学習	保育表現技術演習のシラバスを確認しておく。	
		事後学習	授業計画を確認して保育表現技術演習の理解を深めておく。	
第 2 回	保育者の必要な表現力とはなにか	事前学習	保育者にとって何故「表現」が必要なのか考えてみる。	
		事後学習	保育者にとって必要な表現力とはなにか。第 2 回目授業を整理する。	
第 3 回	保育教材の種類と特徴について	事前学習	保育活動・保育内容に活用する保育教材とは何か・リサーチする。	
		事後学習	保育教材の種類と特徴・第 3 回目授業のまとめ。整理をノートにする。	
第 4 回	保育活動・保育内容での教材の役割について	事前学習	保育活動に必要な保育教材の在り方の授業第 1 回～授業 3 回を整理する。	
		事後学習	保育内容における保育教材の役割を整理・確認する。	
第 5 回	保育教材制作の企画書について ①・・・何の教材を作成するか	事前学習	作成する保育教材の選択をする。	
		事後学習	保育教材制作企画書着手 保育にとって今日必要な教材の選択をする。	
第 6 回	保育教材制作の企画書について ②・・・保育教材の目的を確認する	事前学習	保育教材の目的の確認①何の為にこの保育教材が必要か確認・整理して目的理解を図る。	
		事後学習	再度保育教材の目的の確認(保育教材活用について再検討する。②)	
第 7 回	保育教材の実践計画書作成について ①・・・対象年齢等	事前学習	保育教材に必要な対象年齢の配慮・幼児の発達年齢を検討する。①	
		事後学習	保育の三機能である幼児性・対象年齢を再検討する。②	
第 8 回	保育教材の実践計画書作成について ②・・・時期、所要時間等	事前学習	保育内容・保育活動における、保育教材の時期・所要時間の検討をする。①	
		事後学習	保育内容・保育活動における、保育教材の時期・所要時間の確認を再検討する。	
第 9 回	保育教材発表準備(各自)例おはなし・絵本等	事前学習	保育者における保育教材の在り方を学び・保育教材発表準備をする。①	
		事後学習	保育者と子どもの関わりを十分に配慮した保育教材とは何かを検討しながら発表準備をする。②	
第 10 回	保育教材発表準備(各自)例紙芝居・エプロンシアター等	事前学習	現代の子どもにとってのふさわしい保育教材とは何かを検討しながら保育教材発表準備をする。③	
		事後学習	保育者の質の向上をあげるための保育教材とは何かを検討しながら発表準備をする。④	
第 11 回	保育教材発表準備(各自)例手遊び・人形劇・パネルシアター等	事前学習	保育者の活性化とは何かを検討しながら保育教材発表準備をする。⑤	
		事後学習	保育者が保育者として表現力が身に付く・とはどのようなことなのかを検討しながら保育教材発表準備をする。⑥	
第 12 回	保育教材発表会①(他学生の発表を見ながら自己の学習にする)	事前学習	保育に活かせる保育教材の発表会参加①反省・課題確認する。	
		事後学習	保育に活かせる発表会参加②反省・課題確認する。ノートにまとめる。②	
第 13 回	保育教材発表会②(他学生の発表を見ながら自己の学習にする)	事前学習	幼児にとって表現力が身につく発表会参加③反省・課題確認をする。	
		事後学習	幼児にとって表現力が身につく発表会参加④反省・課題確認をする。	
第 14 回	保育教材発表会③(他学生の発表を見ながら自己の学習にする)	事前学習	保育者・幼児の共有体験であるかを目的として発表会参加⑤反省・課題確認をする。	
		事後学習	保育者・幼児の共有体験であるかを目的として発表会参加⑥反省・課題確認をしてノートにまとめる。	
第 15 回	保育表現技術演習のまとめ	事前学習	保育表現技術演習の授業全体を通してのまとめ・各自表現力は身についたか・自己点検をする。①	
		事後学習	保育表現技術演習の各自今後の課題・まとめを整理してノートする。②	

1. 科目名 (単位数)	法学 (憲法を含む) (2 単位)		3. 科目番号	JNGC1402
2. 授業担当教員	山本 豊			
4. 授業形態	講義 (学生への質問、討議、学生の発表、レポート)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	今後、学ぶことになる法に関する科目の基礎となるものである。			
7. 講義概要	本科目は、国家の基本法である憲法を学習するものである。学生の皆さんは、既に小学校・中学校・高等学校の社会科・公民・政治経済などの教科等において日本国憲法の内容については、一応学習している。大学での憲法学習は、憲法の意義、憲法の歴史的制定の経緯、現実の政治との関連などについて、判例を含めて、多角的に学習する。			
8. 学習目標	学生には下記の目標を達成することが期待される。 1. 実質的意義の憲法と形式的意義の憲法について理解し、説明できる。 2. 憲法の分類について理解し、説明できる。 3. 明治憲法と日本国憲法の相違について理解し、説明できる。 4. 日本国憲法の基本原理について理解し、説明できる。 5. 日本国憲法に関する主要な判例を学習する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業内容に相当する部分の教科書を読んでおくこと。</li> <li>・事前に配布されたレジュメを正しく読めるようにしておくこと。</li> <li>・難解な法律用語は調べておくこと。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 野口寛編『改訂 現代の法学』建帛社。 『ポケット六法 平成 26 年度版』有斐閣。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 <b>【参考書】</b> 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の方法	授業態度	20%		
	期末試験	40%		
	ミニテスト	40%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。</li> <li>2. 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなどの予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。</li> <li>3. 自ら進んで発表したり、質問したりして講義内容の理解に努めること。</li> <li>4. 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。</li> <li>5. 授業中の着帽、私語、飲食 (ガムを含む) 等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。</li> </ol> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</li> <li>2. 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。</li> <li>3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。</li> <li>4. 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。</li> <li>5. 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに来室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので (次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	授業中に別途通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	憲法と私たちの関係	事前学習	憲法の意義について考える	
		事後学習	実質的意義の憲法についてまとめる	
第 2 回	日本の憲法	事前学習	日本国憲法の前文を読んでおく	
		事後学習	憲法の基本原理についてまとめる	
第 3 回	基本的人権の一般原則	事前学習	基本的人権とは、何か考える	
		事後学習	人権の制約 (公共の福祉) についてまとめる	

第 4 回	自由権の具体的内容	事前学習	精神的自由権とは、何かを考える。
		事後学習	人身の自由、経済的自由権について、まとめる。
第 5 回	社会権の具体的内容	事前学習	生存権について、考える。
		事後学習	社会権についてまとめる
第 6 回	受益権の具体的内容	事前学習	選挙制度について調べる
		事後学習	参政権などその他の人権についてまとめる
第 7 回	象徴天皇	事前学習	明治憲法について調べる
		事後学習	天皇の国事行為についてまとめる
第 8 回	国会の権能	事前学習	国会の仕事について調べる
		事後学習	国政調査権についてまとめる
第 9 回	内閣の権能	事前学習	行政官庁の仕事について調べる
		事後学習	内閣法と国家行政組織法についてまとめる
第 10 回	裁判所の権能	事前学習	裁判所の種類について調べる
		事後学習	違憲立法審査権についてまとめる
第 11 回	地方自治	事前学習	地方自治の本旨について調べる
		事後学習	地方分権制度についてまとめる
第 12 回	平和国家	事前学習	戦争の放棄と自衛隊について考える
		事後学習	集団的自衛権についてまとめる
第 13 回	憲法の保障と改正	事前学習	憲法改正の要件について調べる
		事後学習	憲法の変遷についてまとめる
第 14 回	憲法のまとめ	事前学習	日本国憲法の全条文を読む
		事後学習	憲法の役割について考える
第 15 回	まとめ	事前学習	国民と憲法の関係について考える
		事後学習	憲法改正について考える
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2 単位)	3. 科目番号	JEGC1203
2. 授業担当教員	田中 利光		
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに見直され、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。</li> <li>3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。</li> <li>4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>本科目の授業の中で1回レポートを課す。</p> <p>【テーマ】 「ボランティアの可能性と課題について」</p> <p>【執筆規定】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① A4用紙 (40字×30行) 2枚。表紙は不要。1枚目の上部に提出年月日、科目名、テーマ、学籍番号、氏名を明記し、複数枚ある場合は左上端をホッチキスで止めること。</li> <li>② 参考文献・引用文献を明記すること。</li> <li>③ レポートの提出日は授業中に教員が指示する。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 巡静一・早瀬昇編著 大阪ボランティア協会監修『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規、1997。</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣。</li> <li>2. ストーン, J. M. 著、大利一雄・水野友美・清藤京子訳『ボランティアのグループ指導入門』勁草書房。</li> <li>3. 広井良典『ケアを問いなおす』ちくま新書。</li> </ol> <p>【その他の参考教材】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義を補足するために視聴覚教材を用いる。</li> <li>2. 講義を補足するために必要に応じて資料を配布する。</li> </ol>		
11. 成績評価の方法	<p>本科目の中で実施するレポート (1 本) 及び期末試験の成績を総合し評価を行う。</p> <p>レポートの評価 50%</p> <p>期末試験の評価 50%</p> <p>※ 東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻はできる限り無いようにしてもらいたい。理由のある欠席は書面で教員に届け出ること。</li> <li>2. 授業を妨げる私語、携帯電話 (スマホ) の操作・使用を禁止する。</li> <li>3. レポートの提出期限は厳守すること。正当な理由なく提出期限後に提出されたレポートは減点対象となる。</li> <li>4. ボランティアは机上の知識のみではなく、実践を通して会得するものも多いので、もし可能であれば実際にボランティア活動を体験することを推奨する。</li> <li>5. 受講生は、次回の授業範囲を事前学習しておくこと。</li> <li>6. 授業中はやむを得ない事情でない限り退室を禁ずる。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。 教員の研究室メールアドレス totanaka@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、学習目標等の説明、) 各種ボランティア活動の実際	事前学習	授業にシラバスを持参すること。 教科書 pp.140-155 事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 2 回	ボランティアコーディネーションについて ボランティアコーディネーションで重要な 4 つの視点について	事前学習	教科書 pp.156-176 事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 3 回	ボランティア活動の歴史(1) マザー・テレサと福祉ボランティアボランティアリズムの根源について考える	事前学習	マザー・テレサについて事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 4 回	ボランティア活動の歴史(2) “ケア”とボランティア・ホスピスの歴史からボランティアを考える	事前学習	ホスピスとホスピスボランティアについて事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 5 回	災害とボランティア	事前学習	阪神・淡路大震災について事前学習する。

	震災から学んだことーボランティアの必要性の認識	事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 6 回	高齢者問題とボランティア(1) “老い”を支えるボランティア活動	事前学習	教科書 pp.36-58 事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 7 回	高齢者問題とボランティア(2) 高齢者による高齢者のためのボランティア活動	事前学習	教科書 pp.36-58 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 8 回	児童問題とボランティア(1) 貧困児童の生活実態ーゴミ山でゴミを拾って家族の生計を支える児童	事前学習	教科書 pp.59-79 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 9 回	児童問題とボランティア(2) 貧困児童の生活実態ーゴミ山で働く児童のその後ー	事前学習	教科書 pp.59-79 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 10 回	障害者問題とボランティア(1) 障害者・障害者観について、車いすの安全な利用方法について	事前学習	教科書 pp.80-97 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 11 回	障害者問題とボランティア(2) 精神保健福祉のボランティア活動	事前学習	教科書 pp.80-97 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 12 回	環境問題とボランティア(1) 河川の汚染とボランティア活動	事前学習	教科書 pp.98-118 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 13 回	環境問題とボランティア(2) 水俣から見えてくるもの	事前学習	水俣病について事前に調べておく。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 14 回	国際問題とボランティア(1) 戦争で親を亡くした児童たちの生活ー少年兵士の問題	事前学習	教科書 pp.119-137 を事前学習する
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 15 回	国際問題とボランティア(2) 今日の国際 NGO 活動の実際	事前学習	教科書 pp.119-137 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	幼児教育方法論 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL2402
2. 授業担当教員	駒井 美智子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係	保育士資格取得科目必須・幼稚園教諭取得科目の基礎を終了していること		
7. 講義概要	子どもの学びと教師の指導方法、学校、教師の意識改革、子どもの側に立った指導方法、教材の検討、地域の活用、指導方法、指導案の作成方法等について学習する。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育・保育の方法の本質について理解する。</li> <li>・どのように幼児を理解するか、その在り方を様々な角度から考えられる眼を養う。</li> <li>・幼児の発達に応じた保育内容及び指導法のあり方について理解し、説明できる。</li> <li>・幼児理解を深めるための記録について学び習得する。</li> <li>・保育に生かす情報メディアについて学び習得する。</li> <li>・幼小の学びの関連性を理解し、説明できる。</li> </ul>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・授業で出す課題A4 レポート 1 枚を提出 (課題については授業時に発表する・・・)		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 横山文樹・駒井美智子『保育・教職実践演習』大学図書出版、2014 年。 <b>【参考書】</b> 駒井美智子『幼児文化教材の理論と実践』大学図書出版、2013 年。		
11. 成績評価の方法	筆記試験 60%、レポート・模擬授業・出席 40%		
12. 受講生へのメッセージ	授業は主体的・積極的・行動的・意欲的に参加すること。 予習・復習は勿論のこと、授業の私語は慎むこと		
13. オフィスアワー	金曜日の昼休み・5 限終了後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	幼児教育方法論のガイダンス	事前学習	幼児教育方法論授業ノート・ファイルの準備
		事後学習	幼児教育方法論の授業計画・シラバス確認
第 2 回	第 1 章幼稚園教諭とは・教職とは	事前学習	第 1 章幼稚園教諭とは・教職とは
		事後学習	第 1 章のまとめ・整理
第 3 回	第 1 章保育者の役割と課題	事前学習	第 1 章保育者について考える
		事後学習	第 1 章保育者の役割・課題のノート整理
第 4 回	第 1 章子どもの遊びの変化と現状	事前学習	第 1 章子どもの遊びをノートに整理する
		事後学習	第 1 章子どもの頃のあそびの整理
第 5 回	第 2 章子ども観・保育観について	事前学習	第 2 章子ども観・保育観とは何か？調べる
		事後学習	第 2 章子ども観・保育観を書いてみよう。
第 6 回	第 2 章・3 章子どもの動機づけ 3 歳児未満の保育内容	事前学習	第 2・3 章 3 歳児未満の発達とは
		事後学習	第 2・3 章 3 歳児未満の指導計画を作成
第 7 回	第 2 章・3 章子どもの動機づけ 3 歳児の保育活動内容	事前学習	第 2・3 章 3 歳児の発達理解
		事後学習	第 2・3 章 3 歳児の指導計画作成
第 8 回	第 2 章・3 章子どもの動機づけ 4 歳児の保育活動内容	事前学習	第 2・3 章 4 歳児の発達理解
		事後学習	第 2・3 章 4 歳児の指導計画作成
第 9 回	第 2 章・3 章子どもの動機づけ 5 歳児の保育活動内容	事前学習	第 2・3 章 5 歳児の発達理解
		事後学習	第 2・3 章 5 歳児の指導計画作成
第 10 回	第 3・4 章幼児教育者に求められているもの	事前学習	第 4 章を読んでくる
		事後学習	第 4 章授業整理・まとめる
第 11 回	第 5 章幼児教育行政の課題①近年の動向	事前学習	第 5 章近年の動向をリサーチする
		事後学習	第 5 章授業を整理まとめる
第 12 回	第 5 章幼稚園・保育所にかかる問題と課題	事前学習	第 5 章を読む
		事後学習	第 5 章授業を整理まとめる
第 13 回	第 6 章現代社会における幼児教育の問題	事前学習	第 6 章幼児教育の問題点をリサーチする
		事後学習	第 6 章授業の整理
第 14 回	第 7 章模擬授業の準備・実践①	事前学習	第 7 章模擬授業とは何かを学ぶ
		事後学習	第 7 章模擬授業をまとめる
第 15 回	第 7 章模擬授業の準備・実践②まとめ	事前学習	第 7 章幼児教育方法論の整理
		事後学習	幼児教育方法論のまとめ・整理
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	幼児教育方法論 (2 単位)		3. 科目番号	JEEL1402
2. 授業担当教員	松井 裕子			
4. 授業形態	講義と演習 (事前学習成果の報告や協議) を通して幼児教育の方法を理解し、豊かな教育実践の基礎を身に付けることを重視する。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	子どもの学びと教師の指導方法、学校、教師の意識改革、子どもの側に立った指導方法、教材の検討、地域の活用、指導方法、指導案の作成方法等について学習する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育・保育の方法の本質について理解する。</li> <li>・どのように幼児を理解するか、その在り方を様々な角度から考えられる眼を養う。</li> <li>・幼児の発達に応じた保育内容及び指導法のあり方について理解し、説明できる。</li> <li>・幼児理解を深めるための記録について学び習得する。</li> <li>・保育に生かす情報メディアについて学び習得する。</li> <li>・幼小の学びの関連性を理解し、説明できる。</li> </ul>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○幼児教育・保育の基本を示すキーワードを取り上げ、それぞれについての理解を深める。さらに幼児の発達を促すための幼児理解や指導法のポイントをまとめる。</p> <p>○身近な実践事例や保育場面のエピソードを考察、検討し、より豊かな実践に生かす幼児理解や指導法をとらえる。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小田豊編著『幼児教育の方法』北大路書房。</p> <p>【参考書】 『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>			
11. 成績評価の方法	授業態度	40%		
	提出物、レポート	30%		
	テスト	30%		
12. 受講生へのメッセージ	幼児教育の方法について、教科書等から基礎的・基本的な知識を学び、さらに幼児教育者としての能力や意欲を高めていくために多くの具体的な実践事例に触れ考察を深めていきましょう。			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (授業の概要、計画、のぞむ姿勢)	事前学習	シラバスを読んで授業内容を確認しておく	
		事後学習	自己の幼児期の振り返りから考えたことと授業で学んだことの異同について整理する	
第 2 回	幼児教育・保育の基本理念	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる	
		事後学習	幼児期の教育・保育の特徴についてまとめる	
第 3 回	「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と「保育所保育指針」における幼児教育・保育の方法	事前学習	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」をよく読んでくる	
		事後学習	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の特徴について整理する	
第 4 回	基本的な生活習慣の形成に向けての保育方法	事前学習	幼児期の発達と基本的な生活習慣の形成について調べておく	
		事後学習	幼児期の基本的な生活習慣の形成の指導方法についてまとめる	
第 5 回	環境を通しての保育	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる	
		事後学習	幼児期の教育・保育はなぜ「環境を通して行う」かについてまとめる	
第 6 回	保育者の役割	事前学習	「環境を通しての保育」における保育者の役割について考える	
		事後学習	保育者の役割についてまとめる	
第 7 回	幼児の生活とその援助 (実践事例から)	事前学習	資料を読みワークシートに記入する	
		事後学習	幼児の生活と保育者の役割についてまとめる	
第 8 回	幼児の遊びとその援助 (実践事例から)	事前学習	資料を読みワークシートに記入する	
		事後学習	幼児の遊びと保育者の役割についてまとめる	
第 9 回	幼児の活動と保育形態	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる	
		事後学習	方法としての様々な形態について整理する	
第 10 回	指導計画と保育の展開 (指導案の作成)	事前学習	指導案を作成する	
		事後学習	指導案を修正する	
第 11 回	保育の評価	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる	
		事後学習	保育の評価についてまとめる	
第 12 回	保育の記録とその生かし方	事前学習	資料を読みワークシートに記入する	
		事後学習	保育の記録の取り方についてまとめる	
第 13 回	保育に生かす情報メディア	事前学習	保育現場でどのような情報メディアが使われているか調べておく	
		事後学習	保育における情報メディアの活用についてまとめる	
第 14 回	幼保小の連携	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる	
		事後学習	幼児期の学びと小学校の学びについてまとめる	
第 15 回	家庭や地域と連携した保育	事前学習	家庭や地域との連携の事例について調べておく	
		事後学習	「子どもは生活の中で育つ」の視点から、家庭や地域との連携の必要性について確認する	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (2 単位)	3. 科目番号	JNNT1109
2. 授業担当教員	山内 健次	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、実技と演習およびディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容(健康)との授業関連が深い		
7. 講義概要	幼児の体力低下は現代社会の大きな問題となっている。多くの時間を幼稚園や保育園で過ごす幼児にとって、園生活の中に「運動遊び」を取り入れることは、体力向上の大きな要因となる。本講義では保育者自身が、「楽しく」「安全に」「より効果的な」運動遊びを体験すると同時に、その指導法を修得することを目的とする。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの運動発達の順序を理解し、年齢にあった適切な運動遊びの指導が実践できるようにする。</li> <li>・幼児に対して多種多様な運動遊びを提供するだけでなく、保育者自身が正確にその手本を示すことができる技術を習得する。</li> </ul>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	課題 1. 実技試験(マット・跳び箱・鉄棒あそびの補助等) 課題 2. 授業内で行った運動あそびを、一冊のノートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】河田隆編著『幼児体育教本』同文書院。 【参考書】前橋明著『0～5歳児の運動あそび指導百科』ひかりのくに。 東根明人・平井博史著『キンダーコーディネーション』全国書籍出版。		
11. 成績評価の方法	課題 1 50% 課題 2 50% 計 100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 運動できる服装で必ず参加して下さい。 2. 協調性のある態度で授業臨んで下さい。 3. 指輪、ピアス等の装飾品は授業前にとってください。		
13. オフィスアワー	授業内でお知らせいたします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ○本講義の意義と授業の展開についての説明 ○幼児期からの運動発達の順序 ○コミュニケーションを図るレクリエーションゲーム	事前学習	本講義内容をシラバスにて把握したうえで授業に臨む。
		事後学習	幼児の運動発達について内容を整理しまとめる。
第 2 回	幼児体育の目標とねらい ○幼児期の体力の推移、幼児期運動指針のねらい、基本的身体活動動作(平衡系・移動系・操作系)について	事前学習	現在の幼児期の体力について調べてくる。
		事後学習	基本的身体活動動作について内容を整理しまとめる。
第 3 回	遊具・教具を必要としない運動遊び ○じゃんけん遊び・力の運動遊び・バランスの運動遊び	事前学習	運動遊びに使われる遊具や教具について、どのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	じゃんけん遊び・力の運動遊び・バランスの運動遊びの指導ポイントをまとめる。
第 4 回	集団遊び ○伝承遊び	事前学習	伝承遊びにはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	伝承遊びを指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 5 回	集団遊び ○鬼遊び	事前学習	鬼遊びにはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	鬼遊びを指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 6 回	器械運動遊び ○マット	事前学習	マット運動にはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	マット運動を指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 7 回	器械運動遊び ○跳び箱	事前学習	跳び箱運動にはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	跳び箱運動を指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 8 回	器械運動遊び ○鉄棒	事前学習	鉄棒運動にはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	鉄棒運動を指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 9 回	縄跳び運動 ○長縄	事前学習	長縄を使った縄跳び運動にはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	長縄を使った縄跳び運動を指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 10 回	縄跳び運動 ○短縄	事前学習	短縄を使った縄跳び運動にはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	短縄を使った縄跳び運動を指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 11 回	調整力を養う運動 ○コーディネーション運動	事前学習	コーディネーション運動とはどういうものかを調べてくる。
		事後学習	コーディネーション運動の指導ポイントをまとめる。
第 12 回	小さなボールを使った運動遊び ○キャッチする・投げる・打つ動作など	事前学習	ボール遊びの運動特性について調べてくる。
		事後学習	小さなボールを使った運動を指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 13 回	大きなボールを使った運動遊び ○つく・転がす・運ぶ動作、中あて・ドッジボールの指導法	事前学習	子供向けリズム体操について調べてくる。
		事後学習	大きなボールを使った運動を指導できるように指導のポイントをまとめる。
第 14 回	リズム体操 ○アンパンマン体操・No.1 体操など	事前学習	「ラジオ体操第一」を覚えてくる
		事後学習	リズム体操の振り付けを覚える。
第 15 回	バルーンを使った集団表現活動	事前学習	幼稚園・保育園の運動会では、どのような集団演技が行われているか調べてくる。
		事後学習	バルーンを使った演技を自分で構成してみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導 I (1 単位)	3. 科目番号	JNEL1431
2. 授業担当教員	松井 裕子		
4. 授業形態	講義や演習 (基本的な実習の内容、心構えと準備、日誌の記入等)、部分保育についてグループで討議し、計画と実践、反省を具体的に体験して実践的に学び合うことを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	幼稚園教育実習は、幼稚園において幼児とともに生活する中で、保育者の援助を受けながら保育の実際を経験することによって、学習で身につけた知識や技術をより確実なものとし、幼稚園教育の理解を深める場となる機会である。 授業を通して保育者としての資質や能力、使命感について認識を深め、実習に臨む際の課題を明確にする。		
8. 学習目標	以下のような観点から学習し、身に付けたり理解を図ることによって、実習を行えるようにすることを学習目標とします。 1. 実習に必要な心構えと準備について理解し、行動に移すことができるようになる。 2. 保育者に求められる資質、態度、マナーを理解し、説明できるようになる。 3. 実習記録の意味と方法を理解し、記入できるようになる。 4. 指導計画の立て方を知り、保育者の具体的な指導の仕方を体験的に理解して説明できるようになる。 5. 実習に向けての自己課題を設け、実習に向けて準備をする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	部分保育の指導 (保育) 計画を作成し提出する。 模擬保育の体験を通して学んだことを中心に、教育実習に生かしていきたい保育者の心構え、幼児理解、環境の構成や援助などをまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008 年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015 年『幼稚園教育実習の手引き』(東京福祉大学編)		
11. 成績評価の方法	授業態度 30%, 提出物・レポート 70%		
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育の基本、幼児理解や環境の構成、一人一人の幼児への援助等について体験を通して具体的に理解を深め、幼稚園教育実習 I に目標をもち、意欲的に臨めるようにしましょう。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業の概要、授業計画。 幼稚園における教育実習の目的と内容	事前学習	『幼稚園教育実習の手引き』を読み、概要を理解して授業に臨む。
		事後学習	『幼稚園教育実習の手引き』を読み直し、ワークシートに教育実習への期待等や基本事項を記述しまとめる。
第 2 回	幼児期の特性と幼稚園教育の役割、幼稚園教育の基本等について理解を深める。 乳幼児期の特性と幼保連携型認定こども園における教育及び保育の役割、教育及び保育の基本について理解を深める。	事前学習	『幼稚園教育要領解説』(pp.8~48)、『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』(pp.7~62)を読み、教育実習を行う際の基本的事項を確認する。
		事後学習	HP等で自分が行く実習園の概要、大まかな一日の流れ等を調べておく。
第 3 回	教育実習に臨む姿勢について 保育者としてのマナー (あいさつ、言葉づかい、服装、生活習慣、社会的習慣、礼状の書き方など)。	事前学習	ワークシートに自身の教育実習への期待等を記入する。
		事後学習	初めて実習園を訪問する際のあいさつの仕方について文章化しておく。
第 4 回	実習記録の意義について、 実習日誌の内容や様式等について理解する。	事前学習	HP等で自分が行く実習園の概要、特色等をまとめ、実習日誌に記入できるようにしておく。
		事後学習	決められた書式にあてはめ、お礼状を書く。(レポート)
第 5 回	実習日誌の書き方 (1) 記録の取り方と表記の仕方	事前学習	前回の授業で配付された実習日誌の内容や様式に目を通し、全体像を把握しておく。
		事後学習	授業中に提示された具体例をもとに仮の 1 日の実習記録を書いてみる。
第 6 回	実習日誌の書き方 (2) 一日の反省のまとめ方と表記の仕方	事前学習	実習記録を書く上での疑問や課題を口頭で発表できるようにしておく。
		事後学習	仮の実習記録を修正し、清書して提出する。(レポート)
第 7 回	部分実習の意義、目的、方法 部分保育の内容 模擬保育のグループ活動班を決める。	事前学習	幼稚園や認定こども園の一日の流れを把握し、部分保育の内容に何があるか調べておく。
		事後学習	グループで取り組みたい部分実習と対象学年に関する資料を様々な月刊誌や文献から探す。
第 8 回	環境を通して行う教育と保育計画 (内容や様式) グループで模擬保育の内容を選定する。	事前学習	探した資料を用意し、授業に持参する。
		事後学習	授業で配布された保育計画用紙に、グループで

	対象学年、時期（6月）、幼児の実態、ねらいや内容、一日の流れへの位置づけ、環境の構成等を協議する。		協議した結果を鉛筆でメモしておく。
第9回	幼児の特性に応じた援助と保育計画 予想される幼児の活動、(言動等) 幼児の活動に応じた援助、環境の再構成などを協議する。	事前学習	模擬保育における幼児の予想される活動と保育者の援助を考慮しておく。
		事後学習	授業で配布された保育計画用紙に、グループで協議した結果を鉛筆でメモしておく。
第10回	模擬保育（1）の計画を作成する（グループ活動） 環境の構成をシュミレーションする。 役割分担等を協議して決定する。	事前学習	模擬保育に必要な素材や用具、場や空間を考慮しておく。
		事後学習	前々回、前回の授業後、鉛筆書きした保育計画を、グループ協議の結果を生かして修正し模擬保育（1）の保育計画を作成する。
第11回	模擬保育（1）の実施、反省評価等（グループ活動）	事前学習	模擬保育（1）に必要な素材や用具、場や空間を考慮しておく。
		事後学習	模擬保育実施後の反省評価を保育計画に記入する。（レポート）
第12回	模擬保育（2）の計画を作成する（グループ活動） 環境の構成をシュミレーションする。 役割分担等を協議して決定する。（グループ活動）	事前学習	取り組みたい部分実習と対象学年に関する資料を様々な月刊誌や文献から探す。
		事後学習	授業で配布された保育計画用紙に、グループで協議した結果を生かして、模擬保育（2）の保育計画を作成する。
第13回	模擬保育（2）の実施、反省評価等（グループ活動）	事前学習	模擬保育（2）に必要な素材や用具、場や空間を考慮しておく。
		事後学習	模擬保育実施後の反省評価を保育計画用紙に記入する。
第14回	模擬保育を通して学んだことや疑問、自身の課題等を発表し合い、協議する。（グループ、クラス全体）	事前学習	模擬保育を通して学んだこと、疑問や課題等を発表できるようにしておく。
		事後学習	グループやクラス全体での協議も含めて幼稚園教育実習Ⅰに生かしていきたいことなどをまとめる。（レポート）
第15回	実習園でのオリエンテーション、実習準備事項の確認 実習中の連絡・報告について、巡回指導について 実習事後指導について	事前学習	今までの学習を整理しておく。
		事後学習	幼稚園教育実習Ⅰにおける自身の目標や課題を明らかにしまとめる。（レポート）

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導Ⅱ (1 単位)		3. 科目番号	JCEL2433
2. 授業担当教員	松井 裕子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義や演習 (実習Ⅰの反省、遊び・一斉活動による保育等) 一日の保育についてグループで討議し、計画と実践、反省を具体的に体験して実践的に学び合うことを重視します。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	幼稚園教育実習Ⅰの反省・省察をもとに、保育の実際から、幼児の理解を深めるとともに、幼児の育ちに 応じた指導の在り方をビデオや演習による学習を加えながら学びます。 保育の1日実習の模擬保育体験を中心に、幼児の主体性を育む「環境による教育」を具体的に学びます。 (保育過程の理解、教材研究、一日の指導案の作成、指導方法、計画・実践・反省の関係等)			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習Ⅰの反省をもとに、1日の流れに沿って、具体的な保育場面の子ども理解と指導のポイントをとらえ、説明できるようになる。</li> <li>・幼稚園における保育内容、ねらい、指導の関係を具体的に理解し、説明できるようになる。</li> <li>・子どもの生活を理解し、日々のつながりを踏まえた1日の保育計画を立てられるようになる。</li> <li>・子どもの活動を総合的に把握し、教師の役割や専門性について理解を深め、実習Ⅱの課題設定につなげて説明できるようになる。</li> </ul>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	一日保育の指導 (保育) 計画の作成し提出する。 模擬保育の体験などを通しての学びを発表し合う際の発表原稿や製作物等をレポートにまとめます。 3歳児から5歳児の生活や発達の理解と指導のポイントを整理し、まとめます。			
10. 教科書・参考書・教材	東京福祉大学編『幼稚園教育実習の手引き』、 第1回の授業に幼稚園教育実習日誌Ⅰを必ず持参する。 演習等の資料としてプリントを配付します。保育場面を取り上げた教材ビデオ等を視聴します。			
11. 成績評価の方法	授業態度 30% 提出物 20%、レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育実習Ⅰの実習成果や課題などを基盤にし、本科目での学習を通してさらに子ども理解を深め、子どもたちのよりよい発達を促す保育計画の作成や指導の実践ができるようにしていきます。			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業内容と授業計画、 幼稚園教育実習Ⅰの感想及び課題等の発表。 幼稚園教育実習Ⅱの目的と内容	事前学習	既に配付されている『幼稚園教育実習の手引き』 を通読し、重要事項にマークをしておく。 教育実習Ⅰの感想や課題等を口頭発表できるよう 準備しておく。	
		事後学習	幼稚園教育実習Ⅱの目的と内容、実習Ⅰとの違い をシートに整理してまとめる。	
第2回	幼稚園の一日と保育のねらいや内容 一日の保育における保育者の役割	事前学習	『幼稚園教育要領解説』(PP192～230)を読み直 し、指導計画の基本的事項について理解しておく。	
		事後学習	幼稚園の一日についてシートに整理してまと める。	
第3回	一日の反省評価と翌日の指導 (保育) 計画との関係 模擬保育のグループ決め	事前学習	グループの中で自己紹介ができるように準備し ておく	
		事後学習	一日保育 (対象学年、時期、幼児の姿、一日の流 れなど) をシュミレーションする。	
第4回	実習生の心構え、実習生としての在り方 (実習園の 保育者との関係、保護者との関係) 模擬保育 (1) の計画と教材 (グループ活動)	事前学習	実習日誌Ⅰから、実習生としてよかったあり方や 心構えを取り上げ、発表できるようにしておく。	
		事後学習	HP等で自分が行く実習園の概要を調べておく。	
第5回	一日の指導 (保育) 計画の作成の仕方について理解 する。 ・幼児の姿 ・各幼稚園の長期の指導計画 ・一 日のねらいと内容 ・環境の構成 ・予想される 幼児の活動・保育者の援助及び環境の再構成 等	事前学習	『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説 (PP246～293)を読み直しておく。	
		事後学習	一日の指導 (保育) 計画の内容や作成の仕方につ いてのポイントを整りシートに記入する。	
第6回	「環境を通して行う保育」と指導 (保育) 計画につ いて理解を深める。 模擬保育 (1) の計画を作成する。一環境の構成を 中心にー	事前学習	模擬保育の環境の構成案を考え、指導案用紙に鉛 筆で記入しておく。	
		事後学習	グループ協議の結果を生かして、幼児の姿、ねら いと内容、環境の構成を記入する。	
第7回	「遊びを通しての総合的な指導」と指導 (保育) 計 画について理解を深める。 模擬保育 (1) の計画を作成する。ー予想される幼 児の活動と保育者の援助及び環境の再構成を中心 にー 模擬保育 (1) の教材準備 (グループ活動)	事前学習	模擬保育における予想される幼児の活動と保育者 の援助及び環境の再構成の案を考えておく。	
		事後学習	グループ協議の結果を生かして、予想される幼児 の活動と保育者の援助及び環境の再構成などを記 入する。	
第8回	「一斉活動」の指導 (保育) 計画について理解を深 める。 (各幼稚園の長期の画、園行事、一日の流れ、幼	事前学習	一斉活動の展開案を考えておく。	
		事後学習	模擬保育 (1) の指導計画を作成・印刷 グループ内で配付	

	児一人一人の発達の特性などへの配慮) 模擬保育(1)の指導(保育)計画を完成する。 模擬保育(1)の役割分担等の相談		環境構成に必要な素材や用具等を準備する。 物的・空間的な環境構成をシュミレーションする。
第9回	模擬保育(1)の実施と協議(グループ活動)	事前学習	模擬保育(1)実施の準備
		事後学習	模擬保育の反省評価をまとめる。
第10回	模擬保育(1)の反省評価と翌日の保育についてグループ協議、 模擬保育(2)の指導(保育)計画の作成 模擬保育(2)の役割分担、環境の構成を協議	事前学習	反省評価を生かし、翌日の保育をシュミレーションする。
		事後学習	模擬保育(2)の指導計画を作成・印刷 グループ内で配付。 環境構成に必要な素材や用具等を準備する。 物的・空間的な環境構成をシュミレーションする。
第11回	模擬保育(2)の実施と反省評価(グループ活動)	事前学習	模擬保育(2)実施の準備
		事後学習	模擬保育(2)の反省評価をまとめる。 模擬保育(1)と(2)の反省評価を記入した指導計画を増刷する。
第12回	模擬保育(1)と(2)の反省評価を記入した指導(保育)計画を交換し合う。 模擬保育を通しての学び、感想、自身の課題等を発表し合い協議する。(グループ活動)	事前学習	模擬保育やグループ協議を通しての学びの発表の準備をする。
		事後学習	グループの協議も含めて模擬保育からの学びや幼稚園教育実習Ⅱに生かしたいことなどをまとめる。(レポート)
第13回	模擬保育からの学び(成果と課題等)についての発表と協議ー3歳児ー	事前学習	他のグループの模擬保育資料などから、3歳児の生活や発達、保育のポイントなどを自分なりにまとめておく。
		事後学習	授業中の発表や協議も含めて、3歳児の生活や発達の理解、保育のポイントを整理し、シートに記入する。(レポート)
第14回	模擬保育からの学び(成果と課題)についての発表と協議ー4歳児ー	事前学習	他のグループの模擬保育資料などから、4歳児の生活や発達、保育のポイントなどを自分なりにまとめておく。
		事後学習	授業中の発表や協議も含めて、4歳児の生活や発達の理解、保育のポイントを整理し、シートに記入する。(レポート)
第15回	模擬保育からの学び(成果と課題)についての発表と協議ー5歳児ー 幼稚園教育実習Ⅱに向けての課題や目標等を考える。 幼稚園教育実習Ⅱの実習後の提出課題について	事前学習	他のグループの模擬保育資料などから、5歳児の生活や発達、保育のポイントなどを自分なりにまとめておく。
		事後学習	授業中の発表や協議も含めて5歳児の生活や発達の理解、保育のポイントを整理し、シートに記入する。(レポート) 幼稚園教育実習Ⅱに向けて自己の課題を明らかにし目標を設定する。(レポート)

1. 科目名 (単位数)	理科 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3421 JEEL1421
2. 授業担当教員	三井 寿哉		
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	私達を取り巻く身近な自然を対象として、小学生が興味関心を持てるような自然現象、生命の誕生、発生、生物の進化、大気形成、宇宙、地震、地球温暖化等について学習し、科学的な物の見方・考え方ができるようにすることを旨とする。		
8. 学習目標	理科の授業では、私達の身の回りで起きている自然現象に興味関心を持ち、その神秘的なベールを解き明かすことを第一条件にする必要がある。そのためには、子ども達が探究する喜びを味わえるような実験・観察方法を習得する。また、理科離れを防ぐために、教師は子ども達に実感を伴った体験ができるような教材を見つけ、自然界の原理・原則をしっかりと理解できるようになることを学習目標とします。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 エネルギーに関する自分のとらえ、考えをレポートする。 課題 2 生物の観察を通じたレポートを提出する。 課題 3 自然と科学についての課題について自分の考えをレポートする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】左巻 健男『新しい科学の教科書 III 第3版』文一総合出版、2012年。 【参考書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書、2008年。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2013年。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表) 総合点の60% 2. レポート 総合点の40%		
12. 受講生へのメッセージ	小学校で学ぶ自然・科学の基礎となる内容を解説する。実際に観察や実験を行いながら、どのように子どもたちに問題提示し、授業展開をしていくか考えるきっかけとなるよう教材研究を行う		
13. オフィスアワー	授業時間の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。力と運動について実験を通して学習する。	事前学習	教科書の第1章 pp.10~40 を読んで運動の第1~第3法則を覚えておくこと。
		事後学習	授業で行った計算問題を解いてみる。
第2回	エネルギーの変換と保存について実験を通して学習する。	事前学習	教科書の第2章 pp.42~75 を読んで科学で使用する仕事について調べておくこと。
		事後学習	新エネルギーの開発が進まない理由を考えること。
第3回	生活に欠かせない物質資源とエネルギー資源の利用について、教科書を使用して学習する。(課題1提示)	事前学習	新エネルギーの開発が進まない理由をまとめてくること。
		事後学習	課題1のレポートを仕上げる。
第4回	原子の構造について、教科書を使用して学習する。(課題1提出)	事前学習	教科書の第3章 pp.78~111 を読んで原子構造を調べておくこと。
		事後学習	原子の構造について調べ、イオン・酸やアルカリの性質を覚えること。
第5回	電気を帯びた原子としてのイオンを理解するための実験や化学式を学習する。	事前学習	イオンの働きについて、自分の考えをまとめておくこと。
		事後学習	教科書の第3章 pp.78~111 をもう一度読み直し、電気を帯びた原子の仕組みを覚えること。
第6回	生物はどのようにして殖えていくのか。また、親から子へ伝わる遺伝について副教材 (人間・ショウジョウバエ・エンドウ豆等の遺伝) をもとに学習する。	事前学習	教科書の第4章 pp.114~137 を読んで、遺伝の仕組みを調べておくこと。
		事後学習	提示した副教材を基に、遺伝の仕組みを覚えること。
第7回	生物はどのようにして進化してきたか、教科書を使用して学習する。(課題2提示)	事前学習	生物の進化について、自分の考えを持つこと。
		事後学習	課題2のレポートを仕上げる。
第8回	生物界のつながりについて、どのような法則があるか教科書を使用して学習する。(課題2提出)	事前学習	教科書の第5章 pp.140~159 を読んで、生態系について自分の考えを持つこと。
		事後学習	生態系について、自然界の仕組みを覚えること。
第9回	地球の運動と星の動きについて、教科書を使用して学習する。	事前学習	教科書の第6章 pp.162~196 を読んで、地球の運動を星の動きと絡めて調べておくこと。
		事後学習	地球・星座・惑星・月・太陽の動きを覚えること。
第10回	地球の形成と大気形成について、副教材 (地球の歴史についてまとめた資料) をもとに学習し、グループでディスカッションをして地球の形成について発表する。	事前学習	地球の形成について、自分の考えを持っておくこと。
		事後学習	副教材を読み、大切なところを記録しておくこと。
第11回	宇宙の広がりや成り立ちについて、教科書や副教材 (宇宙の仕組みについての資料) を使用して学習する。	事前学習	教科書の第7章 p.198~第8章の p.234 までを読んで宇宙の成り立ちを調べておくこと。
		事後学習	副教材を読み、宇宙の仕組みを覚えること。
第12回	映像や副教材を見て、地震のメカニズムと土地の変化について学習する。	事前学習	震度階やマグニチュードについて調べておくこと。
		事後学習	震源地の求め方を覚えること。
第13回	教科書と映像を見て、科学技術の進歩とその陰で進行している環境破壊について、グループで討議し発表する。(課題3提示)	事前学習	教科書の第9章 pp.236~294 を読んで、環境破壊の例を調べておくこと。
		事後学習	課題3のレポートを仕上げる。
第14回	教科書と映像を見て、地球の温暖化問題について、グループで討議し発表する。(課題3提出)	事前学習	温暖化の原因について考えておくこと。
		事後学習	温暖化防止について、自分でできることをまとめておくこと。
第15回	まとめ (身近な自然現象の学習を終えて、自然界の原理・原則を理解し、科学的な物の見方・考え方を身に付ける)	事前学習	理科の科学的なものの見方・考え方を調べておくこと。
		事後学習	身の回りの自然について、疑問を持って見つめ直してみる。

1. 科目名 (単位数)	理科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	JCEL3422 JEEL3422								
2. 授業担当教員	三井 寿哉											
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習、模擬授業		5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	<p>理科教育は、子ども達が興味関心を持つ「理科の授業づくり」について理論と実践に基づいた基本を習得する必要がある。そのためには、自然科学の基本的な概念や法則を体系的に学習し、自然界の全体像を構造的に捉え科学的自然観を習得しなければならない。</p> <p>以上のことを学習するためには、小学校の理科教師は自然界の現象で目に見えない物を見えるように子ども達の目の前で再現できる力量を身に付ける必要がある。</p> <p>本講義では、身の回りの自然現象について科学的な物の見方・考え方もって解決していく基本的な力量を学習する。そのために、授業に役立つ簡単な実験を行う。</p>											
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科教育の歴史の変遷について学習し、学習指導要領の理科教育の内容や目標が分かる。</li> <li>・理科の授業作りと指導計画の立て方を学習する。なお、事前に理科学習指導案の書き方等を学び、模擬授業を行い、理科の指導と指導技術を習得し、授業中の安全管理についても学習する。</li> <li>・理科教育を取り巻く諸問題のうち、実感を伴った体験学習のあり方や環境教育等を理解する。</li> <li>・実験を通して実践力のある理科教師を目指す。</li> </ul>											
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1 : 3～6 年の中から 1 単元を指定し、指導案を作成する。</p> <p>課題 2 : 理科の授業を教えるに当たって大切と考えることを 1,000 字以内で述べる</p>											
10. 教科書・参考書・ 教材	文部科学省『小学校学習指導要領 理科編』大日本図書、2008 年											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2. レポート・指導案 (課題 1)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 教材研究</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4. レポート (課題 2)</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>				1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)	総合点の 20%	2. レポート・指導案 (課題 1)	総合点の 30%	3. 教材研究	総合点の 30%	4. レポート (課題 2)	総合点の 20%
1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)	総合点の 20%											
2. レポート・指導案 (課題 1)	総合点の 30%											
3. 教材研究	総合点の 30%											
4. レポート (課題 2)	総合点の 20%											
12. 受講生への メッセージ	理科の授業がどのようにして作られていくかを教師の立場になって「教材研究」を行う。実際に活動を通してながら学ぶ。“東京福祉小学校”の教員なつつもりで子どもたちにどのような授業ができるかを考える。教師が楽しいと思える活動を取り入れた授業構想を期待する。											
13. オフィスアワー	授業時間の前後											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。 学習指導要領と問題解決についての学習	事前学習	理科の学習指導要領を読んで、科学的な考えを理解しておく。									
		事後学習	理科教育で育成する各学年の能力を理解したうえで教科書を再読する。									
第 2 回	地域の自然を教材にした生命単元の扱い	事前学習	地域とその季節に見られる動植物を調べる									
		事後学習	地域の自然を知り、さらなる教材を深め、まとめる									
第 3 回	顕微鏡観察と記録のとり方の実習	事前学習	生物分野の学習内容に目を通す									
		事後学習	スケッチしたものをもとに、分類同定を行う									
第 4 回	小学校理科の現状と課題	事前学習	問題解決型の授業について実際の指導案を参照する									
		事後学習	教師主体と児童主体について自分なりの考えをもつ									
第 5 回	電気単元の教材研究	事前学習	A エネルギー分野の範囲を読み解く									
		事後学習	各学年の電気単元の内容と配列を復習する									
第 6 回	ふりこの教材性と授業構成	事前学習	ICT を活用した授業実践例について調べる									
		事後学習	エネルギーにつちえの概念をういて復習する									
第 7 回	理科における活用の必要性	事前学習	活用の 4 観点について調べておく									
		事後学習	アクティブラーニングを理解する									
第 8 回	地域を教材にした授業づくり	事前学習	校外学習の留意点について調べる									
		事後学習	本学周辺の自然について復習する									
第 9 回	校外の実地踏査と教材研究の方法	事前学習	B 地球分野の土地のつくりについて調べる									
		事後学習	地球分野を授業で行うときの									
第 10 回	川のはたらし、土地のつくりの実習	事前学習	本学周辺の土地の作りについて調べる									
		事後学習	地域を活用した授業作りの可能性について考える									
第 11 回	指導案の書き方、指導上の留意点	事前学習	指導案を手し、比較する									
		事後学習	これまでの学習したことをもとに指導計画を作成してみる 課題 1									
第 12 回	粒子単元の実験	事前学習	粒子単元の内容について調べる									
		事後学習	粒子概念の広がりについてさらに調べる									
第 13 回	理科室での安全な実験について	事前学習	理科の安全指導について調べる									
		事後学習	器具の役割と正しい操作を単元ごとに整理する									
第 14 回	教材研究の有用性について	事前学習	理科の内容で自分の興味のある単元をみつける									
		事後学習	生活で見られる科学をみつけ、教材への可能性を見いだす									
第 15 回	理科の授業を教えるみなさんへ	事前学習	理科教育について、こまごまの講義内容を復習する									
		事後学習	学校現場で指導する立場になって心がけたいことをまとめる 課題 2									

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (2 単位)	3. 科目番号	JCCC3505
2. 授業担当教員	池田 琴恵		
4. 授業形態	講義, ディスカッション, ロールプレイ	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人々が生きていくうえで、様々な問題を抱えることは珍しくありません。臨床心理学は不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格の成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面を両方持ち合わせた学問です。この講義では、臨床心理学の基本的構造や理論を学び、問題を理解するアセスメントの視点から各ライフサイクルの時期の発生しやすい心理的問題や障害を理解し、問題の解決に向かう介入の技法や理論モデルについての理解を深めます。</p> <p>さらにこれらの知識を実生活で活かせるよう、心理的問題の事例についてのディスカッションやロールプレイなどを行い、理解や支援・介入の方法について理解を深め、その解決・予防方法について考えます。</p>		
8. 学習目標	<p>①心理的問題を抱える人々の状態について、そのメカニズムを臨床心理学的視点から説明できるようになる</p> <p>②心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できるようになる</p> <p>③心理的問題を抱える人々に対する様々な援助方法を理解し、説明できるようになる</p> <p>④心理的問題の解決や予防のために自分たちに何が出来るかを具体的に考えられるようになる</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回の授業で授業の事前学習に使用する課題シートを配布します。事前学習として前半の穴埋め課題を行ってください。事後学習として2回のレポートを作成します。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】使用しない</p> <p>【資料・教材】授業ではA4サイズの資料や課題を配布します。各自A4の2つ穴式のリングファイルを準備してください。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>以下の加点配分で成績評価を行います。</p> <p>課題シートへの取り組み 20%、レポート (2回) 40%</p> <p>小テスト (2回) 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	臨床心理学は、その歴史の中で様々な視点から人の心理的問題の原因追及や解決方法の解明・開発に取り組んできました。現代ではその視点や活用場面も幅広くなったため、この講義でも臨床心理学の多様なアプローチについて学びます。それぞれ関心のあるアプローチについて自主的に調べたりまとめたりして、さらなる理解を深めてください。		
13. オフィスアワー	初回の講義でアナウンスします。E-mail : koikeda@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義内容、講義の進め方) 臨床心理学とは	事前学習	シラバスを読み、どのような講義内容、日程かを確認しておくこと
		事後学習	今後の授業内容と進め方について理解し、必要な教材を準備すること
第2回	臨床心理学の基本	事前学習	課題シート1
		事後学習	レポート準備
第3回	ケースフォーミュレーションとアセスメント 初回面接のロールプレイ	事前学習	課題シート2
		事後学習	レポート準備
第4回	アセスメントの技法	事前学習	課題シート3
		事後学習	レポート準備
第5回	心理的問題と精神障害の理解	事前学習	課題シート4
		事後学習	レポート準備
第6回	ライフサイクルと心理的問題の理解	事前学習	課題シート5
		事後学習	レポート準備
第7回	発達過程で生じる障害や問題の理解	事前学習	課題シート6
		事後学習	レポート提出準備
第8回	※ 小テスト レポート提出 精神分析、分析心理学	事前学習	課題シート1～6を見直し、小テストの準備をする
		事後学習	課題シート7 レポート準備
第9回	クライアント中心療法	事前学習	課題シート8
		事後学習	レポート準備
第10回	家族心理学、家族療法	事前学習	課題シート9
		事後学習	レポート準備
第11回	認知行動療法1：理論	事前学習	課題シート10
		事後学習	ホームワークに取り組む
第12回	認知行動療法2：実践	事前学習	ホームワークに取り組む
		事後学習	レポート準備
第13回	コミュニティ心理学 予防プログラムの開発	事前学習	課題シート11
		事後学習	グループで予防プログラムを検討する
第14回	コミュニティ心理学 予防プログラムの発表	事前学習	グループで作成した予防プログラムを発表できるよう準備する
		事後学習	レポート提出準備
第15回	※ 小テスト レポート提出 復習とまとめ	事前学習	課題シート7～11を見直し、小テストの準備をする
		事後学習	これまでの授業を振り返り、臨床心理学の理論や技法の活用を自身がどのように活用できるかについて考える

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2 単位)	3. 科目番号	JCGL2406
2. 授業担当教員	斉藤 雅記		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。		
8. 学習目標	1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	課題1 レクリエーションの基礎的理論のレポートの作成 課題2 レクリエーションの企画を作成と、その企画書に沿った運営の実施		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】必要に応じて適宜資料を配布する 【参考書】必要に応じて適宜資料を配布する		
11. 成績評価の方法	課題1 50% 課題2 50% 計 100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。		
12. 受講生へのメッセージ	本講義はレクリエーションの基本的な意義から、レクリエーション指導の基礎的技術から応用的技術まで幅広く実施します。 レクリエーションの知識や技術を用いて、現場で企画・運営ができ、さらに「人と人」「人と自然」を楽しく結びつける、そのような能力を習得できるよう目指していきましょう。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	レクリエーションとは何か考える。
		事後学習	レクリエーションの意義と課題を考える。
第2回	レクリエーションの基礎理論① ○レクリエーションの意義と役割	事前学習	レクリエーションの意義と役割を考える。
		事後学習	レクリエーションの意義とその課題をまとめる。
第3回	レクリエーションの基礎理論② ○各発達段階のレクリエーション	事前学習	各発達段階におけるレクリエーションを考える。
		事後学習	各発達段階におけるレクリエーションの課題と対応策をまとめる。
第4回	レクリエーションの体験① ○様々な基礎的レクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第5回	レクリエーションの体験② ○ニュースポーツを用いたレクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第6回	レクリエーションの体験③ ○発達段階に適したレクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第7回	グループワーク① ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案	事前学習	各発達段階に適したレクリエーションを考える。
		事後学習	グループで作業
第8回	グループワーク② ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案	事前学習	各発達段階に適したレクリエーションを考える。
		事後学習	グループで作業
第9回	グループによる企画①	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第10回	グループによる企画①	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第11回	グループによる企画③	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第12回	グループによる企画④	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第13回	グループによる企画⑤	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第14回	レクリエーション大会①	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第15回	レクリエーション大会② まとめ	事前学習	各レクリエーション大会の内容についてまとめる。
		事後学習	適切なレクリエーションの方法についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	JCGL2407
2. 授業担当教員	齊藤 雅記		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2,コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3,対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4,レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 レクリエーションの基礎的理論とレクリエーション実施案の作成 課題 2 レクリエーションの企画を作成と、その企画書に沿った運営の実施		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 必要に応じて適宜資料を配布する 【参考書】 必要に応じて適宜資料を配布する		
11. 成績評価の方法	課題 1 50% 課題 2 50% 計 100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。		
12. 受講生へのメッセージ	本講義はレクリエーションの基礎的な知識、技術から現場で必要となる応用的な知識、技術までを知ることを行なっています。まずはレクリエーションを体験し、楽しみ、その経験から自らの力で企画や運営をできる力を培っていきます。 実技や演習では、運動するためのふさわしい常識的な服装で参加してください。ジーンズやスウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズが必要です。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ○レクリエーションの意義について	事前学習	レクリエーションとは何か考える。
		事後学習	レクリエーションの意義と課題を考える。
第 2 回	様々な実践的レクリエーション①	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 3 回	様々な実践的レクリエーション②	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 4 回	様々な実践的レクリエーション③	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 5 回	ニュースポーツを利用したレクリエーション①	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 6 回	ニュースポーツを利用したレクリエーション②	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 7 回	様々な発達段階を踏まえたレクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 8 回	レクリエーション企画①	事前学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
		事後学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
第 9 回	レクリエーション企画②	事前学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
		事後学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
第 10 回	レクリエーション大会①	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 11 回	レクリエーション大会②	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 12 回	レクリエーション大会③	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 13 回	レクリエーション大会④	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 14 回	レクリエーション大会⑤	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 15 回	レクリエーション大会まとめ	事前学習	各レクリエーション大会の内容についてまとめる。
		事後学習	適切なレクリエーションの方法についてまとめる。